

I-13をどの程度に見つめるかでかなり違ってくるが、これを少なく考えた場合、造墓集団が2~3世代で構成されているとすれば、その総人口は30人×(2~3世代)=60人~90人程度となり、15~20軒の竪穴住居跡に居住し得る人数となる。II(A)の単位群は小児墓と数基の成人用土壇等から構成される例もあり、近親的な一単位でありかつ、上記の竪穴住居跡群を造営する基本単位であろう。一方、II(B)はすべて成人の男子あるいは女子からなっており、小児を含まないことはこれらから特定有力集団の単なる“家族墓”ではないということを示している点において重要である。また13号方形墓第1主体出土人骨についての田中の研究によれば、追葬がなされた複数の被葬者が、世代を異にするキョウダイであった可能性が強く、以上のことから、これらの人々が、墓地のみならず現地のムラ(15~20軒の竪穴住居跡群からなる)においても、世代を越えて安定した“指導的立場”、“社会的身分”を保持し続けた在地的小首長であったと考えられる。墓地を共通にするというI(B)、II(A)とこれら小首長の共同性が、血縁によるものか、地縁によるものかは、良好な人骨出土の遺跡における今後の人類学的検討に期待したい。

草場第二遺跡における土壇墓には、一本の矢と弓(?)を副葬したと推定しうる例がかなりある。13号方形墓主体部の3号、4号成人男性が生前、刀剣を身に着けていたことからみても、当遺跡の造墓集団が、II(B)の男性指導者の下に自らの共同体の防衛にあたっていたことを示している。これは生産と消費、埋葬、すなわち祭祀、防衛を共同する古墳時代における基礎単位としての在地集団の姿を想起させるものである。

13号方形墓の場合、III(A)にあたる1号人骨は熟年女性であり、この女性のみが勾玉や管玉等の装身具を身に着けて、後続の2女性とは殆んど副葬品を持っていなかった。最終段階の2人の男性が鉄刀、鉄剣、鉄鏃を副葬していたことは、女性と男性の役割りに自ら区別があったことを物語っているのかもしれない。5号方形墓や6号方形墓、17号円形墓でも女性が第1位の被葬者であり、これは注目に価する。本遺跡の内容は、かぎりなく広く深い。さらなる考察は後日を期したい。付すべき文献名を省略した。乞寛恕。

およそA. D. 3世紀中頃から5世紀中葉の、200年間にわたる長期の造墓が行なわれたわけである。そうした長期の造墓を可能とした、集団の安定性に先ずは注目したい。弥生時代や古墳時代の集落跡で、これほどの長期にわたる例が少ないことから、その生活基盤は不安定であるとの主張がなされることがある。しかしながら、県下においても宇佐市野口遺跡や、同御橋遺跡等のように、弥生時代中期段階においてさえ、継続的な長期にわたる造墓活動が確認されており、自らを安定的に再生産し得る特定集団の存在は珍しいものではなかったと考えたい。

みてきたように、草場第二遺跡では、弥生後期後葉～終末に、甕棺墓、土墳墓の造営が開始され、その後、土墳墓、箱式石棺墓、方形墓が並び行なわれる。前二者は、浅い谷部を中心に分布し、後者は谷部をはさんだ東西の高所を中心に築かれている。一定の墓域を占有する方形墓と、谷部に押し込められた感のある土墳墓群との間には明らかに格差がある。

当遺跡における方形墓の出現時期は、前述したように確定できず、先の想定よりも後出する可能性はあるが、最も古く考えた場合、その造営期間はⅡ期～Ⅵ期のおよそ150年間である。これを1世代20年で割ると、 $150\text{年} \div 20\text{年} = 8\text{世代}$ となり、方形墓の総数20基(以上) $\div 8\text{世代} = 3\text{基}$ で、同一世代に少なくとも3基の方形墓が営まれたことになる。同様に全埋葬数を300人弱とみて計算すると、 $200\text{年} \div 20\text{年} = 10\text{世代}$

$300\text{基(人)} \div 10\text{世代} = 30\text{人}$ で、1世代およそ30人程度となる。総埋葬数には子供や追葬人数を考慮していないが、極めて大ざっぱな数字としてはこのようなものであろう。すなわち当遺跡では、埋葬が行なわれる20～30人の同一世代集団のおよそ10%弱の個人のみが方形墓に葬られていることになる。選別された特定の個人達と言ってよい。また、一世代に数基が造営されるわけであり、草場遺跡埋葬集団全体の唯一の世代代表として方形墓が築かれてはいないことを示唆している。それでは一世代に数基営まれるそれら方形墓間に、何らかの優劣、格差が存在するであろうか。方形墓平面プランの面積を比較すると、 150m^2 を越える大型の一群(5号、6号、11号、13号、14号方形墓)と、 $50\text{m}^2 \sim 100\text{m}^2$ の小型の一群(1号、4号、8号～10号、12号方形墓)、 25m^2 以下の極小(7号方形墓)という規模の格差が認められる。厳密な時期比定ができないため、同一時期にいかなる規模の方形墓が組み合うかわからないが、これらの規模格差が単なる時期による変化とは考えにくいことから、方形墓間にある程度の格差は存在したと考えたい。ところで、群集する土墳墓や石棺墓は、主軸方位や規模などを共通にする2～3基を核とする“群”を形成しながら造営されており、これらの“群”が同一期、すなわち同一世代に複数散在する。これは方形墓の場合と同じである。

草場第二遺跡の造墓集団の各成員の立場でみれば次のように差異化できよう。

- I すなわち、これらの集団構成員で当遺跡に埋葬される者(A)と埋葬されない者(B)に分類される。
- II 前者はさらに、谷部の土墳墓、石棺墓に埋葬される者(A)と方形墓に埋葬される者(B)に分けられる。
- III II-Bはまた、第1主体部に最初に葬られる者(A)と追葬される者(B)に分けられる。

I期：弥生時代後期後葉～終末

草場第二遺跡の墓地はこの時期をもって開始される。成人甕棺Ⅰ類や甕棺Ⅰ～Ⅲ類、組合せ箱式土器棺が用いられる。他に、土壇墓や箱式石棺が存在したかもしれないが、厳密な時期を特定することができない。土壇墓については、墓壇埋土中や石蓋の周辺ではあるが、この時期の高杯形土器が検出される土壇があり、外にその時期の住居跡等の生活遺構が存在した形跡も無いことから、当該期の土壇墓に関係したと考えてよいのかもしれない。10号、35号、41号、56号等の土壇墓がこれである。そうしてみると、草場第二遺跡においてⅠ期に開始された造墓(活動)は、特定の場所に集中しておらず、複数のグループが一定の距離をおいてそれぞれ行なったものである。

Ⅱ期：古墳時代初頭、庄内式の新段階から布留式の最古式段階に対応する時期である。県下では宇佐市赤塚古墳や、安岐町下原古墳等の前方後円墳が築かれ、所謂、前方後円墳の時代が始まる。当遺跡では、壺棺Ⅱ類や土壇墓が引き続き造られるが、この段階になると箱式石棺墓が確実に存在すると思われる。Ⅰ期に比定した、65号甕棺と1グループを形成する64号箱式石棺、66号土壇墓や、152号甕棺と隣接する149号石棺、148号壺棺(壺Ⅲ類)等もこの時期のものであろう。方形墓もこの時期から造られた可能性があるが、土器等の時期を決定し得る資料に恵まれず、断定できない。

Ⅲ期：宇佐市免ヶ平古墳や、岡小部1号方形墓の時期。

土壇墓や石棺墓がそれぞれのグループにおいて造られている。「18号方形墓」や4号方形墓はこの期に比定できよう。

Ⅳ期：5号方形墓や13号方形墓等が造営される時期である。大形の板状石材を組合せた箱式石棺の長さや幅は、他の方形墓の主体部と違わないが、深さは50cm以上と約2倍となっており、石棺構築時から追葬を予定したものである。13号方形墓では、第1主体部の石棺に5体を追葬したうえで、新たに小形竪穴式石室を築き、さらなる埋葬を行っている。

V期：11号方形墓やあるいは12号方形墓がこの時期のもの。

Ⅵ期：17号円形墓の時期で、主体部に凝灰岩を加工した石棺を用いる。最古式の須恵器を棺外副葬する。調査区域内ではこれを最後に造墓活動は止む。112号土壇墓や146号土壇墓も凝灰岩製の蓋石を使用しており、この時期に属す可能性がある。

6) 草場第二遺跡の墓地とその性格

草場第二遺跡の埋葬は、Ⅰ期～Ⅵ期、弥生時代後期後葉・終末から古墳時代中期におよぶ。

墳墓の関係も同様である。柳葉形の鉄鍔や埴土中の土器片等から、古墳時代とみなされる例も多い。また、146号土墳墓のように、凝灰岩製の蓋石を用いるものは、この種の石材が使われ始める時期、すなわち5世紀中葉を上限とする時期に比定でき、土墳墓群中、最も後出するものである。

3) 石棺について

石棺は、一定規模の空間を占有する方形墓の主体部として用いられたもの(A群)と、それ自体単独で営まれたもの(B群)に大別できる。また29号棺や97号棺の2例を除けば、すべて成人棺と思われる。七墳墓の石蓋が、圧倒的に「よろい重ね」されているのに対し、石棺では縁合わせで被せるものが殆んどであり、それは特に方形墓の主体部として設けられたものの場合に顕著である。13号方形墓第1主体部の192号石棺では巨大な一枚石を使用しているほどである。方形墓主体部石棺が大きめの板石で構築される傾向は、蓋石だけでなく、側壁等にもうかがえ、さらにこれらの石材縁部には、丁寧な二次調整が加えられる(29号石棺、37号石棺、51号石棺、198号石棺、192号棺)。A類のものには殆んどが内面に朱が施され、また床に砂利を敷くものが多い。

石棺墓の細かい時期比定はできなかった。

4) 方形・円形墓について

方形区画をなし、周溝がわずかでも検出されたものだけを“方形墓”として説明してきた。しかしながら、当遺跡では丘陵の削平がかなり行われており、もともと存在していた墳丘や周溝で消失したものもあると考えられる。

例えば、調査区東側の高所では、31号石蓋土墳墓が存在するが、その周辺には他の埋葬遺構が検出されず、これら主体部とする方形墓を想定することは可能である。1号土墳墓や、14号、15号土墳墓等も同様に考えることができる。

1号溝と4号方形墓北側周溝に挟まれた方形区画は、その中心部に位置する12号粘土埴と、主軸を直交するように設けられた10号、11号を埋葬主体部とする区画墓であろう。一辺約10mの規模か？これを「18号方形墓」とする。

2号溝で形成される方形区画も、51号箱式石棺を第1主体部とする方形墓とみなして間違いないだろう。これを「19号方形墓」と呼ぶ。また197号土壇を中心にして、11号方形墓と8号方形墓に囲まれた区画を「20号方形墓」とする。出土遺物で時期を推定し得るのは、甚少ない。5号・13号方形墓が、溝出土土器から、4世紀末～5世紀前葉に、11号方形墓が5世紀中葉に近い前半代に、17号円形墓が5世紀中葉に比定される。

5) 墳墓の変遷

草場遺跡の各種墳墓群は次の6期にかけて営まれたものである。

変化を予想できる。壺Ⅱ類は古式段階の土師器の時期であり、単純に操作すれば、Ⅰ類をその前の段階、弥生後期後葉～終末に位置づけることも可能である。小児用の棺と考えられるこれらの壺棺と、成人用の棺である甕棺がセットで営まれたとするなら、平底の残る甕Ⅰ-a・Ⅰ-b類を、弥生後期後葉～終末の一点に位置づけ、甕Ⅱ類を終末を中心とする前後の時期に比定できよう。甕Ⅰ類、Ⅱ類は北部九州の三津式に比べると、底部の縮少や、口縁部の退化が進んでおり、佐賀県二塚山Ⅴ期（二塚山154号棺）や、橋口福年の後期後葉のものよりも後出的である。もっとも北部九州の中核部では原則として、この頃になると大形成人甕棺は殆んど作られなくなり、糸島や筑後等の一部で特殊化した型式の甕棺が営まれるにすぎない。それらは、一般にベルト状突帯、丸底といった型式変化を示すもので、時期も古墳初頭に比定されている。草場第二の甕Ⅰ～Ⅲ類が、弥生後期後葉～終末でおさまるのか、否か、結論は保留しておきたい。

2) 土墳墓について

調査された土墳墓の総数171基中、石蓋が確認されたものは約61%である。失蓋を考慮すると、殆んどが蓋石を持っていたことになる。

草場第二遺跡の土墳墓を、弥生時代中期の宇佐市野口遺跡や、中期～後期中頃を中心とする佐賀県二塚山、五本谷遺跡と比較すると以下のように際立った違いをみとめることができる。

(草場第二遺跡)	(野口遺跡)	(二塚山・五本谷)
①石蓋が多く、土器蓋は存在しない。	石蓋が少ない。土器蓋有り。	石蓋、土器蓋有り。
②蓋石はよろい重ねが殆んど。	よろい重ねより、縁合わせが多い。	縁合わせが多い。
③足元を掘り込むものは無い。	足元を掘り込んだ例、少数有り。	足元を掘り込んだものが、かなり有る。
④墓壇平面形が整った長方形のものが多い。	墓壇が整っていない。	
⑤赤色顔料を施したものが多い。(約30%)	赤色顔料の例無し。	赤色顔料の例無し。

特に⑤の赤色顔料に関しては、方形墓の主体部である箱式石棺や、また前期古墳の各種主体部に赤色顔料を用いる例が多いことから、その有無は弥生の土墳墓と、古墳時代の土墳墓を区別する有力な手がかりとなり得よう。

以上のことから、本遺跡の土墳墓は殆んどすべてが古墳時代に所属するものと考えられる。古墳初頭の22号壺棺をはさむようにして並ぶ21号、23号土墳墓や、77号壺棺墓と75号、78号土

ま と め

1) 草場第二遺跡出土の甕棺・壺棺について

ここでは117号の組合わせ式箱式土器棺に用いられた甕も含めて検討する。これらを以下のよう

に分類する。

甕Ⅰ-a類：117号棺がこれで、くの字状口縁部が他の例よりは若干長い。底部は不明だが小さな平底であろう。

甕Ⅰ-b類：131号、152号棺で、Ⅰ-a類との違いはそれほどないが、口縁部が短くなり立上りの角度も急になっている。小さな平底は胴部との境が明瞭とは言い難い。

甕Ⅱ類：65号棺をあてる。口縁部は短かく外わんし、その先端は細くなる。底部は不安定なレンズ底状の平底である。

甕Ⅲ類：70号、154号棺。截頭卵形の胴部に、さらに短かく、直立気味になった薄い口縁部がつく。154号の場合、小さな平底を残しているが形骸化したもので、70号では非常に不安定な底部となっており、殆んど丸底とみなしてよい。

壺Ⅰ類：77号棺で、底部は不安定ながらも平底を残す。

壺Ⅱ類：22号棺を代表とするが、55号、180号もこれに属す。丸底で卵形の胴部、直立気味の口縁部が特徴的である。

壺Ⅲ類：148号棺のみである。いびつな形態をしている。

壺Ⅳ類：201号棺で、球形胴部の二重口縁壺。内面はへう削り。

〈編年〉

大型成人甕棺は福岡、佐賀両県を中心とする北部九州の代表的弥生墓制として知られている。北部九州全域を対象にした広域編年としては、森貞次郎編年案があり、福岡市域を中心とした折尾学編年、佐賀県の高島忠平編年等がこれに続く。1979年、橋口達也はこれらを総合的にまとめ、北部九州全域を対象とした広域編年を発表している。

草場第二遺跡の所在する日田盆地は、筑後川を通じて北部九州の、大型成人甕棺墓盛行圏の周縁を形成しているわけである。しかしながら現在までのところ、日田周辺には須玖式まで通る大型成人甕棺は知られておらず、小児甕棺のみにとどまっている。それらは中期初頭の城ノ越式に比定されるもので、よく彼地の型式を保っている。

先行する北部九州甕棺編年をもとに甕Ⅰ～Ⅲ類の検討を行う。Ⅰ～Ⅲ類の分類上の特徴としてとらえた各属性の中で、相関的に変化するものとして、口縁部の矮小化と、底部の丸底化が指摘できる。このことからこれらの甕棺は、Ⅰ-a・Ⅰ-b→Ⅲ類→Ⅱ類→という変遷を想定し得る。

一方、壺棺の場合は、不安定ながら平底の残る壺Ⅰ類から丸底になった壺Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ類への

註

- 1) 田中良之・土肥直美・船越公威・永井昌文、1985：上の原横穴墓被葬者の親族関係，上の原遺跡群Ⅳ・大分県教育委員会
土肥直美・田中良之・船越公威、1986：歯冠計測値による血縁者推定法と古人骨への応用。人類学雑誌，94（2）
- 2) 被葬者の推定年齢は概報によった
土肥直美・田中良之・永井昌文、1986：草場第2遺跡8号周溝葬1号石棺出土の人骨，九州横断自動車道建設に伴う発掘調査概報－口田地区－・大分県教育委員会
- 3) Aと1が組合わさり、いずれかがもう少し追葬間隔が短いことも考えられるが、その場合でも、この3モデルのいずれかに含まれる。
- 4) 田中良之・土肥直美、1986：古墳被葬者の親族関係について，日本考古学協会第52回総会研究発表要旨。日本考古学協会。
田中良之・土肥直美、1989：人骨と血縁。古墳時代の王と民衆，講談社
- 5) 辻村純代は頭位が出自を表示するという仮定のもとに論を立てているが、例えば、192号石棺の場合をみても、刀剣・鉄鏃をもち「家長」と考えられる3号・5号人骨は、差し違えに埋葬されている。これは辻村の解釈では異なる出自ということになるが、本文中に示した通り、この2体は血縁者であった可能性が高く、辻村の解釈は成立困難である。
辻村純代、1988：古墳時代の親族構造について，考古学研究，35（1）
- 6) 田中良之・土肥直美・永井昌文、1986：宇土3号古墳被葬者の親族関係について，宇土遺跡発掘調査報告書・大分県天瀬町教育委員会

筆者らは、古墳時代前半期のいくつかの事例を分析して、この時期の埋葬がキョウダイ（兄妹・姉弟・兄弟・姉妹）の原理に基づくという基本モデルを提示している（4）。いま、これを踏まえて先の3モデルをもう一度検討してみると、まず、1号-4号間と2号-3号間のいずれが間隔が長かったかが問題となろう。これについては、人骨の状態からみると、1号人骨は4号人骨追葬時に四肢骨がやや動かされている程度なのに対して、2号人骨は、3号人骨追葬時に頭を動かされているので、どちらかと言えば、2号-3号間の方が間隔が長いという印象を与える。また、先行の被葬者に対して差し違えに葬られていないのはこの3号人骨のみであり、頭位になんらかの意味を与えない立場で考えれば、これも傍証になるだろう（5）。そうすると、モデルB1a・B1bのほうであった可能性が高くなるが、B1aでは2号・3号・4号が同世代であり、夫婦のペアとはならない。また、B1bでは、2号・3号が同世代男女とはなるものの、その前の世代は女性二人、後の世代は男性一人となるので、夫婦を基本としたとは考えがたい。また、可能性がより低いA2bでも、二つのペアでいずれも男性が女性よりも年下となってしまう、やや不都合である。

このように、モデルをさらに検討してみると、やはり夫婦を基本とした埋葬原理に基づくとは考えがたい。これに対して、キョウダイ原理であれば、同世代でなくてもよく、矛盾しない。また、これは、成年の男性2体、女性1体が葬られていた3号石棺についても同様である。ただ、B1a・A2bにおける1号人骨、B2a・B1bにおける5号人骨はその世代では一人だけの埋葬で、一見、矛盾するかに見える。しかし、これについても、筆者らの示した基本モデルでは、キョウダイの数の問題やその集団内外の規制によって、一人の埋葬に絞り込まれる場合をも考慮しているので、矛盾しないものである。また、同様に初葬者が女性であることも、母系社会を表すものではなく、例えばほぼ同時期の39号石棺では男性が初葬であり、古墳時代前半期における埋葬の多様性を示すものである。

以上のように、192号石棺を通してみた本遺跡の親族関係は、筆者らが示したキョウダイ原理に基づく基本モデルに包摂される可能性が最も高い。したがって、具体的には図のような親族関係を示しうる。このようなあり方は、同じ大分県においては、天瀬町宇土3号墳にも認められたものである（6）。しかし、本例はモデル形成にあたっての推論の部分が多いことも否めない。したがって、今後も、該期の事例の増加によって、補強・修正されることが望まれる。

149 ♂		192-1 ♀		192-2 ♀		192-3 ♂		192-5 ♂		198 ♀♀	
r	l	r	l	r	l	r	l	r	l	r	l
9.2	-	-	-	-	-	-	9.0	8.8	8.7	-	-
-	7.2	-	7.2	-	7.1	-	7.9	7.4	7.3	6.8	-
(6.6)	6.9	-	-	-	7.5	-	8.2	-	8.2	7.5	-
-	6.8	7.5	7.6	7.5	7.5	-	7.5	-	7.2	7.4	-
6.6	6.2	6.6	-	-	7.0	-	(6.5)	-	7.0	-	-
10.1	-	10.6	-	10.5	-	-	-	-	10.9	-	10.7
-	-	-	10.9	10.6	-	-	-	-	10.0	9.6	9.8
-	9.1	9.5	9.6	-	9.6	-	9.3	-	9.8	9.4	-
8.6	8.9	9.0	-	-	9.1	-	9.1	-	9.6	-	9.1
11.5	-	-	-	11.2	-	-	-	-	12.3	-	10.4
-	-	-	11.5	11.3	11.3	-	-	-	12.2	10.6	10.6
-	-	-	5.3	-	-	5.3	5.4	5.2	5.2	-	-
-	-	-	6.3	-	5.5	-	6.5	6.0	6.0	6.6	-
-	-	-	7.0	-	6.4	-	7.1	7.0	7.1	6.9	-
-	-	-	7.2	-	7.2	6.7	6.8	7.4	7.4	-	7.3
-	-	7.2	7.2	-	7.0	7.2	7.2	7.4	7.0	-	7.7
-	-	-	-	-	-	-	11.0	12.1	12.0	11.5	11.4
-	-	-	-	-	-	11.8	11.7	11.4	11.5	11.3	11.3
-	-	-	8.1	-	7.4	7.9	7.8	8.5	8.3	-	7.7
-	-	7.4	7.6	-	7.7	8.7	8.8	8.6	8.6	-	7.8
-	-	-	-	-	-	-	11.6	11.5	11.5	10.6	10.5
-	-	-	-	-	-	11.2	11.2	11.1	11.1	10.1	10.0

() 推定値 (mm)

齒冠計測値表

齒 種		200号石臼 ♀ ♀		37-1 ♂		37-2 ♀		37-3 ♂		51 ♂	
		r	l	r	l	r	l	r	l	r	l
上	(近遠心徑)										
	I ¹	8.3	8.2	8.3	8.3	-	-	-	-	-	-
	I ²	7.0	7.2	7.2	7.2	-	-	-	-	-	-
	C	7.8	7.8	7.8	7.7	-	7.6	-	7.8	-	-
	P ¹	7.5	7.5	-	7.3	-	-	-	-	-	-
	P ²	6.7	-	6.4	6.5	-	-	-	-	-	-
	M ¹	10.3	10.4	9.8	9.8	-	-	-	-	-	-
	M ²	9.6	9.8	10.0	9.8	-	10.6	10.0	-	-	-
	(頬舌径)										
	P ¹	10.0	10.1	-	8.8	-	-	-	-	-	-
	P ²	9.7	-	8.7	8.7	-	-	-	-	-	-
	M ¹	11.9	11.7	11.0	10.7	-	-	-	-	-	-
	M ²	11.6	11.7	11.0	11.0	-	11.1	11.5	-	-	-
下	(近遠心徑)										
	I ₁	-	-	5.4		-	-	-	-	5.5	-
	I ₂	-	-	5.6	5.7	-	-	-	-	6.0	6.0
	C	-	6.8	6.9	6.5	6.7	-	6.9	7.1	7.1	7.0
	P ₁	-	6.8	-	7.1	-	-	7.2	7.2	7.5	-
	P ₂	-	7.2	-	7.0	-	-	-	-	-	7.0
	M ₁	-	-	10.8	10.6	-	-	11.7	-	12.0	11.9
	M ₂	-	-	-	-	10.7	-	11.5	11.3	11.8	11.6
	(頬舌径)										
	P ₁	-	8.1	-	7.4	-	-	8.0	8.1	9.0	-
	P ₂	-	8.9	-	8.2	-	-	-	-	-	8.5
	M ₁	-	-	10.1	10.3	-	-	10.3	-	11.6	11.5
	M ₂	-	-	-	-	9.9	-	10.1	10.0	11.2	11.2

であろう (3)。したがって、ありうる世代構成は、

A 2 b; 1号→3号・4号→2号・5号という3世代

B 1 a; 1号→2号・3号・4号→5号の3世代

B 1 b; 1号・4号→2号・3号→5号の3世代

となる。

結果及び考察

歯の保存状態の関係で、4号人骨は分析に使用できなかった。また、他の4体についても、共通して友好な歯種の組合せが得られなかった。計算されたQモード相関数値の値を表に示す。

表 草場第2遺跡192号石棺被葬者のQモード相関係数

被葬者の 歯の 組合せ	ペア	192-1	192-1	192-2	192-2	192-3
		192-2	192-5	192-3	192-5	192-5
$P_1 P_2 M_1 M_2$		—	—	—	—	0.513
$I_1 I_2 CP_1 P_2 M_1 M_2$		—	—	—	—	0.351
$I^1 I^2 CP^1$		—	—	—	—	0.404
$I_1 I_2 CP_1 P_2 M_1 M_2$		—	—	—	—	—
$P^1 P^2 M^1 M^2$		0.190	0.683	-0.080	0.465	—
$P_1 P_2$		—	—	—	—	—
$P^1 P^2 M^1 M^2$		-0.051	0.721	—	-0.296	—

これを見ると、まず1号—5号間で高得点が得られ、血縁者であった可能性が強いといえる。また、3号—5号間でも $P_1 P_2 M_1 M_2$ で0.513という値が得られ、他の二つの組合せでも比較的高い得点が得られているので、血縁者であった可能性がある。これらに対して、1号—2号間、2号—3号間、2号—5号間では高得点は得られていない。

この結果は、さきに抽出したA 2・B 1 a・B 1 bの三つで言えば、いずれのモデルにおいても第一世代と第三世代の男女(1号・5号)と第二世代と第三世代の男性同士(3号・5号)で血縁関係にあったと推定されたことになる。しかし、被葬者の親族関係の推定にあたって重要なのは、同世代の男女の関係である。すなわち、A 2 bにおける3号・4号、2号・5号、B 1 aにおける3号と2号・4号、B 1 bにおける2号・3号間の関係が問題である。

分析不能であった4号との関係はともかくとして、2号—3号間及び2号—5号間では高得点は得られておらず、少なくとも、これらが血縁関係にあったという検証はできていないといえる。また、これをふまえてこれらの男女が夫婦であったという推定もしうる。しかし、この分析法では他人同士と似ていない血縁者同士を区別するのは困難であり、1例のみではなく事例を重ねて判断する必要がある。

ると、この2体の生前の年齢は、3号が熟年前半であるのに対し、2号は成年前半となり、親子ほどの年齢差であったことになる。また、これに伴って、5号人骨も3号の子供相当の世代となる。

B. 20年ほどと考えると、2号が成年前半、3号が成年半ばとなり、5号は幼・小児となって、2号・3号が同世代、5号はその次の世代となる。

次に、2号人骨は、4号人骨埋葬後それほど時間を経ずに追葬されたと考えられるが、1号～4号間にはある程度の時間を見込む必要がある。ただし、4号人骨の年齢は詳しい推定が不能なので、二つほどのケースを考える。すなわち、4号人骨は、頭蓋縫合の状態から、成年～熟年の幅に収まると考えられるので、

a. 成年半ば

b. 熟年半ば

の二つの場合を考慮してみる。そうすると、3体の世代構成は、1号～4号間を、1.10年ほどとすると、

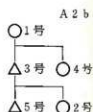
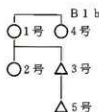
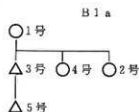
a. では、熟年後半の1号に対し、4号は20才前後、2号は10代となって、2世代の構成となる。

b. では、4号が40才前後となって、同じ2世代の構成でも、1号・4号が同世代となる。

2. 20年ほどとすると、

a. では、4号が10才前後、2号が0才前後となって、熟年後半の1号とは連続する世代とはならず、不適と考えられる。

b. では、4号が30才前後、2号が幼・小児となって、3世代の構成となる。



△ 男

○ 女

192号石棺被葬者の親族関係モデル

さて、ここでA・Bと1 a・1 b・2 bは、ともに、2号人骨を含むことから、これらを合成して5体のありうる世代構成を抽出することができる。ただ、蓋石における朱の付着状態から、追葬間隔が長かったのは1回と考えられること、土器・玉類・鉄鏃などから推定される時期幅が4世紀後半～5世紀初頭であることなどを考慮すると、Bと2が組合わさることは困難

3. 考 察

草場第2遺跡出土人骨の親族関係

九州大学文学部九州文化史研究施設

田 中 良 之

はじめに

草場第2遺跡からは、20体に及ぶ人骨が出土した。そのうち、同一主体部内に複数の被葬者が埋葬されていたのは200号石棺、37号石棺、192号石棺であり、他は単体の埋葬であった。

筆者は、考古学的情報をもとに被葬者間の親族関係モデルを抽出し、それを齒冠計測値を用いた血縁者推定法で検証することによって、先史・古代の親族構造にアプローチしてきた。

(1) そこで、本遺跡においても同様な分析を行ないたいが、歯の保存状態の問題もあって、この方法が適用可能であったのは、192号石棺のみであった。したがって、以下、192号石棺被葬者について分析を行い、本遺跡における埋葬原理の一端を垣間みることにしたい。

モデルの抽出

192号石棺には5体が埋葬されていた。これらの5体は、石棺の法量からみても同時に埋葬するのは不可能であり、順次追葬されていったものである。そして、人骨の上下関係から、1号人骨(熟年後半の女性)→4号人骨(成人女性)→2号人骨(成年前半の女性)→3号人骨(熟年半ばの男性)→5号人骨(成年前半の男性)の順で葬られたことが明らかとなっている

(2)

これら5体は、頭位でいえば東→西→東→東→西の順で埋葬され、原位置かそれに近い位置関係を保っているものである。しかし、その中でも1号人骨と2号人骨は、追葬の際に人為的に動かされている。そして、1号人骨の位置関係の乱れは4号人骨追葬時、2号人骨のそれは3号人骨追葬時とそれぞれ特定することができよう。このことは、1号-4号人骨間と2号-3号人骨間において、追葬時に1号・4号人骨の位置関係が乱れる程度には遺体軟部組織の腐朽が進行していたことを示しており、したがって、それに要する時間を見込む必要がある。また、蓋石内面に付着した朱の輪郭が主軸を連えて2面認められたことから、最終埋葬の前のある段階で、比較的長時間蓋を閉じたままの状態であったこともうかがえる。

これらの情報をもとに、被葬者の生前における世代構成を考えると、まず3号-5号間は、追葬間隔は短いものの、前者が熟年半ば、後者が成年前半と推定されることから、本来親子ほどの年齢差であったと考えられる。

2号-3号間は、3号人骨追葬時に2号の頭を動かしていることから、ある程度の時間幅を考慮し、時間幅を逆算して世代構成を復原する必要がある。そこでこれを、A. 10年前後と考え

文 献

- DOI, N., and Y. Tanaka, 1987: A geographical cline in metrical characteristics of Kofun skulls from western Japan. *J. Anthropol. Soc. Nippon*, 95 (3) : 325-434.
- 土肥直美・田中良之, 1988: 古墳時代の抜歯風習. 日本民族・文化の生成, 1. 永井昌文教授退官記念論文集, 六興出版, 東京, 197-215.
- 土肥直美・田中良之・永井昌文, 1987: 吹上遺跡出土人骨について. 日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅱ, (日田市教育委員会, 日田) : 24-28.
- 春成秀爾, 1973: 抜歯の意義. 考古学研究, 20 (2) : 25-48.
- 春成秀爾, 1979: 縄文晩期の婚後居住規定. 岡山大学法文学部学術紀要, 40 (史学篇) : 25-63.
- 九州大学医学部解剖学第二講座編, 1988: 日本民族・文化の生成, 2. 九州大学医学部解剖学第二講座所蔵古人骨資料集成, 六興出版, 東京.
- 宮川 渉, 1974: 於古墳出土の歯牙について. 馬見丘陵における古墳調査. 奈良県史跡名勝天然記念物調査報告29 (奈良県教育委員会, 奈良) : 150-156.
- 森本岩太郎・小片丘彦, 1983: 森台古墳第19号墳出土人骨について. 千葉県山武町森台遺跡発掘調査団, 164-171.
- 森本岩太郎・吉田俊爾・小片丘彦, 1983: 抜歯の疑いのある古墳時代人骨 (会), 解剖学雑誌, 58 : 427.
- 永井昌文, 1970: 金隈人骨について. 金隈遺跡第一次調査概報, 福岡市埋蔵文化財調査報告書7 (福岡市教育委員会, 福岡) : 26-29.
- 永井昌文, 1977: 出土人骨について. 筑紫野市所在永岡カメ棺遺跡, 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告5 (福岡県教育委員会, 福岡) : 64-65.
- 永井昌文, 1985: Ⅲ. 北部九州・山口地方 (シンポジウム; 国家成立前後の日本人—古墳時代人骨を中心にして—). 季刊人類学, 16 (3) : 47-57.
- PENROSE, L. S., 1954: Distance, size and shape. *Ann. Eugen. London*, 18 : 337-343.
- 住谷 靖, 1959: 日本人における歯の異常の統計的観察. 人類学雑誌, 67 : 215-223.
- 鈴木 尚, 1962: 内容組合式石棺内出土の人骨. 石井 徳島県文化財調査報告書5, 吉川弘文館, 111-115.
- 渡辺 誠, 1966: 縄文文化における抜歯風習の研究. 古代学, 21 (4) : 173-201.

表6 頭蓋計測値8項目によるペンローズの距離

	豊 後	筑 後	南 豊 前	土 井 ケ 坂
草 場 第 二				
(Mean)	0.2688	0.1045	0.2844	0.1823
(Shape)	0.1456	0.0795	0.2836	0.1540

表7 頭蓋計測値8項目によるペンローズの距離

	豊 後	筑 後	南 豊 前	土 井 ケ 坂
口 田				
(Mean)	0.0725	0.3760	0.3013	0.4272
(Shape)	0.0724	0.1130	0.1592	0.1534

149 ♂			192-1 ♀			192-2 ♀			192-3 ♂			192-4 ♀			192-5 ♂			198 ♀?			200号石楠 ♀?		
r	m	l	r	m	l	r	m	l	r	m	l	r	m	l	r	m	l	r	m	l	r	m	l
/	-			/			/		-				/		-				/			+	
	/			/			/		-				/		-				/			-	
/		/	/		/	/		/	-	-		/		-	-		/		/		/		/
/		/		-	/	/	/	/	-	-	-	+	-	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/
/		/	/	/	/	/		/	-	-	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/			/		/		/	-	-	-	-		/		/	/	/	/	/	/	/	/
/		/	/	/	/	/	/	/	+		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
/		/	/	/	/	/	/	/	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
+		/	-	/	-	-	-	-	-	-	-	-	/	-	-	/	-	-	/	-	-	-	/
/		/	/	/	/	/	-	/	-	/	/	-	/	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/
+		-	/	/	/	/	/	/	+	+	+	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
/		/	/	/	/	/	/	/	+	+	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
/		/	/	/	/	/	/	/	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/			-		-		/	-	-	-	-		/		/	/	/	/	/	/	/	/
-		/	/	-	/	/	/	/	-	-	/	/	/	/	-	/	/	/	/	/	/	/	/
/		/	/	-	/	/	/	/	-	-	/	/	/	/	-	/	/	/	/	/	/	/	/
/		/	/	-	/	/	/	/	-	-	/	/	/	/	-	/	/	/	/	/	/	/	/
/		/	/	-	/	/	/	/	-	-	/	/	/	/	-	/	/	/	/	/	/	/	/
/		/	/	-	/	/	/	/	-	-	/	/	/	/	-	/	/	/	/	/	/	/	/
/		/	/	/	/	/	/	/	-	-	/	/	/	/	-	/	/	/	/	/	/	/	/
-		-	-	-	/	/	/	/	-	-	/	/	/	/	-	/	/	/	/	/	/	/	/
-		-	+	/	/	/	/	/	-	-	/	/	/	/	-	/	/	/	/	/	/	/	/
/	/	/	/	/	/	/	/	/	-	-	+	/	/	/	+	/	/	/	/	/	+	+	/
-	/	-		/	+	/	+	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

+ 有 - 無 / 不明

表5 頭蓋非計測的形質

観 察 項 目	37-1 ♂			37-2 ♀			37-3 ♂			51 ♂			72 ♀♀		
	r	m	l	r	m	l	r	m	l	r	m	l	r	m	l
ラムダ小骨	-			/			/			/			/		
インカ骨	-			/			/			/			/		
横後頭縫合 (10mm $\leq$)	-	-	/	/		/	/		/	/		/	/		/
上矢状溝	-			/			/			/			/		
舌下神経管二分	/		/	-	-	-	-		/	/		/	/		/
頸靜脈孔二分	/		/	-	-	-	-		/	/		/	/		/
顎前結節	/		/	-	-	-	-		/	/		/	/		/
第三後頭顆	/		/				-		/	/		/	/		/
アステリオン骨	-	-	-	-	-	-	-		/	/		/	/		/
後頭乳突縫合骨	-	/	-	-	-	-	-		/	/		/	/		/
翼孔	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
鼓室骨裂孔	-	-	-	-	-	-	-	-	/	/		/	/		/
頭頂切痕骨	-	-	-	-	-	-	-	-	+	/		/	/		/
頭頂孔欠損	-	+	/	/	/	/	/	-	-	/		/	/		/
翼上骨	-	-	/	/	/	/	/	-	/	/		/	/		/
前頭側頭接合	-	-	/	/	/	/	/	-	/	/		/	/		/
前頭縫合	-		/	/		/	/		-			-			
眼窩上縁孔	+	+	/	/	/	/	/	-	-	+		+			
副眼窩下孔	+	+	/	/	/	/	/	-	-	/		/	/		/
内側口蓋骨橋	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/		/	/		/
上顎隆起	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/		/	/		/
口蓋隆起	-		/	/		/	/		/	/		/	/		/
頬骨後裂 (5mm $\leq$)	/	/	/	/	/	/	/	+	/	/		/	/		/
頬骨顔面孔欠損	/	/	/	/	/	/	/	/	+	/		/	/		/
床状突起間骨橋	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/		/	/		/
副オトガイ孔	/	/	/	/	/	-	/	-	-	/		/	/		/
下顎隆起	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		/	/		/
顎舌骨筋神経溝骨橋	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		/	/		/
外耳道骨腫	-	-	+	+	/	/	/	-	/	/		/	/		-
眼窩上神経溝	-	-	/	/	/	/	/	-	-	-		-	-		-

表4 頭蓋主要計測値の比較 (男性)

Martin No.	草場第2			日 田			豊 後			筑 後(1)			南 参 前(2)			土井ヶ森(3)		
	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
1	2	181.0		5	179.4	6.58	6	180.3	3.78	14	184.4	8.89	9	182.0	4.44	52	182.8	6.61
8	3	142.7	4.93	6	139.3	6.12	8	141.5	3.96	14	142.5	5.41	9	140.3	5.10	54	142.6	4.04
17	1	(128)		4	130.0	6.98	7	133.9	2.97	11	136.4	4.97	6	136.0	3.03	43	134.7	4.28
45	1	145		3	137.7	6.66	6	139.3	8.38	6	140.3	3.44	5	137.8	3.03	27	139.4	4.03
46	2	101.0		5	100.4	4.77	10	101.9	4.61	9	104.1	5.51	6	104.7	4.50	37	103.4	3.89
47	1	(121)		2	119.5		6	115.2	5.56	5	120.6	4.04	3	122.3	8.50	36	123.4	3.04
48	3	71.7	3.06	6	68.7	4.32	10	69.0	3.97	9	72.1	3.30	6	71.7	3.78	35	72.4	2.00
51L	2	44.0		7	43.1	2.04	10	42.6	1.58	8	43.6	1.60	5	42.4	2.30	38	42.7	1.44
52L	2	33.0		7	33.1	2.85	10	32.8	1.99	8	33.5	1.77	6	33.8	1.94	40	34.2	1.06
54	4	26.8		7	27.0	3.00	8	26.6	2.20	11	26.7	1.10	6	27.0	1.41	38	27.1	1.68
55	4	52.0		7	49.9	4.49	10	48.8	1.99	10	52.1	3.28	6	51.0	3.03	39	53.1	2.11
8/1	2	80.5		4	76.6	3.27	6	78.5	3.63	13	77.4	4.93	9	77.2	3.74	48	78.1	3.43
17/1	1	68.4		4	72.0	3.68	6	74.5	2.47	10	73.9	3.13	6	74.8	1.62	42	73.7	2.77
17/8	1	88.3		4	94.1	4.85	7	95.1	2.88	11	95.7	5.17	6	95.4	3.84	43	94.3	3.80
48/45	1	51.7		3	50.8	1.33	6	48.6	4.15	6	50.7	1.92	5	51.8	3.69	21	51.9	1.15
48/46	2	72.3		5	68.4	5.31	10	67.9	5.05	9	69.4	3.88	6	68.5	3.12	31	70.0	2.50
52/51L	4	77.8		7	76.9	6.86	10	77.0	4.04	8	76.9	4.70	5	80.1	3.92	38	80.1	3.11
54/55	4	51.2		7	54.5	10.4	8	54.7	4.28	10	51.4	3.41	6	52.9	4.19	37	51.0	3.09

1) 2) Doi & Tanaka (1987) 3) 金関他(19)

() 推定値

表3 頭蓋骨主要計測値表

Martin No.	計測項目	37-1 ♂	51 ♂	192-3 ♂	192-5 ♂	192-1 ♀	200行地 ♀ ?
1	頭蓋最大長	175	-	187	-	-	-
5	頭蓋基底長	-	-	107	-	-	-
8	頭蓋最大幅	146	137	145	-	-	-
9	最小前頭幅	93	92	100	-	89	-
11	兩耳幅	134	-	135	-	-	-
17	Ba-Br高	-	-	(128)	-	-	-
23	頭蓋水平闊	505	-	547	-	-	-
24	橫弧長	323	(320)	318	-	-	-
25	正中矢狀弧長	351	-	344	-	-	-
26	正中矢狀前頭弧長	123	130	128	-	-	-
27	正中矢狀顛頂弧長	117	-	118	-	-	-
28	正中矢狀後頭弧長	111	-	198	-	-	-
29	正中矢狀前頭弦長	109	115	109	-	-	-
30	正中矢狀頭頂弦長	101	-	110	-	-	-
31	正中矢狀後頭弦長	91	-	91	-	-	-
40	額長	-	-	108	-	-	-
45	頰骨弓幅	-	-	145	-	-	-
46	中額幅	98	-	104	-	-	-
47	額高	-	-	(121)	118	-	-
48	上額高	71	-	75	69	(64)	(63)
51R	眼窩幅(右)	44	43	44	-	43	-
51L	(左)	-	-	42	46	-	-
52R	眼窩高(右)	35	35	32	-	31	-
52L	(左)	-	-	33	33	-	-
54	鼻幅	27	24	26	30	-	23
55	鼻高	47	56	54	51	-	47
69	オトガイ高	-	32	(35)	-	26	-
69(3)R	下顎体厚(右)	-	14	15	-	13	-
69(3)L	(左)	-	14	16	-	14	-
71aL	最小下顎枝幅(左)	-	-	(38)	-	-	-
72	全側面角	85	-	88	-	-	-
73	鼻側面角	91	-	94	-	-	-
74	齒槽側面角	71	-	72	-	-	-
8/1	頭長幅示數	83.4	-	77.5	-	-	-
17/1	頭長高示數	-	-	68.4	-	-	-
17/8	頭幅高示數	-	-	88.3	-	-	-
48/45	上額示數(K)	-	-	51.7	-	-	-
48/46	上額示數(V)	72.4	-	72.1	-	-	-
52/51L	眼窩示數(左)	79.5 _r	81.4 _r	78.6	71.7	72.1 _r	-
54/55	鼻示數	55.1	42.9	48.1	58.8	-	-

()推定値 (mm)

近い特徴をもっていたといえそうである。

日田地方は豊後の中では地理的に筑後に最も近い位置にあり、文化的にはもちろん遺伝的な面においても、筑後からの影響が及んでいったことは容易に考えられるところである。例数は少ないが、このような点からも、草場第二遺跡古墳人の形質は重要な示唆を含んでいるように思われる。

4.37-1号人骨に見られた風習的抜歯

風習的抜歯は縄文晩期に盛んに行われ、その後、弥生文化の進展とともに急速に衰えていったと考えられていた（渡辺，1966；春成，1973, 1979；永井，1970, 1977）。しかし、古墳時代にもその可能性は指摘されている（鈴木，1962；宮川，1974；森本・小片，1983；森本他，1983；土肥・田中，1988）。本例も、すでに土肥・田中（1988）の中で簡単な報告を行っているが、貴重な例であると思われるので、少し詳しく検討してみたい。37-1号人骨の歯式を以下に示す。

/	M ²	M ¹	P ³	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	×	P ²	M ¹	M ²	/
/	/	M ₁	P ₂	P ₁	C	I ₂	I ₁	I ₁	□	△	△	/	M ₁	/	/

×歯槽閉鎖、□先天性欠如の疑、△歯根のみ、●遊離歯、/破損・不明

P¹の歯槽は完全に閉鎖している。抜歯痕頂部は5～6mmの明瞭な鞍状の稜をなし歯槽骨の退縮傾向もほとんど見られない。隣接する歯牙には軽い捻転と抜歯側への傾斜が認められるが、歯周症等の疾患は特に見あたらない。上顎第1小臼歯は先天性欠如の頻度が低く（住谷，1959）埋伏も考えにくい。また、小臼歯の脱落の原因として可能性が高い歯科疾患も認められない。したがって、本例のP¹は何等かの目的で意図的に抜去されたものと考えられる。西日本古墳人の抜歯例で最も多くみられた抜歯型式が上顎第1小臼歯の偏側性抜歯であったことも（土肥・田中，1988）、本例の抜歯が風習的なものであったことを支持している。抜歯の施行年齢については、対咬歯牙が失われているため細かな検討はできないが、隣接歯牙の変化が小さいことなどを考慮すると、それほど早い時期に抜かれたものではないように思われる。

古墳時代の抜歯は歯科的所見から、いわゆる成人式のために若年期に行われるものとは異なり、成年期以降の可能性が強いことが指摘されている（土肥・田中，1988）。また、抜歯の目的については、抜歯の施行年齢や遺跡の性格等から、おそらく「家長」の死に対して表示された服喪であったろうと推定された（土肥・田中，1988）。本例もこれらの結果と矛盾するものではないなさそうである。

小稿を終るに当たり、人骨調査の機会を与えて下さった高橋徹氏をはじめとする大分県教育委員会の皆様に心からの謝意を表します。

表2 四肢骨主要計測値表

Martin No.	計測項目	51 ♂		192-3 ♂		192-5 ♂		198 ♀	
		r	l	r	l	r	l	r	l
上腕骨	7	骨体最小周	66	-	66	-	68 (63)	-	-
尺骨	11	尺骨矢状径	13	-	14	-	-	-	-
	12	尺骨横径	19	-	19	-	-	-	-
	11/12	骨体断面示数	68.4	-	73.7	-	-	-	-
大 腿 骨	6	骨体中央矢状径	-	28	(28)	-	-	24	23
	7	骨体中央横径	-	26	(26)	-	-	20	22
	8	骨体中央周	-	87	(87)	-	-	70	70
	9	骨体上横径	-	-	-	30	-	-	28
	10	骨体上矢状径	-	-	-	28	-	-	20
	6/7	骨体中央断面示数	-	107.7	(107.7)	-	-	120.0	104.5
	10/9	上骨体断面示数	-	-	-	93.3	-	-	71.4
脛 骨	1a	最大長	-	-	-	(335)	-	-	-
	8a	栄養孔位最大径	-	-	-	-	35	-	25
	9a	栄養孔位横径	-	-	-	-	26	-	19
	10a	栄養孔位周	-	-	-	-	97	-	71
	10b	最小周	-	-	-	-	-	60	59
	9a/8a	栄養孔位断面示数	-	-	-	-	74.3	-	76.0

を用いてペンローズの距離 (Penrose, 1954) を計算し比較した。表6の値が小さいほど類似度は高い。草場第二遺跡の古墳人に最も近いのは筑後古墳人 (Doi & Tanaka, 1987) であり、最も遠いのは南豊前古墳人 (Doi & Tanaka, 1987) であった。また、周辺の豊後古墳人とはそれほど近くないという値が得られた。

ところで、少数ではあるが、日田地方からは他にも古墳人の出土例が報告されている (土肥他, 1987, 九州大学医学部解剖学第2講座編, 1988)。そこで、それらをも加えて、日田地方の古墳人がどのような特徴を持つのかをみてみた。図1-3の▲で示したものが日田地方から得られた古墳人であるが、草場第二遺跡のものとはかなり違っていることがわかる。表4は日田地方古墳人の形質と他の地域との関係を表3と同様な方法で求めたものである。結果は日田地方古墳人は豊後古墳人に最も近いことを示した。このことから、日田地方古墳人は平均すると豊後古墳人の値に近づくが、変異が大きいことがわかる。すなわち、草場第二遺跡の古墳人は、豊後古墳人の変異の中にはいる日田地方古墳人の中ではやや面長な傾向を示し、筑後古墳人に

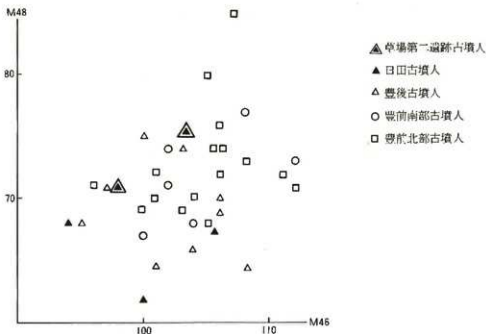


図2 中顔幅、上顔幅 (男性)

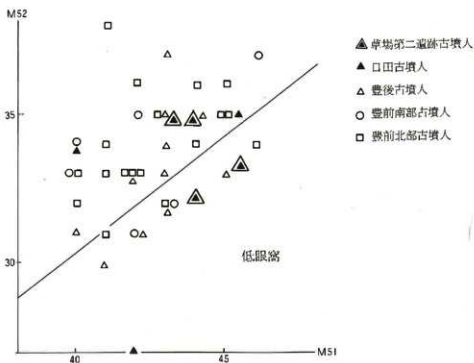


図3 眼窩幅、眼窩高 (男性)

表1 草場第二遺跡出土人骨一覽

	男 性	女 性	不 明	未成人	被葬者数
37号石棺	2	1			3
51号墓	1				1
72号墓		1			1
96号墓			1		1
104号墓			1		1
107号墓			1		1
108号墓			1		1
114号墓	1				1
149号墓	1				1
192号墓	2	3			5
198号墓		1			1
200号石棺		1	1	1	3
計	7	7	5	1	20

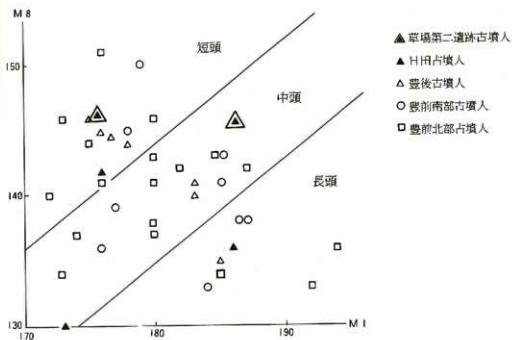


図1 頭蓋最大長、最大幅 (男性)

2. 草場第二遺跡出土の人骨について

九州大学医学部第二解剖学教室助手

土 肥 直 美

1. はじめに

大分県日田市に所在する草場第二遺跡から、古墳時代前期—中期に属する人骨20体分が検出された。日田市は旧豊後国の山間部地方に位置しており、この地方の古墳人はいわゆる縄文人的な特徴を有する個体が多いことが知られている(永井, 1985)。しかし、日田市は筑後地方とも地理的に近い位置関係にあり、形質的にどのような変異を示すか興味深いところである。そこで、草場第二遺跡の古墳人の形質的特徴を概観し、さらに、周辺地域の古墳人と比較することによって、その特徴をみてみたい。

2. 出土人骨

出土人骨一覧を表1に示す。20体分の人骨が識別されたが、保存状態は全体的に悪く、その形質を知ることができた個体はわずかであった。

3. 草場第二遺跡出土人骨の形質的特徴

豊後地方の古墳人については、山間部を中心に低顔・低眼窩・低身長・縄文人的特徴を持つ個体が多いことが知られている(永井, 1985)。今回得られた草場第二遺跡の古墳人骨も豊後山間部の追加資料として貴重である。そこで、計測値の得られている男性について、その形質的特徴をみてみたい。

図1は頭蓋最大長・最大幅・長幅示数を示している。長幅示数が求められたのは2体だけである。そのうち1体(192-3号人骨)は中頭、他の1体(37-1号人骨)は短頭に属しており、2体とも豊後古墳人の分布域の中では比較的周辺部に分布している。

次に、顔面部の特徴をみてみよう。図2に示すように豊前北部地方の古墳人(□)が図の上半の方に多く分布し、高顔の傾向を示すのに対して、豊後古墳人(△▲)は下半の方に多く分布し低顔の傾向を示す。草場192-3号は顔面の高径が大である。一方、37-1号はやや低顔に傾いている。しかし、豊後古墳人の中では比較的面長な顔立ちであったと思われる。眼窩の形態は図3の右上方に分布しており、全体的にサイズが大きい。

身長は推定が可能であったのは1体(37-1号人骨)だけで、158.3cmであった。本人骨は身長については豊後古墳人的である。しかし、これは1体のみの結果であって、全体の傾向はわからない。その形状から、おそらく、かなりの高身長であったろうと思われる個体も存在する。

以上のように、例数は少ないが、草場第二遺跡の古墳人の形質は典型的な豊後山間部の古墳人とはいえないようである。そこで、周辺地域との比較を行うことによって、さらに草場第二遺跡古墳人の特徴をみてみたい。表3は主要な頭蓋計測値を比較したものである。草場第二遺跡古墳人は豊後古墳人に比べると、上顔高がやや高いようである。また、周辺地域との形質的な類似度をみるために、頭蓋計測値8項目(マルチンNo. 1・8・46・48・51・52・54・55)

遺 構	分 析 結 果
106号土墳墓(石蓋)	Fe_2O_3
108号土墳墓(石蓋) 841025	?
124号土墳墓(石蓋)土版蓋石下面 840907	Fe_2O_3 (?)
131号カメ棺袋(下) 850306	Hg S (朱)、(Fe_2O_3 微量含)
134号土墳墓(石蓋)頭⑤	Fe_2O_3
〃 頭部~胸部近く⑥	Fe_2O_3
〃 足⑦	Fe_2O_3
135号石棺墓	Fe_2O_3
136号土墳墓(石蓋)	Fe_2O_3
137号土墳墓(石蓋)-1 840911	Fe_2O_3
138号土墳墓(無蓋)	Fe_2O_3
146号土墳墓(石蓋)	Fe_2O_3
147号土墳墓(石蓋)	Fe_2O_3
149号石棺墓 蓋石	Fe_2O_3
石棺内	Fe_2O_3
165号土墳墓(無蓋)	Fe_2O_3
166号土墳墓(無蓋)	Fe_2O_3
167号土墳墓(石蓋)	Fe_2O_3
168号土墳墓(石蓋)	Fe_2O_3
172号土墳墓(無蓋) 840911	Fe_2O_3
173号土墳墓(無蓋)	?
183号土墳墓(石蓋)	Fe_2O_3
13号方形墓第1主体部(192号石棺)	Fe_2O_3
13号方形墓第2主体部(193号石棺)	Fe_2O_3
194号土墳墓(石蓋)	Fe_2O_3
11号方形墓主体部(195号石棺)	Fe_2O_3
6号方形墓主体部(198号石棺)	Fe_2O_3
12号方形墓主体部(199号石棺)	Fe_2O_3
17号(円形)墓 200号石棺嚢穴式石室内	Fe_2O_3

大分県立宇佐歴史民俗資料館研究員 山 田 拓 伸

Ⅳ まとめ

1. 日田市草場第2遺跡出土赤色顔料について

—X線回析装置による分析同定— 890218~221

分析条件 X線回析装置: 理学電材製カイガーフレックスRAP-1A型

線 種: CuK α 出力: 30KV-20mA

スリット: DS1 $^\circ$ 、RS0.15、SS $\frac{1}{4}$ $^\circ$

フィルター: Ni

遺 構	分 析 結 果
12号粘土団	Fe ₂ O ₃ (?)
35号土墳墓(石蓋)蓋石裏面	Fe ₂ O ₃
36号土墳墓(無蓋)	Fe ₂ O ₃
37号石棺	Fe ₂ O ₃
39号土墳墓(石蓋)蓋石裏面A	Fe ₂ O ₃
〃 〃 B	Fe ₂ O ₃
51号石棺墓	Fe ₂ O ₃
53号土墳墓(無蓋)頭	Fe ₂ O ₃
61号土墳墓(石蓋)頭位(東)床面付近	Fe ₂ O ₃
68号土墳墓(石蓋) 840927	Fe ₂ O ₃
77号カメ棺墓	Fe ₂ O ₃
81号土墳墓(石蓋) 厚さ5.0a	Fe ₂ O ₃
82号土墳墓(石蓋)石蓋上方(北側)	Fe ₂ O ₃
〃 上横墓墳内石蓋上方 850726	Fe ₂ O ₃
91号土墳墓(石蓋)	Fe ₂ O ₃
93号土墳墓(石蓋)	Fe ₂ O ₃
〃 土墳蓋石裏面(糸1~2) 850726	Fe ₂ O ₃
94号土墳墓(無蓋)	Fe ₂ O ₃
96号土墳墓(石蓋)	Fe ₂ O ₃
97号石棺墓	Fe ₂ O ₃
98号土墳墓(石蓋)	Fe ₂ O ₃
100号土墳墓(石蓋)	?
102号土墳墓(石蓋)	Fe ₂ O ₃

遺構名	番号	種類	大きさ(mm)			重量(g)	石材	色調	備考
			厚(長さ)	径	孔径				
150号竈東側表採		小玉	1.8	2.9	1.2		ガラス	青緑色	
"	"	"	1.2	3.1	1.5		"	"	
"	"	"	1.6	2.4	1.0		"	"	
"	"	"	1.4	2.6	1.0		"	"	
"	"	"	1.7	2.8	1.2		"	"	
"	"	"	2.4	2.3	1.0		"	"	
"	"	"	1.4	3.1	1.5		"	"	
"	"	"	2.1	2.6	1.2		"	"	
"	"	"	1.4	2.6	1.0		"	"	
"	"	"	1.2	2.7	1.0		"	"	
"	"	"	1.8	2.6	1.0		"	"	
"	"	"	1.6	2.8	1.2		"	"	
"	"	"	3.1	2.8	1.2		"	"	
"	"	"	2.6	2.7	1.2		"	"	
"	"	"	1.9	2.9	1.5		"	"	
"	"	"	1.6	2.8	1.2		"	"	
"	"	"	3.6	2.1	1.2		"	"	
"	"	"	1.6	3.4	1.0		"	濃青色	
"	"	"	1.7	3.6	1.5		"	"	
"	"	"	1.8	3.7	1.2		"	"	
"	"	"	1.8	3.6	1.2		"	"	
"	"	"	1.6	3.2	1.0		"	"	
"	"	"	1.3	2.8	1.0		"	"	
"	"	"	1.1	2.6	1.0		"	"	
"	"	"	1.8	3.9	1.2		"	"	
"	"	"	3.6	3.0	1.2		"	青緑色	
"	"	"	3.85	2.6	1.2		"	"	
"	"	"	3.85	1.9	1.2		"	"	
"	"	"	3.7	3.1	1.2		"	"	
"	"	"	3.1	3.1	1.0~1.2		"	"	
"	"	"	2.9	2.15	1.2		"	"	
"	"	"	2.8	2.1	1.0		"	"	

遺 構 名	番号	種 類	大 き さ (mm)			重 量 (g)	石 材	色 調	備 考
			厚(長さ)	径	孔 径				
150号墓東側表探		小 玉	2.2	3.5	1.0		ガラス	青 緑 色	
"		"	2.8	3.6	1.0		"	"	
"		"	2.2	4.3	1.2		"	"	
"		"	2.2	3.2	1.2		"	"	
"		"	2.6	3.5	1.0		"	"	
"		"	2.6	3.4	1.0		"	"	
"		"	2.0	3.5	1.0		"	"	
"		"	2.9	3.6	1.2		"	"	
"		"	2.3	3.6	1.2		"	"	
"		"	2.8	3.8	1.2		"	"	
"		"	2.5	3.6	1.0~1.2		"	"	
"		"	2.3	3.7	1.5		"	"	
"		"	2.5	3.1	1.2		"	"	
"		"	2.4	3.3	1.2		"	"	
"		"	2.2	3.3	1.0		"	"	
"		"	2.2	3.3	1.5		"	"	
"		"	2.1	3.3	1.0		"	"	
"		"	2.7	3.8	1.5		"	"	
"		"	2.8	3.3	1.2		"	"	
"		"	2.5	3.3	1.0		"	"	
"		"	2.0	3.2	1.2		"	"	
"		"	2.0	3.1	1.2		"	"	
"		"	2.5	3.0	1.0		"	"	
"		"	2.3	3.7	1.0~1.2		"	"	
"		"	2.2	3.0	1.0		"	"	
"		"	2.5	3.0	1.0~1.2		"	"	
"		"	2.7	3.3	1.0		"	"	
"		"	2.8	3.0	1.2		"	"	
"		"	2.0	3.5	1.5		"	"	
"		"	2.1	3.3	1.0~1.2		"	"	
"		"	2.0	2.4	1.0		"	"	
"		"	1.9	2.8	1.0		"	"	
"		"	2.2	2.4	1.0		"	"	

遺 物 名	番 号	種 類	大 き さ (mm)			重 量 (g)	石 材	色 調	備 考
			厚 (長さ)	径	孔 径				
150号墓東側表探		小 玉	3.7	2.5	1.2		ガラス	青緑色	
"		"	3.0	3.0	1.7		"	"	
"		"	3.2	2.6	1.2		"	"	
"		"	1.6	3.5	1.2		"	"	
"		"	2.0	3.9	1.5~2.0		"	"	
"		"	1.8	3.7	1.2		"	"	
"		"	3.0	2.6	1.2		"	"	
"		"	3.7	2.7	1.5		"	"	
"		"	3.7	2.3	1.0~1.2		"	"	
"		"	4.0	2.9	1.5		"	"	
"		"	2.9	2.5	1.2		"	"	
"		"	4.0	2.0	1.0		"	"	
"		"	4.0	2.0	1.7		"	"	
"		"	3.7	2.0	1.2		"	"	
"		"	3.0	3.3	0.8		"	"	
"		"	3.8	2.5	1.2		"	"	
"		"	4.0	2.8	1.2		"	"	
"		"	3.6	2.5	1.0~1.2		"	"	
"		"	4.0	2.0	1.5		"	"	
"		"	3.8	2.4	1.2		"	"	
"		"	3.3	2.8	1.0		"	"	
"		"	3.8	2.3	1.5		"	"	
"		"	3.7	2.9	1.5		"	"	
"		"	2.0	3.4	1.2		"	"	
"		"	2.3	3.8	1.2~1.5		"	"	
"		"	2.8	3.8	1.2		"	"	
"		"	2.5	3.3	1.2		"	"	
"		"	2.2	3.6	1.0~1.2		"	"	
"		"	2.2	3.8	1.2		"	"	
"		"	2.8	3.5	1.0		"	"	
"		"	2.4	3.9	1.2		"	"	
"		"	2.7	3.1	1.2		"	"	
"		"	2.6	3.8	1.0~1.5		"	"	

遺 構 名	番 号	種 類	大 き き (mm)			重 量 (g)	石 材	色 調	備 考
			厚(長さ)	径	孔 径				
150号墓東側表探		小 玉	2.1	3.8	1.2		ガラス	青緑色	
〃		〃	1.9	3.0	1.2		〃	〃	
〃		〃	2.0	3.5	1.0		〃	〃	
〃		〃	2.0	3.0	1.0		〃	〃	
〃		〃	2.15	2.8	1.0~1.2		〃	〃	
〃		〃	1.5	3.6	1.2		〃	〃	
〃		〃	1.9	2.4	1.2		〃	〃	
〃		〃	2.4	3.0	1.2		〃	〃	
〃		〃	2.6	2.1	1.0		〃	〃	一部欠損
〃		〃	1.8	3.0	1.2		〃	〃	
〃		〃	1.8	3.4	1.2~1.5		〃	〃	
〃		〃	1.8	3.2	1.2~1.5		〃	〃	
〃		〃	1.9	3.3	1.2		〃	〃	
〃		〃	1.8	2.9	1.0		〃	〃	
〃		〃	2.4	2.4	1.0		〃	〃	
〃		〃	2.1	2.4	1.0		〃	〃	
〃		〃	2.0	3.9	1.5		〃	〃	
〃		〃	2.3	3.7	1.2		〃	〃	
〃		〃	2.5	4.0	1.2		〃	〃	
〃		〃	2.0	3.8	1.5		〃	〃	
〃		〃	2.0	4.0	1.5		〃	〃	
〃		〃	2.8	4.1	1.5		〃	〃	
〃		〃	2.5	3.5	1.2		〃	〃	
〃		〃	2.3	3.3	1.2		〃	〃	
〃		〃	2.4	4.0	1.2		〃	〃	
〃		〃	3.3	3.8	1.0		〃	〃	
〃		〃	3.2	2.5	1.0		〃	〃	
〃		〃	3.6	2.4	1.0		〃	〃	
〃		〃	3.6	2.3	1.5		〃	〃	
〃		〃	4.0	2.3	1.0~1.2		〃	〃	
〃		〃	3.4	2.0	1.2~1.5		〃	〃	
〃		〃	3.7	2.0	1.2		〃	〃	
〃		〃	3.8	2.9	1.1		〃	〃	

遺構名	番号	種類	大きさ(mm)			重量(g)	石材	色調	備考
			厚(長さ)	径	孔径				
150号墓東側表採		小玉	3.6	3.0	1.2		ガラス	青緑色	
"		"	3.8	2.7	1.2		"	"	
"		"	3.2	2.9	1.0~1.2		"	"	
"		"	3.8	2.9	1.2		"	"	
"		"	3.7	3.0	1.2		"	"	
"		"	3.8	2.8	1.2		"	"	
"		"	4.0	2.8	1.0~1.4		"	"	
"		"	3.5	2.9	1.2		"	"	
"		"	3.7	2.8	1.2		"	"	
"		"	3.8	2.0	1.2		"	"	
"		"	3.4	1.8	1.2		"	"	
"		"	3.0	1.6	1.2		"	"	
"		"	3.0	2.0	1.0		"	"	
"		"	4.0	2.1	1.0~2.1		"	"	
"		"	3.7	2.5	1.2		"	"	
"		"	3.8	2.2	1.5		"	"	
"		"	3.5	2.3	1.0		"	"	
"		"	3.5	2.5	1.5		"	"	
"		"	3.5	2.1	1.2		"	"	
"		"	3.5	2.5	1.0		"	"	
"		"	1.7	3.8	1.2~1.5		"	"	
"		"	2.0	3.0	1.2		"	"	
"		"	3.0	2.5	1.0		"	"	
"		"	3.7	2.2	1.2		"	"	
"		"	3.3	2.2	1.2~1.5		"	"	
"		"	3.0	2.8	1.2		"	"	
"		"	3.5	2.5	1.2		"	"	
"		"	3.5	2.0	1.0		"	"	
"		"	1.7	3.5	1.5		"	"	
"		"	2.3	3.5	1.2		"	"	
"		"	2.0	3.0	1.5		"	"	
"		"	1.9	3.6	1.0~1.2		"	"	
"		"	2.5	3.5	1.2		"	"	

造 構 名	番 号	種 類	大 き さ (mm)			重 量 (g)	石 材	色 調	備 考
			厚(長さ)	径	孔 径				
5号方形薄溝出上		勾 玉	8.4	3.8	1.2~1.4		橄 欖 岩	黒 褐 色	両面穿孔
150号墓東側表探		石 材	9.3	5.2	—		水 晶	白	
〃		小 玉	4.1	3.0	1.0		ガ ラ ス	青 緑 色	切り口シヤブ
〃		〃	2.5	3.5	1.0		〃	〃	切り口シヤブ
〃		〃	2.4	3.0	1.4		〃	〃	切り口シヤブ
〃		〃	2.5	3.2	1.4		〃	〃	切り口シヤブ
〃		〃	1.2	3.5	1.4		〃	〃	切り口シヤブ
〃		〃	2.4	4.2	1.2		〃	〃	
〃		〃	3.4	3.7	1.2		〃	〃	
〃		〃	3.0	4.0	1.2		〃	〃	
〃		〃	3.0	3.9	1.2		〃	〃	
〃		〃	3.0	3.5	1.4		〃	〃	
〃		〃	3.5	2.5	1.2		〃	〃	
〃		〃	2.8	2.9	1.0		〃	〃	
〃		〃	2.2	4.1	1.2		〃	〃	
〃		〃	2.0	4.5	2.0		〃	〃	
〃		〃	2.2	4.4	1.2		〃	〃	
〃		〃	2.1	3.5	1.2		〃	〃	
〃		〃	3.0	4.0	1.2		〃	〃	
〃		〃	3.1	3.8	1.0		〃	〃	
〃		〃	2.6	3.2	1.2		〃	〃	
〃		〃	2.7	4.0	1.1		〃	〃	
〃		〃	3.0	4.0	1.2		〃	〃	
〃		〃	2.8	3.8	1.0		〃	〃	
〃		〃	2.6	3.7	1.2		〃	〃	
〃		〃	2.8	3.8	1.2		〃	〃	
〃		〃	2.0	3.8	1.0~1.2		〃	〃	
〃		〃	1.7	4.5	1.0		〃	〃	
〃		〃	3.0	3.8	1.1		〃	〃	
〃		〃	2.7	4.2	1.5		〃	〃	
〃		〃	3.2	4.0	1.0~1.2		〃	〃	
〃		〃	4.0	2.2	1.2		〃	〃	
〃		〃	3.8	2.1	1.2		〃	〃	

遺構名	番付	種類	大きさ(mm)			重量(g)	石材	色調	備考
			厚(長さ)	径	孔径				
192号墓		小玉	2.2	3.5	1.8		蛇紋岩	青灰色	ベンガラ付着
"		"	2.9	3.6	1.8		"	"	"
"		"	2.6	3.7	1.8		"	"	"
"		"	2.5	3.4	1.8		"	"	"
"		"	2.6	3.6	1.8		"	"	"
"		"	2.2	3.6	1.6~1.8		"	"	"
"		"	2.5	3.6	1.6~1.8		"	"	"
"		"	2.6	3.6	1.6~1.8		"	"	"
"		"	2.6	3.7	1.6		"	"	"
"		"	2.5	3.5	1.5~1.8		"	"	"
"		"	2.2	3.7	1.8		"	"	"
"		"	1.6	3.5	1.5~1.8		"	"	"
"		"	2.1	3.5	1.5~1.8		"	"	"
"		"	2.0	3.1	1.6~1.8		"	"	"
"		"	2.5	3.6	1.5~1.8		"	"	"
4号方形墓溝出土	1	管玉	10.4	2.5	1.0~1.3	0.09	硬化した泥岩	緑灰色	片面穿孔
"	2	"	6.5	2.8	0.8~1.0	0.09	"	"	片面穿孔
"	3	"	12.1	2.8	1.2	0.1	"	"	片面穿孔
"	4	"	9.2	3.1	1.0	0.1	"	"	片面穿孔?
"	5	"	8.6	2.8	1.1~1.6	0.1	"	"	片面穿孔
"	6	"	—	—	—	—	"	"	破損不可
"	7	勾玉	26.6	10.0	1.2~3.0	4.7	硬玉	青緑色	片面穿孔
"	8	管玉	21.3	4.3	2.0~3.0	0.5	硬化した泥岩	緑灰色	両面穿孔
"	9	"	19.4	3.9	1.8~2.1	0.4	"	"	両面穿孔
"	10	勾玉	28.6	10.5	1.4~3.0	5.0	硬玉	青緑色	片面穿孔
"	11	管玉	20.6	4.3	1.6~2.0	0.45	硬化した泥岩	緑灰色	両面穿孔
"	12	"	21.1	4.2	1.5~2.0	0.4	"	"	両面穿孔
"	13	"	14.4	3.2	1.1	0.2	"	"	両面穿孔?
"	14	"	9.3	2.9	1.2~1.5	0.1	"	"	片面穿孔?
"	15	"	12.8	3.1	1.4	0.15	"	"	片面穿孔?
"	16	"	4.95	4.2	1.9~2.3	0.1	"	青灰色	両面穿孔
"	17	"	12.5	3.2	0.8~1.0	0.2	"	"	片面穿孔?
"	18	"	18.3	4.2	1.8	0.4	"	"	両面穿孔

遺 構 名	番 号	種 類	大 き さ (mm)			重 量 (g)	石 材	色 調	備 考
			厚(長さ)	径	孔 径				
192 号 墓		小 玉	2.4	3.4	1.9		蛇 紋 岩	青 灰 色	ベンガラ付着
"		"	2.4	3.3	1.6		"	"	"
"		"	1.9	3.6	1.6		"	"	"
"		"	2.6	3.6	1.8		"	"	"
"		"	2.5	3.6	1.8		"	"	"
"		"	2.4	3.4	1.8		"	"	"
"		"	3.2	3.5	1.8		"	"	"
"		"	2.4	3.6	1.4~1.8		"	"	"
"		"	2.5	3.6	1.6		"	"	"
"		"	2.4	3.6	1.4~1.8		"	"	"
"		"	2.4	3.4	1.6		"	"	"
"		"	1.7	3.6	1.4~1.8		"	"	"
"		"	2.5	3.7	1.6		"	"	"
"		"	2.4	3.4	1.8		"	"	"
"		"	2.4	3.7	1.8		"	"	"
"		"	2.5	3.6	1.8		"	"	"
"		"	2.8	3.3	1.8		"	"	"
"		"	2.0	3.8	1.6		"	"	"
"		"	2.6	3.6	1.4~1.6		"	"	"
"		"	2.0	3.4	1.6~1.8		"	"	"
"		"	2.1	3.7	1.6		"	"	"
"		"	3.1	3.4	1.8		"	"	"
"		"	1.8	3.6	1.4~1.8		"	"	"
"		"	2.2	3.5	1.4~1.8		"	"	"
"		"	2.9	3.7	1.5		"	"	"
"		"	1.9	3.2	1.8		"	"	"
"		"	2.6	3.3	1.6		"	"	"
"		"	2.7	3.7	1.8		"	"	"
"		"	2.3	3.6	1.4~1.8		"	"	"
"		"	2.4	3.4	1.8		"	"	"
"		"	2.6	3.6	1.8		"	"	"
"		"	2.1	3.5	1.8		"	"	"
"		"	2.9	3.5	1.8		"	"	"

遺 構 名	番 号	種 類	大 き さ (mm)			重 量 (g)	石 材	色 調	備 考
			厚 (長さ)	径	孔 径				
192 号 墓		小 玉	1.9	3.7	1.6		蛇 紋 岩	青 灰 色	ベンガラ付着
"	"	"	2.6	3.7	1.8		"	"	"
"	"	"	2.6	3.7	1.8		"	"	"
"	"	"	2.2	3.7	1.8		"	"	"
"	"	"	2.3	3.7	1.8		"	"	"
"	"	"	2.6	3.6	1.6		"	"	"
"	"	"	2.6	3.7	1.8		"	"	"
"	"	"	2.3	3.9	1.8		"	"	"
"	"	"	2.7	3.4	1.8		"	"	"
"	"	"	2.0	3.6	1.2~1.5		"	"	"
"	"	"	2.9	3.4	1.6		"	"	"
"	"	"	3.0	3.4	1.6		"	"	"
"	"	"	2.2	3.5	1.3~1.6		"	"	"
"	"	"	2.6	3.6	1.8		"	"	"
"	"	"	2.4	3.4	1.6~1.8		"	"	"
"	"	"	2.2	3.6	1.6~1.8		"	"	"
"	"	"	2.5	3.7	1.5~1.8		"	"	"
"	"	"	2.0	3.6	1.6~1.8		"	"	"
"	"	"	1.9	3.4	1.6		"	"	"
"	"	"	2.7	3.7	1.6		"	"	"
"	"	"	2.2	3.6	1.8		"	"	"
"	"	"	2.6	3.6	1.8		"	"	"
"	"	"	2.3	3.4	1.6		"	"	"
"	"	"	2.6	3.6	1.6		"	"	"
"	"	"	3.2	3.4	1.4~1.6		"	"	"
"	"	"	2.6	3.4	1.4~1.8		"	"	"
"	"	"	2.0	3.6	1.6~1.8		"	"	"
"	"	"	2.1	3.6	1.6~1.8		"	"	"
"	"	"	2.0	3.6	1.8		"	"	"
"	"	"	2.4	3.5	1.6~1.8		"	"	"
"	"	"	1.9	3.5	1.6		"	"	"
"	"	"	2.3	3.4	1.6		"	"	"
"	"	"	2.1	3.7	1.6		"	"	"

遺 構 名	番 号	種 類	大 き さ (mm)			重 量 (g)	石 材	色 調	備 考
			厚(長さ)	径	孔 径				
192 号 墓		小 玉	2.1	3.5	1.6		蛇 紋 岩	青 灰 色	ベンガラ付着
〃		〃	2.1	3.7	1.6		〃	〃	〃
〃		〃	2.4	3.6	1.6		〃	〃	〃
〃		〃	2.3	3.6	1.4~1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.5	3.5	1.5~1.8		〃	〃	〃
〃		〃	1.9	3.7	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	1.8	3.6	1.2~1.6		〃	〃	〃
〃		〃	2.8	3.5	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.6	3.7	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	3.0	3.8	1.6		〃	〃	〃
〃		〃	2.6	3.7	1.6~1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.9	3.4	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	1.8	3.4	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.7	3.6	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.4	3.7	1.4~1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.4	3.6	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.6	3.6	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.9	3.6	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.6	3.7	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.4	3.8	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.8	3.4	1.5~1.9		〃	〃	〃
〃		〃	2.4	3.7	1.6		〃	〃	〃
〃		〃	2.4	3.8	1.6		〃	〃	〃
〃		〃	3.0	3.8	1.2~1.6		〃	〃	〃
〃		〃	2.9	3.8	1.6		〃	〃	〃
〃		〃	2.5	3.6	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.3	3.8	1.4~1.6		〃	〃	〃
〃		〃	1.8	3.7	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.0	3.7	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.7	3.6	1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.7	3.8	1.6~1.8		〃	〃	〃
〃		〃	2.2	3.6	1.6		〃	〃	〃
〃		〃	3.0	3.6	1.4~1.8		〃	〃	〃

造 構 名	番 号	種 類	大 き さ (mm)			重 量 (g)	石 材	色 調	備 考
			厚 (長さ)	径	孔 径				
192 号 墓		小 玉	2.8	4.0	1.8		蛇 紋 岩	青 灰 色	ベンガラ付着
"		"	2.7	4.1	1.8		"	"	"
"		"	2.7	4.0	1.8		"	"	"
"		"	2.6	4.0	1.8		"	"	"
"		"	2.9	4.0	1.8		"	"	"
"		"	2.8	4.0	1.8		"	"	"
"		"	2.6	4.0	1.8		"	"	"
"		"	2.8	3.7	1.8		"	"	"
"		"	2.3	3.8	1.8		"	"	"
"		"	4.0	2.3	1.8		"	"	"
"		"	3.8	2.1	1.8		"	"	"
"		"	3.8	2.1	1.8		"	"	"
"		"	2.4	3.7	2.0		"	"	"
"		"	1.9	3.8	2.0		"	"	"
"		"	1.8	3.7	1.3~1.7		"	"	"
"		"	2.4	4.2	1.8		"	"	"
"		"	2.2	3.9	2.0		"	"	"
"		"	2.1	4.05	1.7		"	"	"
"		"	2.4	3.85	1.7		"	"	"
"		"	2.2	4.2	1.7		"	"	"
"		"	2.0	4.05	1.7		"	"	"
"		"	1.45	4.2	1.7		"	"	"
"		"	1.9	4.1	1.7		"	"	"
"		"	1.4	3.8	1.7		"	"	"
"		"	2.5	3.6	1.7		"	"	"
"		"	2.6	3.7	1.7		"	"	"
"		"	2.1	3.4	1.7		"	"	"
"		"	2.2	3.5	1.2~1.8		"	"	"
"		"	2.4	3.7	1.4~1.8		"	"	"
"		"	2.5	3.6	1.5~1.8		"	"	"
"		"	2.6	3.6	1.8		"	"	"
"		"	2.3	3.6	1.6		"	"	"
"		"	2.8	3.6	1.5		"	"	"

遺構名	番号	種類	大きさ(mm)			重量(g)	石材	色調	備考
			厚(長さ)	径	孔 径				
184号墓		勾玉	26.4	9.8	1.2	3.6	蛇紋岩	茶褐色	裏面穿孔
192号墓	7	"	27.0	11.6	1.6~1.9	4.9	"	青灰色	ベンガラ付着 裏面穿孔
"	8	"	34.1	12.8	1.6~2.5	6.5	硅化した泥岩	青緑色	ベンガラ付着 片面穿孔
"	9	"	26.6	9.2	1.6	3.5	蛇紋岩	青灰色	ベンガラ付着 両面穿孔
"	10	"	34.4	13.1	1.0~3.0	8.7	硅化した泥岩	青緑色	ベンガラ付着 片面穿孔
"	11	管玉	30.0	5.0	1.6	0.92	"	淡青緑色	ベンガラ付着 両面穿孔
"	12	"	18.4	5.0	1.8~2.0	0.55	"	"	"
"	13	"	16.9	5.0	1.8~2.0	0.5	"	"	"
"	14	"	16.9	4.7	1.6~2.2	0.45	"	"	"
"	15	"	30.0	5.0	2.0	0.9	"	"	"
"	16	"	23.5	4.7	1.6~3.0	0.7	"	"	"
"	17	"	11.0	4.7	1.8~2.1	0.3	"	"	"
"	18	"	29.0	5.0	1.8	0.9	"	"	"
"	19	"	20.2	5.0	2.0	0.7	"	"	"
"	20	"	22.2	4.6	1.8~2.1	0.5	"	"	"
"	21	"	18.2	5.0	1.8~2.0	0.6	"	"	"
"	22	"	25.3	4.6	2.0	0.6	"	"	"
"	23	"	26.8	5.0	2.0	0.8	"	"	"
"	24	"	23.6	5.0	2.0~2.1	0.7	"	"	"
"		管玉	9.3	7.4	1.9		琥珀	あずき色	両面穿孔
"		小玉	3.1	4.0	1.8		蛇紋岩	青灰色	ソロバン玉形 ベンガラ付着
"		"	3.1	4.0	1.8		"	"	"
"		"	2.5	3.7	1.8		"	"	"
"		"	3.1	4.0	1.8		"	"	"
"		"	3.1	4.0	1.8		"	"	"
"		"	3.0	3.9	1.8		"	"	"
"		"	3.1	4.0	1.8		"	"	"
"		"	2.9	4.0	1.8		"	"	"
"		"	2.7	3.9	1.8		"	"	"
"		"	1.3	4.0	1.8		"	"	"
"		"	2.9	4.0	1.8		"	"	ベンガラ付着
"		"	2.7	3.5	1.8		"	"	"
"		"	2.5	4.0	1.8		"	"	"

遺構名	番号	種類	大きさ(mm)			重さ(g)	石材	色調	備考
			厚(長さ)	径	孔径				
107号墓		小玉	2.0	3.0	1.0		ガラス	濃青色	
"		"	4.3	3.0	1.0		"	"	
"		"	2.0	3.4	1.0		"	青色	
"		"	2.5	4.0	1.0		"	"	
"		"	2.0	3.2	1.0		"	"	
"		"	1.9	3.3	1.5		"	"	
"		"	2.0	3.0	1.0		"	淡緑色	
"		"	1.9	3.4	1.0		"	淡青灰色	
"		"	2.6	2.4	1.0		鉄石英?	茶色	
122号墓		勾玉	9.1	3.6	0.9~1.0	0.2	花崗質岩	緑灰色	片面穿孔
134号墓		勾玉	16.1	5.9	2.5~3.0	0.5	翠	"	両面穿孔
"		管玉	6.6	3.1	1.4	0.1	珪化した泥岩	"	片面穿孔 1部欠損
"		小玉	3.0	3.7	1.0	0.02	ガラス	青色	
"		"	3.0	3.0	0.8~1.0	0.01	"	青緑色	
136号墓		勾玉	9.6	4.2	1.4	0.2	花崗質岩	黄白色	両面穿孔
"		小玉	3.3	4.8	2.0		ガラス	青緑色	
"		"	3.0	3.6	1.0		"	"	切り口シャープ
"		"	3.6	2.8	1.4		"	"	切り口シャープ
"		"	3.0	2.5	1.3~1.5		"	"	切り口シャープ
"		"	2.1	2.3	1.0		"	"	
"		"	3.0	2.8	1.0		"	暗青緑色	
"		"	3.2	2.9	1.0		"	"	
"		"	2.0	3.8	1.4		"	"	
"		"	2.0	3.8	1.2		"	"	
"		"	2.1	3.6	1.0		"	"	
"		"	3.6	4.0	1.2		"	濃青色	
"		"	3.0	4.0	1.8		"	"	
"		"	2.0	3.7	1.8		"	"	
"		"	4.0	1.8	1.4		"	"	
"		"	4.0	3.3	1.4		"	"	
"		"	4.0	2.3	1.4		"	"	
"		"	2.9	2.1	1.4		"	"	
162号墓		金属球	12.1	11.6	—	9.3	鉛	黄白色	風化が激しい

表3 草場第2遺跡出土玉類計測表

遺構名	番号	種類	大きさ(mm)			重量(g)	石材	色調	備考
			厚(長さ)	径	孔 径				
11号墓		勾玉	10.4	3.9	1.2~1.5	0.2	花崗質岩	白黄灰色	片面穿孔
"		小玉	4.6	3.5	1.7	0.1	ガラス	濃青色	蓋石上
21号墓		小玉	3.8	3.8	0.9~1.0	0.05	ガラス	青緑色	
"		"	2.5	4.8	1.0~1.4	0.09	"	"	
"		"	2.4	3.8	1.2		"	暗青色	
"		"	2.2	2.9	1.2		"	"	
"		"	3.0	2.9	1.0		"	"	
"		"	3.2	2.9	1.0		"	"	
"		"	2.2	3.1	1.0		"	"	
"		"	1.4	2.4	1.0		"	濃青色	
23号墓		勾玉	16.8	8.65	2.0~2.5	1.7	花崗質岩	白黄灰色	両面穿孔
44号墓	1	管玉	12.95	5.6	2.0	0.4	硅化した岩	緑黄白色	両面穿孔
"	2	"	19.05	6.05	2.1	1.02	"	緑灰色	両面穿孔
"	3	"	19.6	5.6	2.1	0.95	"	緑灰色	両面穿孔
45号墓		管玉	10.1	4.2	1.0~1.8	0.32	"	淡青緑色	片面穿孔
62号墓		"	15.6	9.0	4.0	1.1	"	緑黄白色	片面穿孔 一處欠損
78号墓	1	"	13.5	4.2	1.7~2.1	0.4	チャート	淡青緑色	両面穿孔
"	2	"	15.1	5.3	2.5	0.5	碧玉	青緑色	両面穿孔 一處欠損
91号墓		小玉	5.2	4.3	1.4~2.0	0.2	ガラス	濃青色	床面出土
"		"	3.45	5.3	1.2	0.2	"	青緑色	北側上面出土
97号石棺墓		管玉	15.0	3.8	1.2~1.5		硅化した岩	緑灰色	
"		"	12.0	4.5	1.5~2.0		"	"	
"		"	11.0	4.0	1.5~2.0		"	"	
106号墓		金剛球	12.6	11.8	—	9.1	鉛	黄白色	風化が強い
107号墓		小玉	5.5	5.0	1.2~2.3	1.0	ガラス	青緑色	
"		"	3.8	3.9~5.1	1.0~2.0	0.05	"	"	
"		"	4.0	3.5	1.2		"	"	
"		"	3.0	5.0	1.3~1.8		"	"	
"		"	3.2	3.2	1.1		"	濃青色	
"		"	3.6	2.6	1.1		"	"	
"		"	3.0	2.8	1.0		"	"	
"		"	3.0	2.5	1.0		"	"	

表2 草場第2遺跡出土玉類一覽表

遺物種類	勾 玉	管 玉	璫 玉	小 玉	水 品	金屬球	計
11号土墳墓	1			1			2
21号土墳墓				8			8
23号土墳墓	1						1
44号土墳墓		3					3
45号土墳墓		1					1
62号土墳墓		1					1
78号土墳墓		2					2
91号土墳墓				2			2
97号土墳墓		3					3
106号土墳墓						1	1
107号土墳墓				17			17
122号土墳墓	1						1
134号土墳墓	1	1		2			4
136号土墳墓	1			17			18
162号土墳墓						1	1
184号土墳墓	1						1
4号方形墓溝出土	2	16					18
192号石 棺	4	14	1	160			179
5号方形墓西侧溝	1						1
150号石棺墓東側表探				195	1		196
計	13	41	1	402	1	2	460

遺構番号	区場所	種					類	墓			墳			棺			宋	遺物	備考
		カメ箱	土質器 石蓋無蓋	石棺	石家	その他		長さ cm	巾 cm	深さ cm	長さ cm	巾 cm	深さ cm	長さ cm	巾 cm	深さ cm			
192	8 D			○			226	99	27	171	50	54	○				鉄線 1、刀子 1 鉄線 1、刀子 1、刀子 1、刀子 1 刀子 1、刀子 1、刀子 1、刀子 1	人骨	
193	8 D				○						241	130	8	○			鉄線 1、刀子 1		
194	8 C		○				219	97 81	15	175	37 22	35	○						
195	7 C			○						140	49 48	?	○						
196	7 C			○							不	明							
197	6 C		○							182	26 9	49					鉄線 11、掘り 刀子 1、鉄線 1、刀子 1、 刀子 1、鉄線 1、刀子 1	人骨	
198	6 B									173	35 32	25	○						
199	8 B				○		240	124 124	34	178	54	?	○				鉄線 2 + α 刀子 2 + α		
200	11 D			○			245	125 123	52	167	47 45	66	○				鉄器種類不明 1		
201	5 D	○																	
202	6 D		○								(140)	(30)	40						

土坑計測表

遺構 番号	区(場所)	長さ	巾	深さ	備 考
1	3 B	320	105	30	
2	7 D	117	102	34	焼土、炭化物あり
3	7 D	101	(50)	18	焼土、炭化物あり
4	10 D	86	62	63	
5	10 D	100	54	40	
6	10 D	100	42	45	

遺構 番号	区 場所	種 類					墓 壇			棺			朱	遺 物	備 考
		カメ 棺	土壇墓 石蓋 無蓋	石棺	石室	その他	長さ cm	巾 cm	深さ cm	長さ cm	巾 cm	深さ cm			
168	5 D		○							188	34 23	41	○		
169	6 D			○						90	42 28	13			
170	6 D			○						92	17 16	14			
171	6 D			○						113	26 19	10			
172	6 D			○						70	23 11	26	○		
173	6 D			○						104	18 16	21	○	銅 1	
174	6 D		○				211	80 67	15	181	40 30	32			
175	6 D		○							59	21 17	29			
176	6 E			○						?	76	11		土器片	
177	6 E		○				176	64 54	28	149	34 23	49			
178	6 E		○				246	?	14	156	30 18	41		土器片	
179	6 E			○						210	65 56	27			
180	6 E	○												鉄釘 1	
181	6 E			○						155	66 64	39			
182	7 E			○			(140)	88	25	104	28 27	41			
183	7 E		○				214	98 87	21	167	50 33	32	○		
184	7 E		○				117	70 67	28	82	30 24	20		勾玉 1	
185	7 D			○			210	96 94	39	170	43 39	37			
186	7 E		○				234	96 85	40	184	40 30	45	○		
187	7 E			○			228	99 96	35	151	31 22	44			
188	7 E			○			197	92 85	40	196	42 32	20			
189	7 F			○						180	40 35	23			
190	8 G			○						136	44 37	42			
191	8 H			○						212	59 47	30			

遺 骨 番 号	区 (場所)	種 類					墓 壇			棺			朱	遺 物	備 考
		カメ 棺	土壇墓 石蓋	石棺	石室	その他	長さ cm	巾 cm	深さ cm	長さ cm	巾 cm	深さ cm			
144	5 D		○							58	24 16	(17)			
145	5 D		○							92	32 15	37		銅鏡 1	
146	5 D		○				265	43 40	13	183	37 34	32	○		
147	5 D		○				250	140	40	160	34	35	○	刀子 1	
148	5 D	○													
149	5 D			○			228	80	64	190	44 41	36	○		人骨
150	4 D			○						175	40 30	?		刀子 1	
151	4 D		○							61	22 15				
152	4 D	○													
153	4 D		○							155	30 17	30			
154	4 D	○													
155	4 D			○						179	38 36	28			
156	4 D		○							(115)	(24)	(10)	○		
157	4 D		○							102	24 19	6			
158	5 D		○							147	35 21	10			
159	5 D		○							127	27 26	20		黒曜石	
160	5 D		○							107	29 16	6			
161	5 D		○							98	25 19	5			
162	5 E		○							92	21 19	19	○	金属球 1	
163	5 E		○							170	58 53	38		土器片	
164	5 E		○							129	40 30	36			
165	5 E		○							165	30 25	10	○		
166	5 D		○							170	66	26	○		
167	5 D		○							96	25 15	30	○		

遺構 番号	区 (場所)	種 類				敷 壇			柏			朱	遺 物	備 考	
		カメ 相	土 石蓋	竈 無蓋	石柵石室	その他	長さ cm	巾 cm	深さ cm	長さ cm	巾 cm				深さ cm
120	6 C			○						198	38 31	37			
121	5 C		○							183	33 20	50	○	鉄線1、歯1 鉄片1	
122	5 C		○							128	32 20	50		勾玉1	
123	5 C		○				197	60 50	10	165	48 35	50			
124	4 C		○							178	36 23	42	○		
125	4 C 4 D		○?							184	21	31			
126	4 C 4 D			○						181	24	33			
127	4 D		○							62	14 11	15			
128	4 D		○							96	26 16	19			
129	4 C		○							158	27 25	43		刀子1	
130	4 D		○				221	65 53	22	184	35 22	33			
131	4 D	○											○		
132	4 D		○							138	32 29	24			
133	4 D			○						90	20 18	17			
134	4 D		○				?	108	33	177	40	39	○	勾玉1、ガラス玉2 管玉1	
135	4 D				○					170	70	24	○		
136	5 D		○							174	35 33	25	○	勾玉1、 ガラス玉17	
137	5 D		○							92	25 21	33	○		
138	5 D			○						170	31 23	22	○		
139	5 D		○				168	50 40	19	168	43 29	27		鉄線1、土器片	
140	5 D			○						145	45 28	20			
141	5 D			○						157	35 25	37			
142	5 D		○				107	57 55	12	78	25 22	30			
143	5 D		○				(144)	72	11	103	32 21	32	○		

遺構番号 (場所)	区	種 類					墓 壇			棺			朱	遺 物	備 考
		カメ 棺	土 蓋	墓 蓋	石棺	石室 その他	長さ cm	巾 cm	深さ cm	長さ cm	巾 cm	深さ cm			
96	4C		○				257	119 116	21	215	22 27	41	○		人骨
97	4C				○		157	101	21	94	28 24	20	○	貝輪1、貫玉3	人骨片 歯
98	4C		○				221	118 108	18	177	36 34	38	○		
99	4C 5C		○				206	90	10	169	54 29	40		鉄鍔1、鉄剣1	
100	5B		○							178	52 44	36	○		
101	5B 5C		○				215	86 85	25	179	42 29	47			
102	5C		○				230	112 105	35	180	37 28	50	○	土器片	
103	5C		○				213	83 63	23	156	36 25	44		鉄剣1、土器片	
104	5C		○				204	93	21	160	32 25	42			歯
105	5C		○				193	79 67	20	167	32 24	40			
106	5C		○				203	101 95	43	168	49 48	55	○	金属球1	
107	5C		○							176	40 20	54		ガラス玉17、 土器片	
108	4C 5C		○				195	70 59	24	180	38 22	47	○		歯
109	4C			○						152	31 21	39			
110	4C			○						137	41 31	11			
111	4C		○							182	40 22	36		施1	
112	4C			○						115	23 14	26			
113	4C		○							177	34	6			
114	4C		○							160	57 45	28			人骨
115	4C		○				162	66 57	18	162	32 17	41			
116	4C		○							(111)	43	32			
117	4C					組合式 箱式 土葬				64	41	(40)			
118	5C		○							114	30 21	48			
119	5C		○							185	38 33	65		鉄器器種不明1	

通 所 番 号	区 (場所)	陶 器					墓 墳			棺			宋	遺 物	備 考
		カメ 棺	土 壺	土 甕	石 棺	石 室	その他	長 寸 cm	巾 cm	深 寸 cm	長 寸 cm	巾 cm	深 寸 cm		
72	5 E		○					273	(150)	30	183	37 22	38	○	繻 1
73	5 F		○								191	49 33	31		
74	5 A		○					(230)	94	16	165	40 32	32		
75	5 A		○					183	65 44	10	172	39 27	32		
76	5 B		○					206	76 73	32	161	43 36	25		
77	5 B	○												○	
78	4 B		○					221	81 76	13	178	36 30	43		碧玉2、鉄線1
79	4 B		○								160	50 37	36		
80	4 B			○				212	96 75	20	160	37 30	23		
81	4 B		○					229	100 98	27	179	36 32	40	○	土器片
82	5 B		○					205	95 80	25	159	37 29	41	○	土器片
83	5 B		○					(164)	(60)	10	123	24 22	18		
84	5 B			○				200	80 80	20	151	32 30	48		土器片
85	5 B		○								95	40 36	18		
86	4 B		○								105	35 35	27		
87	4 B			○							147	53 39	32		
88	4 B		○					228	85 62	16	189	41 28	37		
89	4 B		○								154	35 34	41		
90	4 B		○					220	70	10	175	40 30	37	○	
91	5 B		○					182	52 34	17	171	37 25	39	○	ガラス玉2、 土器片
92	5 B		○								95	33	18	○	土器片
93	5 B		○					(164)	(84)		107	28 26	28	○	
94	4 B			○				(230)	(90)		174	43 35	50	○	鉄線1
95	4 B		○					191	78 54	35	171	47 28	44		

遺構 番号	区 (場所)	種 類					墓 墳			棺			朱	遺 物	備 考
		カメ 棺	土 甕	土 甕 蓋	石 甕	石 室	その他	長 さ cm	巾 cm	深 さ cm	長 さ cm	巾 cm	深 さ cm		
48	2 E		○								115	26 21	26		
49	3 E		○								160	33 24	25		
50	3 E		○								125	29 21	29		
51	3 E				○			(270)	(127)	21	192	40	30	○	鉄鍬2、鉄剣1 人骨
52	3 E		○								69	37 17	28		土器片
53	3 E			○				230	110 50	12	176	35 25	35	○	
54	3 E			○							80	42 34	12		
55	2 E 3 E	○													
56	3 E		○					198	139 122	60	156	29 20	37	○	土器片
57	3 E		○								59	25 23	29		
58	3 E		○								74	20 13	24		
59	3 E		○								168	37 25	47	○	鉄鍬1
60	3 E		○								165	37 25	31		鉄鍬1
61	3 E		○					210	100	70	171	37 25	22	○	土器片
62	4 C		○								160	36 20	28		管玉1
63	3 E		○								159	31 17	26		
64	3 F				○						182	30 21	38		
65	3 F	○													
66	3 F			○							173	38 27	20	○	
67	3 D			○							111	16 14	16		
68	4 E		○								165	31 23	25	○	刀子1
69	3 E	○													
70	3 E	○													
71	4 E	○													

遺構番号	区 (場所)	種 類					墓 壇			棺			朱	遺 物	備 考
		カメ 棺	土 甕	瓦 蓋	石 室	石 室	長さ cm	巾 cm	深さ cm	長さ cm	巾 cm	深さ cm			
24	2C		○				197	103 100	16	143	38 35	70	○	土器片	
25	2C		○				205	96 90	20	154	43 40	32	○		
26	2C		○				197	89 70	9	177	34 34	32			
27	2C		○							151	71 66	84			
28	2C		○				(230)	94	20	153	40 26	31			
29	2C				○		93	36		73	31 30	32			
30	2C	○								179	24 16	43			
31	2D	○								157	30 17	42			
32	3C		○							171	51 36	36			
33	3C				○					222	60 60	23		鉄線10+α、 器種不明鉄器有り 跡1	
34	3C	○					137	65 60	12	100	18 16	37			
35	3C	○					200	100 81	47	158	40 38	34	○		
36	3D 4D		○				(240)	80	10	158	28 23	31	○	土器片	
37	3D				○		200	60	40	172	40 35	52	○	刀子1、櫛2	人骨
38	3D		○				233	144	6	180	37 32	30		石斧	
39	3D	○					223	97 76	35	177	31 31	37	○		
40	3D	○								170	34 22	30		鉄線(器種不明) 1	
41	3D	○					240	38	20	188	35 21	31		鉋1、土器片	
42	3D		○							144	37 32	8			
43	3D	○								75	中央 30	35			
44	3D	○								190	38 28	39	○	管玉3、土器片	
45	3D	○								160	35 33	25		管玉1、 鉄器器種不明1	
46	3D		○							169	41 27	10			
47	2D		○							183	30 27	27		鉋1、土器片	

表1 甕棺墓・土墳墓・石棺墓等一覧表

遺構番号	区 (場所)	種 類					墓 塚			棺			朱	遺 物	備 考
		カマ 棺	土 塚 墓 石蓋 無蓋	石棺	石室	その他	長さ cm	巾 cm	深さ cm	長さ cm	巾 cm	深さ cm			
1	1 B		○							145	75 55	15			
2	1 D		○							51	24 19	23		鉄器(器種不明)1	
3	1 E		○							182	33 31	39		土器片	
4	1 D		○							264	(50) 46	20		土器片	
5	1 D		○							240	63 34	26		鉄剣1	
6	1 D	○					204	73	?	164	38 30	22			
7	1 E	○								147	23 18	33			
8	1 E	○								159	22 21	35			
9	2 D		○							96	32 31	10			
10	2 E	○					196	100	30	153	34 21	51	○	土器片	
11	2 E	○					194	100 81	15	151	32 22	52		勾玉1、ガラス玉1、 土器	
12	2 E					粘土 槨	(300)	70	30	200	40	?	○		
13	2 F			○			188	51 46	40	154	43	34	○		
14	2 A		○							182	28 28	23			
15	3 A		○				(230)	120	?	158	40 22	58			
16	2 B		○				279	128 121	18	169	32 27	40			
17	2 B		○				219	82 70	16	161	39 29	49			
18	3 B		○							173	48 43	61			
19	3 B		○							174	50 46	45			
20	3 B	○					212	85 75	30	169	43 37	40	○		
21	3 B 3 C	○					(235)	95 92	32	127	45 32	40		ガラス玉8	
22	3 C	○													
23	3 C	○								136	39 36	29		勾玉1	

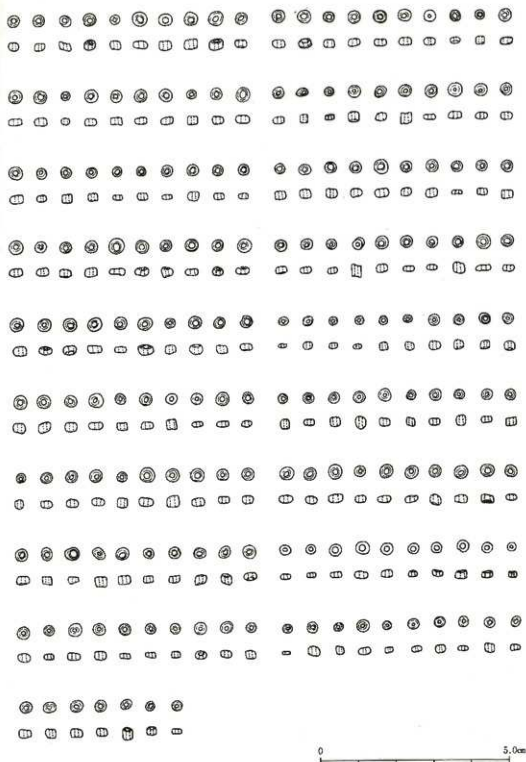
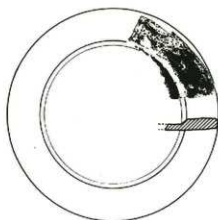


Fig. 216 150号石棺墓東側出土ガラス玉実測図

小型仿製鏡 (Fig. 214)

6号方形墓内の表土中より表採されたもので、弥生時代小型仿製鏡の破片と考えられる。表面は風化が著しく、鏡背のくし歯等も観察できない。面径5.5cmを測る。



須恵器 (Fig. 215)

高台付の須恵器で、出土地点は不明。口径14cmを測る。奈良時代に比定される。

ガラス小玉

150号石棺墓の東側1mの場所に集中して表採されたもので、青緑色のガラス製小玉195個、水晶片1個を検出した。水晶片は長さ9.3mm径5.2mmの六角形をしており、穿孔はなかった。



Fig. 214 仿製鏡実測図

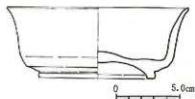


Fig. 215 須恵器実測図

石器観察表

器 種	No.	Fig.	PL	石 質	寸 法 (mm)			特 徴	残存状態	自然面	そ の 他
					長	巾	厚				
ナイフ形 石 器	1	212		サヌカイト	31.0	11.0	3.0	縦長剣片	完 形		表採
	2	"		黒曜石	25.0	11.0	3.5	横割剣片	完 形		"
台 形 様 器	3	"		黒曜石	18.0	13.5	5.0	横割剣片	完 形		表採
	4	"		黒曜石	25.0	15.0	4.0		完 形 (片部-裏欠損)		5号方形墓溝
二枚加工 のある 石 器	5	"		黒曜石	15.0+α	10.5+α	8.0	ナイフ形石器の基部?	上半欠損	○	92号墓
剣 片	6	"		ホルンフェス	43.5	31.5	15.0	縦長剣片	完 形		13号方形墓付近
石 鏃	7	"		黒曜石	11.0+α	18.0+α	2.0		完 形		表採
	8	"		黒曜石	15.0+α	13.0+α	2.0		先端部欠損		124号墓
	9	"		サヌカイト	25.0	17.0+α	2.5	風化が著しい	片脚欠損		表採
	10	"		チャート	30.0+α	23.0	8.0		最先端部欠損		"
	11	"		サヌカイト	18.0+α	10.0+α	4.0+α	風化が著しい	片脚欠損		11号方形墓溝
	12	"		サヌカイト	24.0+α	17.0+α	4.0	"	下半部欠損		5号方形墓付近
内 形 掘 器	13	"		安山岩	21.0	18.5	6.0		完 形		表採
	14	"		安山岩	25.0	21.5	7.0		完 形		"
二枚加工 のある 石 器	15	"		黒曜石	35.0	18.0	7.0	縦長剣片	完 形	○	199号石室
石 匙	16	"		サヌカイト	48.5	47.0	9.5	風化が著しい	完 形		拡張区一括
磨 製 石 斧	17	213		閃輝岩	88.0	35.0	14.5	朱の付着がみられる	完 形		13号方形墓溝
扁 平 打 製 石 斧	18	"		角閃安山岩	95.0	87.0	14.5		完 形		表採
	19	"		凝灰岩	55.0+α	82.0+α	9.3+α	風化、磨耗が著しい	先端部のみ		"
	20	"		結晶片岩	110.0	60.0	12.0		完 形		5号方形墓
	21	"		凝灰岩	65.5+α	45.0+α	9.5+α	風化、磨耗が著しい	下半部のみ		5号方形墓、北側溝
	22	"		"	72.0+α	68.0+α	9.0+α	"	上半部のみ		38号墓

参考文献 1) 清水宗昭:『九州横断自動車道建設に伴う発掘調査概報』1985.3

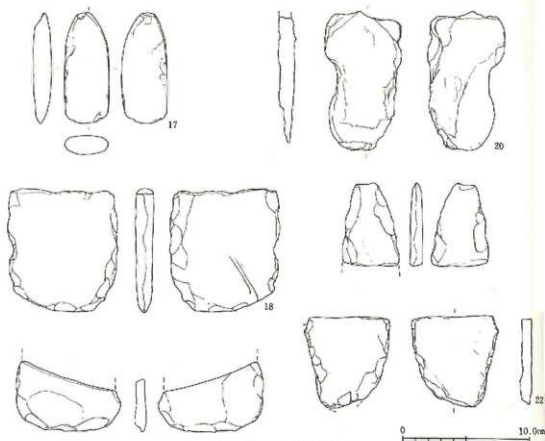


Fig. 213 石器実測図(2)

扁平打製石斧 (Fig. 213、18～22)

19・21・22は、青灰色の凝灰岩製で、石質は密であるが、硬度が低くいずれも剝離面及び刃部の摩耗が顕著である。同石材の剝片も数点検出されている。18は、角閃安山岩製で刃部のみに粗い調整剝離がみられ鈍い刃部を呈している。20は、結晶片岩製で、裏面半分が剝落している。

その他 (Fig212、6.15)

15は、片側辺に自然面を背にして主要剝離面からの細かな二次加工が規則的に行なわれゆるやかにカーブをもつ刃部を作っている。自然面から母岩はあまり大きくないことがわかる。

野田雅之氏（理学博士）、牧尾義則氏の御教示を頂いた。

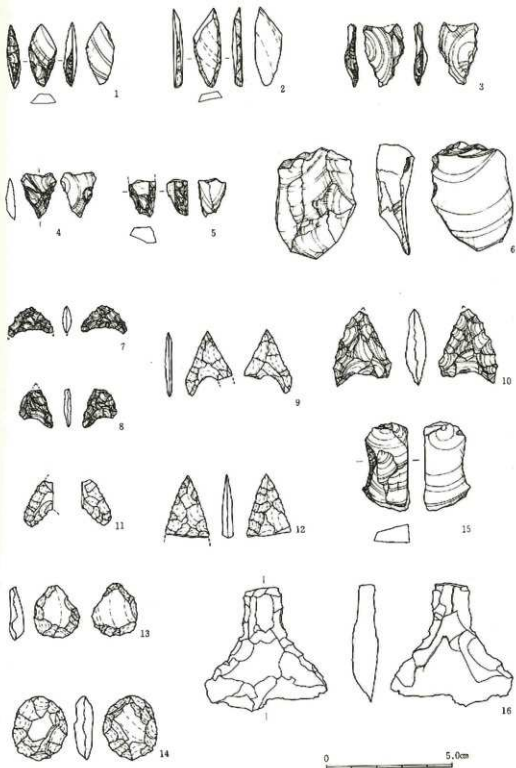


Fig. 212 石器实测图(1)

10 表 採 遺 物

石 器

草場第二遺跡の石器は、後期旧石器時代末の小型ナイフ形石器、台形様石器、剥片と、縄文時代の石鏃、搔器、石匙、磨製石斧、扁平打製石斧などが検出されている。

小型ナイフ形石器 (Fig212 1.2.5)

3点ともに主要剥離面から細かなブランディングが行なわれている。打面部が先端でブランディングによりカットされている。1、5は、長さの割に厚みがあり、1は刃部に潰れがみられる。

台形様石器 (Fig212.3.4)

2点とも楕円様のある黒曜石を素材とし、不定形な横剥片の形を整えるような二次加工が行なわれている。打痕も残している。3は、片側辺は主要剥離面から二次加工が行なわれ、片側辺は逆の面から行なわれている。刃部に刃潰れがみられる。4は、主要剥離面からのみの細かな二次加工が行なわれている。

石鏃 (Fig212、7～12)

素材としては、黒曜石、サヌカイト、チャートがある。黒曜石製は挟りのある小型で、両面全体を細かな調整が行なわれている。サヌカイト製は、両面全体に規則的な調整が行なわれており、大きさに比べて厚さが薄い。チャートは最も大きく長さ30.0mm、厚さ8.0mm、先端部のみが欠損している。

円形搔器 (Fig212、13.14)

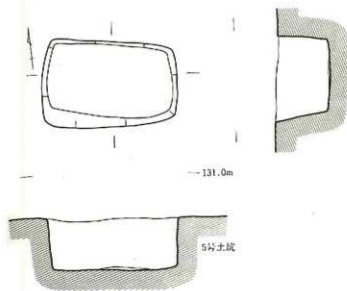
両面周辺に規則的調整が行なわれ、中央に剥片素材面を残している。長さ：厚さの比が3：1と厚手で、鋭利な刃部を呈している。親指と人指し指で摘んで搔器として使用されたのではないだろうか。県下では、縄文時代早期の遺跡である菅無田遺跡、新生遺跡での例がみられる。

石匙 (Fig212、16)

両面に粗い調整が行なわれており、刃部は剥片素材をそのまま利用している。刃潰れもみられなく未使用の可能性もある。

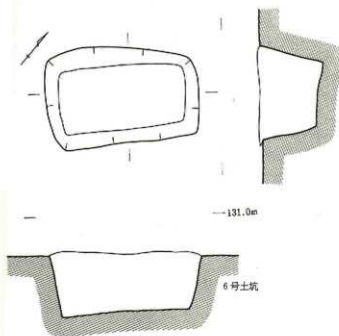
磨製石斧 (Fig213、17)

閃緑岩製で裏面には白色異質の岩質が混入していて、その部分の剥落がみられる。仕上は丁寧で表面の方がやや膨らみをもち、小形定角で始刃を呈している。刃部の磨耗は若しく、使用による刃潰れもみられる。全体表面に薄く朱の付着がある。



5号土坑

位置 10D区
 規模 長辺 100cm
 短辺(頭部巾) 54cm
 深さ 40cm
 主軸方位 N-84°-W

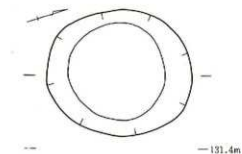


6号土坑

位置 10D区
 規模 長辺 100cm
 短辺(頭部巾) 42cm
 深さ 45cm
 主軸方位 N-50°-E



Fig. 211 5号土坑・6号土坑実測図



2号土坑

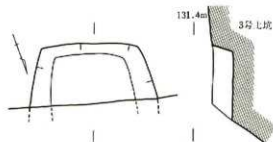
位置 7 D区

規模 長辺 117cm

短辺(頭部巾) 102cm

深さ 34cm

主軸方位 N-19°-E



3号土坑

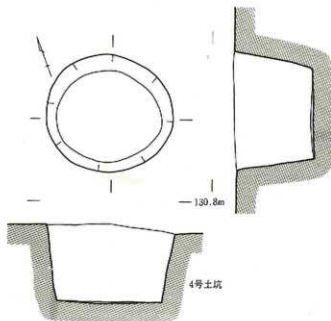
位置 7 D区

規模 長辺 101cm

短辺(頭部巾) (50)cm

深さ 18cm

主軸方位 N-20°-E



4号土坑

位置 10 D区

規模 長辺 86cm

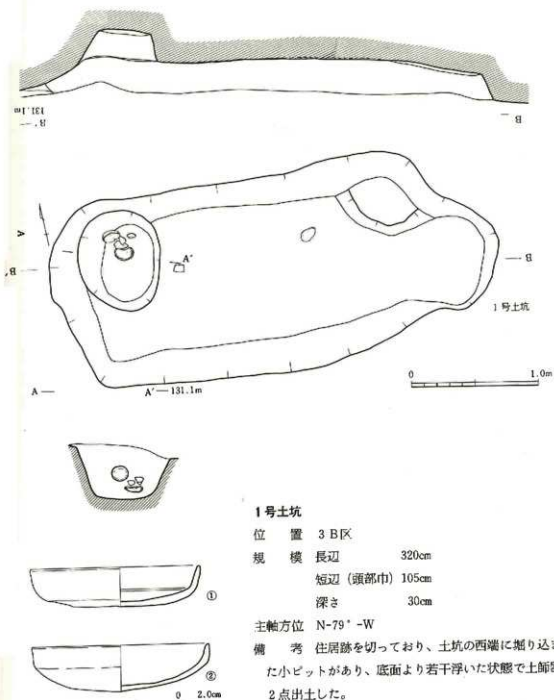
短辺(頭部巾) 62cm

深さ 63cm

主軸方位 N-70°-W



Fig. 210 2号土坑・3号土坑・4号土坑実測図



1号土坑

位 置 3 B区

規 模 長辺 320cm

短辺(頭部巾) 105cm

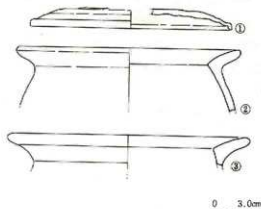
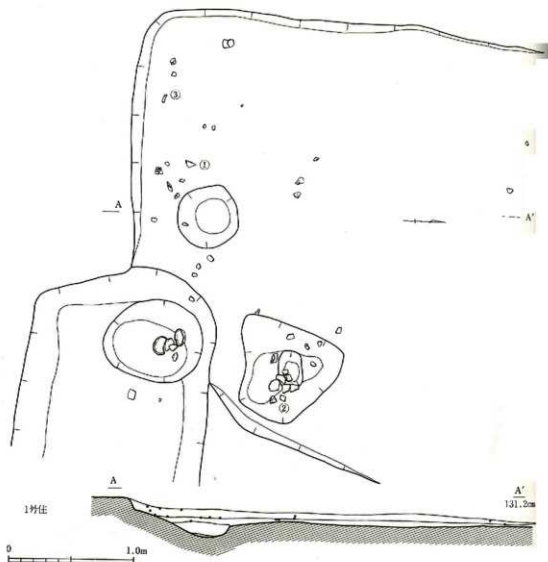
深さ 30cm

主軸方位 N-79°-W

備 考 住居跡を切っており、土坑の西端に掘り込まれた小ピットがあり、底面より若干浮いた状態で土師器が2点出土した。

赤褐色を呈し、胎土は精良。

Fig. 209 1号土坑実測図



住居跡出土土器 (Fig. 208、下段)

①は須恵器の环蓋で、口径21cmを測る。天井部に鈕(つまみ)がつくものである。

②、③は赤褐色を呈する土師器の甕口縁部片で、殆ど同一個体と考えてもよいほどで類似したものである。奈良時代後半～9世紀の幅で考えておく。

Fig. 208 住居跡実測図

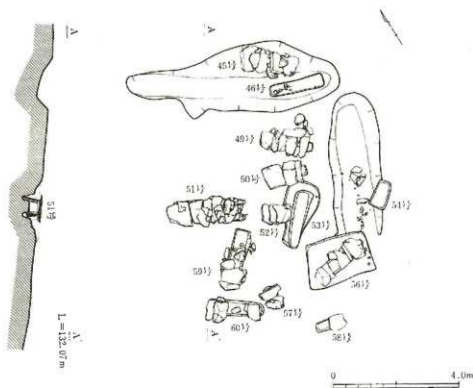


Fig. 207 2号溝実測図

9 その他の遺構

住居跡 (Fig. 208)

2 B区に位置する。東西3.5m、南北3.5m（推定）の竪穴で、床面は検出面より10～15cm。南壁近くに径50cm。深さ床より10cmのピットを検出したが、柱穴と断定できない。竪穴埋土中および床面から土器細片が、若干数出土している。奈良時代のもので、この竪穴の廃絶時期を示している。草場第二遺跡からは同時代の土器片が他にも数点表採されており、方形墓、円形墓の造営が終了した古墳時代中期以降人跡のと絶えた本台地がこの時期になって再び利用されたことを示している。しかしながらそれも小規模でかつ、一過性のものではあったらしい。もっとも、本竪穴もかろうじて削平をのがれた状態であり、後世の破壊にあうまでは数軒程度の同様の竪穴が存在していたのかもしれない。

土坑 (Fig. 209～211) 性格の不明な小土坑が検出されている。1号土坑以外は出土遺物もなく、時期も決定できない。

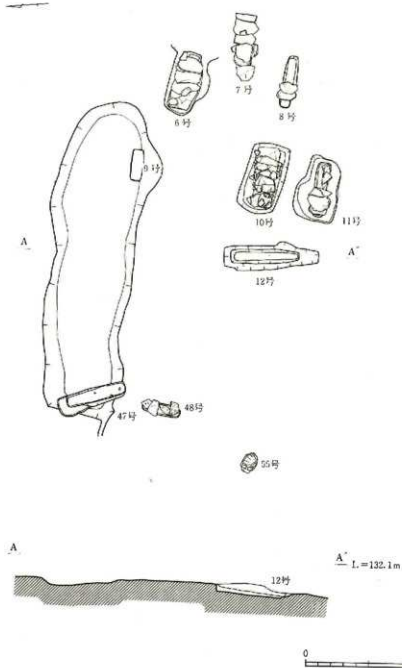


Fig. 206 1号溝渠測圖

8 溝 状 遺 構

調査区の東支群に、不定形の溝状遺構が存在する、これらも方形墓の周溝である可能性が強い。

1号溝 (Fig. 206) の場合、その主体部としては、12号粘土槨、10号土墳墓、11号土墳墓等が考えられる。1号溝自体は、上面幅2.0m、長さ (東西辺) 約10mで、深さは最も残りのよい部分でも20cm程度しかなかった。他の方形墓の周溝と比較して、溝底面付近にしては広すぎるようである。

9号土墳墓、47号土墳墓との切り合いがある。47号土墳墓の場合、1号溝を切っていると判断した。これは本来石蓋を被せた土墳墓と思われるが、調査時には失われていた。鉋や土器片が浮いた状態で出土しており、弥生終末～古墳初頭の幅でしか時期をおさえられない。9号土墳は小型で、未成人用の埋葬施設である。溝との関係は不明である。

12号粘土槨は、1号溝を北側溝と考え、想定する方形墓 (?) のほぼ中心に位置する。10号、11号土墳墓は、主軸方位、位置、規模、形態とも極めて類似しており、近隣した時期に造られたものであろう。11号土墳墓の出土遺物から、古墳時代初頭頃と考えられる。これらが、12号粘土槨と関連するものであるなら、1号溝を周溝に持つ当“方形墓”は、草場第二遺跡の方形墓の中では古い段階に位置づけられることになるが、断定はできない。

2号溝 (Fig. 207) の場合、L字状になっており、より方形墓の周溝として妥当である。この場合、第1主体部と考えられるものは51号箱式石棺であろう。方形墓の推定規模は東西9m、南北9mとなる。2号溝は東西6.8mの北側溝と南北5.0mの東側溝からなる。北側溝の内部には45号土墳墓と、46号土墳墓があり、東側溝は、51号土墳墓、56号土墳と切合っている。45号墓、46号墓は、北側溝より先行すると判断した。

56号石蓋土墳墓は、墓墳の対角線に棺主軸を向ける特異なもので、豊前地方の弥生時代後期後葉～古墳初頭に行なわれるものである。本例の場合は、墓墳中より出土の土器片からは弥生後期後葉～終末に比定できるが、造出の枕や赤色顔料の使用など、古墳初頭まで下げ得る要素もある。いずれにしても、東側溝よりは先行する状況で出土している。Fig. 207では切り合いを逆に表現しているが、溝は南に下った56号土墳墓の検出面あたりで、自然消滅している。

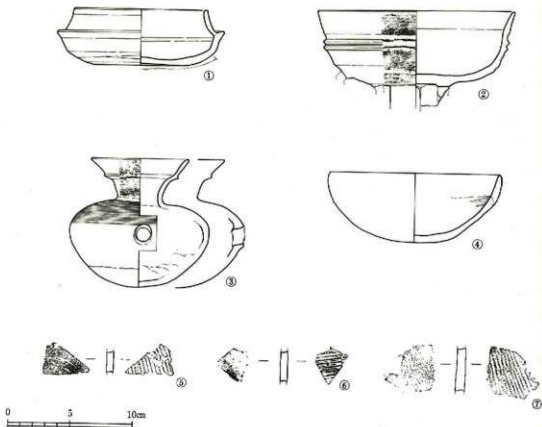


Fig. 205 須恵器・土師器実測図

出土遺物 (Fig. 205)

①は須恵器の坏身で、口径10.2cm。口縁部の立上りは鋭く、口縁端部が丸くおさめられ、段を有していない点が特徴的である。体部はていねいな回転ヘラ削りが施されている。②は無蓋高坏の坏部である。外面にはていねいな櫛描波状文が描かれている。坏身下半に把手がつけられていたらしいが、破損している。

③は小型の罎で、ていねいな作りの優品である。本例も①と同じく、口縁端部が段をなさず、丸みをもっておさめられている。外面には波状文は施されていない。体部の肩が張る特徴は、古式の罎の属性である。

④は土師器のわんで、色調は赤褐色を呈す。内面に細いナデ痕がみられる。

⑤-⑦は内面すり消し調整を施した須恵器片で、おそらく甕の胴部片であろう。外面には細かく、ていねいな平行叩目を施している。

〈棺外副葬の土器〉

200号石棺の東側小口部の外側の墓境内に、棺外副葬された土器が一括出土した。

須恵器3個体と土師器わん1個体の計4個体である。須恵器は縁のみが上向きに置かれており、②の無蓋高杯と①の坏身、さらに④の上師器わんは逆さに置かれていた。

墓境内に石棺材を構築し、墓壙と石棺とのすき間を土砂で埋め戻して行く工程の最終段階に棺外副葬されたものである。

棺蓋を被せた状況を考えれば、この棺外副葬は初葬時に伴うものであろう。

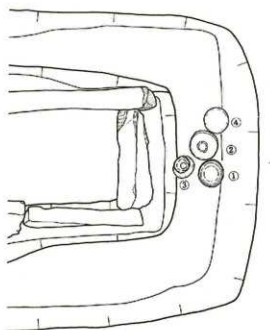
縁以外は口縁部を下向きに、ふせて置いているわけで、土器の内容物（すなわち飲食類か？）そのものを供献副葬したものではない。

埋葬に伴う飲食行為に使用した器を
をこうした状態で埋納したのであろう。

以上の器種を用いた供献儀礼の実態
が問題となるが、ここでは触れること
ができない。

なお、前述したように、本石棺は、
調査以前に盗掘されており棺内出土の
遺物については壺に再埋納されていた
人骨以外は知り得なかった。

刀剣の類や、玉類の細片さえも、床
面近くの精査にもかかわらず検出され
ていないが、今後関係者へのさらなる
聞き取りを行いたい。



L=130.65m

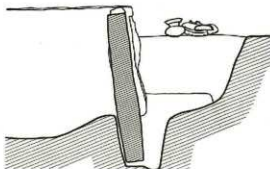


Fig. 204 土器出土状況

200号石棺墓

位 置 11D区

規 模 棺 長辺 167cm 墓壇 長辺 245cm

短辺(頭部巾) 47cm 短辺(頭部巾) 125cm

深さ 66cm 深さ 52cm

主軸方位 N-62°-W

遺 物 器種不明鉄器 1

備 考

200号石棺人骨

頭蓋骨片 3 体分が検出された。

〈保存部位〉

1 体はかなり保存状態が良好であったと推測されるが、かなりの部分が失われている。残りの 2 体については、側頭骨錐体片が各々 1 片ずつ識別できただけである。赤色顔料の付着が認められる。残存歯牙は以下のとおりである。

/	M ²	M ¹	O	P ¹	C	I ²	I ¹		I ³	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	/
/	/	/		P ₂	P ₁	C	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

○歯槽開放 /破損・不明

〈性別・年齢の推定〉

性別: 保存良好な 1 体については、眉弓の発達が弱いことから女性の可能性が強いと考える。他の 2 体は不明である。

年齢: 残存する歯牙の咬耗度が Broca の 1 度であることから、保存良好な人骨は成年と考えられる。他の 1 体は不明。残りの 1 体は錐体の大きさから小児であったと思われる。

〈形質〉

女性頭蓋骨の顔面部は高径が低い(上顔高 63mm) 特徴を有する。また、両側に外耳道骨腫が認められた。



Fig. 203 人骨出土状況写真

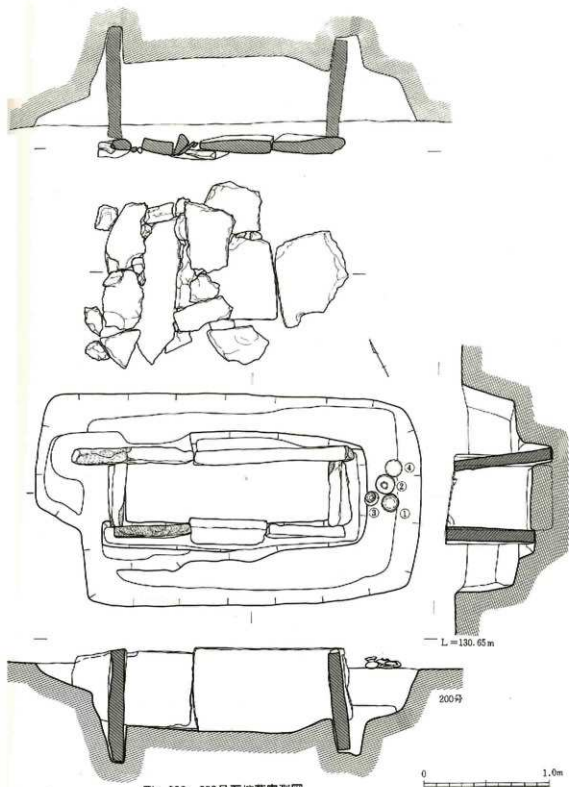


Fig. 202 200号石棺墓実測図

7 円形墓

調査区の最西端に位置するもので、わずかに残った周溝から、円形墓と推定した。円形の周溝と考えて復原すると、径14mになる。

主体部 (Fig. 202) は、調査時の数年前、造園の工事中に発見され、再び埋め戻されたものである。長方形プランの墓壇に、凝灰岩の切石を用いて、箱式石棺を組み立てたものである。石棺の蓋石は調査時において動かされたもので、原形は留めていなかった。石棺の内部からは人骨が出土しており、先の発掘時に関係者によって、容器に納められていた。主体部や周溝付近の山上から、古式須恵器の破片が表採されている。

なお石棺は、鉄製工具の加工痕が明瞭に残っており、棺内には一面赤色顔料が施されていた。

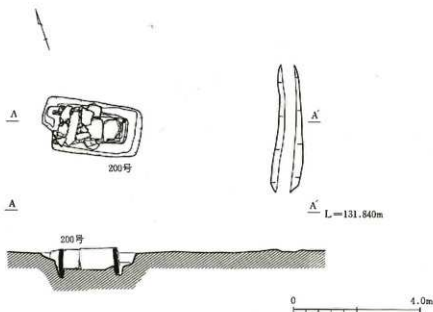


Fig. 201 17号 (円形) 墓実測図

15号方形墓・16号方形墓 (Fig. 200)

15号方形墓としたものは、その周溝と考えられるコーナーがわずかに残るのもで、規模、内容とも詳細は知り得ない。

16号方形墓は、調査区西南すみの、斜面に位置する北溝と東溝の一部が検出されているだけである。15号、16号方形墓とも主体部や、これに関係する埋葬施設が検出されていない。

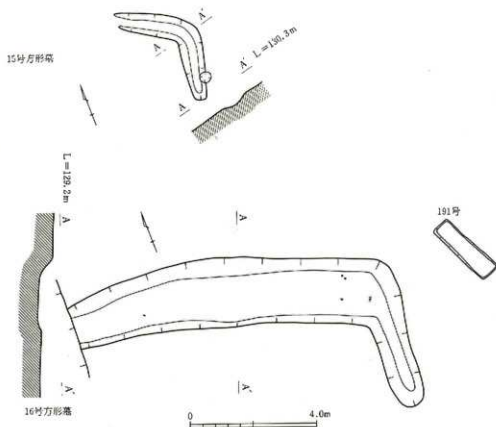


Fig. 200 15号方形墓・16号方形墓実測図

14号方形墓 (Fig. 199)

13号方形墓の南側に位置する。その北溝は13号方形墓の南溝との切り合いをさせている。東西13.4m、南北9.6mの規模である。溝の上面最大幅は、164cmで深さ40cm。

墓域内に、主体部はおろか、関係すると思われる埋葬施設は検出されなかった。周溝内では土器、その他の遺物も未検出である。

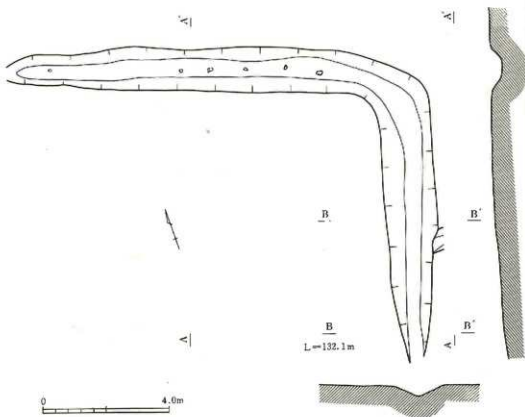
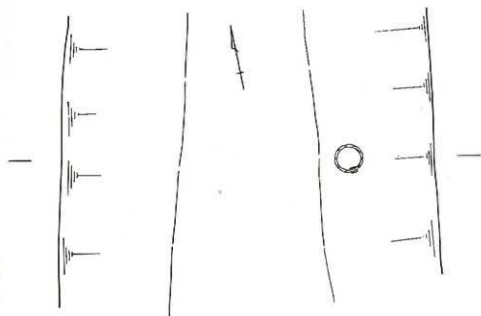


Fig. 199 14号方形墓実測図



0 5.0cm



— L = 131.2m

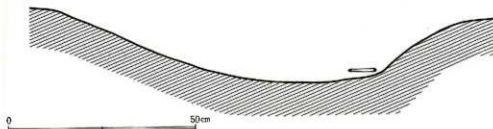


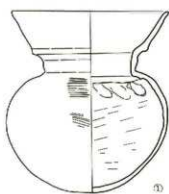
Fig. 198 銅鉦実測図(上)及び出土状況図(上写真・下图)



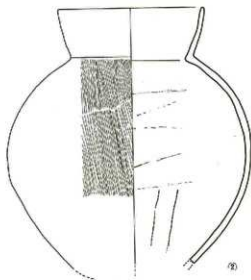
Fig. 197 13号方形墓溝出土土器実測図(2)

銅釧 (Fig. 198)

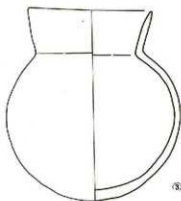
東溝、①の二重口縁壺近くから出土した。 外径7cmで、断面は不整の菱形状を呈する。殆ど溝底面直上で出土しており、溝がまだ埋まらない段階で流れ込んだものと思われる。



①



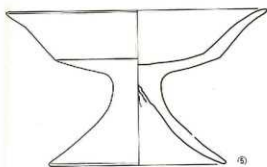
②



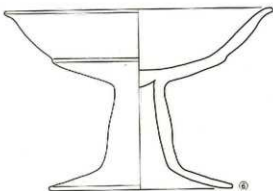
③



④



⑤



⑥



Fig. 196 13号方形墓出土土器实测图(1)

13号方形墓周溝出土遺物 (Fig. 196~198)

13号方形墓の周溝からは、土器と銅釦が出土している。

(土器) (Fig. 196, 197) 土器は比較的完形に近いものが、周溝の数ヶ所でまとまって出土している。

①~③は東溝で出土したもので、溝底面より若干浮いた状態で検出した。①は一重口縁の甕形土器で、内面をていねいにヘラ削り調整している。外面にはハケメが軽く残っているが、全体は丁寧なナデ調整となっている。口径12cm、器高14cmをはかる。

②は口縁部が軽く内わん気味を呈する直口の丸底甕で、外面に細いハケメ、内面にヘラ削りの調整がなされている。③も短い直立口縁を持つ、丸底の甕である。

④~⑦は南側溝で近接して出土した高坏である。④は小型の高坏で、口径15cm。比較的器壁の厚い口縁部をしている。

⑤は脚部が直線的に外反するものである。

⑥は坏部下半と上半の境が内わん気味になり、口縁端部はかるく外わんする。脚部は下半部から急に外側にひろがるものである。

⑦は坏部下半と上半の境が直線的に続くもの。脚部の下半と上半も直線的に屈曲する。

⑧、⑨も北溝で近接して出土した高坏である。

⑩、⑪は出土地点を特定できないが、本周溝から出土したものである。

⑩は小型の低脚高坏で、

⑪は小型丸底甕である。

⑪は口径が胴部よりやや小さめになったもので、この種の小型丸底甕としては新しい段階のものである。

以上の土器はすべて精良な胎土で、明るい黄褐色、もしくは赤褐色の色調を呈する。

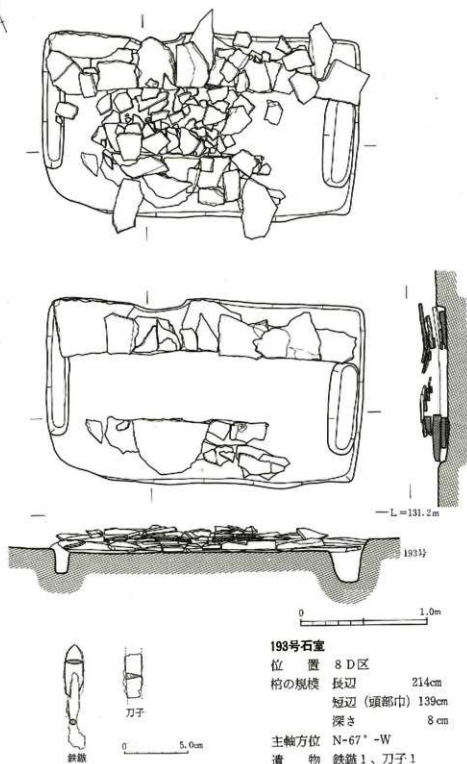


Fig. 195 第2主体部(193号石室)実測図

第2主体部 (193号石室)

第1主体部の192号石棺の北側にほぼ平行して設けられた石室である。長軸2.5m、幅1.4mの平面長方形プランを呈した墓槽の内部に、小型の石室を築いている。石室は破壊されており、その最下部が、2～3段かろうじて残存するだけである。

墓槽の両小口側には、長さ70cm、幅10～20cm、深さ20cmのビットがある。しかもこの部分には石室最基底部の石材が検出されていないことから、上記のビットは板状、あるいは一定の厚みのある石材を抜き取った痕と推測される。すなわち、本石室は、両小口部の基部に板石を用い、側壁は安山岩の扁平な割石で小口積みしたものであったと考えられる。その場合、小口部の板石を腰石のように用い、その上部から、側壁同様、安山岩割石の小口積みをしたものか、それとも小口部は1枚の板状立石のみですませたのか、いずれとも決め難い。後者の場合であれば、小口部の立石に用いる板石を、それほど大きなものとする必要は無く、したがって、石室の規模(深さ)は、せいぜい40～50cm程度と考えられる。前者の場合でも最大1m程度の深さを予想すればよからう。いずれにしても、内法の長軸、幅とも、第1主体部の192号石棺をややうまわる程度の規模で、箱式石棺を意識したものであろう。そういう点では、石棺系の小竪穴式石室の範ちゅうに属すとみなしてよい。

石室の床面には、小さな玉砂利が数cmの厚みで敷かれており、側壁、床でも赤色顔料が施されていた。

ところで、本石室の墓槽最下面は、193号石棺の石蓋と同一のレベルであり、192号石棺が墳丘地山を掘り込んで構築しているのとは対照的である。両主体部の関係からみても、両者の築造が時期差をもってなされたとも考えられる。

第2主体部出土遺物 (Fig. 195)

193号石室からは、その埋土中より、鉄鏃と刀子(?)片が検出されている。鉄鏃は有茎の柳葉形鉄である。

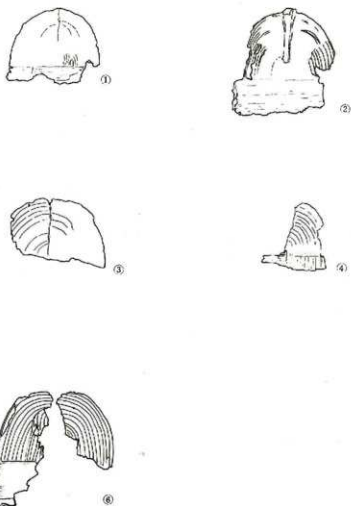


Fig. 194 第Ⅰ主体部棺内出土櫛実測図

櫛 (Fig. 194①～⑥)

櫛は石棺内から6個体出土している。①～④は1号～3号人骨の頭部を飾っていたものであろう。⑤、⑥は南側小口部に頭位を向ける4号、5号人骨に所属する。

これらの櫛はすべて、本体が消失しており、表面漆の皮膜のみが残ったものである。

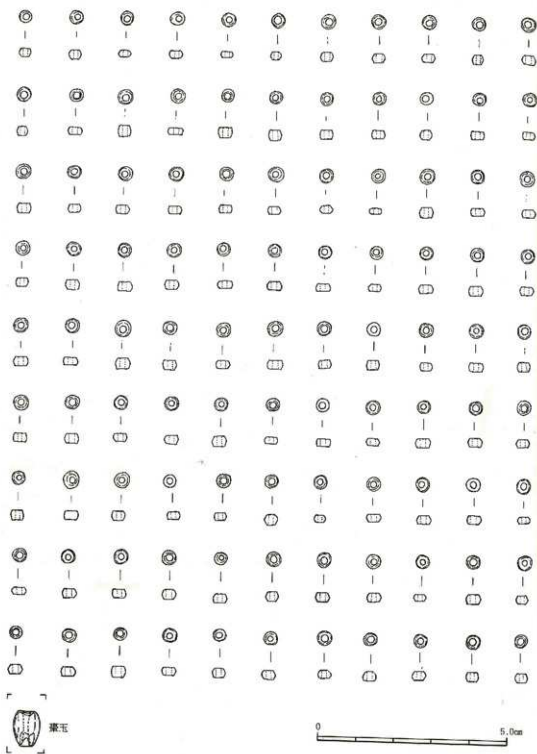


Fig. 193 第1主体部棺内出土小玉・素玉实测图

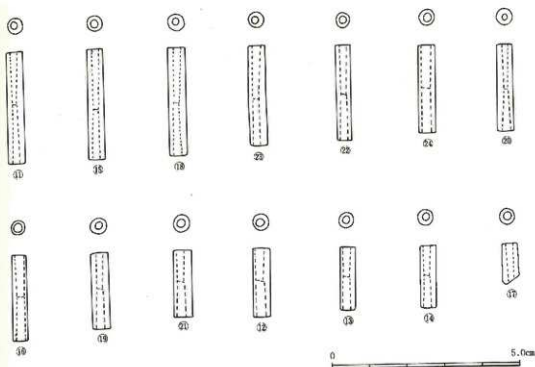


Fig. 192 第1主体部棺内出土管玉実測図

管玉 棺内北東小口部に集中して検出された。床面直上の出土であり、朱が付着していた。勾玉と組み合わされて装身具として使われていたものであろう。

いずれも淡青緑色で珪化した泥岩製である。

長さは3.0cm～1.1cmを測り、径は0.5～0.46cmを測る。孔は、すべて両面からの穿孔で0.3cmから0.16cmを測る。各個の計測値は、表3（260ページ）を参照。

小玉 棺内から160個検出された。

朱が付着していた。首かざりとして使われていたものであろう。

すべて、青灰色の蛇紋岩製である。いずれも断面が算盤玉形である。長さは0.4～0.13cm、径は0.42～0.21cmを測る。長さは0.2～0.3cm位のものももっとも多く、径は0.3～0.4cm位のものももっとも多い。

孔は、両端を平らに仕上げたのち一方より穿孔する。

棗玉 棺内の土の水洗で検出されたものである。

あざき色の琥珀（コハク）製である。

長さ0.93cm、径0.74cmを測る。孔は両面から穿孔され0.93cmを測る。

勾玉

出土状況 勾玉は、第1主体部棺内東側小口部で集中して検出された。⑦⑧⑨は1グループをなしている。⑩は棺の北東小口部で検出され、⑦⑧⑨⑩いずれも床面直上の出土であり、朱が付着していた。

⑦は、青灰色の蛇紋岩製で長さ2.7cm、径1.16cmを測る。孔は両面から穿孔しており0.19cmと0.16cmを測る。

⑧は丁字頭の勾玉で青緑色の珪化した泥岩製である。長さ3.41cm、径1.28cmを測る。孔は片面から穿孔しており、0.25cmと0.16cmを測る。

⑨は、⑦と同様青灰色の蛇紋岩製で長さ2.66cm、径0.92cmを測る。孔は両面から穿孔しており、0.16cmを測る。

⑩は、⑧と同様丁字頭の勾玉で、青緑色の珪化した泥岩製である。長さ3.44cm、径1.31cmを測る。孔は片面から穿孔しており0.3cmと0.1cmを測る。

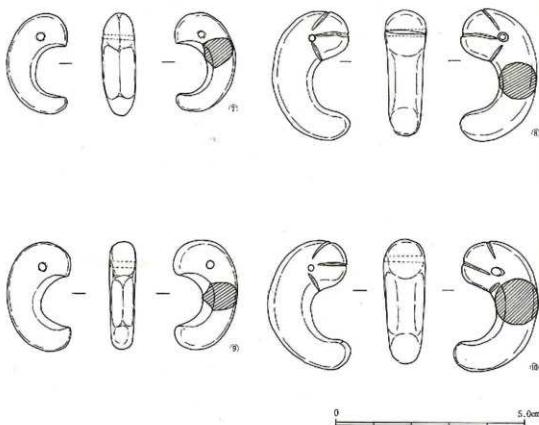


Fig. 191 第1主体部棺内出土勾玉実測図

鉄剣 (Fig. 189) は3号人骨の頭部の下に柄がくるように置かれていた。全長60.4cmで、身幅3cm, 厚さ3~4mm。鞘に入ったまま副葬されていたらしく、木質が付着している。茎には木柄が装着されていた痕跡がある。茎の中間に1個の目釘孔が認められる。関部よりの柄部には鹿角製の装具 (Fig. 188) が装着されていた。柄尻にも鹿角製の鞘具がはめ込まれていた。

鉄刀 (Fig. 190) 柄部を4号人骨の頭部に向けて副葬されている。木鞘や木柄の痕跡がみられる。直刀で全長80cm。

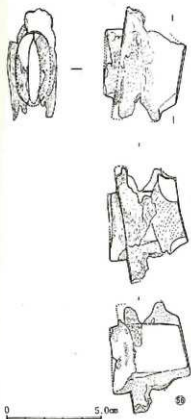


Fig. 188 鹿角製刀装具実測図



Fig. 189 鉄剣実測図

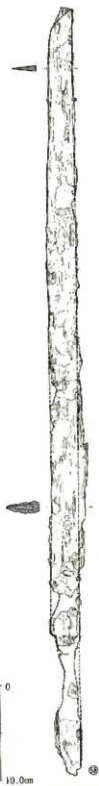


Fig. 190 鉄刀実測図

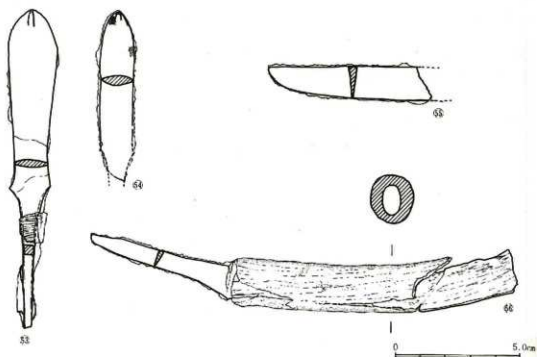


Fig. 186 第I主体部棺内出土铁器实测图(3)

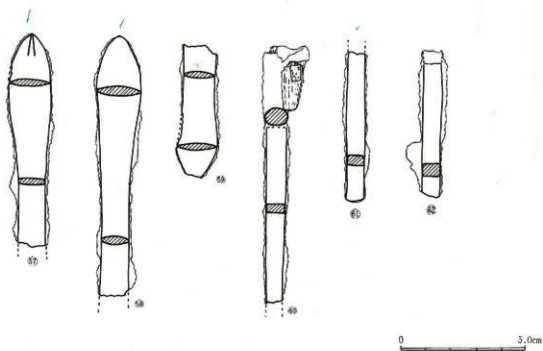


Fig. 187 第I主体部蓋石上出土铁器实测图

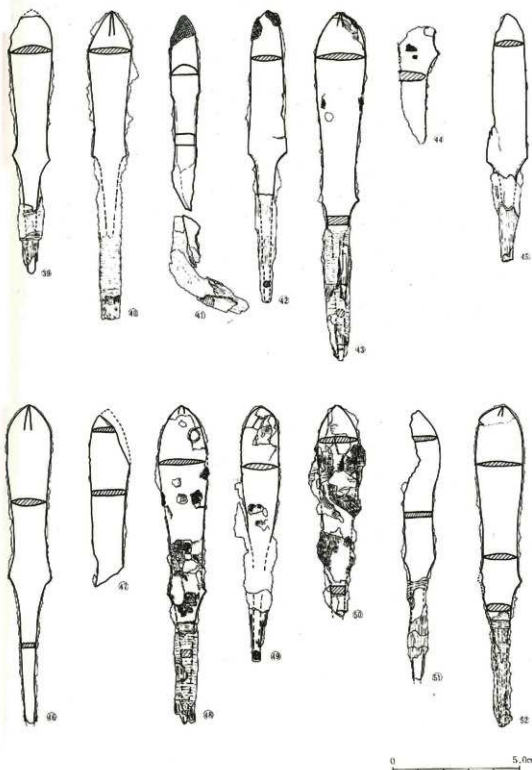


Fig. 185 第1主体部棺内出土鉄器実測図(2)

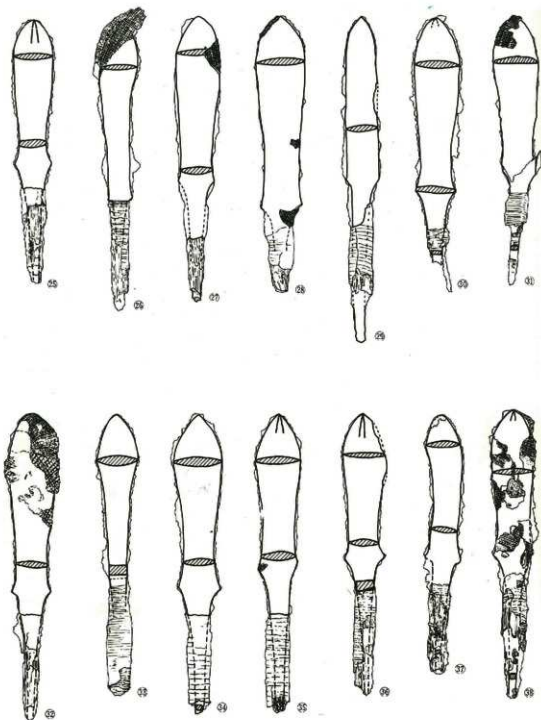


Fig. 184 第 I 主体部棺内出土铁器实测图(1)

第一主体部出土遺物 (Fig. 184~194)

192号石棺からは人骨の他に多数の副葬品が出土している。棺外副葬品(?)としては、蓋石の上に鉄鍔があり、棺内からは鉄鍔、鉄剣、鉄刀、刀子、勾玉、管玉、ガラス小玉、^{なつめ}聚玉、櫛が出土している。

鉄鍔 (Fig. 184~187) 鉄鍔は棺外、棺内あわせて36本以上出土している。刃部と茎部からなるものが殆どで、長頸式鉄鍔の出現以前のものである。^{かき}逆刺のついたものも存在しない。

出土の鉄鍔をⅠ~Ⅴ類に形態分類する。

Ⅰ類 (Fig. 184 25、27、28、30~32、35~40、43、44、46~48、59~54、Fig. 187 59): 出土鉄鍔の殆どがこれである。長さ5cm以上ある長めの刃部と茎から構成される鉄鍔。刃部はいわゆる柳葉形といえるが、後半部はいったんすぼまった後、外側に弱く張り出して、そのままなだらかに茎に続く。茎には矢柄の一部とみられる、樹皮を巻いた木質の一部が残ったものが多い。また、刃部の表面に布が付着したものがあり (26~28、31、32、38、41~44、48~50)、26の例では、刃部が包まれていたと推測し得る。

Ⅱ類 (29、42、45、49) 基本的にはⅠ類に類似するが、刃部がより柳葉形を呈しており、なめらかに茎部に続くものである。

Ⅲ類 (26、33) Ⅱ類に類似するが刃部の長さがより短いもの。断面両丸の刃部と、漸移的に続く断面方形の未発達頸部から構成される。

Ⅳ類 (41) 幅狭く、短い刃部と頸部からなるもので、刃部の断面は半丸である。

Ⅴ類 (Fig. 187、57、58) 棺外、蓋石の上縁で出土したもの。柳葉形の刃部が長い。刃部の断面は両丸である。

刀子 (Fig. 186、55、56)

ともに棺内出土。56は鹿角製の柄がついている。5号人骨の頭部付近に副葬されていた。

4号人骨（女性・成人）

〈保存部位〉

頭蓋骨：前頭骨片、左右側頭骨片、頭頂骨片、後頭骨片、下顎骨片。顔面部は残存していない。
わずかに赤色顔料の付着が認められる。

体部骨：右鎖骨片、仙骨片、右寛骨片、左右大腿骨片、脛骨片、腓骨片。

〈性別・年齢の推定〉

性別：頭蓋骨の乳様突起は発達が弱く、寛骨片に前耳状溝が認められることから、女性と推定した。

年齢：冠状縫合がわずかに残存しているが、内板・外板ともに閉鎖が進んでいる。したがって、明らかに成人に達していると考えられるが詳細は不明ある。

〈形質〉

保存状態が悪く、顔面の形態的特徴等は不明である。頭蓋非計測的小変異では、舌下神経管二分（左）、外耳道骨腫が認められた。

5号人骨（男性・成年）

〈保存部位〉

頭蓋骨：脳頭蓋は左側頭部から後頭部が残存。顔面部は右眼窩部を破損している。赤色顔料の付着が認められる。残存歯牙は以下のとおりである。

M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ³	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³
/	M ₂	M ₁	P ₂	P ₁	C	I ₂	I ₁	I ₃	I ₂	C	P ₁	P ₂	M ₁	M ₂	/

/破損・不明

体部骨：ほぼ全身骨が残存しているが、前腕および脛幹の腐朽が著しい。

〈性別・年齢の推定〉

性別：眉弓および乳様突起の発達が良好であり、四肢骨の筋付着部も発達していることから、男性と推定した。

年齢：歯牙咬耗度がBrocaの1～2度であることから成年と推定した。

〈形質〉

計測および観察の結果を表1～4に示す。顔面部の形態は低顔・低眼窩の特徴を示している。咬合型式は鉗子咬合。脛骨最大長よりピアソンの式を用いて求めた推定身長は158.3cmであった。非計測的小変異では外耳道骨腫（左）が認められた。

〈性別・年齢の推定〉

性別: 眉弓および乳様突起の発達弱く、前頭結節の発達が良好である。また、右寛骨片には明瞭な前耳状溝が認められることから、女性と推定した。

年齢: 歯牙咬耗度はBrocaの1度である。また残存する頭蓋主縫合は内板・外板ともにすべて閉鎖している。以上の所見より、2号人骨の年齢は成年前半期(20代)と推定される。

〈形質〉

保存状態が悪く詳細は不明である。

3号人骨(男性・熟年)

〈保存部位〉

頭蓋骨: 5体中最も保存状態が良好で、ほぼ完全な頭蓋骨が得られている。赤色顔料の付着が認められる。残存歯牙は以下のとおりである。

M ²	×	×	×	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	×	×	×
/	M ₂	M ₁	P ₂	P ₁	C	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	C	P ₁	P ₂	M ₁	M ₂	M ₃

×歯槽閉鎖 /破損・不明

体部骨: 左鎖骨片、左右上腕骨体部、左右前腕骨片、左寛骨片、左大腿骨(遠位端を欠く)、右大腿骨片、左右脛骨片、肋骨および椎骨片少量。

〈性別・年齢の推定〉

性別: 乳様突起の発達が著明であり、四肢骨の筋付着部の発達も良好で、男性の特徴を示している。

年齢: 歯牙咬耗度はBrocaの2度である。また、上顎大白歯にかなりの脱落が認められ、歯槽骨にもかなり吸収がみられる。頭蓋主縫合は内板が閉鎖し、外板は矢状縫合で閉鎖が進んでいる。以上の所見から、本人骨の年齢は熟年と推定した。

〈形質〉

主要計測値及び観察結果を表1～4に示す。脳頭蓋の示数はそれぞれ中頭型(M8/1=77.5)、低頭型(M17/1=68.4)、平頭型(M17/8=88.3)に属しており、頭高が低い点の特徴である。顔面部の特徴は、上顔高が高く全体としては面長な印象を受ける。歯牙の咬合形式は鉗子咬合である。

頭蓋非計測的小変異では、翼上骨、外耳道骨腫が認められた。

192号石棺人骨

5体の成人骨が検出された。

1号人骨（女性・熟年）

〈保存部位〉

頭蓋骨：脳頭蓋の大部分は失われており、顔面部のみが残存している。ただし、顔面部左側の保存状態は不良である。赤色顔料の付着が認められる。残存歯牙は以下のとおりである。

×	×	M ¹	×	P ¹	/	I ²	/	/	I ²	/	P ¹	P ²	M ¹	/	/
×	×	×	P ₂	P ₁	C	I ₂	I ₁		×	I ₂	C	O	P ₂	×	×

○歯槽開放 ×歯槽閉鎖 ●遊離歯 /破損・不明

体部骨：1号に属する体部骨は最も保存不良で、右上腕骨片、右前腕骨片、左右の大腿骨片だけである。

〈性別・年齢の推定〉

性別：肩弓および乳様突起の発達が弱く女性と推定した。

年齢：歯牙咬耗度はBrocaの2度である。また、上顎・下顎ともに大臼歯の脱落が進んでいることから、本人骨の年齢は熟年後半期に達していたであろうと考えられる。

〈形質〉

主要計測値および観察結果を表1～4に示す。上顔高が低く、眼窩も低型である。

2号人骨（女性・成年）

〈保存部位〉

頭蓋骨：後頭部と左側頭部を欠く脳頭蓋のみである。わずかに赤色顔料の付着が認められる。残存歯牙を以下に示す。

/	M ²	/	P ₂	P ₁	C	I ²	/	/	/	/	/	M ¹	M ²	/
M ₂	/	/	P ₂	P ₁	C	I ₁	/	/	/	/	/	/	/	/

●遊離歯 /破損・不明

体部骨：左鎖骨片、右上腕骨体部、左右寛骨片、左右大腿骨片、椎骨片少量。

で、石棺東側壁にそって埋葬されている。切先を西に向けた剣が左寛骨上にのっており、この3号人骨に伴うものと考えられる。左上肢・左下肢の位置関係はそれほど乱れたものではないが、腰・腰椎や右上肢は動かされており、とくに右上肢は西の側壁にそって位置する。上記所見から、1号・2号・4号人骨よりも後に埋葬されたことが明らかであるが、左下肢筋に5号人骨に副葬された直刀がのっていることから、5号人骨よりも先に葬られたことが知られる。

4号人骨は、西に頭位を取る成人の女性である。破損がひどいが、骨盤と右下肢骨は本来の位置関係に近いといえる。右大腿骨が1号人骨上にのる他は、全て棺底に接しており、1号人骨より後で、他の被葬者よりも後に葬られたものである。

5号人骨は、西に頭位を取る成年男性で、5体の被葬者中最も上位にあって、1号・2号・4号の上にいる。上・下肢ともやや乱れた状態ではあるが、他の被葬者の上に葬られたために、軟部組織腐朽後に崩落したと考えられる。切先を東に向けた直刀と鉄鎌は、ほとんどが表層にあって、この5号人骨に伴うものとしていだろう。また、頭部には櫛が1個認められた。

以上の所見から、本石棺における埋葬は、1号→4号→2号→3号→5号の順に行われたと推定される。

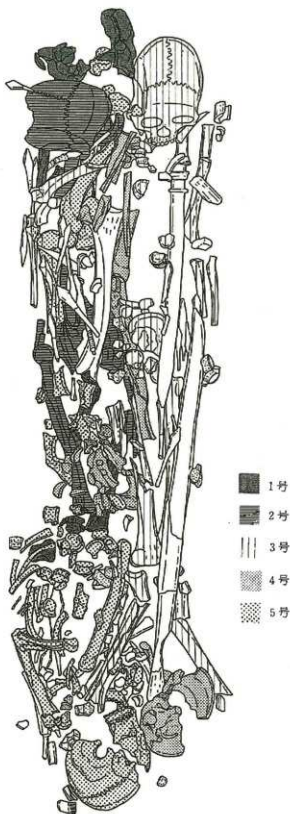


Fig. 183 第1主体部(192号石棺)人骨出土状況

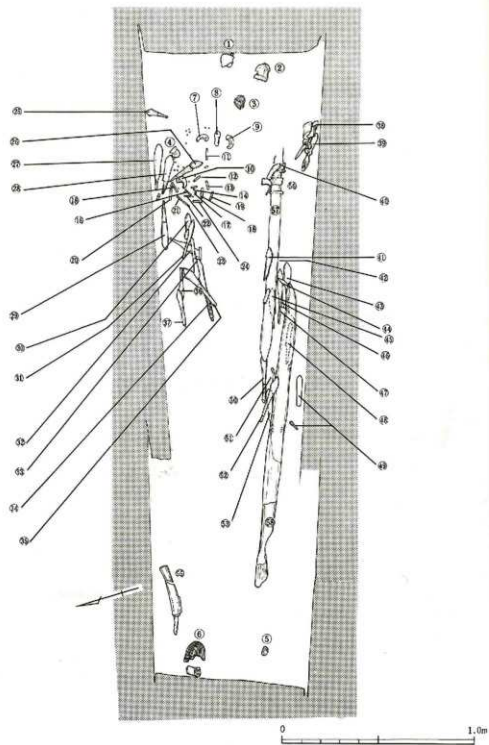


Fig. 182 第Ⅰ主体部（192号石棺）棺内遺物出土状況（人骨をのぞく）

13号方形墓192号石棺

棺内には5体が葬られていた。そのうち、3体が東に、2体は西にそれぞれ頭位をとる。

1号人骨は、東に頭を向けた熟年女性で、保存は良くない。頭骸骨は2・3号人骨頭骸骨の中間やや東よりに位置し、左へと倒れて破損している。四肢骨は、上・下肢とも本来の位置関係に近いといえるものの、原位置とはいいがたく、二次的にやや動かされていると考えられる。左尺骨上に2号人骨左寛骨・4号人骨右大腿骨、右前腕骨上には2号人骨右寛骨が、また左大腿骨上には2号人骨左大腿骨・4号人骨右大腿骨・5号人骨腰椎、右大腿骨上には2号人骨右大腿骨・5号人骨左寛骨がそれぞれ位置している。したがって、1号人骨は、少なくとも2号・4号・5号人骨よりも先に葬られていたことが明らかである。

2号人骨は、1号人骨に接して、東に頭位をとる成年女性である。石棺の北側壁に接するようにして葬られている。右肩関節、左右股関節はほぼ原位置に近いものの、頭は体軸に直交して東を向いており、腰椎も動いている。上記のように、1号人骨よりも後に葬られているが、さらに、2号人骨の左大腿骨は4号人骨大腿骨上のにり3号人骨右大腿骨の下にあること、5号人骨の右寛骨が2号の右大腿骨上に位置していることから、4号人骨よりも後で、3号・5号人骨よりも先に埋葬されたことがわかる。

3号人骨は、北に頭位を取る熟年男性

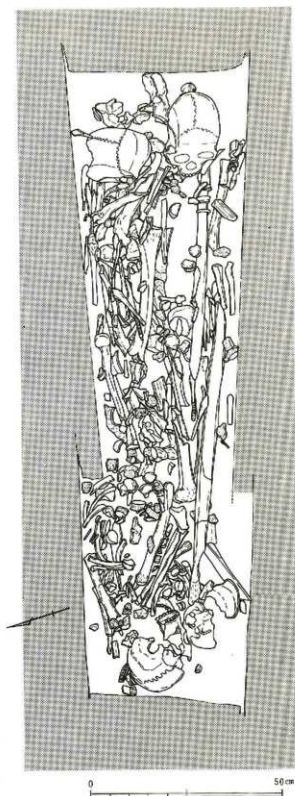


Fig. 181 第1主体(192号石棺)人骨・遺物の出土状況

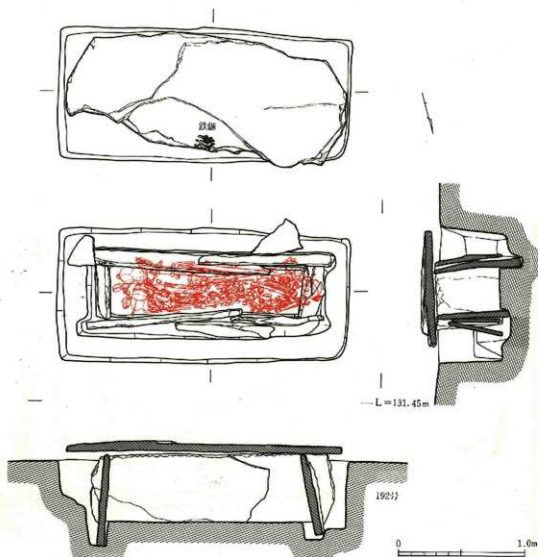


Fig. 180 192号石棺. 実測図

192号石棺

位 置 8 D区

規 模	棺 長辺	171cm	墓 壇 長辺	226cm
	短辺 (頭部巾)	50cm		短辺 (頭部巾) 99cm
	深さ	54cm		深さ 27cm

主軸方位 S-74°-E

遺 物 鉄鏃36+α、鹿角刀子1、鹿角刀装具1、鉄剣1、鉄刀1、刀子1、櫛6、勾玉4、管玉14、小玉160、瓊玉1

備 考

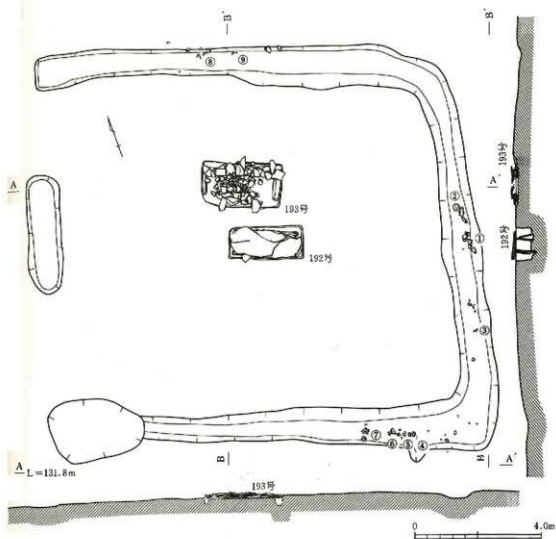


Fig. 179 13号方形墓主体部 (192号石棺) 实测图

13号方形墓 (Fig. 179)

11号方形墓の西、14号方形墓の北に位置する。規模は、東西14.2m、南北12.2mを測る。西側周溝は一部しか残っておらず、この部分に陸橋があったのか、それとも単に削平されただけなのか不明である。

溝の上面最大幅は140cmで深さ25cm。断面逆台形をていし、周溝外側の立ち上がりが内側に比べてやや強い。溝は黒褐色土で埋まっており、これから土器等が出土する。東側溝と南側溝では溝底面からややういた状態で完形に近い土器や銅釦が出土した。

墳丘基底部のほぼ中央に第1主体部の192号石棺が、その北側に第2主体部の193号石室が存在する。

第1主体部 (192号石棺 Fig. 180)

地山に掘りこまれた長辺2.26m、短辺0.99m、深さの長方形墓壇に、扁平な安山岩質板石を用いた箱式石棺を納めたものである。

石棺は目張りされた大きな一枚石で覆われていた。蓋石の縁部には棺外副葬されたと思われる鉄器があった。蓋石を開けるには7～8人の人手が必要であった。石棺内部は土砂等で埋まっておらず、人骨や副葬品が埋葬時のまま残っていた。石棺は長辺1・71m、短辺50cm、深さ54cmである。南側壁が2枚、北側壁が3枚、両小口各1枚の板石を用いて箱形に石棺を組んでいる。各板石とも、縁部は二次調整されており、面取りしたようになっている。

棺内には東西の各小口部に頭を据えた人骨が、2体ずつ差し向かいに埋葬されていた (Fig. 181)。人骨は、土肥、田中の両名によってその重なりや、各部の位置、残存状況等に細心の注意を払いながら取り上げられた。棺内床面には玉砂利が厚さ2～3cmに敷かれていた。

これを除くと墓壇最下面である黄褐色の地山になる。

人骨は上述の取り上げ状況から、同時埋葬ではなく追葬されたものと判断された。これは蓋石からも言えることである。すなわち第一に、棺自体に盗掘の痕跡がないにもかかわらず、長方形の蓋石の主軸が墓壇の主軸にきっちと合っておらず若干ずれていることから、これが追葬時に生じたずれと考えられるのである。実際これを裏付けするように、石蓋の裏面には切り合った長方形の朱の跡が観察された。先行するものは朱の色が薄くなっており、これに合わせて石を被せると石棺や墓壇の主軸に一致する。これに重なるものは発掘時のもので、朱も鮮やかである。

199号石室

位置 8B区

規模	棺 長辺	178cm	墓壇 長辺	240cm
	短辺 (頭部巾)	54cm	短辺 (頭部巾)	124cm
	深さ	? cm	深さ	34cm

主軸方位 N-82°-E

遺物 鉄鏃 2 + α 、刀子 2 + α

備考 床面に施朱。

出土遺物 (Fig. 178)

12号方形墓の出土遺物としては、199号主体部で検出された鉄器類のみである。周溝は後世の削平で、殆ど消滅寸前であり、土器片等は一片も出土していない。主体部である、199号石室も、大半が破壊されており、わずかにその基底部付近が残っていたに過ぎない。図示したのは、そうした盗掘や破壊からのがれたわずかな遺物である。現位置で出土したものはなく、石室内の埋土中から発見されたものである。すべて鉄器で、①、③が鉄鏃、②、④が鏃、⑥が刀子と思われる。①は唯一完形の鉄鏃で、柳葉形の鏃身に、短い茎を有すものである。⑤、⑥の刀子は、それぞれ身幅が異なっており、別個体と考えられる。

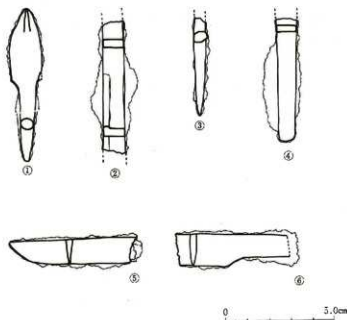


Fig. 178 199号石室出土鉄器実測図

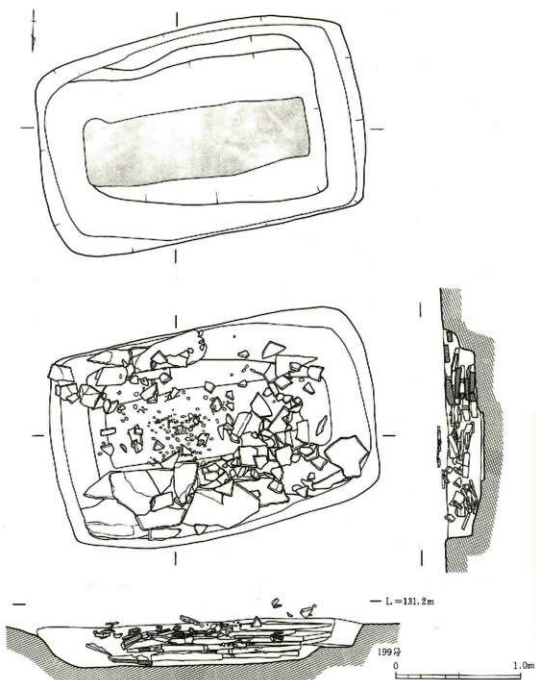


Fig. 177 12号方形墓主体部(199号石室)实测图

12号方形墓 (Fig. 176)

11号方形墓の北側に位置する。削平が甚しいが、残った遺構から推定すると平面正方形を呈し、その規模は、東西10.4m、南北10.4m。

南側周溝は11号方形墓の周溝と切り合っているが厳密にはその先後関係をつかむことができなかった。どちらかと言えば12号方形墓の南側周溝の方が、11号方形墓の周溝より後出するように観察されたことと、主体部が、小型の安山岩小口積み竪穴石室であることから箱式石棺よりも新式の12号方形墓は、11号方形墓より後出すると判断したい。

主体部 (199号) は長軸を東西方向に向けた小型の石棺系竪穴式石室。長辺2.40m、短辺1.24mの隅丸長方形の墓境内に構築されている。墓境底面はもう一段長方形に掘りこまれており、これが石棺系石室の床面となる。長さ1.78m、幅0.54mで、床面には朱を施した玉砂利が敷き詰められていた。南および北の長側壁は安山岩板石を小口積みしていたが、両小口部には石材が認められなかった。13号方形墓の第2主体部のように小口部のみに一枚の立石を用いたものか、あるいは小口部にも安山岩板石の小口積みが存在していたが、削平され消失したものか、判断に苦しむ。前者としたら、板石の抜き取り跡が検出されなくてはならないし、後者としても遺構検出レベルからみて、小口部に全く石材が無いというのは不可解ではある。

石室内の埋土から鉄鏃、および刀子片、その他の鉄器が数点出土した。

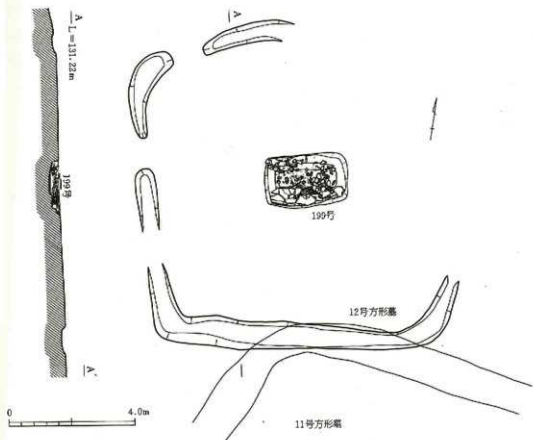


Fig. 176 12号方形墓主体部 (199号石室) 実測図

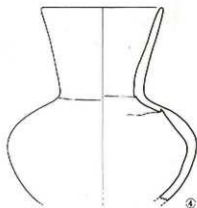
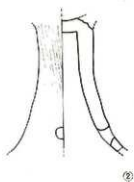
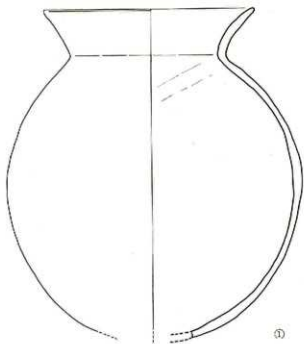


Fig. 175 11号方形墓周溝出土土器実測図

出土遺物 (Fig. 174, 175)

11号方形墓出土の遺物としては、周溝から検出された土器のみである。西溝と、東溝、および南溝で出土しているが、西溝以外は細片の為、作図不可能であった。西溝では、大きく3箇所で土器片が出土している。やや浮いてはいるが、すべて周溝底面近くで検出された。

①は球形の胴部に、外わん気味の口縁部を持つ甕形土器。底部を欠くが、丸底であることは間違いない。内外面とも風化の為、器面調整が明瞭ではないが、内面を斜めにヘラ削りし、外面は軽いハケメ調整を施しているようである。細い砂粒を少量含む胎土を用いており、色調は明るい黄褐色を呈す。③も同様の甕で、球形、丸底の胴部片が存在する。④は長頸の丸底甕である。内面の胴部上半や頸部との境に、巻き上げ粘土紐の接合痕が観察される。

色調は①、③に較べてやや紅みがあるが、殆ど同一といってよい。

②は高坏の胴部片で、脚下端を欠くが、すそ広がりになるものである。焼成前の穿孔がみられる。外面には細いタテ方向のハケメが施されている。以上の甕、長頸甕、高坏は、出土状況からみても、型式学的にも、ほぼ同一時期の、一括品と考えてよく、周溝が埋まり始める早い段階に、墳丘上から流れ込んだものと思われる。

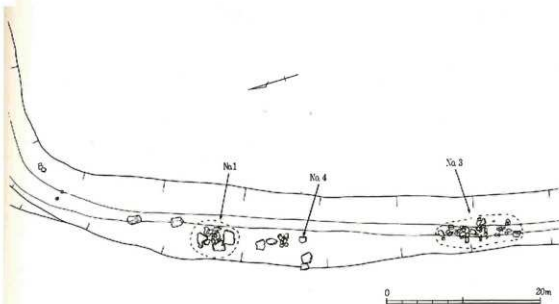


Fig. 174 11号方形墓西溝、土器出土状況

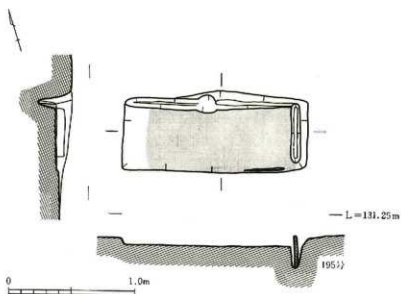


Fig. 173 195号石棺墓実測図

主体部 (Fig173)

主体部は削平され、その一部が残るのみであった。第1主体部とする195号石棺は墳丘中央付近にあり、主軸を東西方向にとる。箱式石棺と考えられる。石棺を収めた土壌最下部が残っており、石棺材の抜き取り跡と赤色顔料が施された砂利床が検出された。この196号石棺と平行して、隣接する北側に、同様の赤色顔料と砂利の一部が見られることから、ここに本来第2主体としての石棺 (196号墓) が存在していたと考える。

195号石棺墓

位置 7C区

棺の規模 長辺 140cm

短辺 (頭部巾) 49cm

深さ ? cm

主軸方位 N-73°-W

遺物

備考 床面に施朱。

11号方形墓 (Fig. 172)

12号方形墓の南、13号方形墓の東、8号方形墓の北西に位置する。

12号方形墓の南側溝と、11号方形墓の北側溝は切り合っているが、発掘時の観察では、その先後関係を確定することができなかった。

周溝の北東隅が途切れているが、削平によって溝が消滅したものか、あるいはここが陸橋部であるのか、判断がつかない。

北側溝は浅く、上面最大幅108cm、深さ16cmを測る。南側溝は最大幅123cm、深さ40cmと比較的残りが良い。東側溝と西側溝の埋土中には、底面から10数cm上に浮いた状態で土器片が出土している。

方形墓の規模は東西12.9m、南北12.6mを測る。

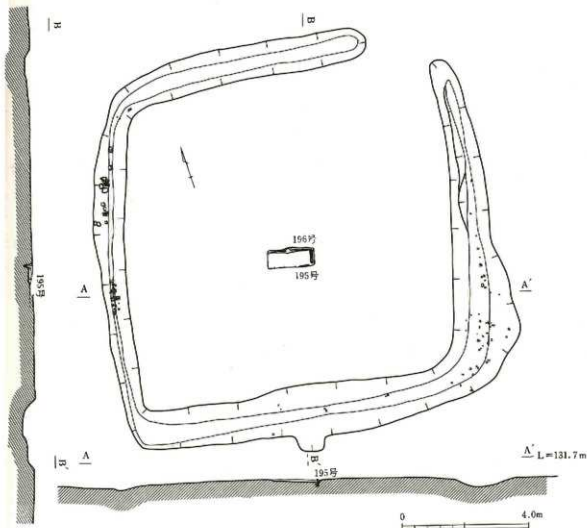


Fig. 172 11号方形墓主体部 (195号石棺) 実測図

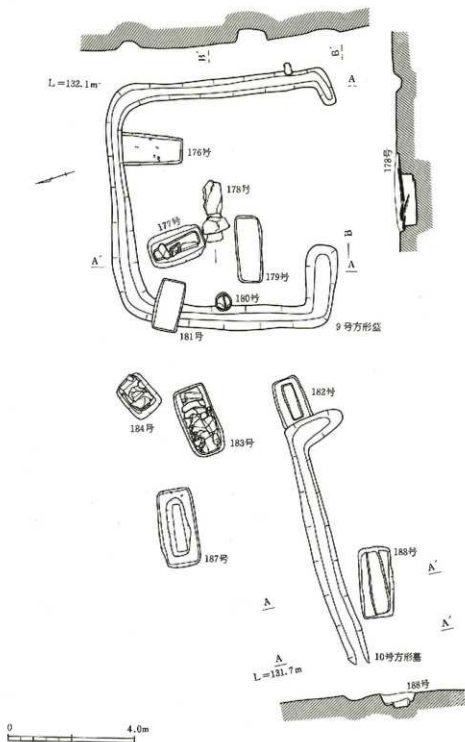


Fig. 171 9号方形墓·10号方形墓实测图

墓に所属する埋葬施設が否か判断がつかない。

180号壺棺墓は、方形墓西側溝の上縁にあたる場所に掘り込まれた墓壇に埋置されており、溝よりも先行する。

結局のところ、9号方形墓の主体部としては178号石蓋土壇墓が考えられ、他の埋葬施設を持たない一墳一棺である可能性が強い。

178号石蓋土壇墓は殆んど墳丘中央にあり主軸をS-70°-Eとし、北側周溝と平行して営まれている。

地山を掘り込んだ二段土壇墓で、墓壇は削平され部分的に確認されるだけである。長辺246cm、短辺?cm、深さ14cmを測る。これをさらに掘り込んで棺とするが、棺は平面隅丸長方形で長辺156cm、短辺30cm、深さ41cmを測る。頭位小口部には地山造り出しの枕が設けられている。安山岩製板石を用いて蓋するが、基本的には、よろい重ねさせておらず、板石の縁を相互に接するタイプである。墳丘内には188号土壇墓が存在するが、その位置は周溝のすぐ近くで、方形墓の中心主体部が設けられるべき場所ではない。とすれば、主体部は未検出であり削平の為、既に消失してしまったとも考えられる。

10号方形墓 (Fig. 171)

9号方形墓の西側に位置するが、L字状の周溝が確認されたと過ぎない。この場所は、丘陵の南端で南側に向って丘陵は傾斜が強くなる。北側周溝にあたる溝はコーナー付近で、182号土壇墓を切っており、またその西端は14号方形墓の周溝で切られている。

北側周溝は、長さ8m、最大上面幅76cm、深さ8cmを測り、主軸は殆んど東西方向である。

この点、8号方形墓や9号方形墓と異なり、むしろ11号方形墓に近い。傾斜の強い斜面に築かれている4号方形墓等と同様、南側は勿論、東側や西側周溝は完全には設けられていなかったとも考えられているが、低墳丘の存在を想定し得るとすれば、それは南端は189号土壇墓のすぐ北側付近まではのびよう。

8号方形墓 (Fig. 170)

東および南溝を欠き、盛土も失われていた。9号方形墓のすぐ北側に築かれ、規模も殆んど同じである。切り合い関係から、東側溝は173号、202号、174号土壌墓よりも後に掘られたものであることがわかる。溝の最大上面幅は120cm、深さ8cmで、断面は逆台形である。北側溝の一边は7.0m、西側溝は6.4mで、ほぼ正方形といってよい。

主体部：8号方形墓の墳丘内には主体部と考えられる遺構を検出することができなかった。墳丘とともに削平されて消滅したのであろうか。

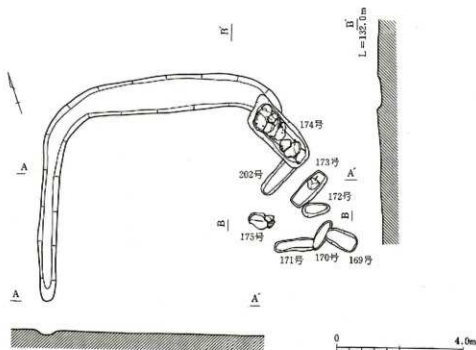


Fig. 170 8号方形墓実測図

9号方形墓 (Fig. 171)

8号方形墓の南に築かれており、方向、規模とも類似する。南側溝は中央で切れており、陸橋部を持つとも考えられる。削平の為此の部分の溝が消滅した可能性も残る。

溝は断面逆台形で、北側溝の場合、長さ7.5m、上面幅80cm、深さ20cmを測る。

東側溝も北側溝とはほぼ同じ長さである。9号方形墓内には6基の遺構があるが、うち176号土壌墓は北側溝に切られており、これより先行するものであり、181号土壌墓は西側溝より後出する。177号土壌墓も、主体部と考えられる178号土壌墓より先行しており9号方形墓には属さない。

179号土壌墓は、178号主体部と主軸を同じくするが、真横に並んでいるわけでもなく、方形

7号方形墓 (Fig. 169, 59)

調査区中央部の南斜面に位置する。かなり傾斜の強い地点で、北側の斜面上方に幅40cmで凹状を呈す浅い溝が検出された。北側溝は等高線に平行して掘られており、一辺4.9mで南半分を欠く。

周溝中心部には、地山を掘り込んだ二段土壇からなる72号石蓋土壇墓がある。この土壇は主軸N-90°-Wで、頭位を真西に向ける。北側溝と平行にはなっていない。既に説明しているように、成人に達した女性と推定される人骨一体が葬られており、棺の規模からみても単体埋葬であったことは間違いない。

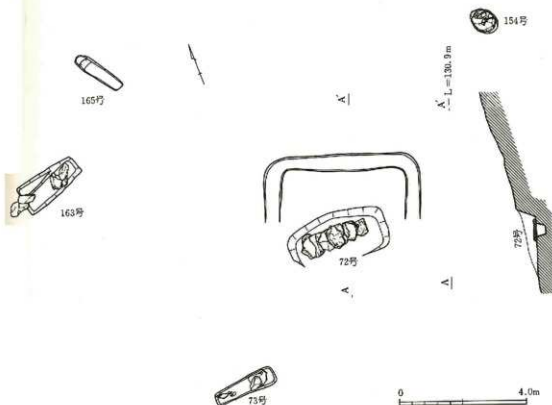


Fig. 169 7号方形墓実測図

198号石棺人骨（女性？・若年～成年）

1体分の人骨が検出された。

〈保存部位〉

頭蓋骨：後頭骨片、下顎骨片、遊離歯牙20本。

M ³	M ²	M ¹	P ²	/	/	I ²	/	/	I ²	C	P ¹	/	/	M ²	M ³
M ₂	M ₂	M ₁	P ₂	P ₁	/	/	/	/	I ₁	I ₂	C	/	/	M ₁	M ₂
／破損・不明															

体部骨：左右上腕骨体部、左右大腿骨体部、
左右脛骨体部。

〈性別・年齢の推定〉

性別：四肢骨は細く華奢である。成人であれば女性の可能性が高い。

年齢：歯牙は切歯と犬歯を除くと、咬耗の程度は非常に弱い。第3大臼歯はほとんど咬耗の痕跡がみられず、萌出していたかどうかともわからない。また、脛骨遠位の骨端が検出されたが、その骨端は外れていた可能性がある。以上の所見から、本人骨は若年～成年と推定される。

〈形質〉

詳細は不明である。非計測的小変異の外耳道骨腫（左）が認められた。



Fig. 168 198号石棺。人骨出土状況

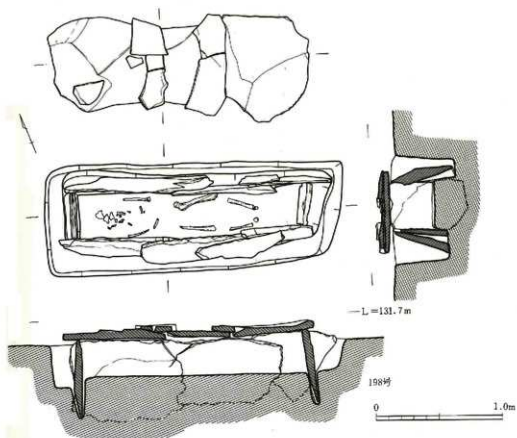


Fig. 167 6号方形墓主体部(198号石棺)実測図

198号石棺墓

位 置 6B区

棺の規模 長辺 173cm

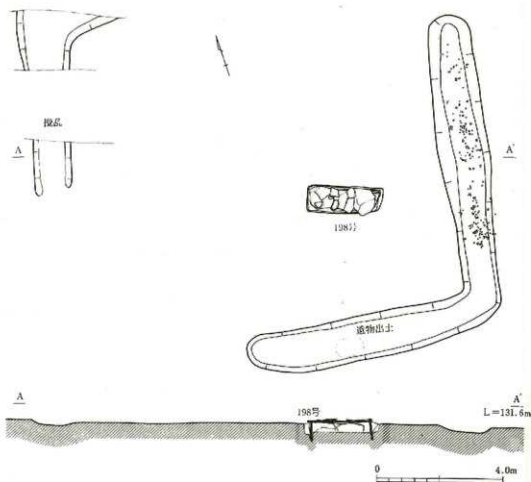
短辺(頭部巾) 35cm

深さ 25cm

主軸方位 N-68°-W

遺 物 人骨

備 考 床面に施朱。



出土遺物 (Fig. 166)

6号方形墓出土の遺物としては、周溝から出土した土器片だけである。土器は図示し難いほどの細片となっており、東側溝では全面に、底面から10数cm浮いた状態で出土している。南側溝では1ヶ所に集中していたが、出土状態は同様である。

①は内面へラ削りの丸底壺である。②、③も小型の壺であろう。みな、黄褐色を呈す。器面は風化の為、観察不可能である。古式土師器の段階に位置づけられよう。

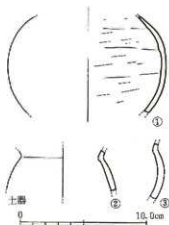


Fig. 166 6号方形墓、主体部（198号石棺）実測図

6号方形墓 (Fig. 166)

調査区中央の北側に位置する。周溝は削平され、部分的にしか残っていない。

現状で最大上面幅140cm、底面幅100cm、深さ8cmを測る。溝が方形に切れ目無く巡っていたのか、あるいは陸橋部があったのか判断できなかった。東、南溝では、底面から10数cm浮いた状態で土器細片が出土する。埋土は黒褐色土。

推定される溝の長さは、東西14.3m、南北13.2mのやや弱長方形で、断面は逆台形を呈す。

埋土は西側溝の攪乱土周辺から仿製鏡片が出土した。

主体部: 198号石棺が検出された唯一の主体部である。その位置は推定される方形墓の中心からやや東南寄りにずれている。

地山を掘り込んだ長方形の墓域は、長辺224cm、短辺80cm、深さ34cmを測る。内部の石棺は小口を側壁が突出タイプで、両小口、側壁の板石は縁部に細い二次調整が行なわれている。

両小口とも、殆んど同一幅で、34-36cm。長辺は180cm、棺深さは30cm。床面には砂利が敷かれており、人骨1体分が出土した。棺内には全面朱が施されている。

棺上面は、縁を接した扁平な板石を3枚用い蓋とする。各石材の合わせ目は白色粘土で目張りされている。

出土遺物 (Fig. 165)

①②は丸底球形胴部の甕形土器。①はほぼ完形に復元され、口縁部は先端が細くなりわずかに内わん気味である。内外面とも風化が激しく器面調整を観察し難いが、外面ハケメ、内面へう削りのようである。黄褐色を呈し、胎土、焼成とも良い。

③は小型の丸底甕で、底部に焼成後の穿孔がみられる。茶褐色の土器で成形、仕上げ調整ともやや雑である。体部外面に一部ハケメが残るが、全体として内外面ナデ仕上げである。

④は口径4cm、器高4.2cmのミニチュア壺形土器。不安定な平底、肩の張った体部、短く外反する口縁部が特徴的である。明黄褐色を呈し、胎土も砂粒を含まない良質のものである。

⑤～⑦は、高坏の坏部口縁部片である。

⑤は西側溝(跡)出土で、口径15.8cm、推定器高13cm弱。坏部の上半はやや内わん気味で、尖り気味の口縁端部に至って再び外反する。

脚部は下方に比較的大きく広がる。器面は内外とも丁寧な調整が行われており平滑である。砂粒を含まない良質な胎土で、色調は明るい黄褐色。

⑥、⑦は坏部上半が外わんし、そのまま口縁部に至るタイプ。黄褐色を呈す。

⑧は⑥、⑦タイプの坏部に組み合う脚で外面に細いタテハケメが残る。

⑨は柱状の脚下半部が急に大きく外反するタイプの高坏脚片。

周溝からは以上の土器の他に、⑩の刀子片、⑪のカンラン岩製勾玉(西側溝中より出土)が出土している。

⑩の刀子は現存長2.5cmで、茎部には木質痕が付着している。刀子片は棺内からも出土しており(Fig. 165⑫)、やや刀身幅が異なっているが、両者が同一個体となる可能性もある。なお、刀子⑫は、北側側壁近くに床面から10数cm浮いた状態で出土している。

棺内からは、他にも甕が出土している。北東小口部に頭位をとる、1号人骨の頭部付近の床面で検出された。2個あったが、一つは保存状態が悪く図示し得なかった。⑬も1cm四方しか残っていない。本体の竹材は消失しており、表面に塗られていた漆の皮膜のみである。

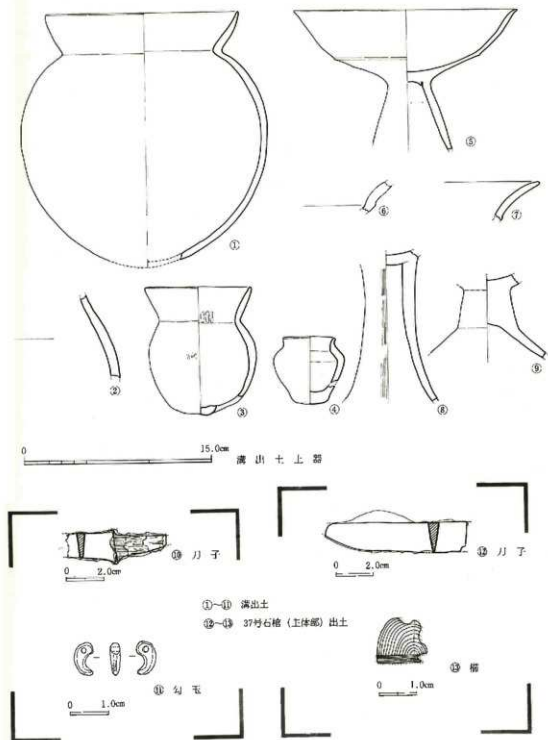


Fig. 165 5号方形墓出土遺物実測図

別個体とする積極的な根拠に乏しいので2号人骨に含めた（出土状態の項参照）。残存歯牙を以下に示す。



体部骨: 左上腕骨体部、左右大腿骨片。

〈性別・年齢の推定〉

性別: 四肢骨が細く華奢であることから女性と推定した。

年齢: 大腿骨頭の骨端線はみられない。下顎大臼歯のうち1本は単根で形態からみても第3大臼歯の特徴を有しており、咬耗の痕跡も認められる（Brocaの1～2度）。以上の所見から年齢は成年と推定した。

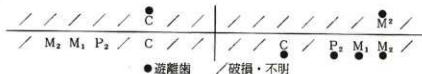
〈形質〉

大腿骨に柱状傾向が認められる。

3号人骨（男性・成年）

〈保存部位〉

頭蓋骨: 顔面部と後頭部を欠く。残存歯牙は以下のとおりである。



体部骨: 左大腿骨体部、左腓骨片、脛骨片。軀幹骨は消失している。

〈性別・年齢の推定〉

性別: 乳様突起が良く発達し、大腿骨も頑丈であることから男性と推定した。

年齢: 歯牙咬耗度（Brocaの1度）から成年と推定した。

〈形質〉

詳細は不明である。非計測的小変異の観察で外耳道骨腫が認められた。

37号石棺人骨

3体分の成人骨が検出された。

1号人骨（男性・成年）

〈保存部位〉

頭蓋骨：頭蓋底部、左右頬骨、左下顎枝を欠いているが、保存状態は比較的良好である。赤色顔料の付着が認められる。残存歯牙の歯式を以下に示す。

/	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹		I ¹	I ²	C	×	P ²	M ¹	M ²	/
/	/	M ₁	P ₂	P ₁	C	I ₂	I ₁		I ₂	C	△	△	●	M ₁	/	/
×歯槽閉鎖								△歯根のみ		●遊離歯		/破損・不明				

体部骨：大腿骨および脛骨の骨体部片が識別された。

〈性別・年齢の推定〉

性別：乳棘突起の発達が良いとあり、また大腿骨も粗線が発達していることから男性と推定した。

年齢：歯牙咬耗度はBrocaの1～2度である。頭蓋主縫合は内板・外板ともに開離している。

以上の所見から年齢は成年と推定した。

〈形質〉

頭型は短頭型（M8/1=83.4）、顔面部は上顔高が71mmで比較的面長な特徴を有している。また、眼窩は中型（M52/51=79.5）、鼻指数は広鼻型（M54/55=55.1）に属している。咬合型式は鉗子咬合。

本人骨の歯牙には2つの特記すべき所見が認められた。

1) 左上顎第1小白歯の抜去

左上顎第1小白歯に抜去痕が認められた。隣接歯牙や歯槽骨の状況、またレ線による検査の結果から健康な歯牙が意図的に抜去されたものと考えられる。古墳人にみられる抜歯風習については、少数ではあるが各地にその例が認められており、本人骨もその可能性が強いと考える。

2) 下顎中切歯の先天性欠如

下顎切歯は3本が植立しており、その形態から中切歯が1本欠如していると考えられる。一般に下顎中切歯は退化傾向が強いとされており、本例もその可能性が強いと考える。

2号人骨（女性・成年）

〈保存部位〉

頭蓋骨：主として左前頭部から側頭部付近の破片が少量検出された。また、1号頭蓋骨の頭頂部付近から出土した頭骨片も2号頭骨片と直接接合したわけではないが、形状や位置関係から

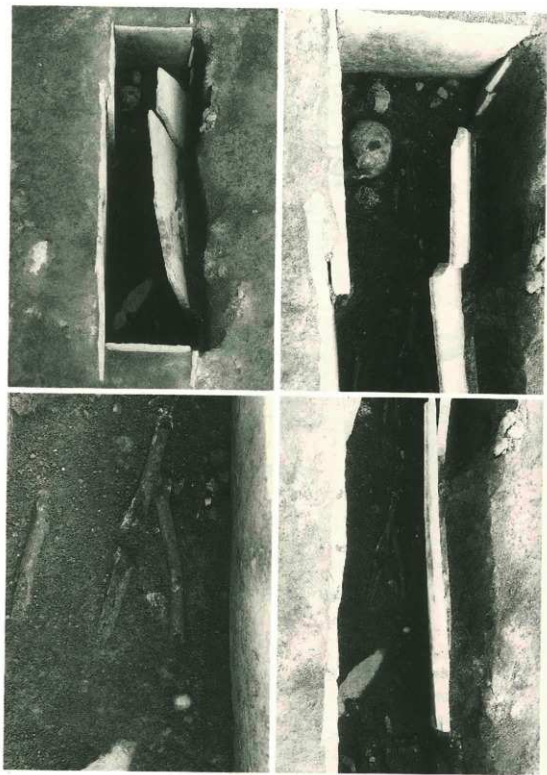


Fig. 164 37号石棺。人骨出土状况

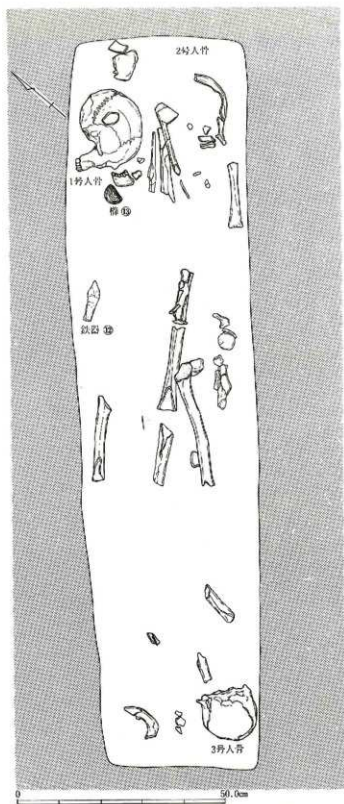


Fig. 163 5号方形墓第I主体部(37号石棺)人骨出土状况

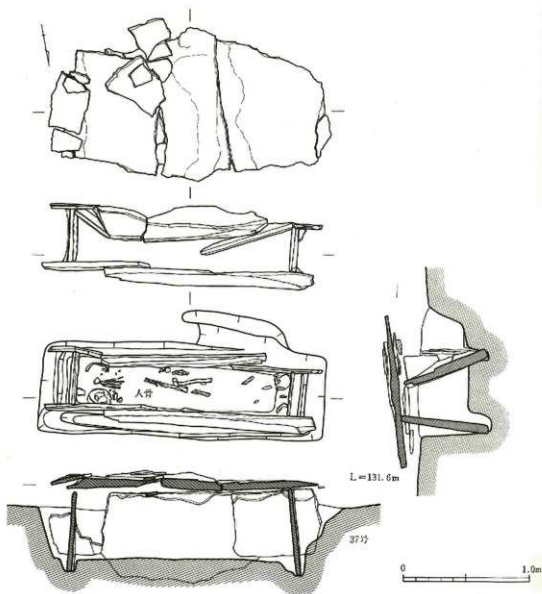


Fig. 162 5号方形墓第1主体部(37号石棺)実測図

37号石棺

位置 3 D区

規模	棺 長辺	172cm	墓壇 長辺	200cm
	短辺(頭部巾)	40cm	短辺(頭部巾)	60cm
	深さ	52cm	深さ	40cm

主軸方位 N-80°-W

遺物 刀子1、櫛2、人骨

備考 床面に施朱

〈主体部〉

5号方形墓の主たる埋葬施設は、37号石棺である。これは、地山に掘り込んだ墓域内に組合わせ式の箱式石棺を設けたものである。

墓域は長方形で、長辺2m、短辺60cm、深さ40cmを測る。

石棺は両小口各1枚、両側壁各2枚の安山岩板石を用いており、長辺172cm、短辺40cm、深さ52cm。主軸はN-80°-W。

蓋石は3枚の板石の縁を合わせ、被せている。

ところで、石棺南側壁の棺材が棺内側に押されて傾いていたがこれは杉の木の根による破壊であり、盗掘等は行なわれていない。

石棺材の接合部や石蓋の合わせ目には白色の粘土目張りが施されている。棺床は地山で砂利が敷かれており、朱が施されていた。棺内からは人骨と、櫛1および刀子1が出土した。複数埋葬の割には副葬品が貧弱といってよい。

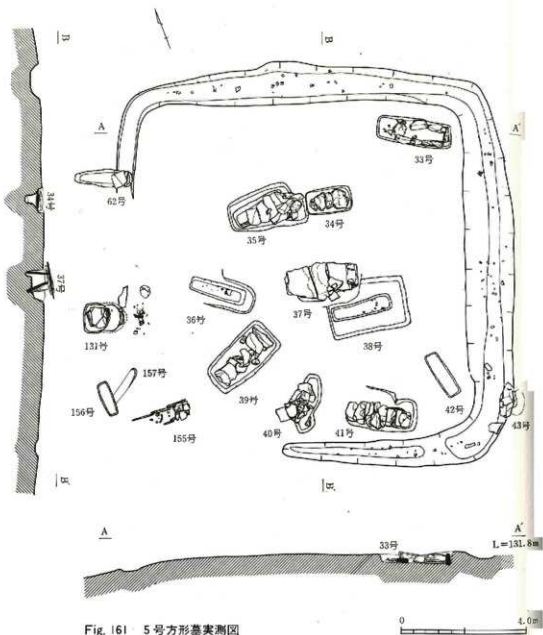
37号石棺人骨出土状況

3体が葬られていた、1号人骨は、北東に頭位を取る成年男性で、頭近くに2個の櫛をもつ。保存が悪いが、顎関節は外れ、大腿骨と脛骨も本来の位置関係を保っていない。

2号人骨は、同じく北東に頭位を取り、成人の女性と思われる。1号人骨頭部の北東にある頭骨片は、この3号のものが調査時に移動したものである。保存は不良だが、全体の位置関係に乱れはなく、左右とも股関節は原状を保つ。右大腿骨が3号人骨の右大腿骨上にのっていることから、3号よりも後に埋葬されたことが知られる。

3号人骨は、南西に頭位を取る成年男性である。保存不良だが、頭は顎関節が外れて動いており、左右脛骨は1号人骨の頭の脇にそろえたように位置する。

以上の所見からみると、2号人骨が最後に葬られたことは明らかである。また、1号・3号の関係は、厳密には決めがたいものの、1号人骨の脛骨が動かされる機会は3号の埋葬時においてなく、石棺の構造をみても北東を頭位として築造されていることから、1号人骨が初葬であった可能性は大きい。



5号方形墓 (Fig. 161)

方形の周溝を伴うが、西側溝は削平されて消失している。東西辺、南北辺とも最大12.50mのほぼ正方形を呈す。

東側周溝は最も残りが良く、上面最大幅1.5m、底面幅60cm、深さ23cmを測る。断面不整の逆台形。

62号土壌墓、131号甕棺墓、155号石棺墓、156号土壌墓、157号土壌墓は、削平される前に存在したであろう西側溝に先行して営まれたものとみなされる。

周溝は黒褐色土で埋まっており、複数の土層としては区別できない。この埋土中から、土器や刀子片、勾玉が出土している。

これらの遺物は、周溝の特定箇所集中分布するわけではなく、全体に分散した出土状況である。

周溝底面のレベルに注目すると、南、北側周溝はそれぞれあまり差が無いのに対し、東、西側周溝では西側の周溝底面レベルが東のそれに比べて低くなっている。

高さ1m台の低封土が盛られていたとしても、丘陵西側から眺めたときの比高差はそれ以上になり、視覚的にはかなり大きく感じられたであろう。

墓域内には10基の埋葬施設があるが、方形墓との関係は検討を要する。

まず37号石棺墓はその出土位置や、石棺という形式からみて、方形墓の中心主体であることは間違いない。この37号石棺に切られている38号土壌墓はどうであろうか。

これは37号石棺に先行するにもかかわらず、方形墓の中心的位置に設けられておらず、また、この種の墳墓で複数の中心主体部を持つ場合、主体部相互の位置関係は切り合いの無い、整然としたものが通例であることからみても、38号土壌は、当方形墓に関係する埋葬主体部とは認め難い。

一方、33号石棺や43号土壌はそれぞれ溝を意識したかの如く営まれており、方形墓に属す。35号土壌墓や41号土壌墓の墓域埋土からは、弥生時代後期後葉へ終末の時期に比定される高坪片や壺形土器片が出土しており、明らかに方形墓の時期よりも遡るものである。

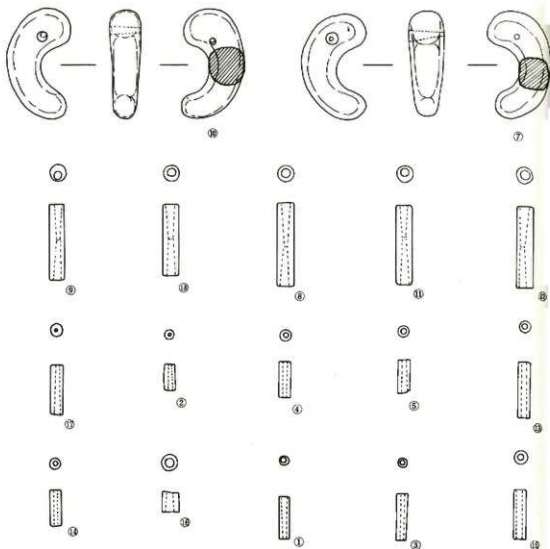


Fig. 160 4号方形基出土玉類実測図

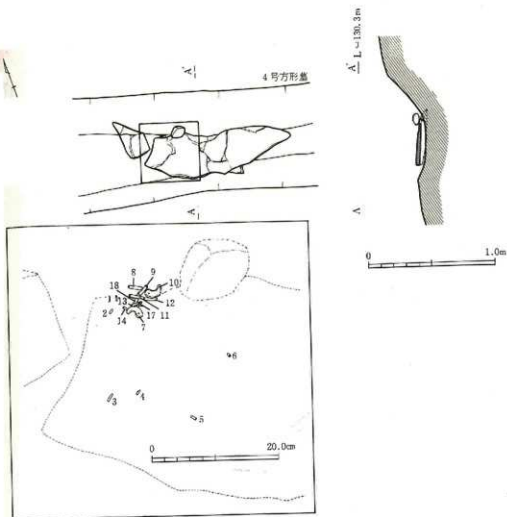
勾玉 ⑦⑨は勾玉で青緑色の硬玉製である。

⑦は長さ2.66cm径1.0cmを測る。孔は片面から穿孔しており0.3cmと0.12cmを測る。

⑨は長さ2.86cm径1.05cmを測る。孔は⑦同様片面から穿孔しており、0.3cmと0.14cmを測る。2点とも頭部がやや大きい。

管玉 ①～⑥⑧⑨⑪～⑬は管玉で緑灰色の珪化した泥岩製である。

①②③⑤は片面からの穿孔で④⑬⑭⑯も片面からの穿孔と思われる。⑧⑨⑫⑬⑮は、両面からの穿孔で⑬も両面からの穿孔と思われる。⑥は小破片のため計測出来なかった。各個の計測値は表3（265ページ）を参照。



勾玉、管玉出土状況

Fig. 159 4号方形墓周溝玉出土状況

〈北側溝出土の玉類〉 北側溝中央部の板石は、石柏材と同質の安山岩製で、溝の最下面に貼り付いた状態で検出された。この板石の下面から勾玉2個、管玉15個が発見されたが、他に土坑等の遺構は存在していない。

玉類は溝底面にあり、2個の勾玉を含む一群と、やや散在気味の数例とにわかれる。

板石はこれらの玉類を覆っており、その時期はその出土状況からみると遅くとも、溝が埋まらない段階であろう。

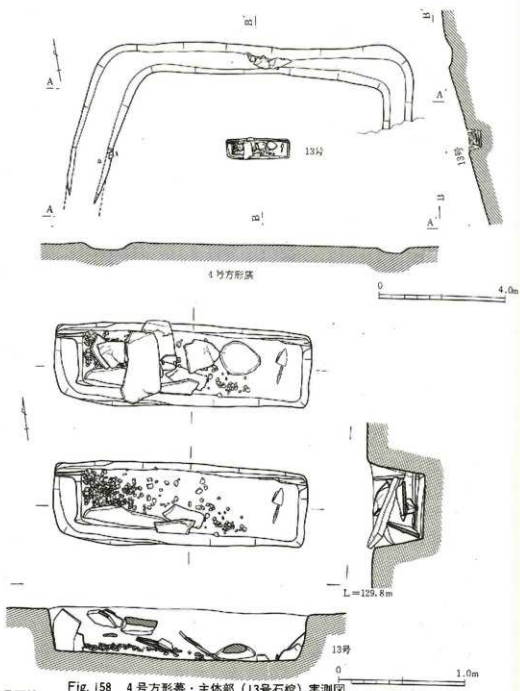


Fig. 158 4号方形墓・主体部（13号石棺）実測図

13号石棺

位置 2 F区

規模 棺 長辺	154cm	墓 長辺	188cm	主軸方位	N-82°-W
短辺（頭部巾）	43cm	短辺（頭部巾）	51cm	遺物	
深さ	34cm	深さ	40cm	備考	床面に施朱。

4号方形墓 (Fig. 158、159)

4号方形墓は丘陵東南のかなり傾斜が強い斜面上にある。北側溝で、東西溝の北半分が検出されたが、丘陵下方になる残りは当初から掘られていなかったと思われる。溝は断面U字形で、黒褐色の埋土。北側溝の長さは約10m、上面幅約1m、深さ約26cm。東西溝の上面幅はやや広く150cmを測る。北側溝の中央部に板石が検出され、その下から玉類が出土した。

〈主体部〉 主体部は箱式石棺であるが、大半は破壊されていた。石棺主軸はN-82°-Wで、北側溝にはほぼ平行する。東西溝から、等距離に営まれており、弱長方形プランの墓域を想定すると、そのほぼ中央に位置することになる。

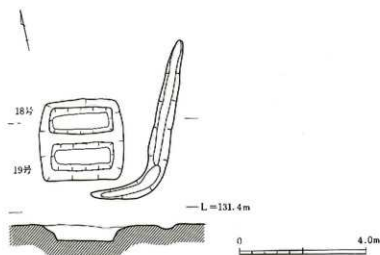
墓域は長方形プランで長辺190cm、短辺50cm、深さ50cmを測る。石棺は側壁が小口部を狭む型式で、残存する棺材や、抜き取り跡から復元した内法は、長辺170cm、短辺40cm、深さ40cmとなる。床には玉砂利が残っており、一面に敷かれていたと思われる。

蓋石は他例と同様、扁平な板石を用いている。蓋石も含め、棺内には朱が施されている。

なお図示しなかったが、北側隅構内の石棺材南側に径40mほどの不定形をした浅い小ピットがあり、内部に炭化物がつまっていた。

同様のピットは、5号方形墓の東南隅や、11号方形墓南側構外側、12号方形墓と6号方形墓の中間付近でも検出されている。それらのピット内部には、焼土や炭化物が多量に入っているものや、埋土そのものが焼土や炭化物でつまっている例もある。中には床面や壁面が焼けているものも1例ある。それらの形状は隅丸方形、円形、不定型でおおきさは40～50m台におさまる。

以上、これらの小ピットは全て、方形墓の周溝周辺に位置しており、両者の強い関係が予想できる。



3号方形墓 Fig. 157 3号方形墓実測図

1号方形墓 (Fig. 156)

調査区の東縁で検出されており、主体部も含め大半は未調査である。検出した溝も削平が著しい。一辺9mで、幅60cm、深さ12cmと浅い。溝中に2号土墳墓が営まれている。

2号方形墓 (Fig. 156)

1号方形墓の北側にある。溝はコーナー周辺がわずかに残っており、主体部も不明である。1号方形墓と同規模であろう。溝の埋土中から土師器口縁部片が出土したが流れ込みである。

3号方形墓 (Fig. 157)

3B区にある。溝はL字状に極くわずかながら検出された。断面U字状を呈し、現状で最大幅60cm、深さ7cmを測る。溝の辺長は不明であるが、15号土墳墓、79号土墳墓、88号土墳墓、89号土墳墓、20号土墳墓をそれぞれ結ぶときつくれる方形の空白部を墓域とし得るなら、一辺6m内外の方形墓が想定されよう。ところが、その場合、方形中心部に主体部となる施設が無く、はなはだ不都合である。

同一墓域内に並存する18、19号墓を3号方形墓の主体部と考えることも不可能ではないが、この場合も他の例に比べて墓域内における位置が想定し得る中心から離れ過ぎているように思われる。

6 方 形 墓

ここでいう方形墓とは、一定の面積の方形墓域の内部に埋葬主体部を設けた墓のことである。本節においてはとりあえず、周溝によって画された確実に方形墓と認められるものだけを紹介するが、もともと“方形墓”として造営されながらも、その後周溝あるいは、封土が消失したと考えられるものも存在する。これについては後述することにした。

上述のような想定し得る“方形墓”をも含めると、方形墓は調査区のほぼ全域に営まれているとみられる。

前述した土墳墓群が調査区の一定地域に集中分布するのと対称的である。

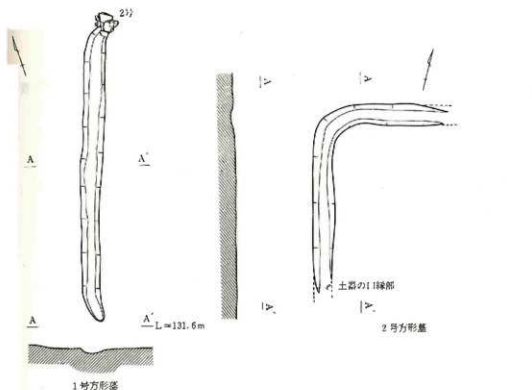


Fig. 156 1号方形墓・2号方形墓実測図

5 粘土槨（割竹形木棺）

調査区東南の1号溝と4号方形墓にはさまれた位置にある。

遺溝は、削平、攪乱され、下半部が残っているにすぎない。地山に掘り込まれた土壌内に白色の粘土を敷き、その上に棺を据えたものである。土壌は二段掘りで、主軸をほぼ北にとり、検出面で長さ3m、最大幅70cm、深さ30cmを測る。北小口部がやや幅広く、細長い長方形を呈す。土壌床面には朱が施されており、この上に粘土が敷かれている。

土壌中央部のU字形横断面からみて、棺は割竹木棺であったと考えられる。白色粘土の残りが悪く明瞭ではないが、推定される。

木棺の規模は、長さ2m内外、幅40cm弱である。現状でみるかぎり、一方の小口がやや狭くなるものようであるが確証はない。

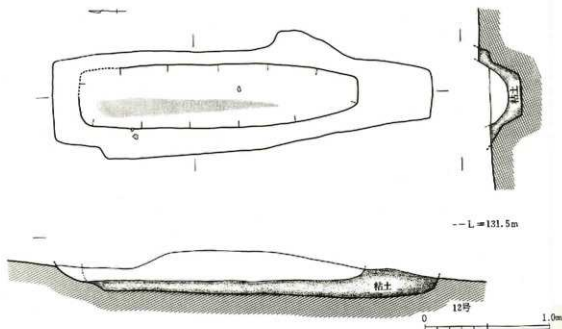


Fig. 155 12号粘土槨実測図

12号粘土槨

位置 2E区

規模	棺 長辺	200cm	墓坑 長辺	300cm
	短辺（頭部巾）	40cm	短辺（頭部巾）	70cm
	深さ	? cm	深さ	30cm

主軸方位 N-4°-E

遺物

備考

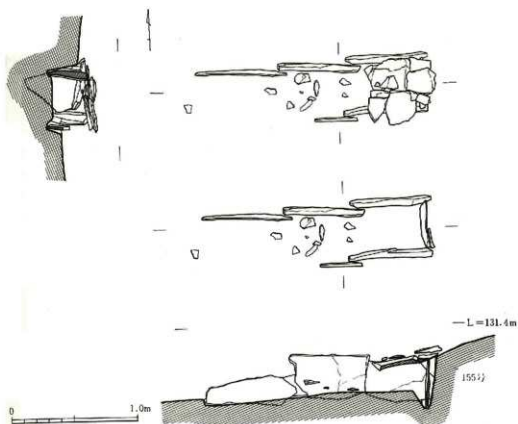


Fig. 154 155号石棺墓実測図

155号石棺墓

位置 4 D 区

棺の規模 長辺 179cm

短辺 (頭部巾) 38cm

深さ 28cm

主軸方位 N-88° -E

遺物

備考

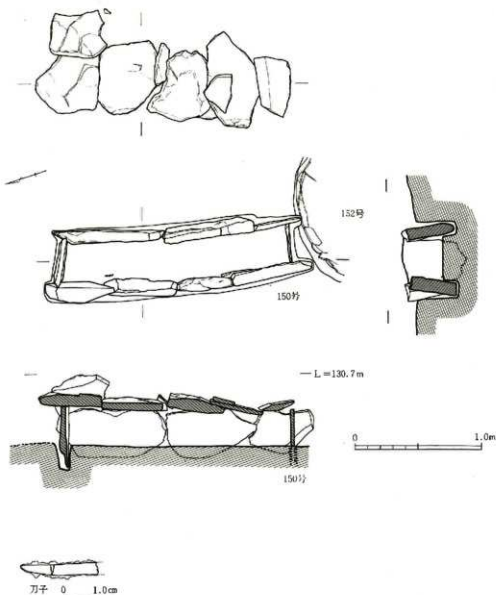


Fig. 153 150号石棺墓実測図

150号石棺墓

位 置 4 D区

棺の規模 長辺 175cm

短辺(頭部巾) 40cm

深さ ? cm

主軸方位 N-13° -E

遺 物 刀子 1

備 考

149号墓人骨（男性・熟年？）

成人骨1体分が検出された。保存状態は不良である。

〈保存部位〉

頭蓋骨：特に顔面部と左側頭部の保存が悪い。前頭骨右半、右頭頂骨片、後頭骨片、上顎骨片、下顎骨片。残存歯牙は以下のとおりであるが、他に不明歯牙1本が残存する。

/	/	/	P ²	P ¹	C	I ²	○	I ¹	×	C	/	P ²	M ¹	/	/
/	/	/	/	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	/	/

○歯槽開放 ×歯槽閉鎖 /破損・不明

体部骨：左右の前腕骨体部が残存している。

〈性別・年齢の推定〉

性別：肩弓および外後頭隆起の発達が著明であることから男性と推定した。

年齢：歯牙咬耗度はBrocaの1～2度であるが、対咬歯牙に脱落がみられ、また歯槽骨の吸収もかなり進んでいる。頭蓋主縫合については、内板はすべて閉鎖し外板も矢状縫合で閉鎖が進行している。以上の所見を総合し本人骨の年齢は熟年と推定した。

〈形質〉

頭蓋非計測形質の観察の結果は、鼓室骨裂孔（右）が認められた。その他の所見として、本人骨の歯牙のうち上顎左側切歯が抜けている。歯槽も閉鎖しており隣接歯に傾斜が認められるが、歯槽骨には炎症の治癒痕が残っているために、これが人工的なものかどうかはわからない。多くの下顎歯牙がかなり早い時期に脱落していることを考えると、歯周症等の疾患によって失われた可能性が高いように思われる。

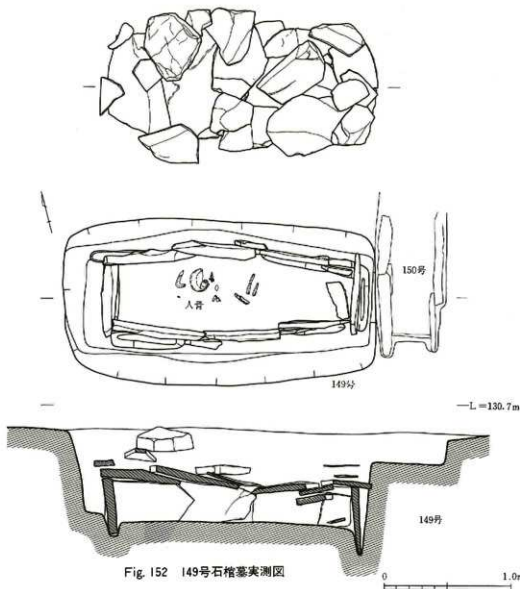


Fig. 152 149号石棺墓実測図

149号石棺墓

位置 5D区

規模 棺	長辺	190cm
	短辺 (頭部巾)	44cm
	深さ	36cm
墓壇	長辺	228cm
	短辺 (頭部巾)	80cm
	深さ	64cm

主軸方位 N-75°-W

遺物 人骨

備考 150号石棺に切られている。人骨は頭を西側に
に向けており、他に腕の骨が一部残ってい
た。全体的にみて保存状態は良くないが、出
土状況からみて本人骨のみの単体埋葬であっ
たと判断する。石棺は中央部が膨れた胴張ブ
ランである。よろい重ねの石蓋周縁をさらに
板石で覆っている。石棺内は、石蓋裏面、小
口、床面等全面に朱が塗られている。



Fig. 151 135号石棺墓実測図

135号石棺墓

位 置 4 D区

規 模 棺 長辺 170cm

短辺 (頭部巾) 70cm

深さ 24cm

主軸方位 N-65° -W

遺 物

備 考 134号土墳墓に切られている。北東小口部とその両側壁に埋め込まれたままの板石が残存する。北西小口部にも立石を検出したが、これは安山岩製の塊石であった。これが135号石棺に属する可能性は残されている。すなわち、残存する北東小口部

のような板石が、本石棺の四壁に立てられていたにしては、その抜き取り痕が検出されていないのである。北東部以外は、塊石を軽く並べて周壁にしたか、素掘りのままであったと考えたい。本例は通常の石棺と比べても幅が広く特異である。棺内は床も含めて全面施朱。

97号石棺墓

位置 4C区

規模	棺	長辺	94cm
		短辺(頭部巾)	28cm
		深さ	20cm
墓域	長辺	157cm	
	短辺(頭部巾)	101cm	
	深さ	21cm	

主軸方位 N-61°-E

遺物 貝輪1、管玉3、人骨片、歯牙片

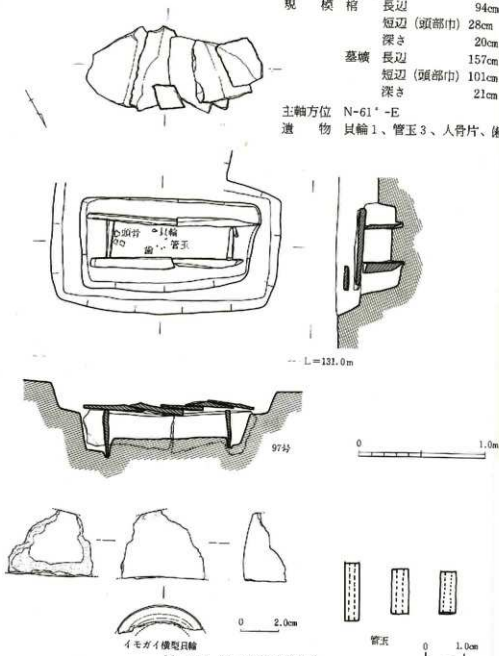


Fig. 150 97号石棺墓実測図

備考 98号土槨墓を切っている。棺内に施朱。東南小口部に頭蓋骨片が出土。西南壁近くに貝輪。床中央に管玉が検出される。仰向きに伸展葬されていた場合、貝輪は左腕に通されていたことになる。貝輪は大半が消失しておりその内径は、4.2cmと復元され石棺の大きさからいっても装着していた死者は身長80cm位の小児であろう。

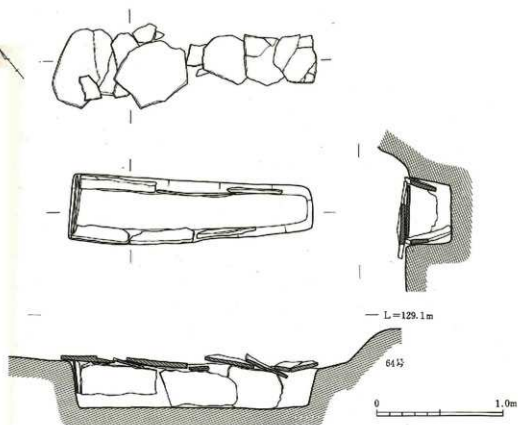


Fig. 149 64号石棺墓実測図

64号石棺墓

位置 3 F区

棺の規模 棺 長辺 182cm

短辺（頭部巾）30cm

深さ 38cm

主軸方位 N-52°-W

遺物

備考 遺跡東南の斜面に66号土壙墓と並んで営まれている。頭位は北西で、頭位側の小口幅が足元より広い。東南側小口部および側壁は素掘りのままで石材を用いていない。石蓋は頭位側から順により重ねており、用いる石材もこの順序に小さくなる。

51号石棺墓人骨(男性·成年)

比較的保存の良い成人骨1体分が検出された。

〈保存部位〉

頭蓋骨：脳頭蓋は頭蓋底部と後頭部を破損している。顔面頭蓋は鼻骨および上顎骨の一部を破損し、眼窩の周辺部が残存している。下顎は両側の下顎枝を破損している。赤色顔料の付着が認められる。残存歯牙を以下に示す。

体部骨：左右颞骨片、右上腕骨体部、右桡骨体部、右尺骨体部、左右髌骨片、左右大腿骨体部、左右胫骨体部片、椎骨片少量。

〈性別・年齢の推定〉

性別: 眉弓の発達が良好であり、恥骨の形状も男性の特徴を示している。

年齢：歯牙咬耗度はBrocaの1～2度である。頭蓋主縫合のうち冠状縫合は内板の一部に閉鎖がみられ、矢状縫合は内板の大部分と外板の一部が閉鎖している。またラムダ縫合には内板外板ともに閉鎖がみられない。以上の所見から本人骨の年齢は成年後半期（30代）と推定した。

〈形質〉

計測および観察の結果は表 1～4 に示している。顔面部の形態は眼窩指数が中型 ($M52/51=81.4$) 鼻指数が狭鼻型 ($M54/55=42.9$) に属している。四肢骨は筋付着部の発達が良好である。頭蓋非計測形質は頭頂切痕骨(左)、頬骨後裂(右)、頬骨顔面孔欠如(1)が観察された。

51号石棺墓は、5号方形墓の南側に位置する、ㄢ字状の2号溝（北側溝と東側溝）からなる方形墓（後述する）の主体部である可能性が非常に強い。

長方形の墓壙をさらに一段掘り込み、安山岩製の板石で棺を組み立てている。両小口に各1枚、両側壁に各3枚の板石を用いており両側石が小口を挟出、通有の組合わせである。なお、北西小口部は東南小口部よりも若干幅広く頭位を意識して設けられたものであろう。

各板石の縁部は細かく二次加工されている。蓋石の主要なものは4枚で、縁部を触れ合わせながら棺身を覆う手法である。

蓋石内面や、石棺内には全面朱が施されていた。床には砂礫や床石等は存在せず、頭位側が足元よりもレベル的に高い。

棺内は上砂で埋まっていたが、これは棺材の隙間から流れ込んだもので、石棺自体は未盗掘のものである。上砂を取り除くと、北西小口側に頭を据えた被葬者の骨が検出された。人体は一体で、棺の容積からみても単体埋葬であることは間違いない。死者は仰向けに、足を伸ばして葬られている。原因不明だが頭骨、胸骨、腰椎がやや乱れている。

〔副葬品〕副葬品としては、北東側壁に接して、鉄剣と鉄鐙が出土。

鉄剣は短剣で、切先を頭位にむけて副葬されていた。全長23cmで、うち剣身14.8cm、茎長8.2cmを測る。身幅、厚さは関部で25cm、40mmを測り、切先に向って徐々にせばまる。身の断面は菱形だが、鎧は明瞭でない。茎は断面長方形で厚さ4.0mm。目釘孔を1個確認できた。柄は糸巻仕上げなどではなく目釘で茎と固定するものであろう。剣身、茎とも平織布が付着しており、抜き身のまま他の鉄鐙とともに布にくるまれて副葬されたものと考えられる。

鉄鐙は2個とも有茎の柳葉形鐙である。表面には鉄剣と同一の布が付着している。

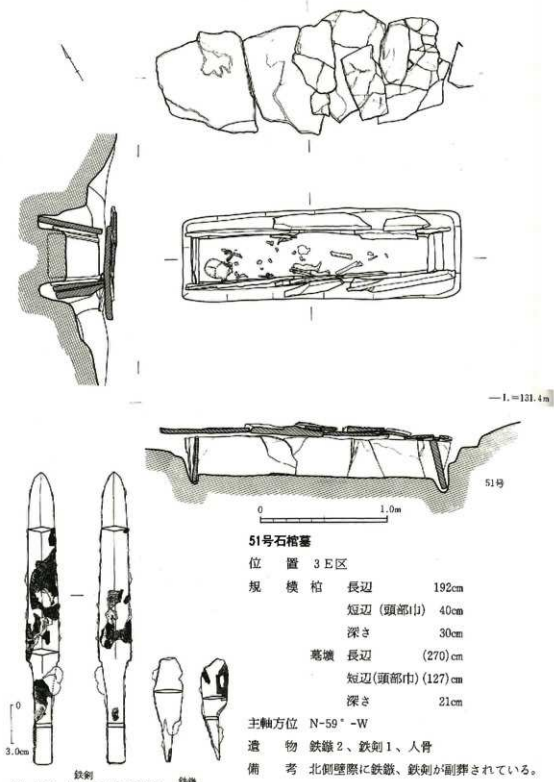


Fig. 148 51号石棺墓実測図

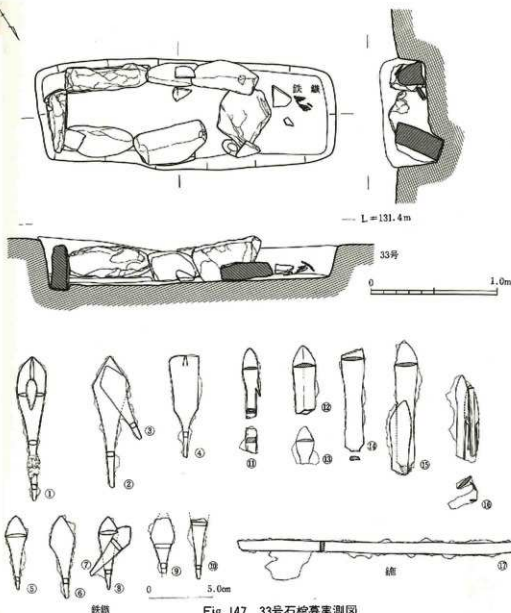


Fig. 147 33号石棺墓実測図

33号石棺墓

位置 3C区

棺の規模 長辺 222cm

短辺(頭部巾) 60cm

深さ 23cm

主軸方位 N-61°-W

遺物 鉄鍔10+α、鉈1、器種不明
鉄器有り。

備考 5号方形墓内の北東隅に位置する。
安山岩製の塊石を並べて石棺をつくる。本
来、石蓋が存在していたと思われるが、失
われていた。
北西小口部付近に鉄鍔が一括出土している。
そのあたりは、石棺の石材も欠損しており、
出土した鉄鍔が元位置のものか不明である。

4 石 棺 墓

石棺とは、文字どおり死者をおさめる石製の容器である。本遺跡では、数個の石材を組み合わせて箱形の棺身を作った、「組み合わせ箱式石棺」のみが知られており、次の3種類に細分される。(A類)安山岩製の扁平な板石を数枚組み合わせたもの。(B類)33号石棺のように同石材の塊石を用いたもの。(C類)200号石棺のように、軟質の凝灰岩を板状に加工し、これらを組み合わせ、て棺をつくったもの。草場第二遺跡ではA類が殆どである。ところで、これらの石棺は、単独の墓として営まれているものと、方形墓等の主体部や、これに所属する埋葬施設とみなされるものがあり、ここでは前者と考えられるものを「石棺墓」として取り扱うことにする。勿論、土壌墓の場合と同様、二者を厳密には区別できず、とりあえずの区分であることを明記する。

〈石棺墓の配置〉 上述したように、明らかに方形墓の主体部として採用されたとみなされる石棺を除いて、石棺墓の分布状況を見ると、浅い谷部の、土壌密集区に土壌墓群と混在した在り方を示すものが注目される。97号石棺、135号石棺、149号石棺、150号石棺等である。これに対して、33号石棺や、155号石棺は5号方形墓に所属する可能性がある。また、51号石棺は、その位置や、規模、副葬品などからみて2号溝で画された方形墓の主体部と考えても間違い無く、29号石棺もその周辺に空白域が存在することから、一定規模の墓域をもつ墳墓に關係するものである可能性を指摘しておく。

29号石棺や、97号石棺は規模が小さく、未成人用であろう。149号石棺は中央部が膨れた、胴張りプランのもので興味深い。また、64号石棺の場合、足元とみなされる幅狭の小口部に石材を据えておらず、変則的な作りとなっている。石棺は、すべて底石を用いないもので、一部に床面や棺内に赤色顔料を施した例がある。

33号石棺、51号石棺、97号石棺、150号石棺等で副葬遺物が出土しているが、おおむね古墳時代初頭～前葉に比定されるもので、確実に弥生時代に遡らせ得る例はないようである。

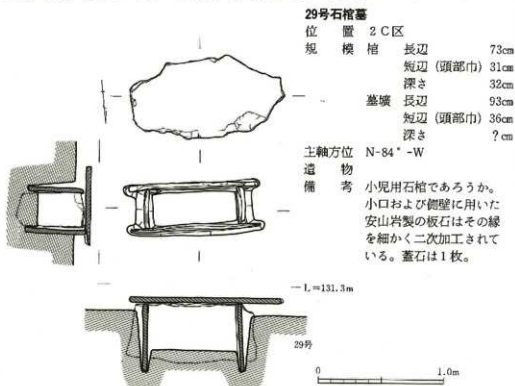


Fig. 146 29号石棺墓実測図

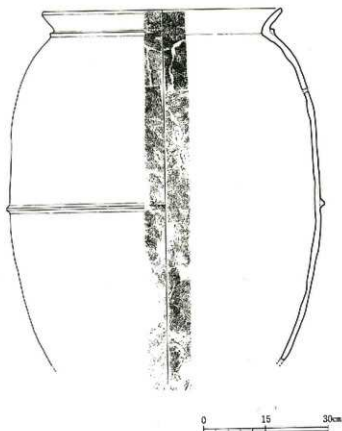


Fig. 145 土器実測図

117号 甕棺

器 高 83cm以上

口縁部外径 57.7cm

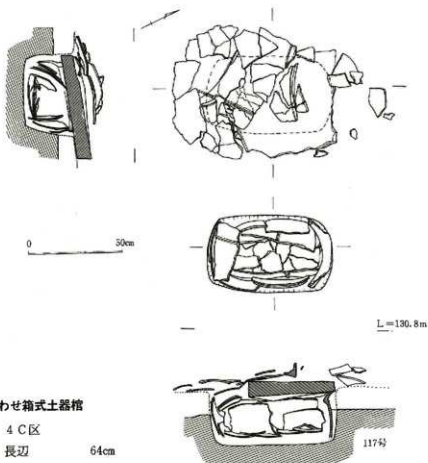
底 径 ?

くの字口縁からビヤ樽状の胴部に続く。口縁部に断面三角形突帯。胴部に台形状突帯をめぐらす。内外面とも斜行ハケメと平滑ナデ調整されている。色調は黄褐色で胎土には砂粒が含まれる。

3 組合わせ箱式土器棺墓

大型成人甕棺墓1基分の破片を用いて組合わせ箱式土器棺を作っている。規模からみて、乳・幼児用であろう。

長さ64cm、幅41cm、深さ40（推定）cmの隅丸長方形の墓壇を掘り、この中に土器棺を組み立てている。床面にも土器片が敷かれている。1枚の安山岩製板石と、残りの土器片を被せて蓋とする。本土器棺は、124号土壇墓より後出する。なお検出時の状態で取り上げたため、甕棺の原形を完全に復元することができなかった。



117号組合わせ箱式土器棺

位 置 4 C区

棺の規模 長辺 64cm

短辺（頭部巾）41cm

深さ (40) cm

主軸方位 N-24° -E

遺 物

備 考

Fig. 144 117号組合わせ箱式土器棺実測図

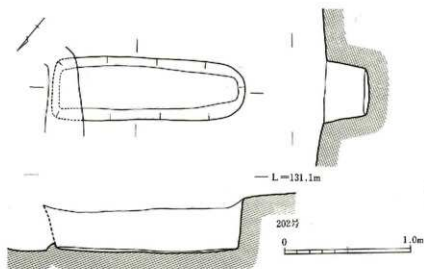


Fig. 143 202号土墳墓実測図

202号土墳墓

位 置 6 D区

棺の規模 長辺 (140) cm

短辺 (頭部) (30) cm

深さ 40cm

主軸方位

遺 物

備 考 174号土墳墓に切られている。173号
土墳墓と主軸を同じくし並ぶ。頭位
は北東。

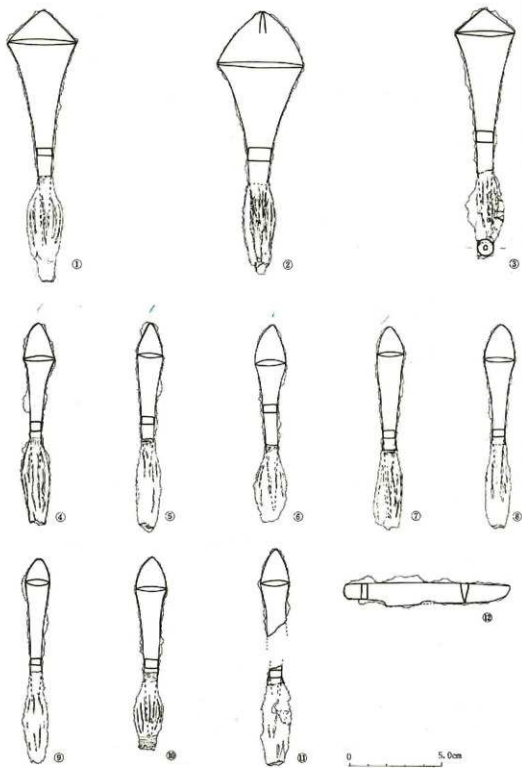


Fig. 142 197号土壤墓出土鉄器実測図

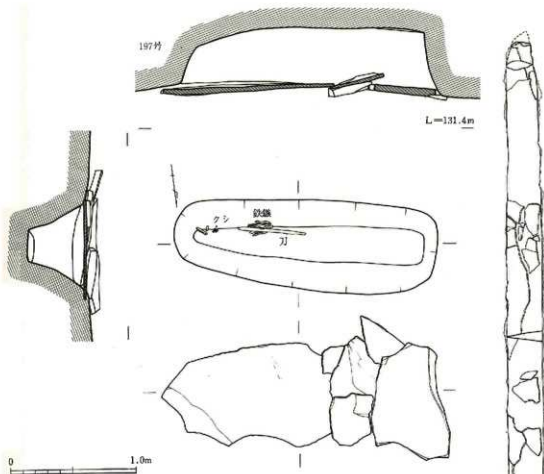


Fig. 141 197号土墳墓実測図

197号土墳墓 (石蓋)

位 置 6 C 区

棺の規模 長辺 182cm

短辺 (頭部巾) 26cm

深さ 49cm

主軸方位 N-83° -E

遺 物 鉄鍔11、刀子1、鉄刀1、櫛1、器種不明1

備 考 120号の西側にある。この周辺には、他の土墳墓が存在せず、6号、8号、11号各方形墓に囲まれた方形の空地を想定し得ることから、これの主体部と考えられる。比較的大きな板石を中心に計3枚の石蓋がなされている。平面プランから見て、西を頭位とみなせば、その足元にあたる南側壁で櫛と鉄鍔、鉄刀が検出されている。鉄器類はともかくとして、櫛が足元にあるのは不自然であり、あるいは差し向えに、東側を頭位とする別の被葬者が埋葬されていたのかもしれない。

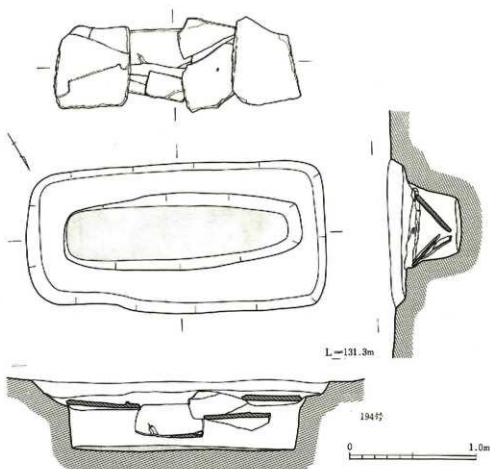


Fig. 140 194号土墳墓実測図

194号土墳墓 (石蓋)

位 置 8 C 区

規 模 棺 長辺	175cm	墓 坑 長辺	219cm
短辺 (頭部巾)	37cm	短辺 (頭部巾)	97cm
深さ	35cm	深さ	15cm

主軸方位 S-61°-E

遺 物

備 考 13号方形墓、12号方形墓、11号方形墓に囲まれた位置にある。頭位は東南か？ 床面に施朱。

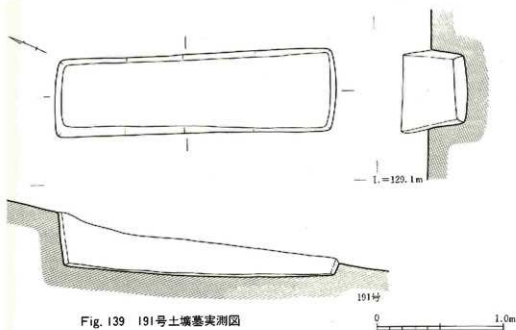


Fig. 139 191号土墳実測図

191号土墳墓

位 置 8 H 区

棺の規模 長辺 212cm

短辺（頭部巾）59cm

深さ 30cm

主軸方位 N-27°-W

遺 物

備 考 16号方形墓の東側。斜面に位置する。

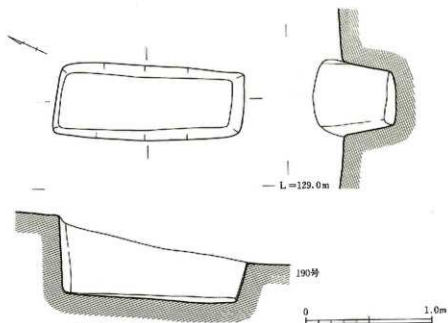


Fig. 138 190号土墳墓実測図

190号土墳墓

位 置 8 G区

棺の規模 長辺 136cm

短辺(頭部巾) 44cm

深さ 42cm

主軸方位 N-25°-W

遺 物

備 考 頭位は北西。斜面に設けられている。

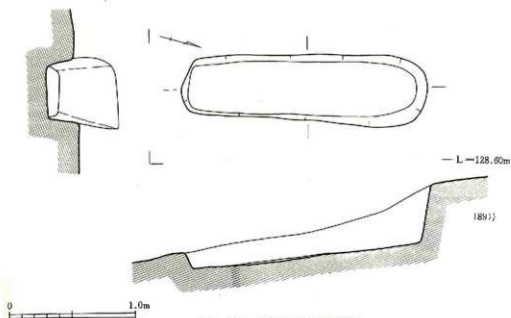


Fig. 137 189号土墳基実測図

189号土墳墓

位 置 7 F 区

棺の規模 長辺 180cm

短辺（頭部巾）40cm

深さ 23cm

主軸方位 N-16° -W

遺 物

備 考 調査区南側斜面にある。主軸は等高線と直角で、頭位は北北西。

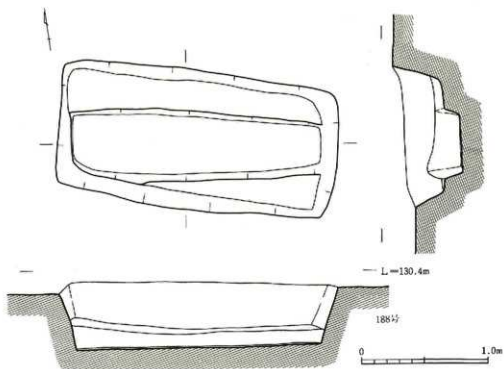


Fig. 136 188号土墳墓実測図

188号土墳墓

位 置 7 E区

規 模	棺 長辺	196cm	墓壇 長辺	197cm
	短辺 (頭部巾)	42cm	短辺 (頭部巾)	92cm
	深さ	20cm	深さ	40cm

主軸方位 N-84°-W

遺 物

備 考 10号方形墓内にある。主体部としてよいか確信が持てない。頭位は西か？

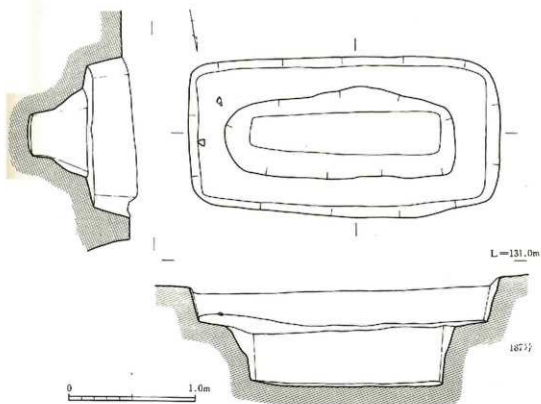


Fig. 135 187号土墳実測図

187号土墳墓

位 置 7 E区

規 模 棺 長辺	151cm	墓 壇 長辺	228cm
短辺 (頭部巾)	31cm	短辺 (頭部巾)	99cm
深さ	44cm	深さ	35cm

主軸方位 N-80° -W

遺 物

備 考 頭位は西。

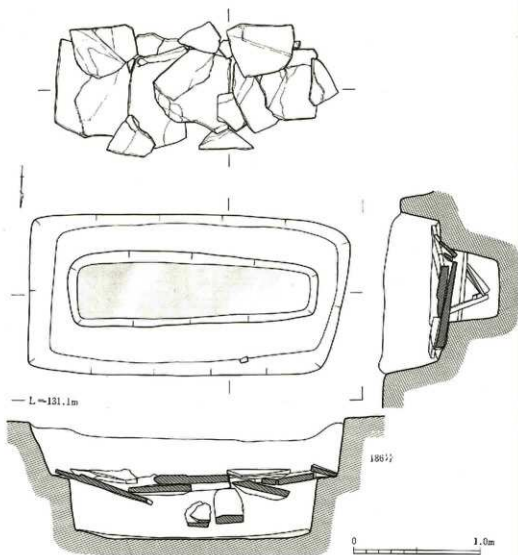


Fig. 134 186号土墳墓実測図

186号土墳墓 (石蓋)

位置 7 E区

規模	棺 長辺	184cm	墓壇 長辺	234cm
	短辺 (頭部巾)	40cm	短辺 (頭部巾)	95cm
	深さ	45cm	深さ	40cm

主軸方位 N-87°-E

遺物

備考 頭位は東。床面に施朱。

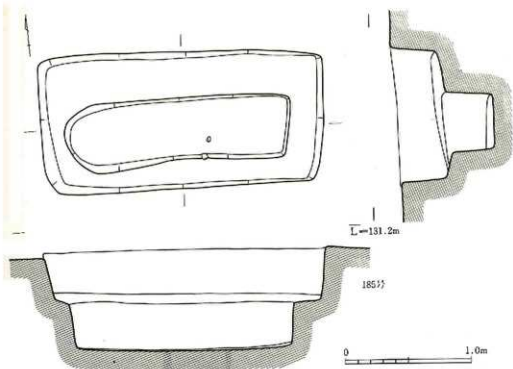


Fig. 133 185号土墳墓実測図

185号土墳墓

位置 7 D区

規模	棺 長辺	170cm	墓壇 長辺	210cm
	短辺 (頭部巾)	43cm	短辺 (頭部巾)	96cm
	深さ	37cm	深さ	39cm

主軸方位 N-85° -W

遺物

備考

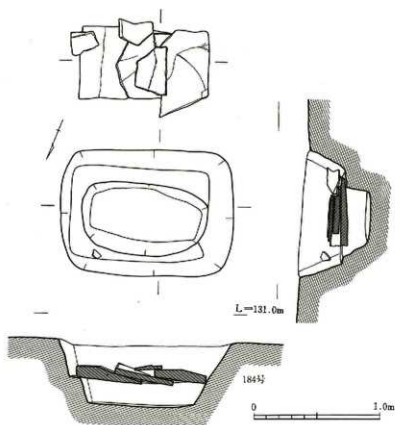


Fig. 132 184号土墳墓実測図



184号土墳墓（石蓋）

位 置 7 E区

規 模 棺 長辺	82cm	墓 墳 長辺	117cm
短辺（頭部巾）	30cm	短辺（頭部巾）	70cm
深さ	20cm	深さ	28cm

主軸方位 N-75° -E

遺 物 勾玉1、勾玉は土墳埋土中より出土。

備 考 頭位は東か？

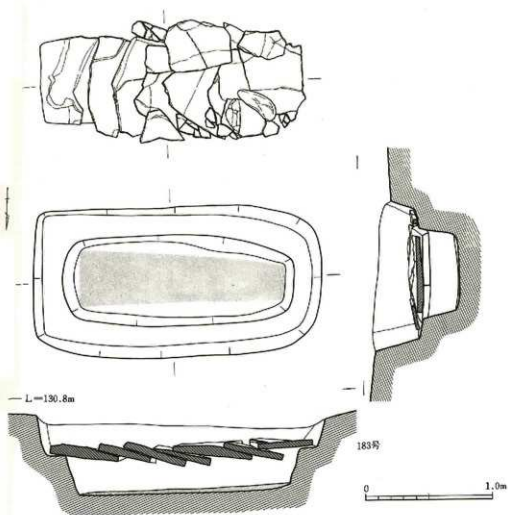


Fig. 131 183号土墳実測図

183号土墳墓 (石蓋)

位置 7 E区

規模	棺 長辺	167cm	墓坑 長辺	214cm
	短辺 (頭部巾)	50cm	短辺 (頭部巾)	98cm
	深さ	32cm	深さ	21cm

主軸方位 N-87°-E

遺物

備考 床面に施朱。頭位は東。

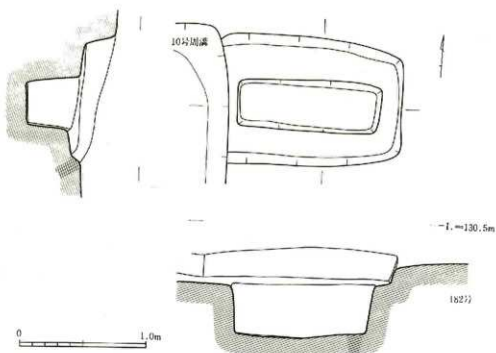


Fig. 130 182号土壙墓実測図

182号土壙墓

位置 7 E区

規模 棺 長辺 104cm 墓壙 長辺 (140) cm

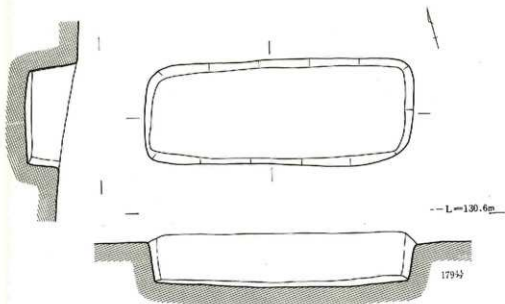
短辺 (頭部巾) 28cm 短辺 (頭部巾) 88cm

深さ 41cm 深さ 25cm

主軸方位 N-88° -E

遺物

備考 10号方形墓の周溝に切られている。



179号土墳墓

位置 6 E 区

棺の規模 長辺 210cm

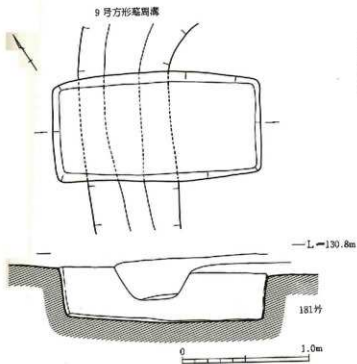
短辺 (頭部巾) 65cm

深さ 27cm

主軸方位 N-75° -W

遺物

備考 9号方形墓内にある。



181号土墳墓

位置 6 E 区

棺の規模 長辺 155cm

短辺 (頭部巾) 66cm

深さ 39cm

主軸方位 N-58° -W

遺物

備考 9号方形墓西側溝
を切っている。

Fig. 129 179号土墳墓・181号土墳墓実測図

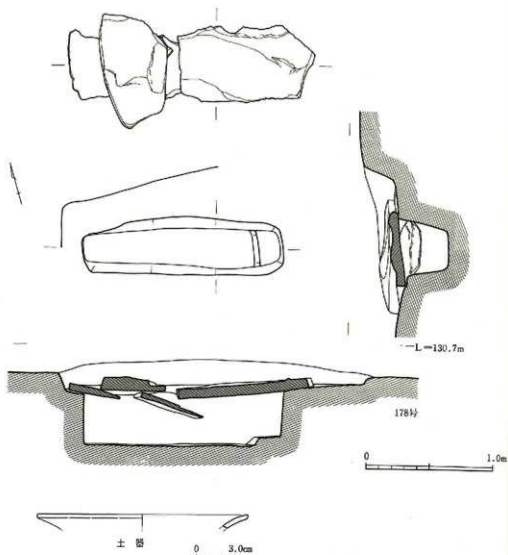


Fig. 128 178号土墳墓実測図

178号土墳墓 (石蓋)

位置 6E区

規模 棺 長辺 156cm
短辺 (頭部巾) 30cm
深さ 41cm

墓壇 長辺 246cm
短辺 (頭部巾) 不明
深さ 14cm

主軸方位 S-74°-E

遺物 土器片

備考 9号方形墓のほぼ中心に位置する。主体部か？ 東側に頭位。
墓壇埋土中から高環口縁片が出土。蓋石は足元から被せる。

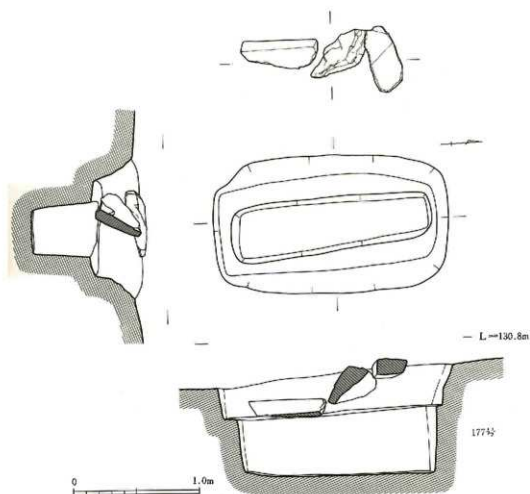


Fig. 127 177号土墳墓実測図

177号土墳墓 (石蓋)

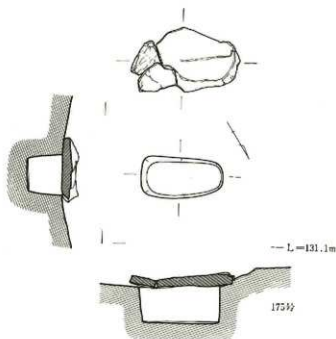
位 置 6 E区

規 模 柏 長辺	149cm	墓 墳 長辺	176cm
短辺 (頭部巾)	34cm	短辺 (頭部巾)	64cm
深さ	49cm	深さ	28cm

主軸方位 S-1°-E

遺 物

備 考 頭位は南。



175号土墳墓（石蓋）

位置 6 D 区

棺の規模

長辺 59cm

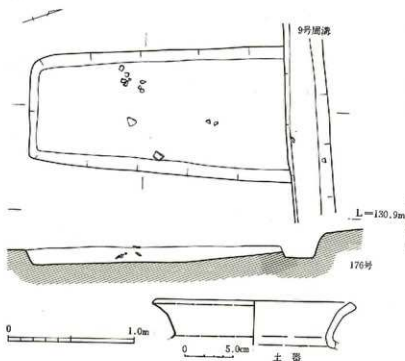
短辺（頭部巾） 21cm

深さ 29cm

主軸方位 N-56° -W

遺物

備考



176号土墳墓

位置 6 E 区

棺の規模

長辺 ? cm

短辺（頭部巾） 76cm

深さ 11cm

主軸方位 N-20° -E

遺物 土器片

備考 9号方形

墓の北側溝に切られている。埋土中から壺形土器片出土。

Fig. 126 175号土墳墓・176号土墳墓実測図

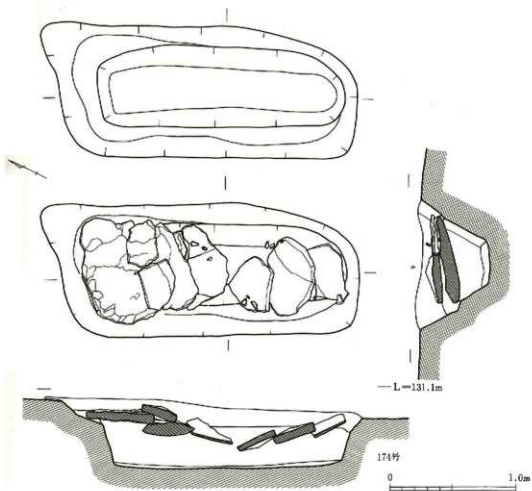


Fig. 125 174号土墳墓実測図

174号土墳墓（石蓋）

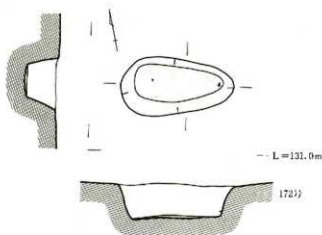
位置 6 D区

規模 棺 長辺	181cm	墓壇 長辺	211cm
短辺（頭部巾）	40cm	短辺（頭部巾）	80cm
深さ	32cm	深さ	15cm

主軸方位 N-28° -W

遺物

備考 202号土墳墓を切り、かつ8号方形墓の周溝に切られている。石蓋の大きさから判断すると、頭位は北西側になる。とすれば、足元から蓋石を被せたことになる。



172号土墳墓

位 置 6 D 区

棺の規模 長辺 70cm

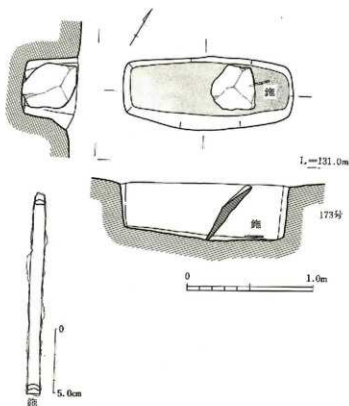
短辺（頭部巾）23cm

深さ 26cm

主軸方位 N-78° -W

遺 物

備 考 床に施朱。頭位は西
か？



173号土墳墓

位 置 6 D 区

棺の規模 長辺 104cm

短辺（頭部巾）18cm

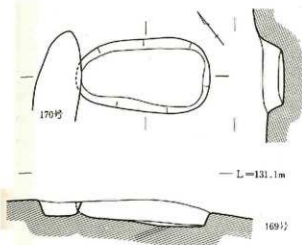
深さ 21cm

主軸方位 S-60° -W

遺 物 鉋1が北東床面か
ら出土している。
先端を欠損。

備 考 頭位は北東か？
床面に施朱。本来、
石蓋が用いられて
いたと思われる。

Fig. 124 172号土墳墓・173号土墳墓実測図



169号土墳墓

位 置 6 D 区

棺の規模 長辺 90cm

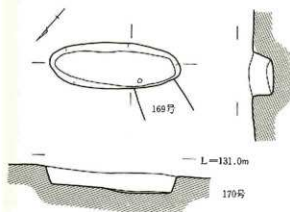
短辺（頭部巾）42cm

深さ 13cm

主軸方位 S-50°-E

遺 物

備 考 170号に切られている。



170号土墳墓

位 置 6 D 区

棺の規模 長辺 92cm

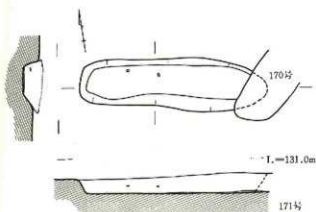
短辺（頭部巾）17cm

深さ 14cm

主軸方位 N-48°-E

遺 物

備 考 169号、171号を切っている。



171号土墳墓

位 置 6 D 区

棺の規模 長辺 113cm

短辺（頭部巾）26cm

深さ 10cm

主軸方位 N-82°-W

遺 物

備 考 170号に切られている。



Fig. 123 169号土墳墓・170号土墳墓・171号土墳墓実測図

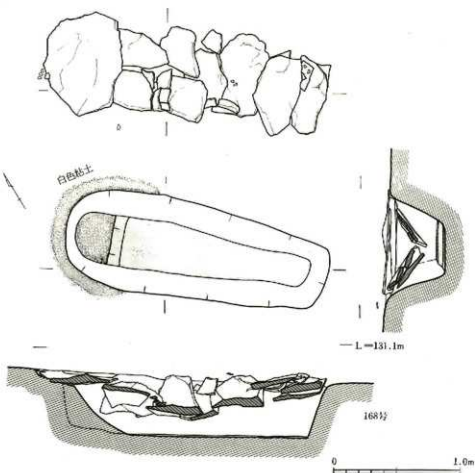


Fig. 122 168号土墳墓実測図

168号土墳墓（石蓋）

位 置 5 D区

棺の規模 長辺 188cm

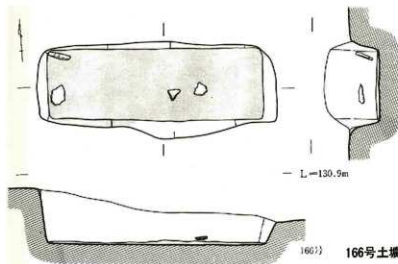
短辺（頭部巾）34cm

深さ 41cm

主軸方位 N-50° -W

遺 物

備 考 頭位は北西。石蓋は足元から頭部に向
って被せている。造り出しの枕があり、
床面は全面的に施朱。



166号土墳墓

位置 5 D 区

棺の規模 長辺 170cm

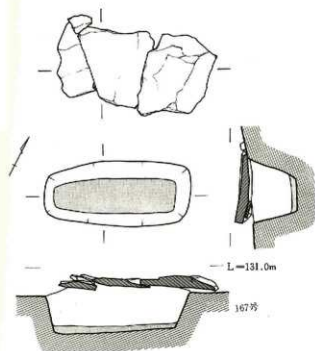
短辺 (頭部巾) 66cm

深さ 26cm

主軸方位 N-85° -W

遺物

備考 床面に施朱。



167号土墳墓 (石蓋)

位置 5 D 区

棺の規模 長辺 96cm

短辺 (頭部巾) 25cm

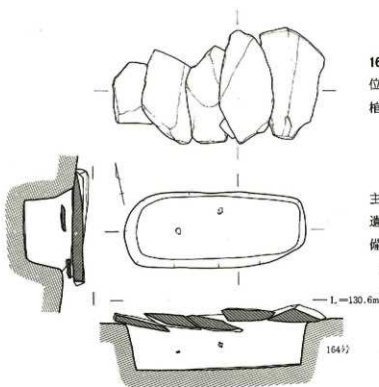
深さ 30cm

主軸方位 N-68° -E

遺物

備考 床面に施朱。頭位は
西南方向。

Fig. 121 166号土墳墓・167号土墳墓実測図



164号土墳墓 (石蓋)

位置 5 E 区

棺の規模

長辺 129cm

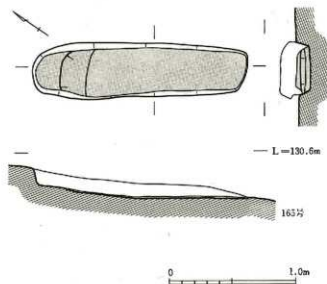
短辺 (頭部巾) 40cm

深さ 36cm

主軸方位 N-79° -W

遺物

備考 蓋石として大きめの石が用いられている。頭位は東側か？



165号土墳墓

位置 5 E 区

棺の規模 長辺 165cm

短辺 (頭部巾) 30cm

深さ 10cm

主軸方位 N-35° -W

遺物

備考 頭位は北西か？
床面に施朱。頭位小口部に造り出しの枕とも考えられる段有り。

Fig. 120 164号土墳墓・165号土墳墓実測図

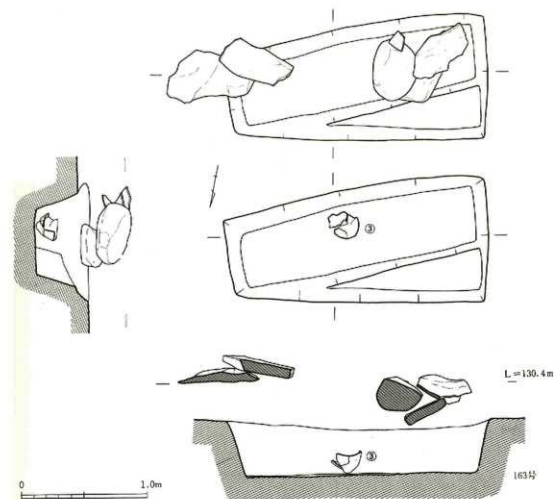


Fig. 119 163号土墳墓実測図

163号土墳墓（石蓋）

位置 5 E 区

棺の規模 長辺 170cm

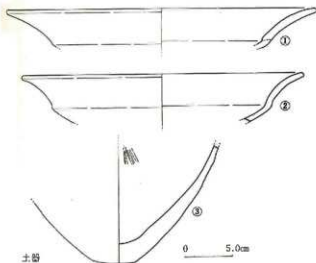
短辺（頭部巾）58cm

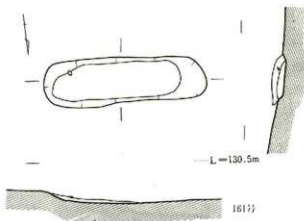
深さ 38cm

主軸方位 N-73° -E

遺物 土器片

備考 蓋石上方で高坏が、床面から不安定な底部の壺形土器片が出土。いずれも弥生後期後葉の時期に比定される。





161号土墳墓

位 置 5 D 区

棺の規模 長辺 98cm

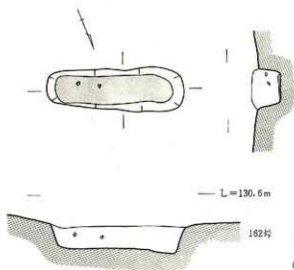
短辺 (頭部巾) 25cm

深さ 5 cm

主軸方位 N-83°-W

遺 物

備 考 160号と頭位を同じくし、併行する。



162号土墳墓

位 置 5 E 区

棺の規模 長辺 92cm

短辺 (頭部巾) 21cm

深さ 19cm

主軸方位 N-68°-W

遺 物 金属球1

備 考 金属球は埋土中出土。床面に施朱。



Fig. 118 161号土墳墓・162号土墳墓実測図

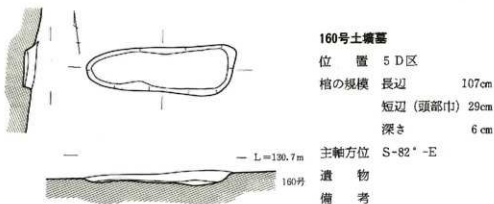
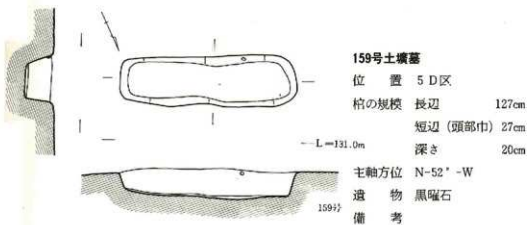
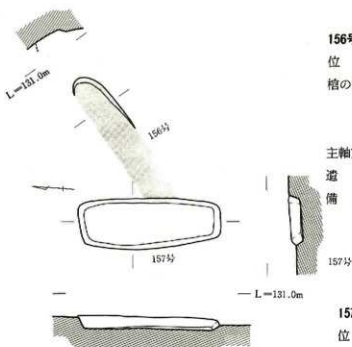


Fig. 117 159号土墳墓・160号土墳墓実測図



156号土墳墓

位置 4 D 区

棺の規模 長辺 (115) cm

短辺(頭部巾) (24) cm

深さ (10) cm

主軸方位 N-53°-E

遺物

備考 床面に施朱。削平
が甚だしい。

157号土墳墓

位置 4 D 区

棺の規模 長辺 102cm

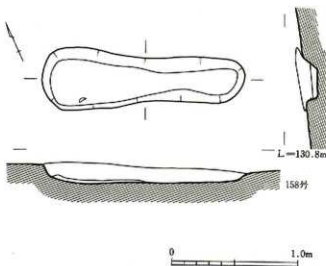
短辺(頭部巾) 24cm

深さ 6 cm

主軸方位 N-3°-W

遺物

備考



158号土墳墓

位置 5 D 区

棺の規模 長辺 147cm

短辺(頭部巾) 35cm

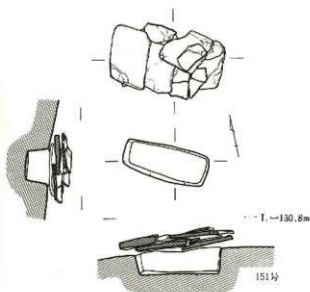
深さ 10cm

主軸方位 N-64°-W

遺物

備考

Fig. 116 156号土墳墓・157号土墳墓・158号土墳墓実測図



151号土墳墓 (石蓋)

位置 4 D区

棺の規模 長辺 61cm

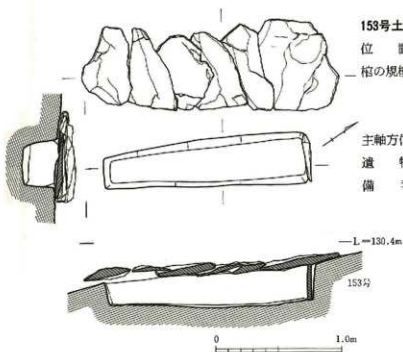
短辺 (頭部巾) 22cm

深さ ? cm

主軸方位 N-60°-W

遺物

備考 150号石棺の東隣りに位置する。小児棺であろう。頭位は東南。



153号土墳墓 (石蓋)

位置 4 D区

棺の規模 長辺 155cm

短辺 (頭部巾) 30cm

深さ 30cm

主軸方位 N-30°-E

遺物

備考 154号甕棺の側にある。頭位は北北東。頭位側の小口部に板石を立てている。

Fig. 115 151号土墳墓・153号土墳墓実測図

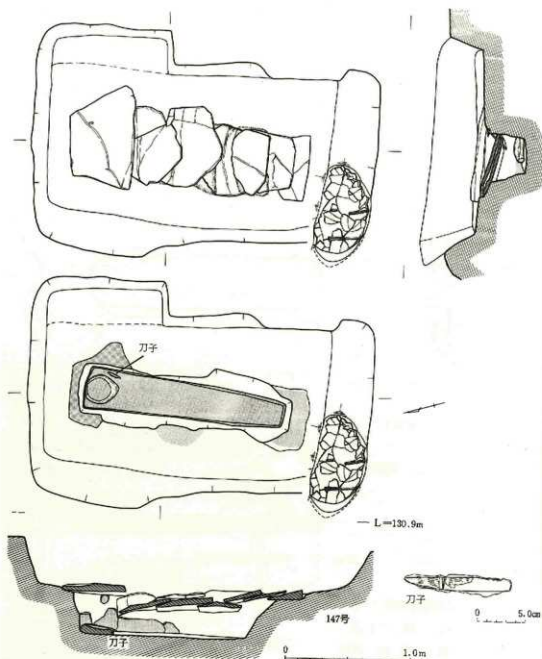


Fig. 114 147号土墳墓実測図

147号土墳墓 (石蓋)

位置 5 D区

規模

棺 長辺 160cm
短辺 (頭部巾) 34cm
深さ 35cm

墓壇 長辺 250cm
短辺 (頭部巾) 140cm
深さ 40cm

主軸方位 N-25°-E

遺物 刀子1が粘土枕の南側に置かれていた。

備考 148号壺棺を切っている。頭位は、北北東である。足元から頭部に向けてよろい重ねている。床面や側壁、および粘土枕に施朱。

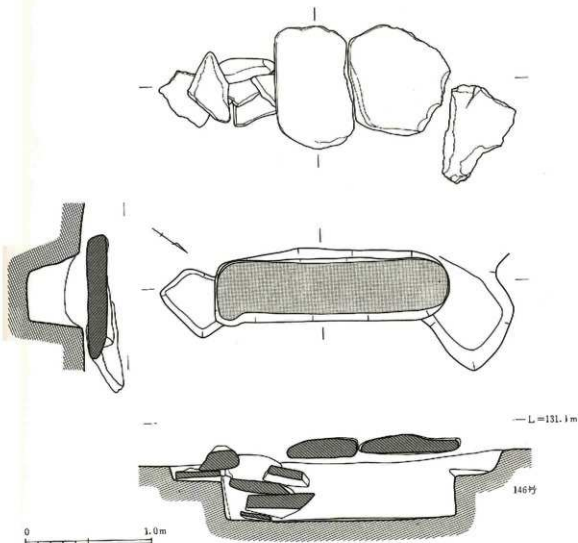


Fig. 113 146号土墳墓実測図

146号土墳墓 (石蓋)

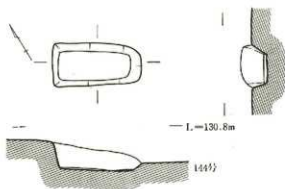
位 置 5 D区

規 模	棺 長辺	183cm	墓 墳 長辺	265cm
	短辺 (頭部巾)	37cm	短辺 (頭部巾)	43cm
	深さ	32cm	深さ	13cm

主軸方位 N-38° -W

遺 物

備 考 凝灰岩の蓋石を用いている。床面に施朱。



144号土墳墓

位置 5 D 区

棺の規模 長辺 58cm

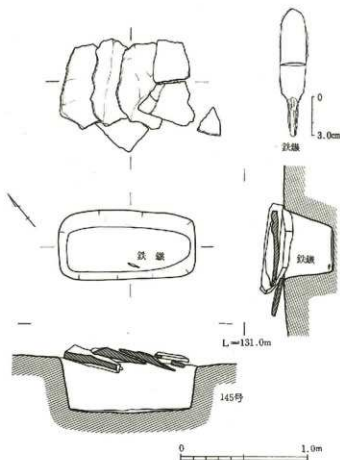
短辺 (頭部巾) 24cm

深さ (17) cm

主軸方位 N-60° -W

遺物

備考 頭位は北西。



145号土墳墓 (石蓋)

位置 5 D 区

棺の規模 長辺 92cm

短辺 (頭部巾) 32cm

深さ 37cm

主軸方位 N-50° -W

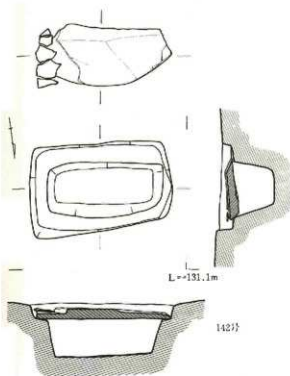
遺物 鉄鏝 1、西南側壁近

くの床面から出土。

副葬品である。

備考 頭位は北西か？

Fig. 112 144号土墳墓・145号土墳墓実測図



142号土墳墓（石蓋）

位 置 5 D 区

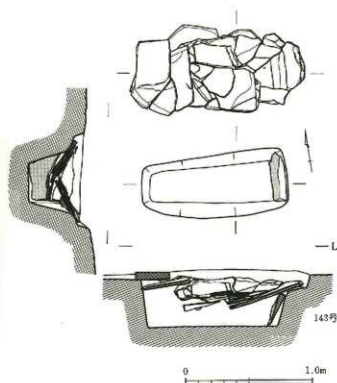
規 模

棺	長辺	78cm
	短辺（頭部巾）	25cm
	深さ	30cm
墓壇	長辺	107cm
	短辺（頭部巾）	57cm
	深さ	12cm

主軸方位 N-83° -W

遺 物

備 考 1 枚の板石で蓋
をする小型棺で
ある。



143号土墳墓（石蓋）

位 置 5 D 区

規 模

棺	長辺	103cm
	短辺（頭部巾）	32cm
	深さ	32cm
墓壇	長辺	(144) cm
	短辺（頭部巾）	72cm
	深さ	11cm

主軸方位 S-82° -E

遺 物

備 考 頭位側の東小口
部に板石を立て
ている。その内
面に施朱。

Fig. III 142号土墳墓・143号土墳墓実測図

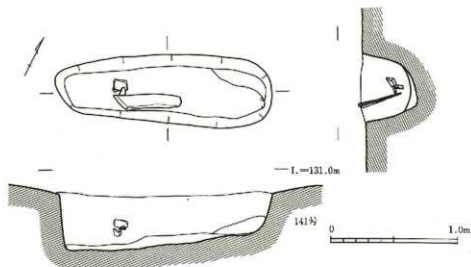
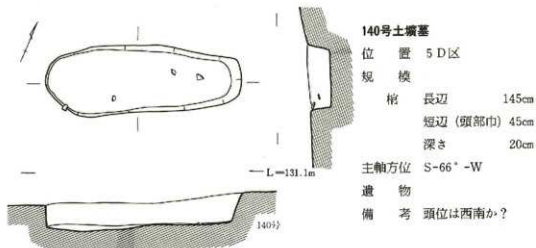


Fig. 110 140号土墳墓・141号土墳墓実測図

141号土墳墓

位置 5 D 区

棺の規模 長辺 157cm

短辺 (頭部巾) 35cm

深さ 37cm

主軸方位 N-70° -E

遺物

備考 頭位は北東。

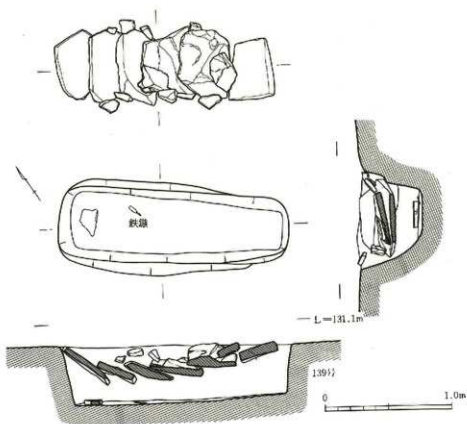
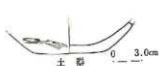


Fig. 109 139号土墳墓実測図



139号土墳墓 (石蓋)

位置 5 D区

規模 棺 長辺 168cm

短辺 (頭部巾) 43cm

深さ 27cm

墓坑 長辺 168cm

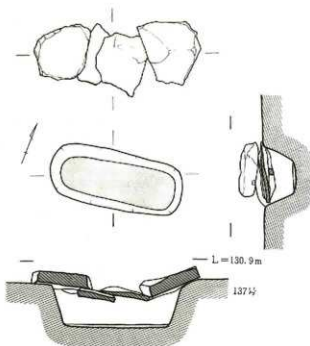
短辺 (頭部巾) 50cm

深さ 19cm

主軸方位 N-55° -W

遺物 鉄鏃1、平底の弥生土器片が石蓋上方の埋土中より検出された。

備考 頭位 (北西) 側の床面から鉄鏃が出土している。副葬品であろう。



137号土墳墓 (石蓋)

位置 5 D 区

棺の規模 長辺 92cm

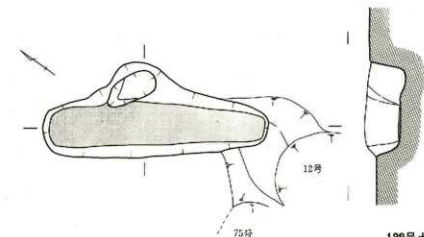
短辺 (頭部巾) 25cm

深さ 33cm

主軸方位 N-82°-E

遺物

備考 床面に施朱。



138号土墳墓

位置 5 D 区

棺の規模

長辺 170cm

短辺 (頭部巾) 31cm

深さ 22cm

主軸方位 N-37°-W

遺物

備考 床面に施朱。

Fig. 108 137号土墳墓・138号土墳墓実測図



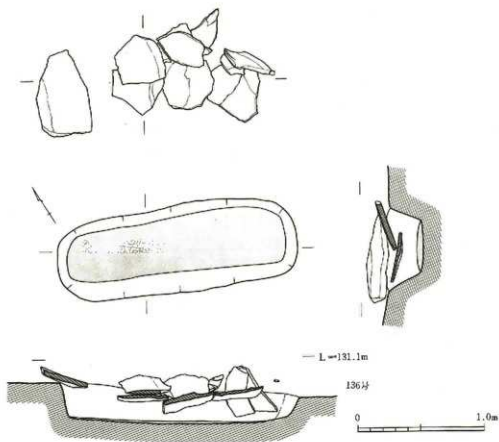
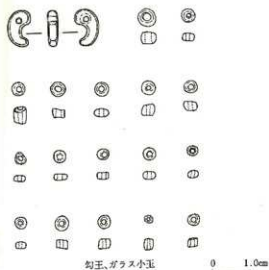


Fig. 107 136号土壌墓実測図



136号土壌墓（石蓋）

位置 5 D 区

棺の規模 長辺 174cm

短辺（頭部巾） 35cm

深さ 25cm

主軸方位 S-63°-E

遺物 勾玉 1、ガラス小玉 17

備考 遺物は床面近くの埋土を水洗して検出。頭位は東南。
床面に施朱。

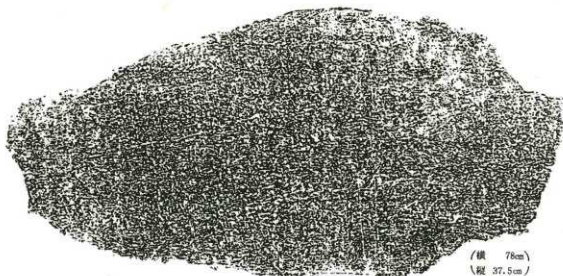


Fig. 106 134号土墳墓標石線刻拓影

134号土墳墓 (石蓋)

位 置 4 D区

規 模 棺 長辺 177cm

短辺 (頭部巾) 40cm

深さ 39cm

墓壇 長辺 ? cm

短辺 (頭部巾) 108cm

深さ 33cm

主軸方位 N-7°-E

遺 物 勾玉1、管玉1、ガラス玉2

備 考 135号石棺墓を切って営まれている。隅丸長方形の墓壇に、頭位側を巾広にした土壇を掘り込んでいる。埋葬後、頭部から足元へ石蓋をよろい重ねし、14cmほど埋土をかぶせた後、頭部側の墓壇小口部に厚さ10cm、横90cm、縦44cmの安山岩製板石を標石状に立てる。この立石の墓壇側表面には無数の線刻が施され、さらに朱が塗られている。最下段の蓋石より約20cm上方に再び安山岩の板石を並べ、2段目の蓋石(?)としている。

さらに、最上段には、これをおおうように塊石が積まれている。床面施朱。

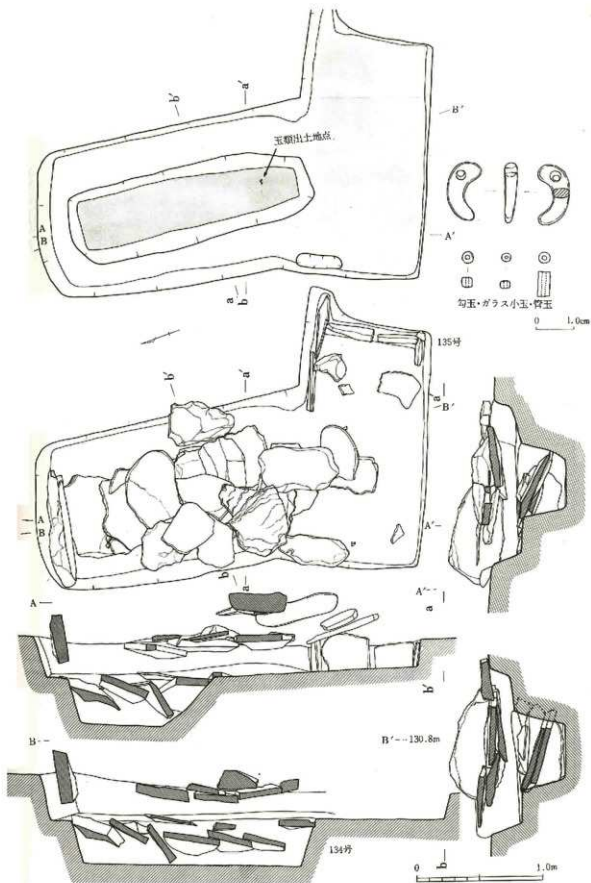
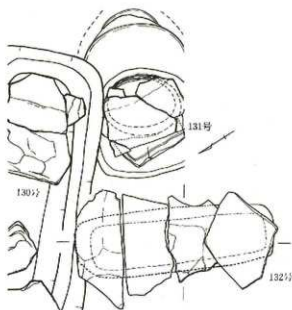


Fig. 105 134号土墳墓実測図



132号土墳墓（石蓋）

位 置 4 D 区

棺の規模 長辺 138cm

短辺（頭部巾）32cm

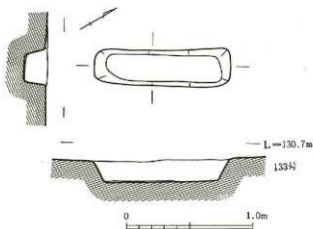
深さ 24cm

主軸方位 N-25°-E

遺 物

備 考

130号土墳墓を
切る。



133号土墳墓

位 置 4 D 区

棺の規模 長辺 90cm

短辺（頭部巾）20cm

深さ 17cm

主軸方位 N-32°-E

遺 物

備 考 小児棺であろう。

Fig. 104 132号土墳墓・133号土墳墓実測図

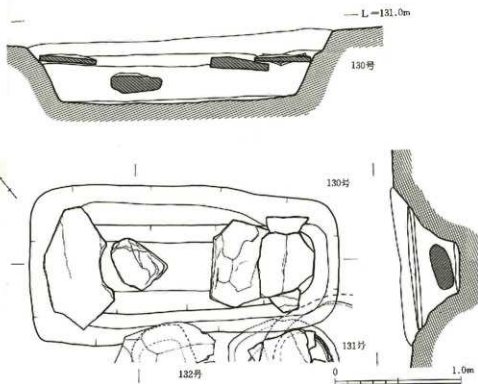


Fig. 103 130号土墳実測図

130号土墳墓 (石蓋)

位置 4D区

規模 棺 長辺	184cm	墓壇 長辺	221cm
短辺 (頭部巾)	35cm	短辺 (頭部巾)	65cm
深さ	33cm	深さ	22cm

主軸方位 N-50°-W

遺物

備考 切り合いは、131号甕棺→130号→132号の順。頭位は北西。

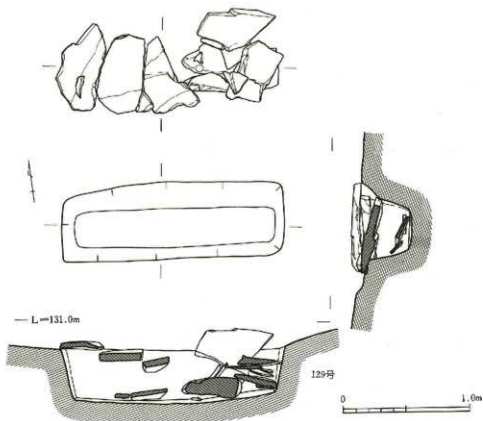
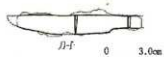


Fig. 102 129号土墳墓実測図



129号土墳墓 (石蓋)

位 置 4 C 区

棺の規模	長辺	158cm
	短辺 (頭部巾)	27cm
	深さ	43cm

主軸方位 N-81°-W

遺 物 刀子1

備 考 頭位は東。

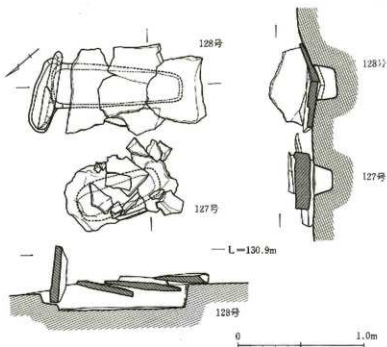


Fig. 101 127号土墳墓・128号土墳墓実測図

127号土墳墓（石蓋）

位置 4 D区

棺の規模 長辺 62cm
短辺（頭部巾）14cm
深さ 15cm

主軸方位 N-5°-E

遺物

備考 128号墓と並んで営まれている。

128号土墳墓（石蓋）

位置 4 D区

棺の規模 長辺 96cm
短辺（頭部巾）26cm
深さ 19cm

主軸方位 N-20°-E

遺物

備考 頭位（北東）側の小口部に標式（？）状の立石がある。

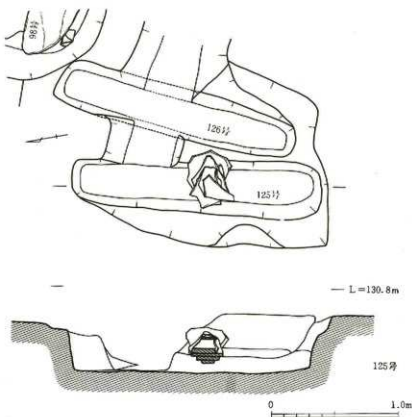


Fig. 100 125号土墳墓・126号土墳墓実測図

125号土墳墓 (石蓋?)

位 置 4 C・4 D区

棺の規模 長辺 184cm

短辺 (頭部巾) 21cm

深さ 31cm

主軸方位 N-10° -E

遺 物

備 考

126号土墳墓

位 置 4 C・4 D区

棺の規模 長辺 181cm

短辺 (頭部巾) 24cm

深さ 33cm

主軸方位 N-25° -E

遺 物

備 考

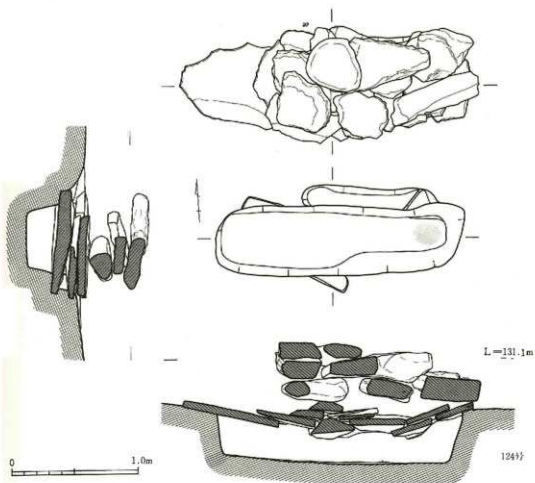


Fig. 99 124号土墳墓実測図

124号土墳墓 (石蓋)

位 置 4 C区

棺の規模 長辺 178cm

短辺 (頭部巾) 36cm

深さ 42cm

主軸方位 N-85° -W

遺 物

備 考 両小口部から、それぞれ石蓋を重ねている。石蓋の上方にも数段石を積んでおり、特異である。東小口の床面に部分的ながら朱を検出した。

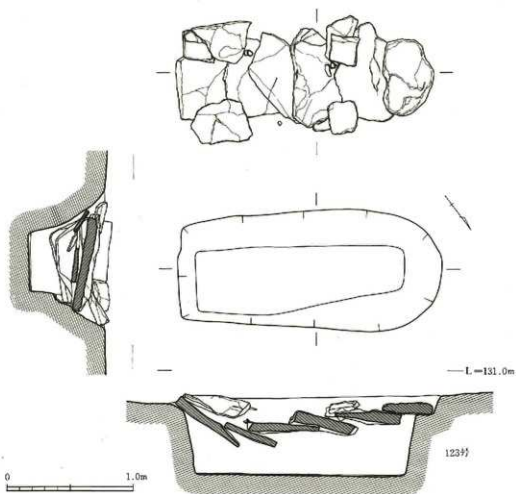


Fig. 98 123号土墳墓実測図

123号土墳墓（石蓋）

位置 5 C区

規模 棺 長辺 165cm

短辺（頭部巾）48cm

深さ 50cm

墓壇 長辺 197cm

短辺（頭部巾）60cm

深さ 10cm

主軸方位 S-55°-E

遺物

備考 頭位は東南。

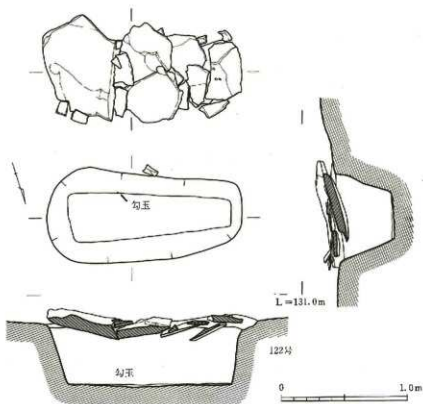


Fig. 97 122号土墳実測図

122号土墳墓 (石蓋)

位置 5 C 区

棺の規模 長辺 128cm

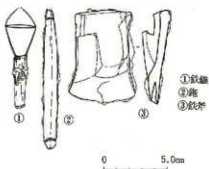
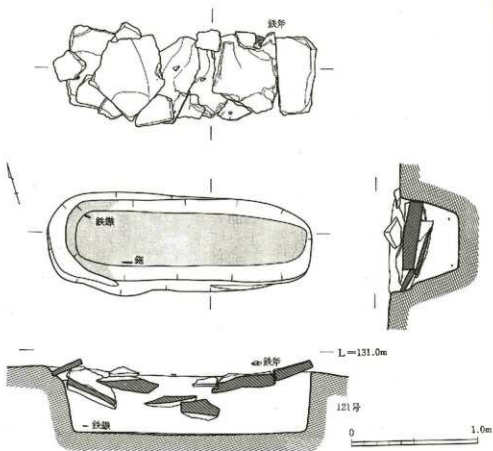
短辺 (頭部巾) 32cm

深さ 50cm

主軸方位 S-72°-E

遺物 勾玉1、勾玉は床面、南側壁付近出土。

備考 頭位は東。



121号土墳墓 (石蓋)

位置 5C区

棺の規模 長辺 183cm

短辺 (頭部口) 33cm

深さ 50cm

主軸方位 N-72°-W

遺物 鉄鏝1、鉄斧1、鉋1、鉄斧は蓋石上に棺外副葬。

備考 頭位は北西。床面に施朱。

Fig. 96 121号土墳墓実測図

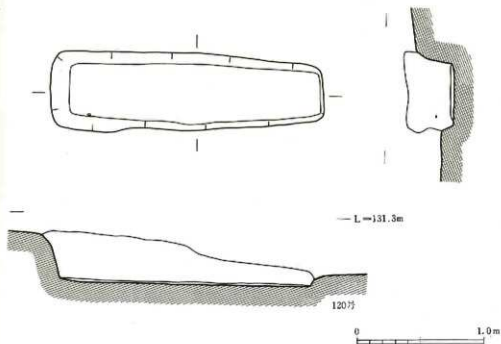


Fig. 95 120号土墳墓実測図

120号土墳墓

位 置 6 C 区

棺の規模 長辺 198cm

短辺 (頭部口) 38cm

深さ 37cm

主軸方位 S-88°-W

遺 物

備 考

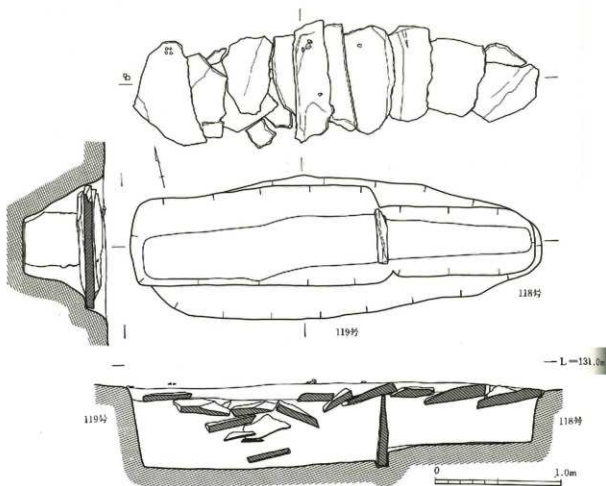


Fig. 94 118号土墳墓・119号土墳墓実測図

118号土墳墓（石蓋）

位 置 5 C区

棺の規模 長辺 114cm

短辺（頭部巾）30cm

深さ 48cm

主軸方位 N-76° -W

遺 物

備 考 119号と接してつくられている。

119号土墳墓（石蓋）

位 置 5 C区

棺の規模 長辺 185cm

短辺（頭部巾）38cm

深さ 65cm

主軸方位 S-76° -E

遺 物 器種不明鉄器

備 考 蓋石の重ね具合から見て、118号土墳の後、営まれたものであろう。両土墳の境にある小口板石は119号に属するものと考えられる。

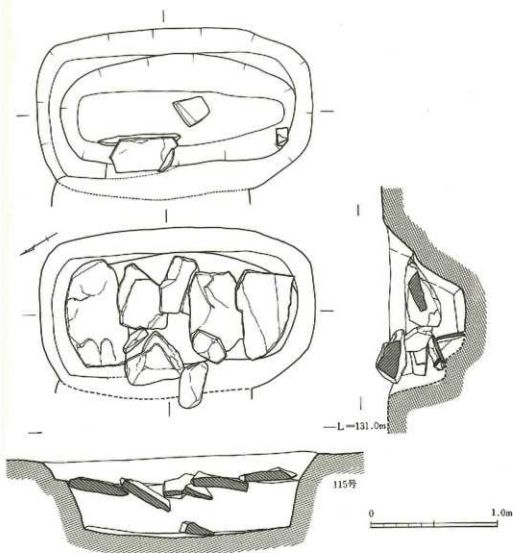


Fig. 93 115号土墳墓実測図

115号土墳墓（石室）

位置 4 C区

規模	棺 長辺	162cm	墓横 長辺	162cm
	短辺（頭部巾）	32cm	短辺（頭部巾）	66cm
	深さ	41cm	深さ	18cm

主軸方位 N-20°-E

遺物

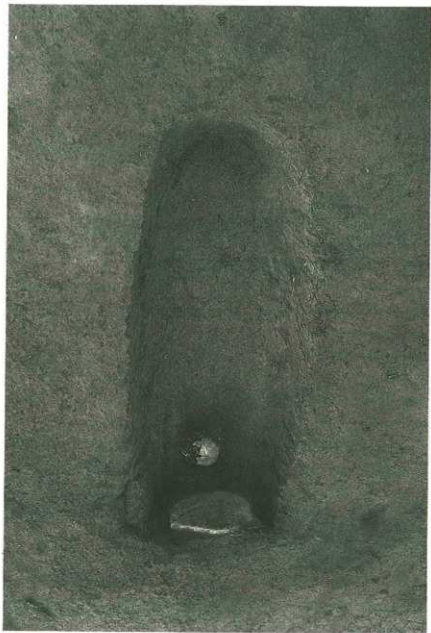
備考 113号、116号に切られている。北北東に頭位。

114号墓人骨（男性・熟年）

保存状態が不良であり、前頭骨片と歯牙2本が検出されただけである。前頭骨片には赤色顔料が付着している。

性別は、残存する前頭骨片の眉弓部分が良く発達しており男性と考えられる。年齢については歯牙咬耗度がいずれも Broca の2度を示すことから、熟年以上と推定される。

形質等の詳細は不明である。



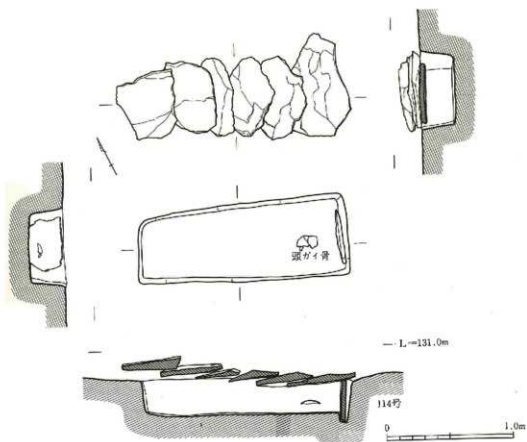


Fig. 92 114号土墳墓実測図

114号土墳墓 (石蓋)

位 置 4 C 区

棺の規模 長辺 160cm

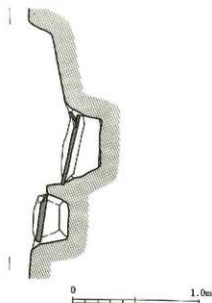
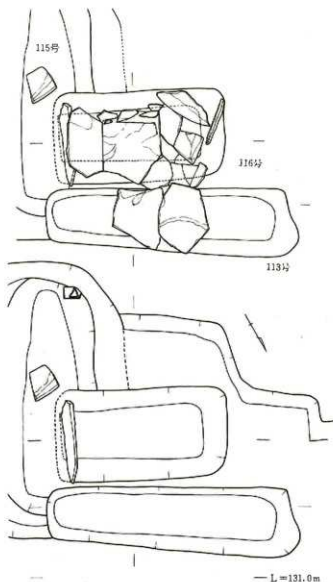
短辺 (頭部巾) 57cm

深さ 28cm

主軸方位 S-58°-E

遺 物 人骨

備 考 北東頭位側の小口部に板石を立てる。



116号土墳墓（石蓋）

位置 4 C区
 棺の規模 長辺 (111) cm
 短辺（頭部巾）43cm
 深さ 32cm

主軸方位 N-60°-W

遺物

備考 115号を切ってつく
 られている。両小口に板石
 を立てている。頭位は北西
 か？

113号土墳墓（石蓋）

位置 4 C区
 棺の規模 長辺 177cm
 短辺（頭部巾）34cm
 深さ 6 cm

主軸方位 N-60°-W

遺物

備考 116号土墳より後出
 する。

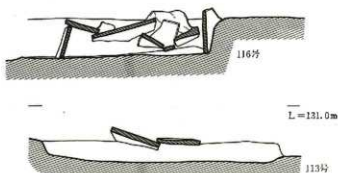
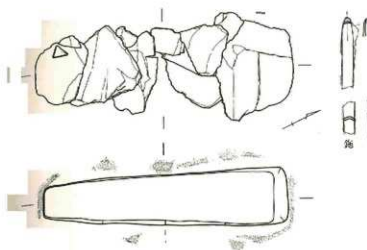
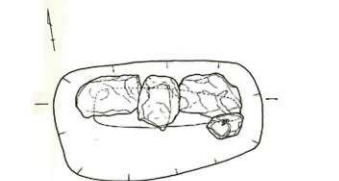
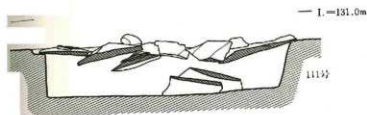


Fig. 91 113号土墳墓・116号土墳墓実測図



111号土墳墓（石蓋）

位置 4 C 区
 棺の規模 長辺 182cm
 短辺（頭部巾）40cm
 深さ 36cm
 主軸方位 N-26°-E
 遺物 北西の棺外、土壇掘り込み面で甕1が出土。
 備考 頭位は北北東。



112号土墳墓

位置 4 C 区
 棺の規模 長辺 115cm
 短辺（頭部巾）23cm
 深さ 26cm
 主軸方位 N-77°-W

遺物
 備考 阿蘇溶結凝灰岩製の石材を蓋に用いている。当遺跡において、土壇墓の蓋石としては本例のみである。

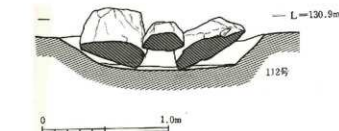
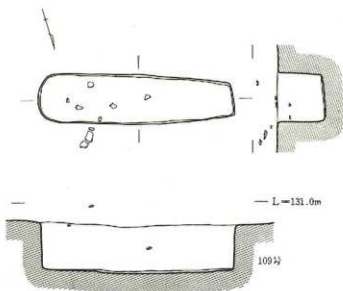
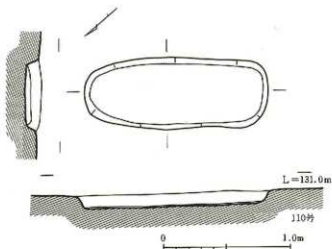


Fig. 90 111号土墳墓・112号土墳墓実測図



109号土墳墓 (石蓋)

位置 4 C区
 棺の規模 長辺 152cm
 短辺 (頭部巾) 31cm
 深さ 39cm
 主軸方位 S-74°-E
 遺物
 備考 頭位は東。



110号土墳墓

位置 4 C区
 棺の規模 長辺 137cm
 短辺 (頭部巾) 41cm
 深さ 11cm
 主軸方位 S-40°-W
 遺物
 備考 頭位は北東か？

Fig. 89 109号土墳墓・110号土墳墓実測図

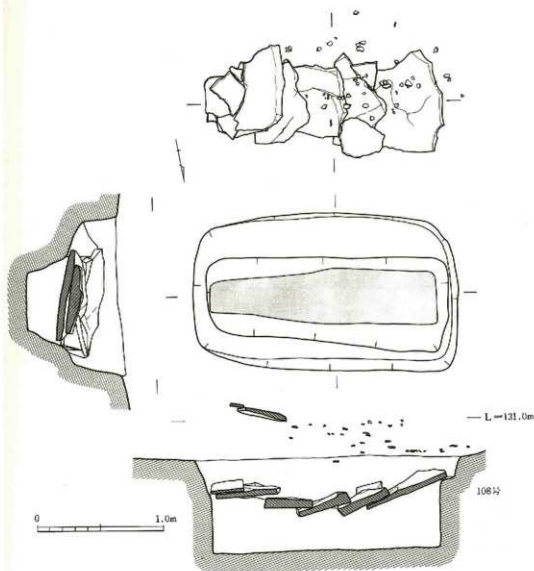


Fig. 88 108号土墳墓実測図

108号土墳墓（石蓋）

位置 4C・5C区

規模

棺 長辺	180cm	墓壇 長辺	195cm
短辺（頭部巾）	38cm	短辺（頭部巾）	70cm
深さ	47cm	深さ	24cm

主軸方位 N-80°-W

遺物 床面近くの埋土中から水洗で歯牙検出。

備考 頭位は西。床面に施朱。

108号墓人骨（不明・熟年）

歯牙片が6片検出された。歯種は上顎左の中切歯・側切歯・犬歯片、また3本得られている上顎大臼歯は、おそらく左右の第3大臼歯と右第2大臼歯であると思われる。切歯と犬歯の咬耗はかなり進んでおり Broca の2度であるが、大臼歯の咬耗は弱く Broca の1度である。

性別は不明。年齢については大臼歯の咬耗は弱いが、対咬歯牙の脱落等が考えられることから熟年と推定した。

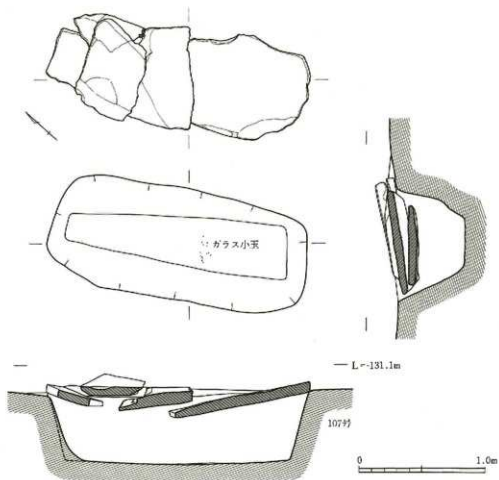


Fig. 87 107号土墳墓実測図

107号土墳墓 (石蓋)

位 置 5 C区

棺の規模 長辺 176cm

短辺 (頭部巾) 40cm

深さ 54cm

主軸方位 S-34°-E

遺 物 ガラス玉17、土器片

備 考 小玉は胸部 (推定) 付近の床面直上で検出された。装身具として身に着けていたものであろう。頭位は東南。

107号墓人骨 (不明・不明)

左上顎第3大臼歯と考えられる歯牙片が1片だけ検出された。詳細は不明である。

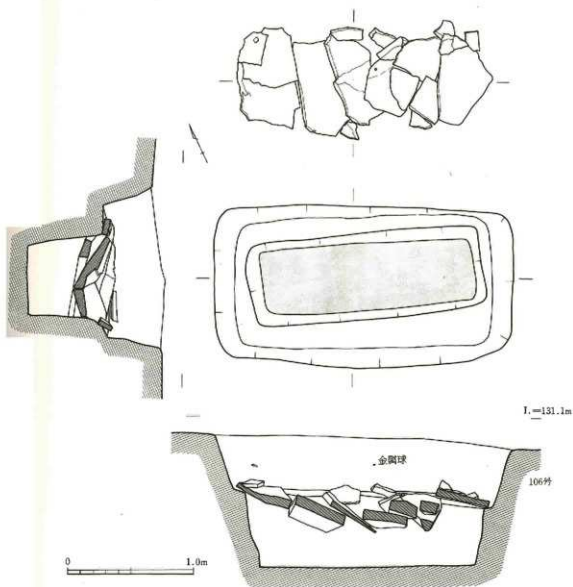


Fig. 86 106号土墳墓実測図

106号土墳墓（石蓋）

位置 5C区

規模	棺 長辺	168cm	墓坑 長辺	203cm
	短辺（頭部巾）	49cm	短辺（頭部巾）	101cm
	深さ	55cm	深さ	43cm

主軸方位 N-70°-W

遺物 墓坑内埴土中から金属球1出土。表面は白錆。風化して細い凹凸有り。

備考 頭位は北西か？ 床面に施朱。



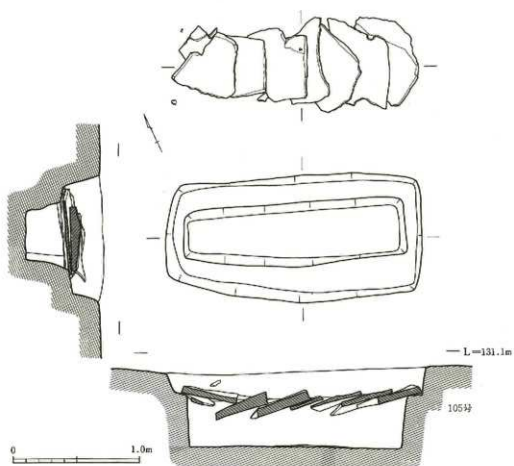


Fig. 85 105号土墳墓実測図

105号土墳墓 (石蓋)

位 置 5 C区

規 模 棺 長辺	167cm	墓 墳 長辺	193cm
短辺 (頭部巾)	32cm	短辺 (頭部巾)	79cm
深さ	40cm	深さ	20cm

主軸方位 N-69° -W

遺 物

備 考 頭位は東南。

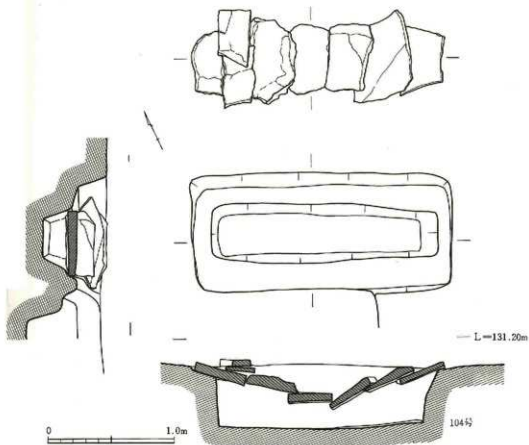


Fig. 84 104号土墳墓実測図

104号土墳墓（石蓋）

位置 5C区

規模 棺 長辺	160cm	墓坑 長辺	204cm
短辺（頭部巾）	32cm	短辺（頭部巾）	93cm
深さ	42cm	深さ	21cm

主軸方位 N-64°-W

遺物 床面近くの埋土を水洗し、歯牙を検出。

備考 頭位は東南か？

104号墓人骨（不明・不明）

右上・下顎のおそらく第3大臼歯と思われる歯牙が各1本ずつ検出された。第1～第3大臼歯間の歯種の正確な鑑別は困難である。歯牙咬合面はほとんど咬耗を受けていない。詳細は不明である。

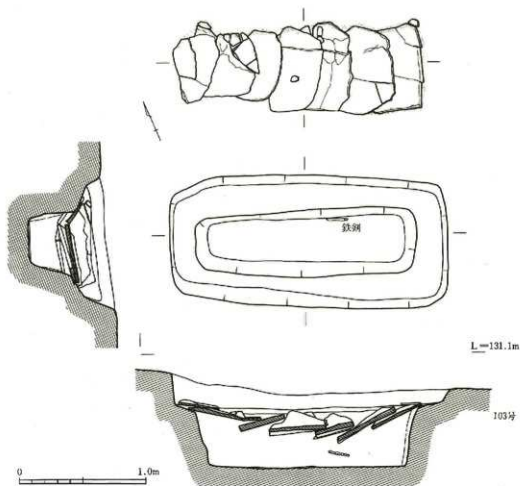
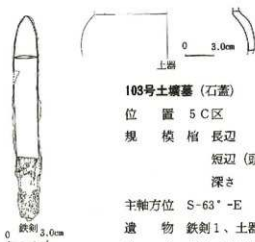


Fig. 83 103号土墳墓実測図



103号土墳墓 (石蓋)

位 置 5 C区

規 模 棺 長辺	156cm	墓 壁 長辺	213cm
短辺 (頭部巾)	36cm	短辺 (頭部巾)	83cm
深さ	44cm	深さ	23cm

主軸方位 S-63°-E

遺 物 鉄剣1、土器片

備 考 鉄剣は北側壁、床面上10cmの位置で出土。副葬品。石蓋上方の墓壇埋土中から壺形土器片が出土。

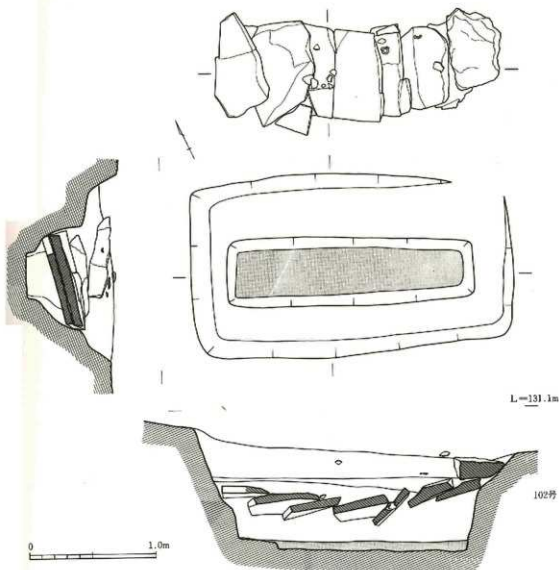


Fig. 82 102号土墳墓実測図

102号土墳墓 (石蓋)

位置 5C区

規模	棺 長辺	180cm	墓室 長辺	230cm
	短辺 (頭部巾)	37cm	短辺 (頭部巾)	112cm
	深さ	50cm	深さ	35cm

主軸方位 N-63°-W

遺物 墓室内埋土中より高坏脚部片出土。

備考 床面に厚く施朱。床面の平面形から判断すると、北西に頭位を想定し得るが、石蓋は反対方向から重ねている。



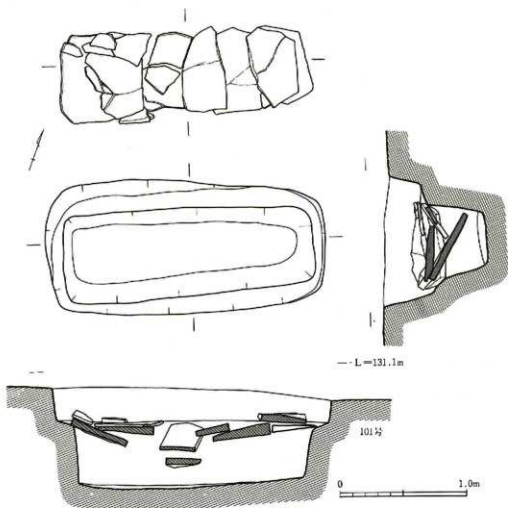


Fig. 81 101号土槨実測図

101号土槨墓 (石蓋)

位置 5 B・5 C区

規模	棺 長辺	179cm	墓槨 長辺	215cm
	短辺 (頭部巾)	42cm	短辺 (頭部巾)	86cm
	深さ	47cm	深さ	25cm

主軸方位 S-68°-W

遺物

備考 頭位は南西。

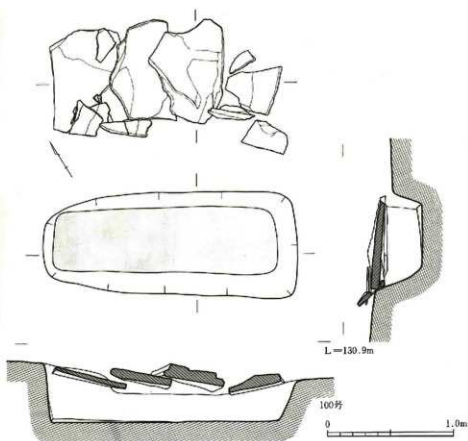


Fig. 80 100号土墳墓実測図

100号土墳墓 (石蓋)

位 置 5 B 区

棺の規模 長辺 178cm

短辺 (頭部巾) 52cm

深さ 36cm

主軸方位 N-60° -W

遺 物

備 考 頭位は北西 (?). 床面に施朱。

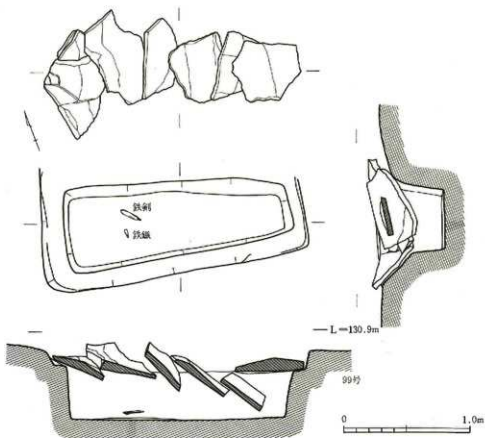
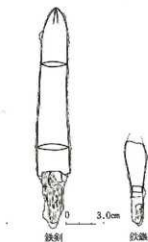


Fig. 79 99号土墳墓実測図



99号土墳墓 (石蓋)

位置 4 C・5 C区

規模 柏 長辺 169cm

短辺 (頭部巾) 54cm

深さ 40cm

墓壇 長辺 206cm

短辺 (頭部巾) 90cm

深さ 10cm

主軸方位 N-77°-W

遺物 鉄鏃1、鉄剣1

備考 遺物は胸部(推定)付近で出土。頭位は北西。

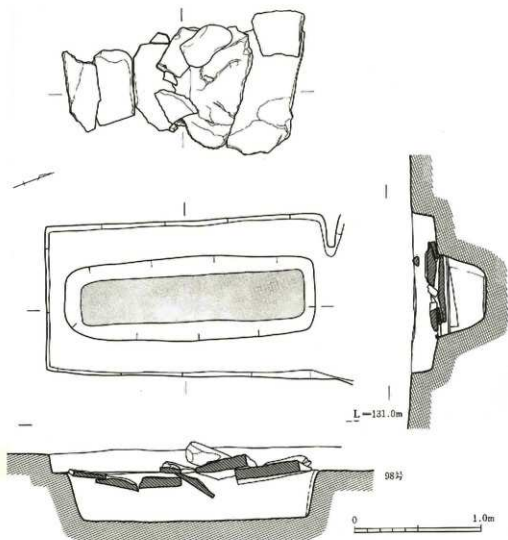


Fig. 78 98号土墳墓実測図

98号土墳墓（石蓋）

位置 4 C区

規模 棺 長辺	177cm	墓壇 長辺	221cm
短辺（頭部巾）	36cm	短辺（頭部巾）	118cm
深さ	38cm	深さ	18cm

主軸方位 N-17°-E

遺物

備考 北部を97号石棺に切られている。頭位は北。床面に施朱。

96号墓人骨（不明・不明）

保存状態は著しく不良である。保存部位は赤色顔料の付着した前頭骨片およびほとんど咬耗のみられない下顎第2小臼歯だけである。

性別は不明。年齢は歯牙にほとんど咬耗がみられないことや前頭骨片の形状から推定すると、未成人であった可能性が強いが、成人に達していたとすれば成年女性と考えられる。形質等の詳細は不明である。



96号土坑墓人骨出土状況

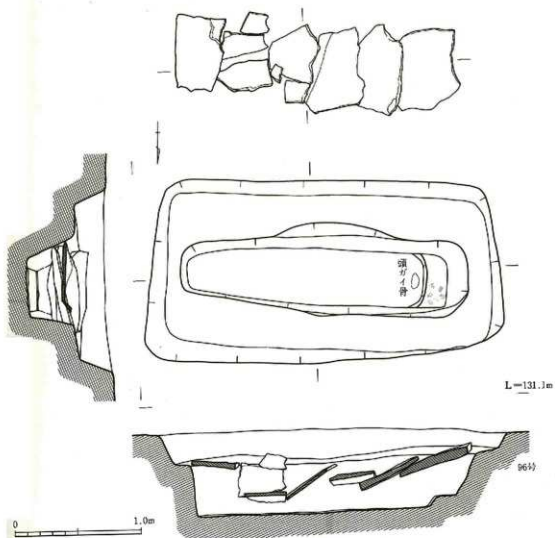


Fig. 77 96号土墳墓実測図

96号土墳墓 (石蓋)

位置 4C区

規模 棺 長辺	215cm	墓壇 長辺	257cm
短辺 (頭部巾)	40cm	短辺 (頭部巾)	119cm
深さ	41cm	深さ	21cm

主軸方位 S-87°-W

遺物 頭蓋骨片、歯

備考 頭位は西。ここに造り出しの枕があり、朱が施されている。

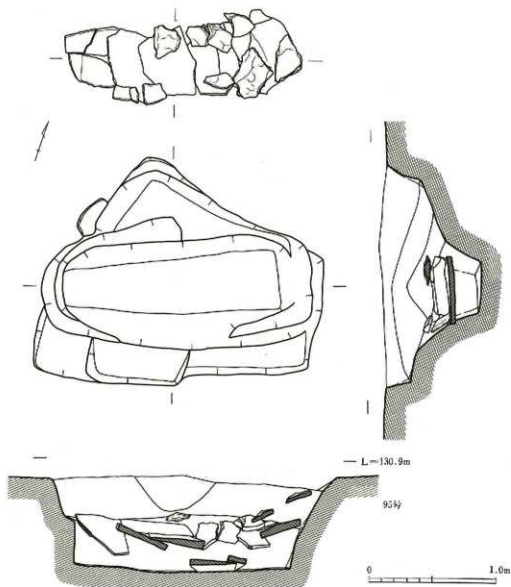


Fig. 76 95号土墳墓実測図

95号土墳墓 (石蓋)

位 置 4 B区

規 模	棺 長辺	171cm	墓 墳 長辺	191cm
	短辺 (頭部巾)	47cm		短辺 (頭部巾) 78cm
	深さ	44cm		深さ 35cm

主軸方位 N-72°-E

遺 物

備 考 頭位は北東側。

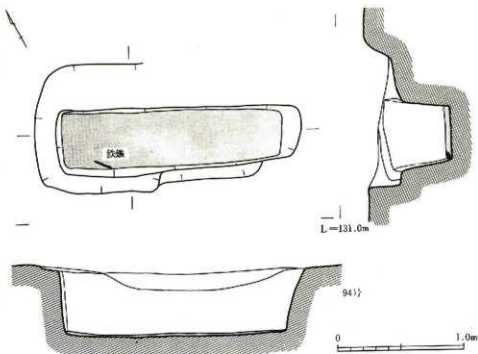


Fig. 75 94号土墳実測図



94号土墳墓

位 置 4 B 区

規 模 棺 長辺 174cm

短辺 (頭部巾) 43cm

深さ 50cm

墓 墳 長辺 (230) cm

短辺 (頭部巾) (90) cm

深さ ?

主軸方位 N-62° -W

遺 物 鉄鍬 1

備 考 鉄鍬は、頭位置の南側壁、床面で出土。副葬品である。床面に施朱。

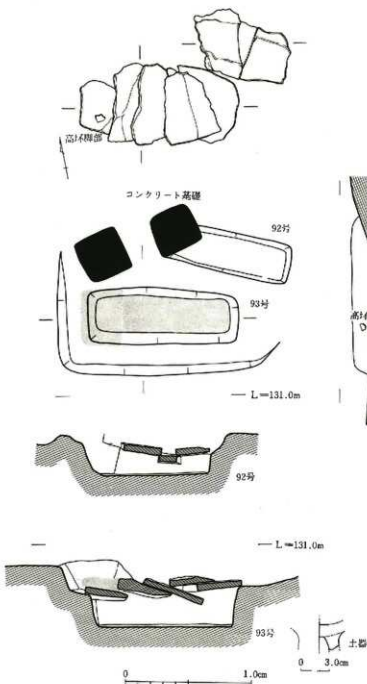


Fig. 74 92号土墳墓・93号土墳墓実測図

92号土墳墓（石蓋）

位置 5 B区

棺の規模 長辺 95cm
短辺（頭部巾） 33cm
深さ 18cm

主軸方位 N-65°-W

遺物

備考 93号墓の墓壁を切っていると考えられる。西小口部はコンクリート基礎で破損している。床面に施朱。

93号土墳墓（石蓋）

位置 5 B区

規模

棺 長辺 107cm
短辺（頭部巾） 28cm
深さ 28cm
墓壁 長辺 (164) cm
短辺（頭部巾） (84) cm
深さ ?

主軸方位 N-80°-W

遺物 石蓋上から高坏脚部片。

備考 頭位は西。床面に施朱。

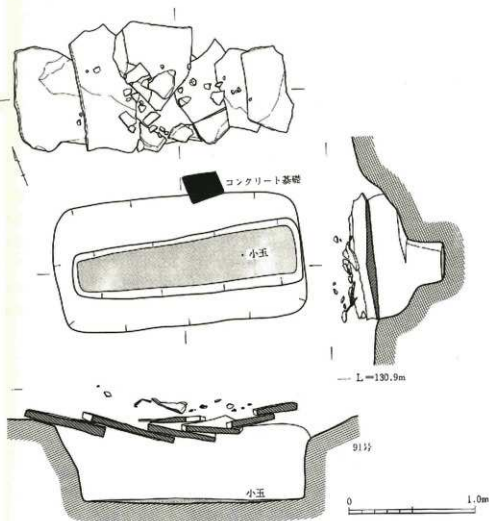
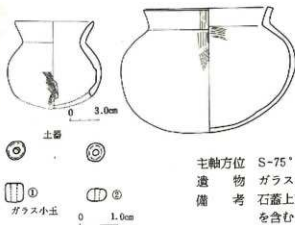


Fig. 73 91号土壙墓実測図



91号土壙墓（石蓋）

位置	5B区
規模	棺 長辺 171cm
	短辺（頭部巾） 37cm
	深さ 39cm
墓域	長辺 182cm
	短辺（頭部巾） 52cm
	深さ 17cm

主軸方位 S-75°-E

遺物 ガラス小玉2、土器片

備考 石蓋上方に、完形復元し得る丸底の土器1個体を
含む土器片が出土。ガラス小玉は頭位置の床
面から出土。床面に施朱。頭位は東側。

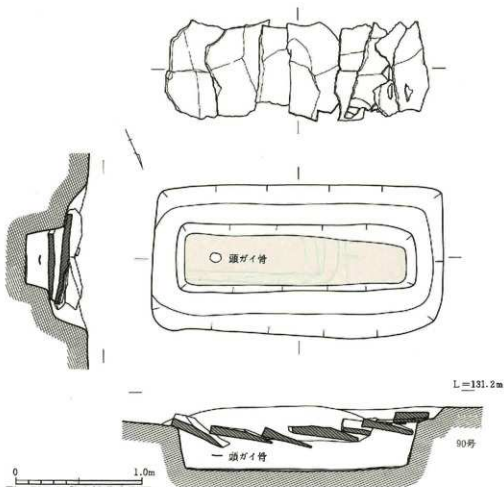


Fig. 72 90号土墳墓実測図

90号土墳墓（石蓋）

位置 4B区

規模 棺 長辺 175cm 墓坑 長辺 220cm

短辺（頭部巾）40cm 短辺（頭部巾）70cm

深さ 37cm 深さ 10cm

主軸方位 S-68°-E

90号墓人骨（女性・成年？）

左前頭部から頭頂部にかけての頭蓋冠と中足骨片少量が検出された。頭蓋骨には赤色顔料の付着が認められる。中足骨が頭蓋骨と同一個体のものであるかどうかの判定は困難であるが、明らかな矛盾は認められないので、一応同一個体として記載した。

性別については、頭蓋骨の形状から女性と推定される。年齢については、残存する頭蓋骨冠状縫合の内板・外板がともに開離しているが、縫合は個体差があることから成年？としておきたい。形質の詳細は不明である。

遺物 人骨。上墳東小口側に頭蓋骨片が出土。性別不明。頭位は東側。石蓋および棺内に施朱。

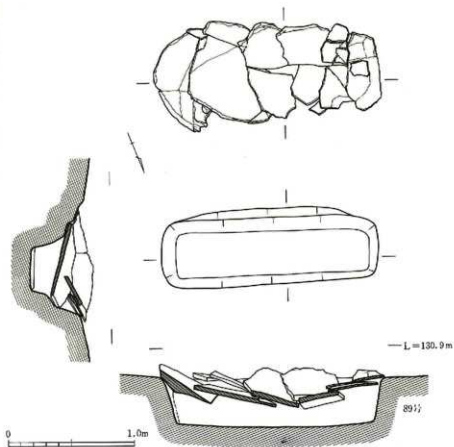


Fig. 71 89号土墳墓実測図

89号土墳墓 (石蓋)

位 置 4 B 区

棺の規模 長辺 154cm

短辺 (頭部巾) 35cm

深さ 41cm

主軸方位 N-68° -W

遺 物

備 考 頭位は東側。88号土墳墓と平行に並ぶ。

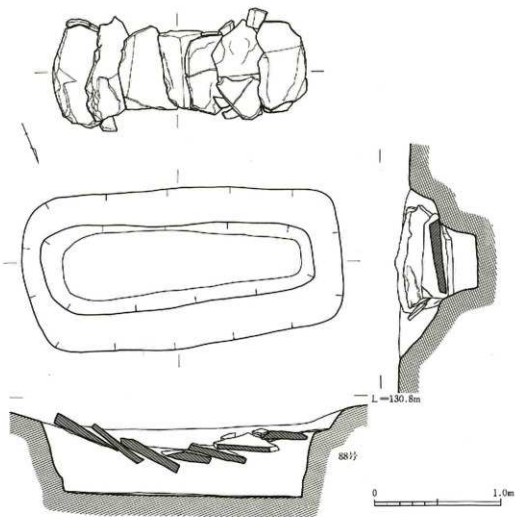


Fig. 70 88号土墳墓実測図

88号土墳墓（石蓋）

位置 4B区

規模 棺 長辺 189cm

短辺（頭部巾）41cm

深さ 37cm

墓壁 長辺 228cm

短辺（頭部巾）85cm

深さ 16cm

主軸方位 S-68°-E

遺物

備考 頭位は東側。

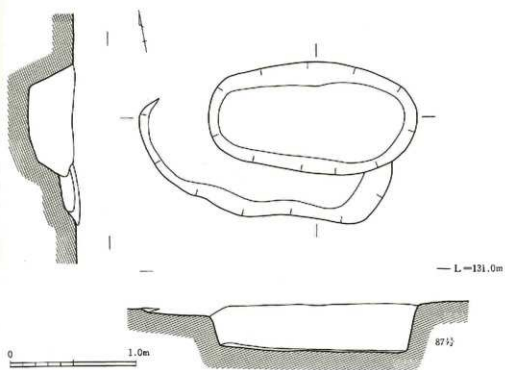


Fig. 69 87号土墳墓実測図

87号土墳墓

位 置 4 B 区

棺の規模 長辺 147cm

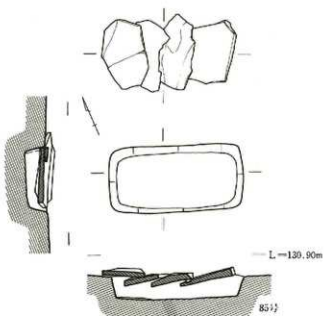
短辺 (頭部巾) 53cm

深さ 32cm

主軸方位 N-80° -W

遺 物

備 考



85号土墳墓 (石蓋)

位 置 5 B 区

棺の規模 長辺 95cm

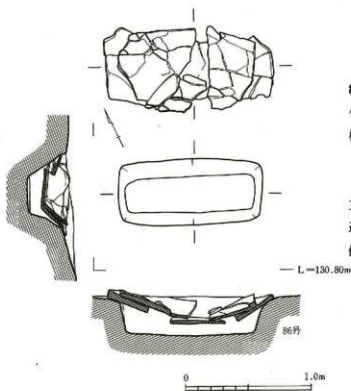
短辺 (頭部巾) 40cm

深さ 18cm

主軸方位 N-65° -W

遺 物

備 考



86号土墳墓 (石蓋)

位 置 4 B 区

棺の規模 長辺 105cm

短辺 (頭部巾) 35cm

深さ 27cm

主軸方位 N-63° -W

遺 物

備 考

Fig. 68 85号土墳墓・86号土墳墓実測図

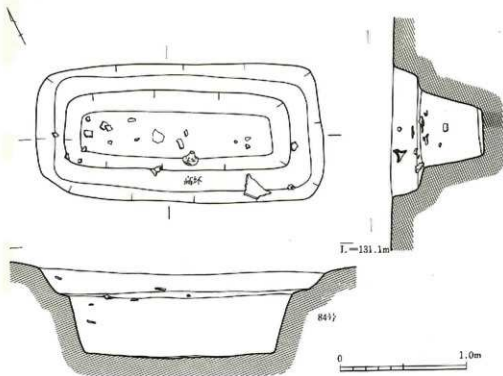


Fig. 67 84号土墳実測図

84号土墳墓

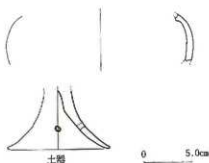
位置 5 B

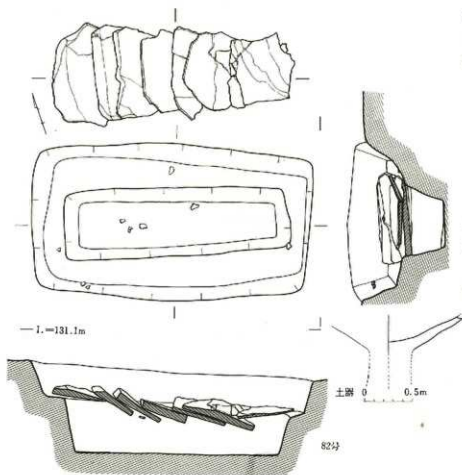
規模	棺	長辺	151cm
		短辺 (頭部巾)	32cm
		深さ	48cm
墓壇	長辺	200cm	
	短辺 (頭部巾)	80cm	
	深さ	20cm	

主軸方位 N-66°-W

遺物 墓壇内の埋土中に土器片。高坏脚部片、丸底甕の胴部片。

備考 人骨片出土。





82号土墳墓 (石蓋)

位置 5 B区

規模

棺 長辺 15m

短辺(頭部巾) 37

深さ 41

墓坑 長辺 20m

短辺(頭部巾) 9m

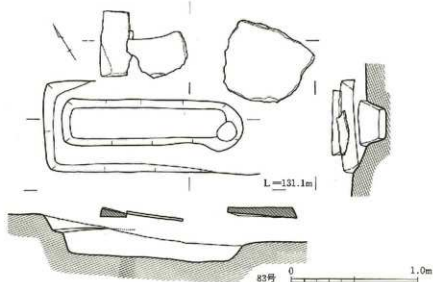
深さ 25

主軸方位 N-55° -W

遺物 高杯の破片
出土。

備考

石蓋の重ね順と底面
小口幅から推測する
頭位が正反対で頭位
は確定できない。床
面に施朱。



83号土墳墓 (石蓋)

位置 5 B区

規模

棺 長辺 123cm

短辺(頭部巾) 24cm

深さ 18cm

墓坑 長辺 (164)cm

短辺(頭部巾) (60)cm

深さ 10cm

主軸方位 N-60° -W

遺物

備考

Fig. 66 82号土墳墓・83号土墳墓実測図

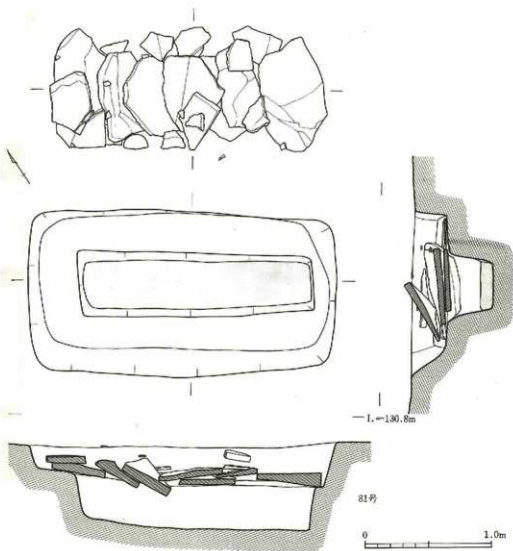


Fig. 65 81号土墳墓実測図

81号土墳墓 (石蓋)

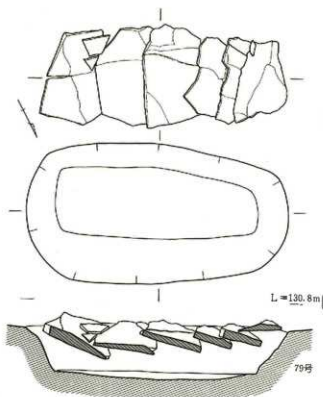
位置 4 B区

規模	棺 長辺	179cm	墓横 長辺	229cm
	短辺(頭部巾)	36cm	短辺(頭部巾)	100cm
	深さ	40cm	深さ	27cm

主軸方位 N-56° -W

遺物 蓋石の間から土器片出土。直立口縁の壺だが、二次的な出土状況。

備考 頭位は北西。82号土墳と一列に並ぶ。床面に施朱。



79号土墳墓 (石蓋)

位 置 4 B 区

棺の規模

長辺 160cm

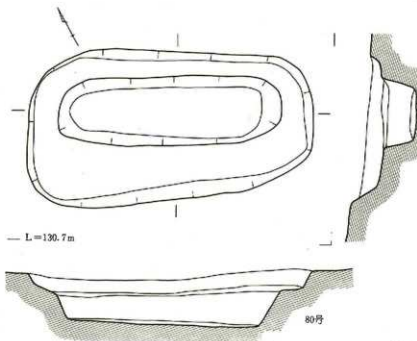
短辺 (頭部巾) 50cm

深さ 36cm

主軸方位 S-61°-E

遺 物

備 考 頭位は東南。



80号土墳墓

位 置 4 B 区

規 模

棺 長辺 156cm

短辺 (頭部巾) 37cm

深さ 23cm

墓壇 長辺 212cm

短辺 (頭部巾) 96cm

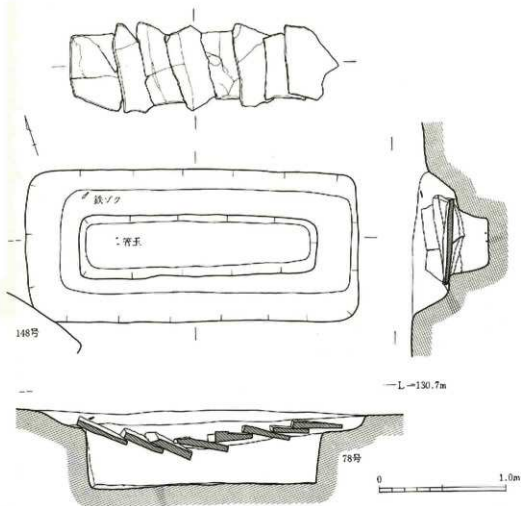
深さ 20cm

主軸方位 S-82°-E

遺 物

備 考 頭位は北東。

Fig. 64 79号土墳墓・80号土墳墓実測図



78号土墳墓 (石蓋)

位置 4B区

規模 棺 長辺 178cm

短辺 (頭部巾) 36cm

深さ 43cm

墓壇 長辺 221cm

短辺 (頭部巾) 81cm

深さ 13cm

主軸方位 N-75°-W

遺物 管玉2、鉄鎌1 (鉄鎌は、頭位側の棺外副葬。管玉は推定、頭部付近の床面直上。管玉②は破損していた。)

備考 頭位は北西。

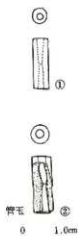
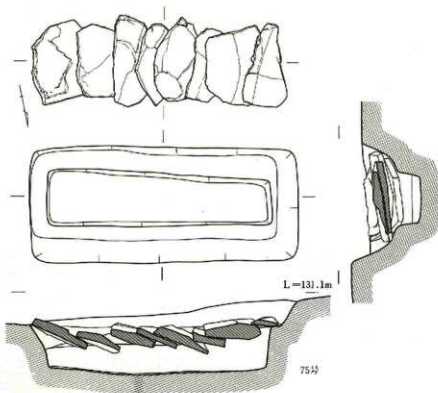


Fig. 63 78号土墳墓実測図



75号土墳墓 (石蓋)

位置 5A区

規模

棺 長辺 172

短辺(頭部巾) 36

深さ 30

墓室 長辺 180

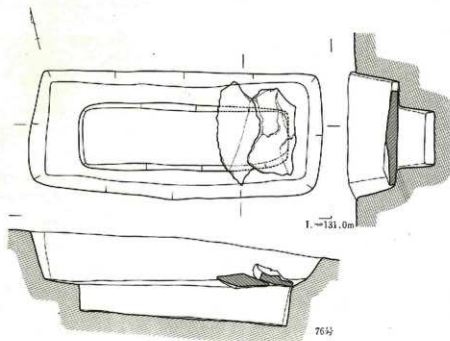
短辺(頭部巾) 60

深さ 14

主軸方位 S-78°-E

遺物

備考 頭位は東側。



76号土墳墓 (石蓋)

位置 5B区

規模

棺 長辺 168

短辺(頭部巾) 43

深さ 25

墓室 長辺 206

短辺(頭部巾) 76

深さ 32

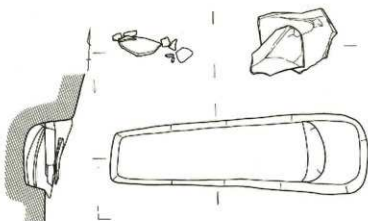
主軸方位 N-75°-W

遺物

備考 頭位は西側。

Fig. 62 75号土墳墓・76号土墳墓実測図

0 1.0m



73号土墳墓 (石蓋)

位 置 5 F 区

棺の規模

長辺 191cm

短辺 (頭部巾) 49cm

深さ 31cm

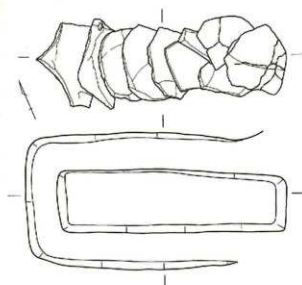
主軸方位 N-86° -E

遺 物

備 考 本来、石蓋が
あったと思わ
れる。頭位は
東で、削り出
しの枕部を設
けている。

L=128.6m

73号



74号土墳墓 (石蓋)

位 置 5 A 区

規 模

棺 長辺 165cm

短辺 (頭部巾) 40cm

深さ 32cm

墓 長辺 (230) cm

短辺 (頭部巾) 94cm

深さ 16cm

主軸方位 N-70° -W

遺 物

備 考 頭位は北西。

L=130.8m

74号

0 1.0m

Fig. 61 73号土墳墓・74号土墳墓実測図

72号墓人骨（女性？・成人？）

前頭骨と鼻根部付近の鼻骨および上顎骨片が残存している。性別については、前頭結節が発達しており眉弓の発達が弱いことから女性と推定されるが、年齢については、前頭骨のサイズや形状から成人には達していたものと考えられる。未成人であったとしてもほとんど成人に近い年齢であろう。形質の詳細は不明である。



Fig. 60 72号土壌墓人骨出土状況

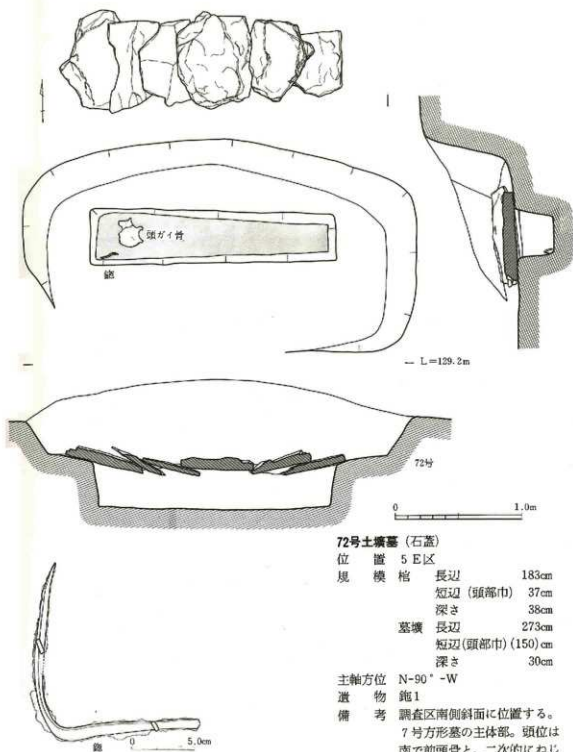


Fig. 59 72号土墳墓実測図

72号土墳墓 (石蓋)

位 置	5 E区
規 模	棺 長辺 183cm
	短辺 (頭部巾) 37cm
	深さ 38cm
墓 墳	長辺 273cm
	短辺 (頭部巾) (150) cm
	深さ 30cm

主軸方位 N-90° -W

遺 物 鈿1

備 考 調査区南側斜面に位置する。
7号方形墓の主体部。頭位は
南で前頭骨と、二次的にねじ
曲げられた鈿が検出された。
床面に施朱。

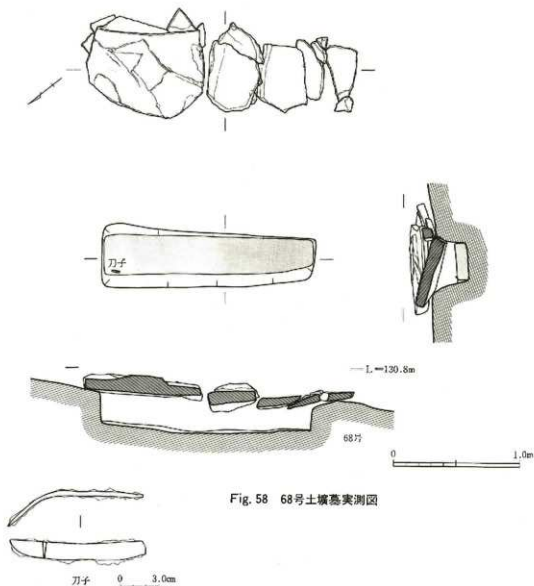


Fig. 58 68号土墳墓実測図

68号土墳墓（石蓋）

位置 4 E区

棺の規模 長辺 165cm

短辺（頭部巾） 31cm

深さ 25cm

主軸方位 N-37° -E

遺物 刀子1

備考 刀子は、頭部の北側隅に副葬されていた。

床面は施朱。

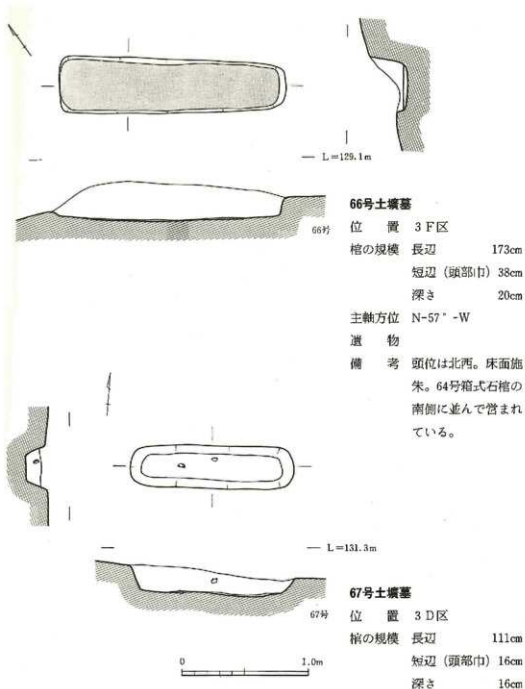
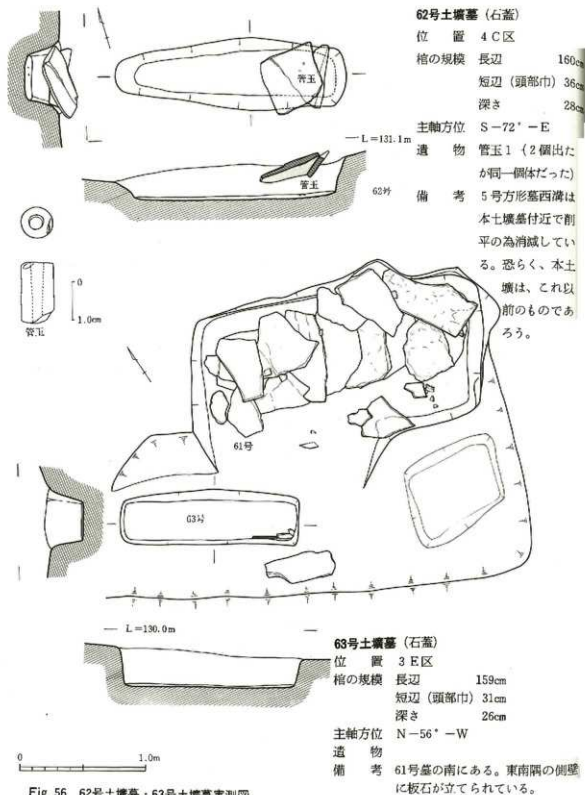


Fig. 57 66号土墳墓・67号土墳墓実測図



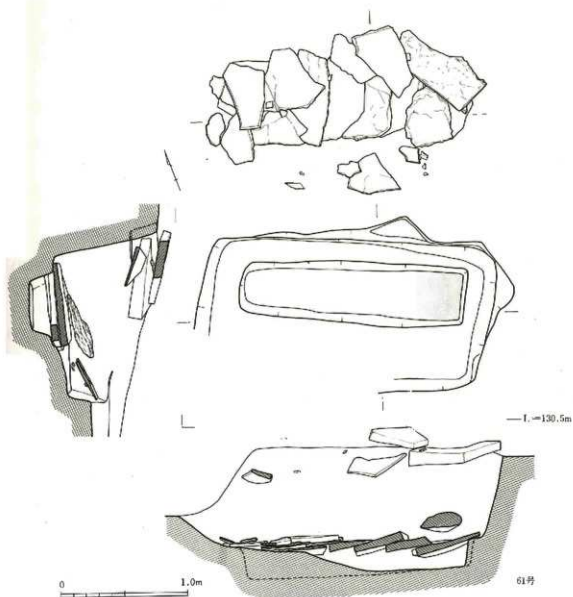


Fig. 55 61号土墳墓実測図

61号土墳墓 (石蓋)

位置 3 E区

規模 棺 長辺	171cm	墓壇 長辺	210cm
短辺 (頭部巾)	37cm	短辺 (頭部巾)	100cm
深さ	22cm	深さ	70cm

主軸方位 S-66°-E

遺物 土器片

備考 斜面に設けられたもので、墓壇は深く掘られている。墓壇検出面 (上面) にも板石を積んでいる。よろい重ねの石蓋は東南方向。床面に施朱。

59号土墳墓（石蓋）

位 置 3 E 区

棺の規模 長辺 168cm

短辺（頭部巾）37cm

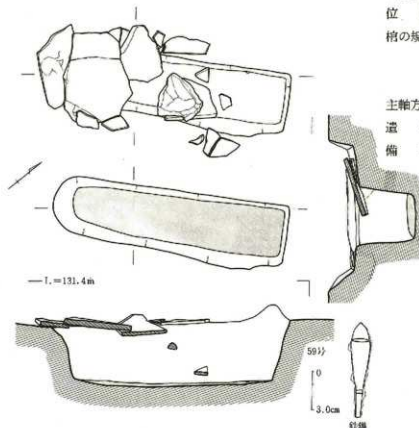
深さ 47cm

主軸方位 $N-40^{\circ}-E$

遺 物 鉄鏃1

備 考 頭位は、北東側。

床面施朱。



60号土墳墓（石蓋）

位 置 3 E 区

棺の規模 長辺 165cm

短辺（頭部巾）37cm

深さ 31cm

主軸方位 $N-55^{\circ}-W$

遺 物 鉄鏃1 鉄鏃は土
墳埋土中より出土。

備 考 頭位は、北西。北
西の頭位小口部に
板石2枚を立てる。

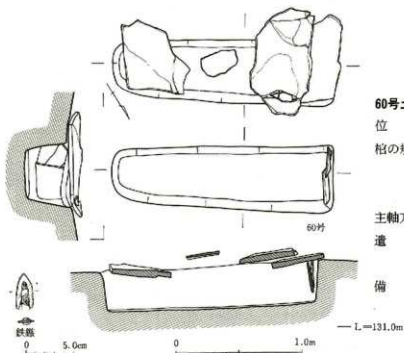
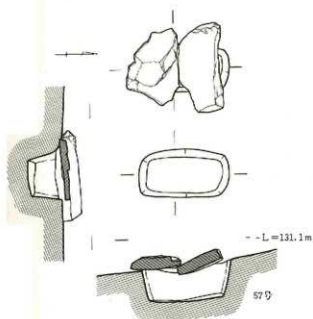


Fig. 54 59号土墳墓・60号土墳墓実測図



57号土墳墓 (石蓋)

位 置 3 E 区

棺の規模 長辺 59cm

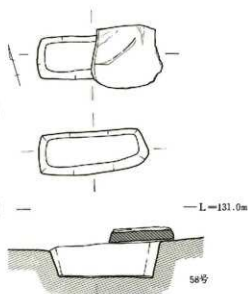
短辺 (頭部巾) 25cm

深さ 29cm

主軸方位 N-3°-W

遺 物

備 考 頭位は北?、小児
棺であろう。



58号土墳墓 (石蓋)

位 置 3 E 区

棺の規模 長辺 74cm

短辺 (頭部巾) 20cm

深さ 24cm

主軸方位 N-75°-W

遺 物

備 考 2枚の石蓋からな
る小児棺であろう。



Fig. 53 57号土墳墓・58号土墳墓実測図

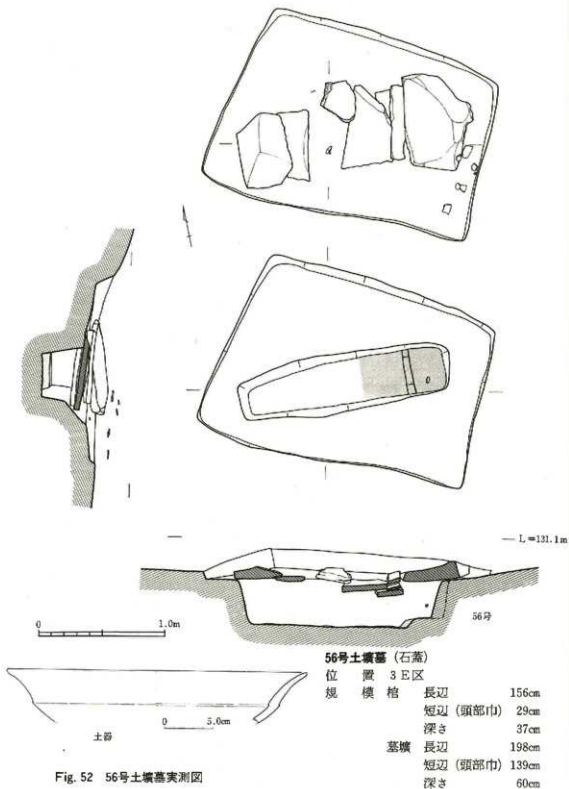
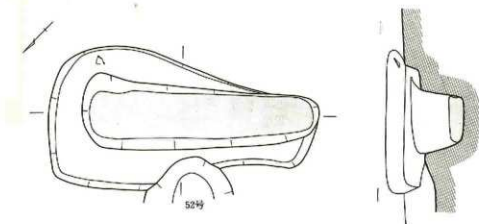


Fig. 52 56号土墳墓実測図

主軸方位 N-90°-E

遺物 高坏片は、墓廬埋土中出土。

備考 略長方形墓廬の対角線上に上墳主軸をとる。頭位は東で、ここに地山削り出しの枕部と朱が有る。



— L = 131.3m



53号土墳墓

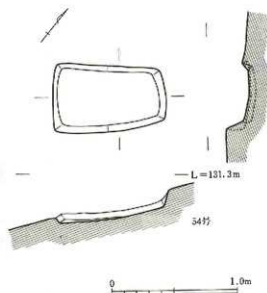
位置 3 E区

規模	棺 長辺	176cm
	短辺 (頭部巾)	35cm
	深さ	35cm
墓壇	長辺	230cm
	短辺 (頭部巾)	110cm
	深さ	12cm

主軸方位 N-46° - E

遺物

備考 頭位は北東。床面に施朱。



— L = 131.3m

54号土墳墓

位置 3 E区

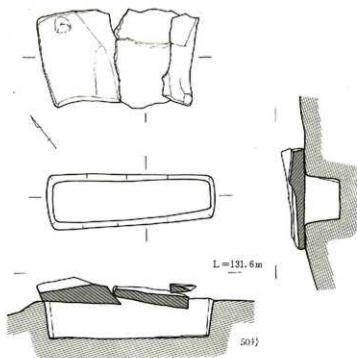
棺の規模	長辺	80cm
	短辺 (頭部巾)	42cm
	深さ	12cm

主軸方位 N-51° - E

遺物

備考 頭位は南西。

Fig. 51 53号土墳墓・54号土墳墓実測図



50号土墳墓（石蓋）

位置 3 E 区

棺の規模 長辺 125cm

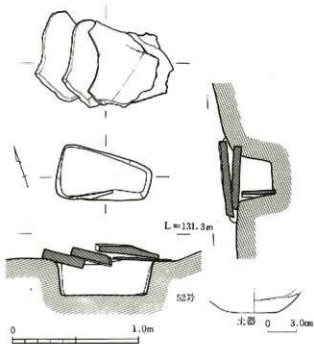
短辺（頭部巾） 29cm

深さ 29cm

主軸方位 N-70°-W

遺物

備考 頭位は西。53号土墳墓を切る。



52号土墳墓（石蓋）

位置 3 E 区

棺の規模 長辺 69cm

短辺（頭部巾） 37cm

深さ 28cm

主軸方位 N-57°-W

遺物 周辺からレンズ底の土器片出土。

備考 53号土墳墓を切っている。頭位は北西。

Fig. 50 50号土墳墓・52号土墳墓実測図

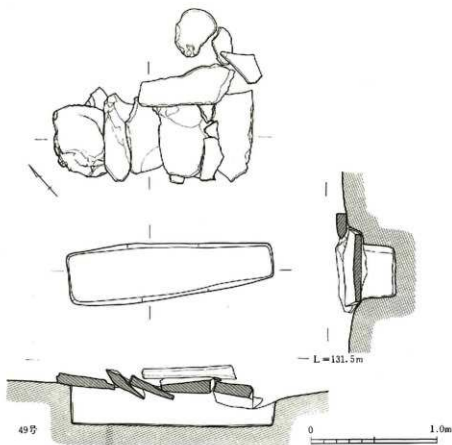


Fig. 49 49号土墳墓実測図

49号土墳墓 (石蓋)

位 置 3 E 区

棺の規模 長辺 160cm

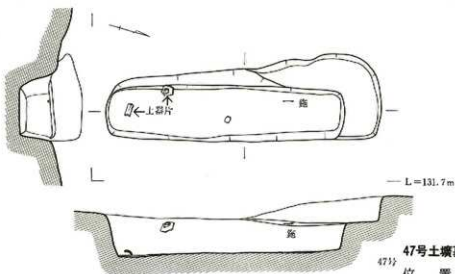
短辺 (頭部巾) 33cm

深さ 25cm

主軸方位 N-52°-W

遺 物

備 考 頭位は北西。



47号土墳墓

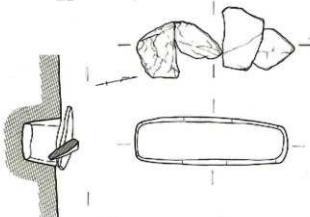
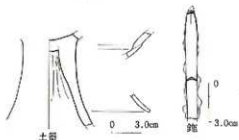
位置 2D区

棺の規模 長辺 183cm
短辺(頭部巾) 30cm
深さ 27cm

主軸方位 N-18°-W

遺物 鉢1、土器片。
鉢は床上30cmの位置で出土。土器は高坏。

備考 1号溝の東端に位置する。溝より後出すると判断したが確実ではない。



48号土墳墓(石蓋)

位置 2E区

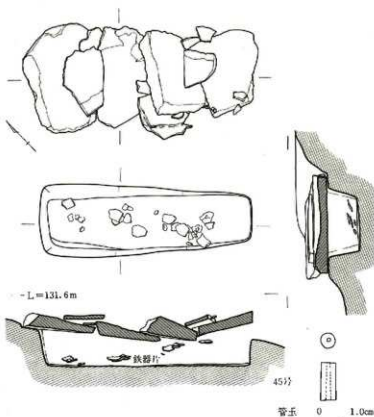
棺の規模 長辺 115cm
短辺(頭部巾) 26cm
深さ 26cm

主軸方位 N-13°-E

遺物

備考 頭位は北東。

Fig. 48 47号土墳墓・48号土墳墓実測図



45号土墳墓（石蓋）

位 置 3 D 区

棺の規模 長辺 160cm

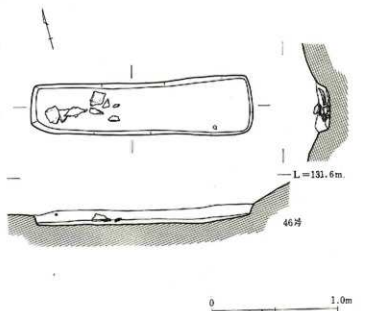
短辺（頭部巾）35cm

深さ 25cm

主軸方位 N-43°-W

遺 物 管玉1、鉄器器種
不明1。

備 考 2号（北側）溝中
にある。頭位は北
西。



46号土墳墓

位 置 3 D 区

棺の規模 長辺 169cm

短辺（頭部巾）41cm

深さ 10cm

主軸方位 S-73°-E

遺 物

備 考 2号（北側）溝内
に位置するが、そ
の先後関係は不明。

Fig. 47 45号土墳墓・46号土墳墓実測図

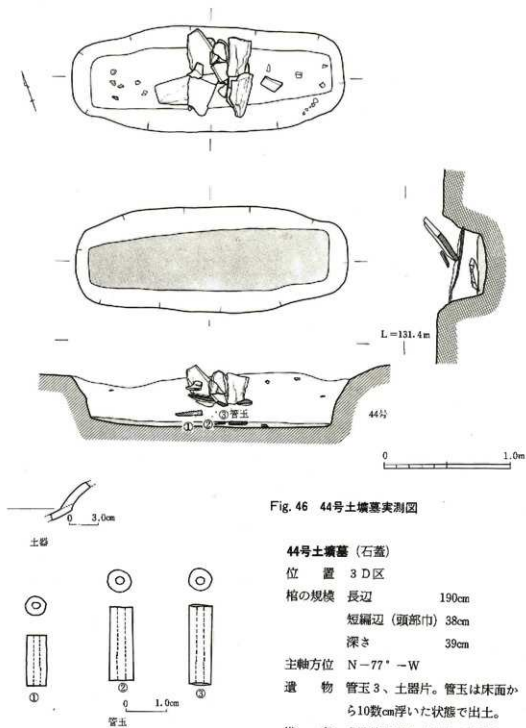


Fig. 46 44号土墳墓実測図

44号土墳墓（石蓋）

位 置 3 D 区

棺の規模 長辺 190cm

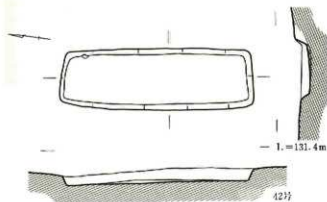
短幅辺（頭部巾）38cm

深さ 39cm

主軸方位 N-77°-W

遺 物 管玉3、土器片。管玉は床面から10数cm浮いた状態で出土。

備 考 土器片は埴土中出土で高坏。
5号方形墓は南側周溝の外側に位置する。床面施朱。



42号土墳墓

位置 3 D 区

棺の規模 長辺 144cm

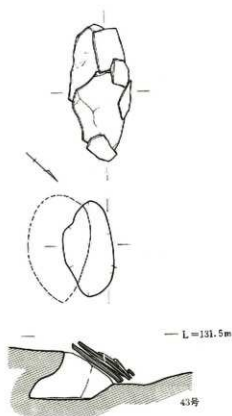
短辺 (頭部巾) 37cm

深さ 8 cm

主軸方位 N-12° -W

遺 物

備 考 5号方形墓南東隅に位置する削平が甚だしい。



43号土墳墓 (石蓋)

位置 3 D 区

棺の規模 長辺 75cm

短辺 (頭部巾) 中央30cm

深さ 35cm

主軸方位 N-55° -W

遺 物

備 考 5号方形墓周溝の南東隅に位置する。周溝の東側壁を斜めに掘り込み板石で蓋をする。5号方形墓に属するものであろう。



Fig. 45 42号土墳墓・43号土墳墓実測図

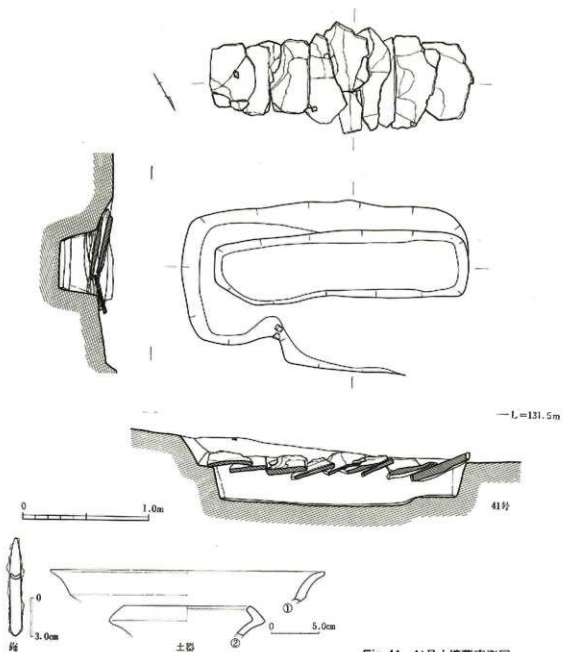


Fig. 44 41号土墳墓実測図

41号土墳墓 (石蓋)

位置 3 D 区

規模 棺	長辺	188cm
	短辺 (頭部巾)	35cm
	深さ	31cm
墓壇	長辺	240cm
	短辺 (頭部巾)	38cm
	深さ	20cm

主軸方位 N-60°-W

遺物 鈿1、土器片、逆くの字状口縁竈と高坏
で弥生後期中頃～後葉

備考 北西部に地山削り出しの枕部があり、頭
位。石蓋の重ね具合とも矛盾しない。

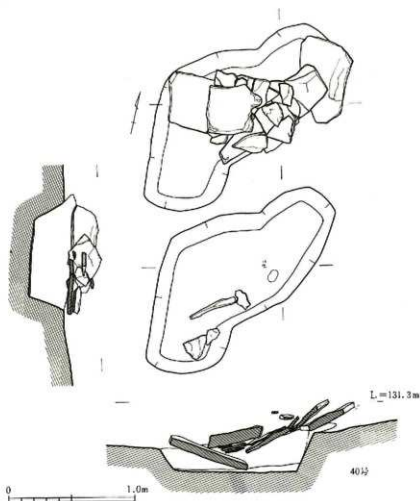


Fig. 43 40号土墳墓実測図

40号土墳墓 (石蓋)

位 置 3 D 区

棺の規模 長辺 170cm

短辺 (頭部巾) 34cm

深さ 30cm

主軸方位 N-48° - E

遺 物 器種不明鉄器片

備 考

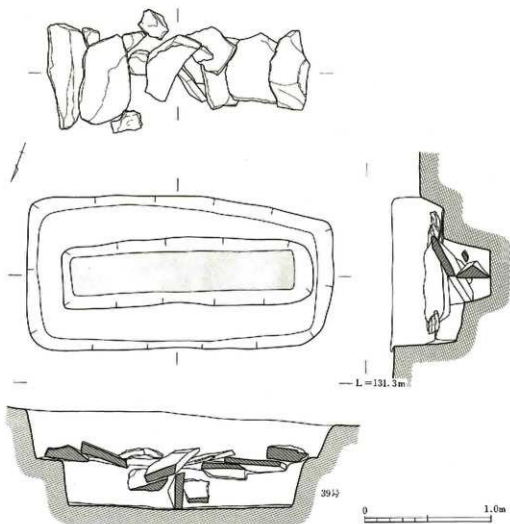


Fig. 42 39号土墳墓実測図

39号土墳墓 (石蓋)

位置	3 D区	墓壁 長辺	223cm
規模	棺 長辺	短辺 (頭部巾)	97cm
	短辺 (頭部巾)	深さ	35cm
	深さ		37cm

主軸方位 N-65°-E

遺物

備考 5号方形墓内に位置する。よろい重ねの石蓋からみて西
南側が頭位か? 床面は施朱。

36号土墳墓

位置 3D、4D区

規模 棺 長辺 158cm

短辺(頭部巾) 28cm

深さ 31cm

墓壇 長辺 (240) cm

短辺(頭部巾) 80cm

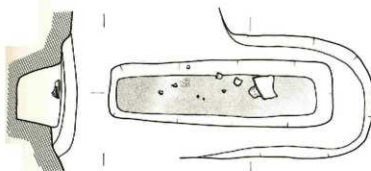
深さ 10cm

主軸方位 S-55°-E

遺物 埋土中から土器片出土。高
環脚部と坏部片で弥生中期
後期中~後葉。

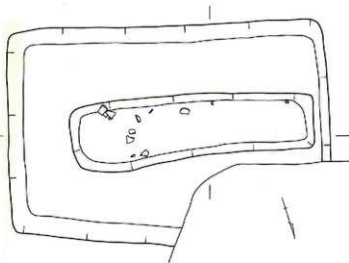
備考 5号方形墓内に位置する。
床面に施朱。

- L=131.3m



土器

0 5.0m



- L=131.3m

38号土墳墓

位置 3D区

規模 棺 長辺 180cm

短辺(頭部巾) 37cm

深さ 30cm

墓壇 長辺 233cm

短辺(頭部巾) 144cm

深さ 6 cm

主軸方位 S-87°-E

遺物 5号方形墓の主体部である37
号石棺に切られている。頭位
は東か?床面に施朱。

Fig. 41 36号土墳墓・38号土墳墓実測図

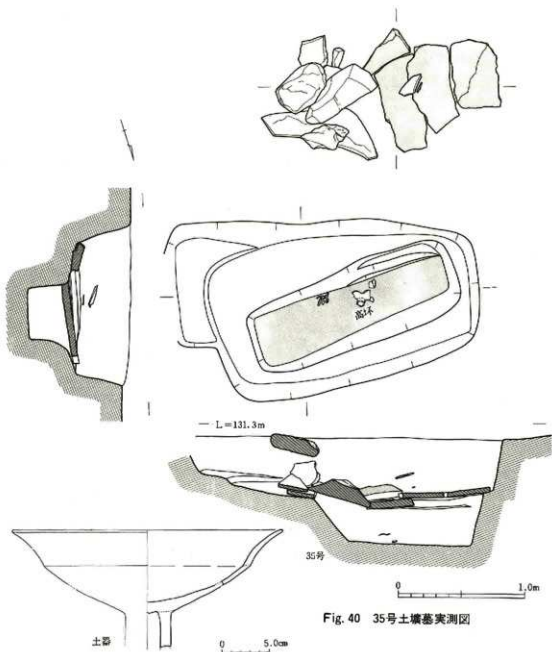


Fig. 40 35号土墳墓実測図

35号土墳墓（石蓋）

位置 3C区

規模 棺	長辺	158cm
	短辺（頭部巾）	40cm
墓室	深さ	34cm
	長辺	200cm
	短辺（頭部巾）	100cm
	深さ	47cm

主軸方位 N-82°-E

遺物 高環片。

備考 床面から約8cm浮いた状態で出土。完形品ではなく棺内に副葬されたものではなからう。弥生後期中頃に比定される。頭位は東か？。床面に施朱。

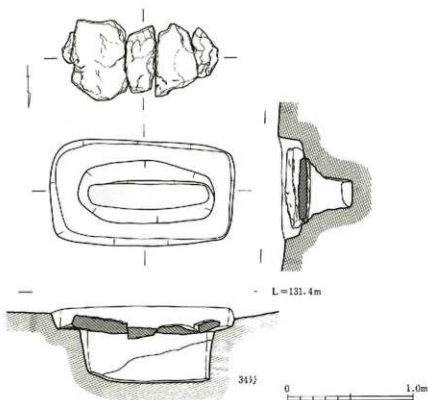


Fig. 39 34号土墳墓実測図

34号土墳墓 (石蓋)

位 置 3 C区

規 模 棺 長辺 100cm 墓坑 長辺 137cm

短辺 (頭部巾) 18cm 短辺 (頭部巾) 65cm

深さ 37cm 深さ 12cm

主軸方位 N-78°-W

遺 物

備 考 5号方形墓内にある。西側小口部は35号土墳墓に接している。この35号土墳墓は34号土墳墓を意識して営まれている。

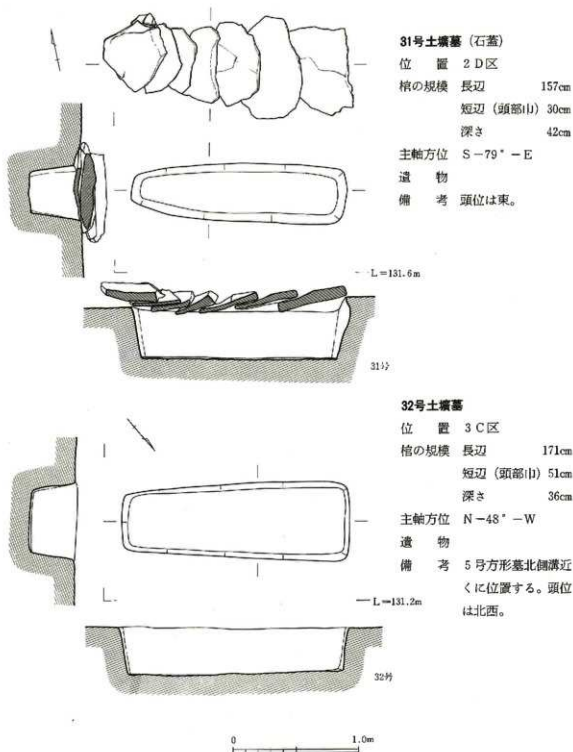


Fig. 38 31号土墳墓・32号土墳墓実測図

28号土墳墓

位置	2 C区
規模	棺 長辺 153cm
	短辺 (頭部巾) 40cm
	深さ 31cm
墓域	長辺 (230) cm
	短辺 (頭部巾) 94cm
	深さ 20cm

— L=131.3m

主軸方位 S-75°-E

遺物
備考

30号土墳墓 (石蓋)

位置	2 C区
棺の規模	長辺 179cm
	短辺 (頭部巾) 24cm
	深さ 43cm

主軸方位 S-84°-E

遺物 石蓋の間から土器片
出土、複合口縁壺
備考 頭位は東

— L=131.3m

0 1.0m

Fig. 37 28号土墳墓・30号土墳墓実測図

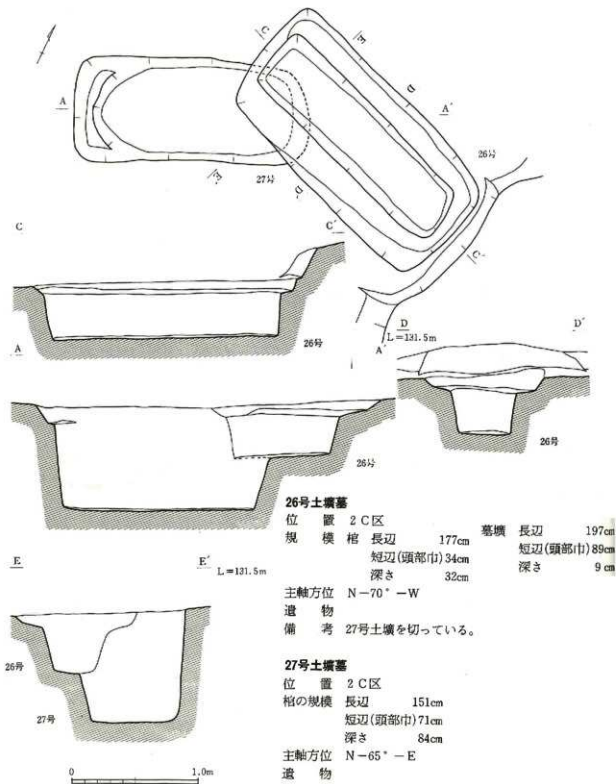


Fig. 36 26号土墳墓・27号土墳墓実測図

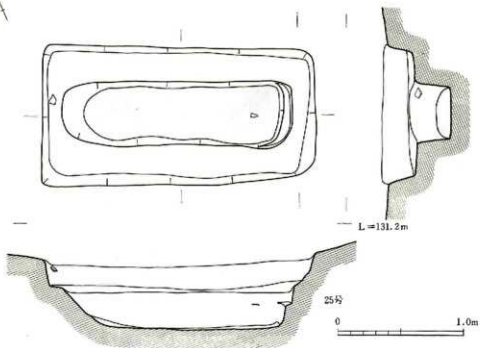


Fig. 35 25号土墳墓実測図

25号土墳墓

位置 2 C 区

規模 棺 長辺 154cm 墓壇 長辺 205cm

短辺 (頭部巾) 43cm 短辺 (頭部巾) 96cm

深さ 32cm 深さ 20cm

主軸方位 N-66°-W

遺物

備考 24号の東側でこれと縦に並ぶ、頭位は東？
床面に施朱。

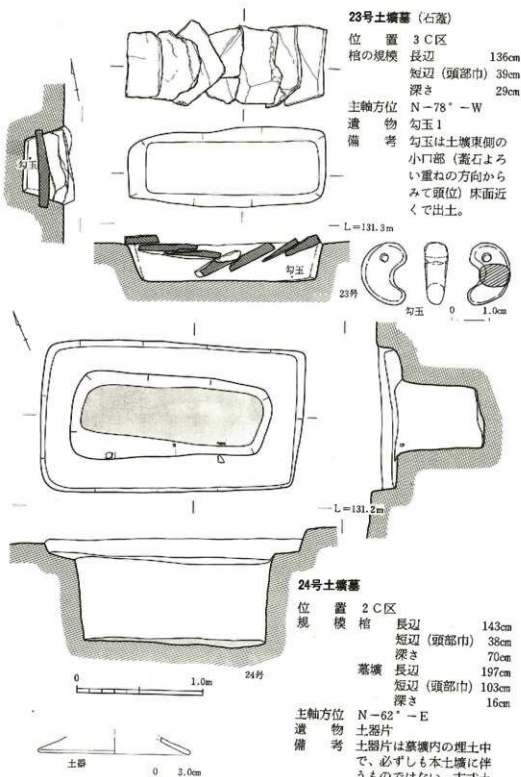


Fig. 34 23号土墳墓・24号土墳墓実測図

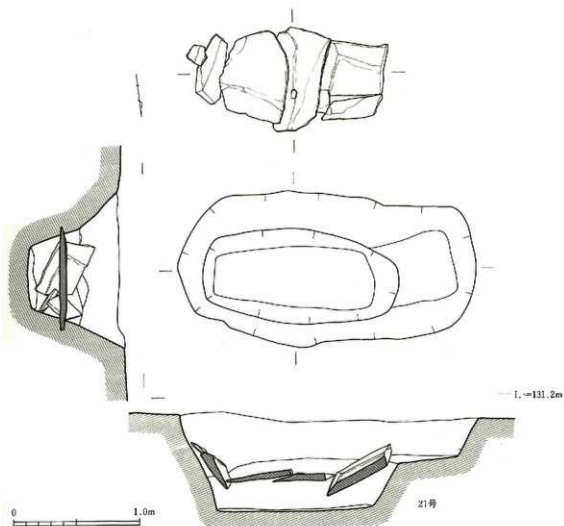


Fig. 33 21号土墳墓実測図

21号土墳墓 (石蓋)

	位置 3 B、3 C 区	墓室 長辺 (235) cm
	規模 棺 長辺 127cm	短辺 (頭部巾) 95cm
	短辺 (頭部巾) 45cm	深さ 32cm
	深さ 40cm	
	主軸方位 N-80°-W	
	遺物 ガラス小玉・8個	
	備考 頭位は西。水洗いで床面近くの埋土からガラス玉を検出	

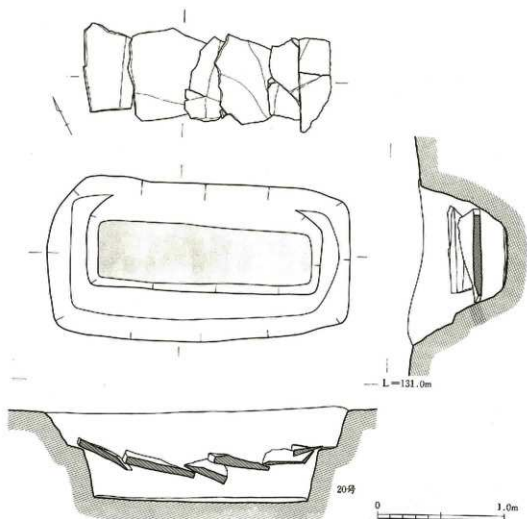


Fig. 32 20号土墳墓実測図

20号土墳墓（石蓋）

位 置 3 B区

規 模 棺 長辺 169cm 墓壇 長辺 212cm

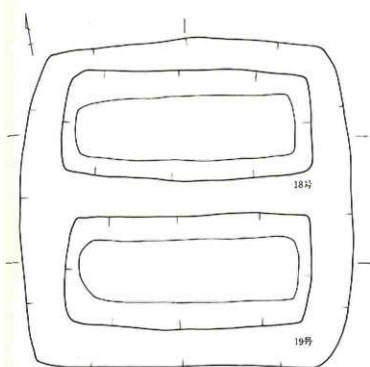
短辺（頭部巾） 43cm 短辺（頭部巾） 85cm

深さ 40cm 深さ 30cm

主軸方位 N-63°-W

遺 物

備 考 頭位は北西、床面に施朱。



— L=130.3m



18号

— L=130.3m



19号

0 1.0m

Fig. 31 18号土墳墓・19号土墳墓実測図

18号土墳墓

位置 3B区
 棺の規模 長辺 173cm
 短辺(頭部巾) 48cm
 深さ 61cm
 主軸方位 N-80°-W
 遺物
 備考

19号土墳墓

位置 3B区
 棺の規模 長辺 174cm
 短辺(頭部巾) 50cm
 深さ 45cm
 主軸方位 N-80°-W
 遺物
 備考 260cm×260cmの方形墓壇中に設けられている。3号方形墓の主体部とも考えられるが、詳細は後述。

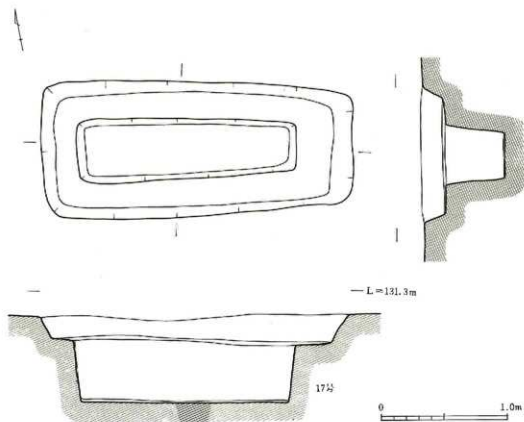


Fig. 30 17号土墳墓実測図

17号土墳墓

位置 2B区

規模 棺 長辺	161cm	墓壇 長辺	219cm
短辺 (頭部巾)	39cm	短辺 (頭部巾)	82cm
深さ	49cm	深さ	16cm

主軸方位 N-78°-W

遺物

備考 16号と隣接し、並行する。頭位も西で同一。

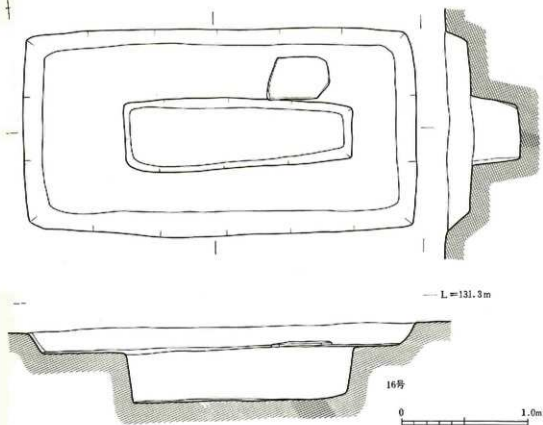


Fig. 29 16号土墳墓実測図

16号土墳墓

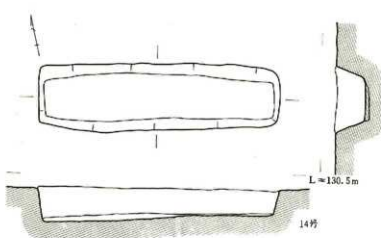
位 置 2 B 区

規 模 棺 長辺	169cm	墓 墳 長辺	279cm
短辺 (頭部巾)	32cm	短辺 (頭部巾)	128cm
深さ	40cm	深さ	18cm

主軸方位 N-85°-W

遺 物

備 考 17号と並ぶ。頭位は東か？本来石蓋であった可能性がある。



14号土墳墓

位置 2 A区

棺の規模

長辺 182cm

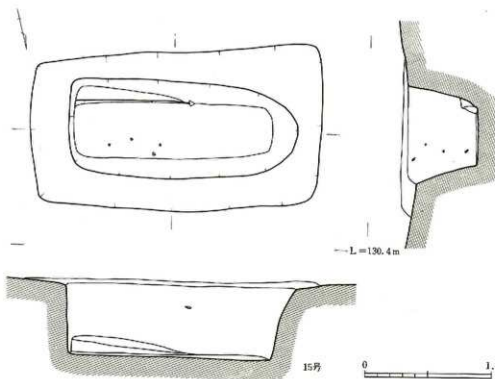
短辺 (頭部巾) 28cm

深さ 23cm

主軸方位 N-79°-W

遺物

備考



15号土墳墓

位置 3 A区

規模

棺 長辺 158cm

短辺 (頭部巾) 40cm

深さ 58cm

墓壇 長辺 230cm

短辺 (頭部巾) 120cm

主軸方位 S-76°-E

遺物

備考

Fig. 28 14号土墳墓・15号土墳墓実測図

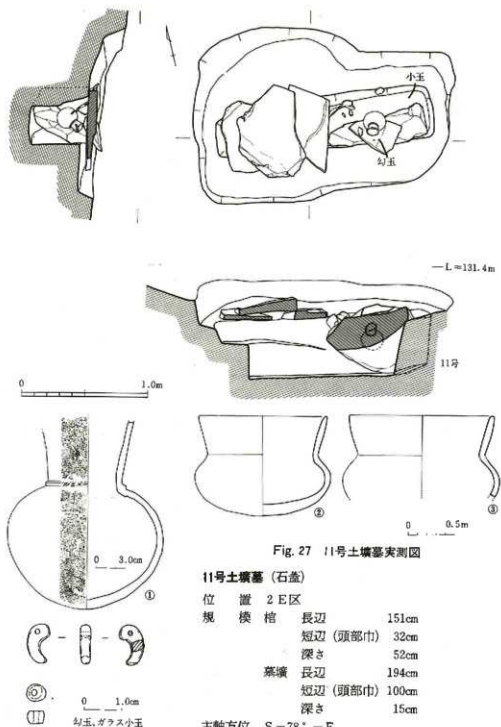


Fig. 27 11号土墳墓実測図

11号土墳墓 (石蓋)

位置 2 E区

規模	棺	長辺	151cm
		短辺 (頭部巾)	32cm
		深さ	52cm
墓壇	長辺	194cm	
	短辺 (頭部巾)	100cm	
	深さ	15cm	

主軸方位 S-78°-E

遺物 勾玉1、ガラス玉1、土器3個体で丸底壺

備考 10号、12号と一群をなす? 土器は石蓋の上に棺外副葬。勾玉は南東壁際の床面からやや浮いた位置で出土。

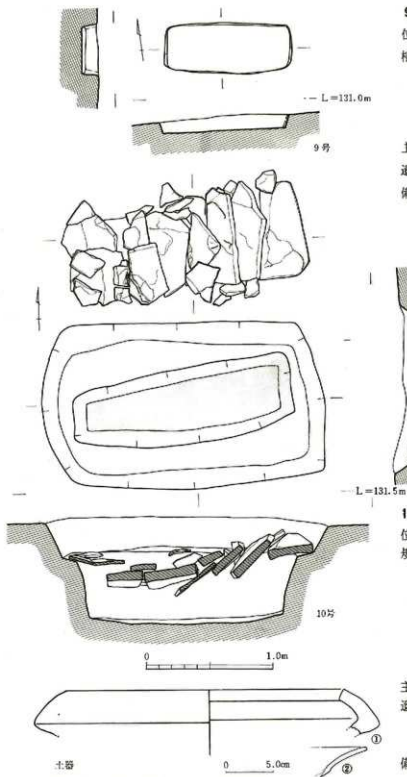


Fig. 26 9号土墳墓・10号土墳墓実測図

9号土墳墓

位置 2D区

棺の規模

長辺 96cm

短辺(頭部巾) 32cm

深さ 10cm

主軸方位 N-82°-W

遺物

備考

1号溝中に位置する。

10号土墳墓(石蓋)

位置 2E区

規模

棺 長辺 153cm

短辺(頭部巾) 34cm

深さ 51cm

墓壇 長辺 196cm

短辺(頭部巾) 100cm

深さ 30cm

主軸方位 S-75°-E

遺物 墓壇周辺から土器出土

①は逆くの字状口縁壺

②は高環の口縁部

備考 頭位は東側か。

土壇内床面に施朱。

7号土墳墓（石蓋）

位置 1E区

棺の規模

長辺 147cm

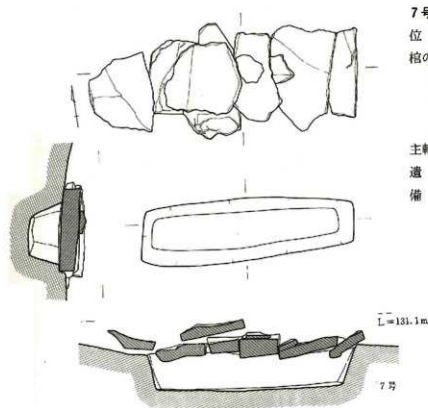
短辺（頭部巾）23cm

深さ 33cm

主軸方位 S-85°-E

遺物

備考 頭位は東



8号土墳墓（石蓋）

位置 1E区

棺の規模

長辺 159cm

短辺（頭部巾）22cm

深さ 35cm

主軸方位 N-75°-W

遺物

備考

よろい重ねた蓋石が残存しており、これからみて西側が頭位と考えられる。

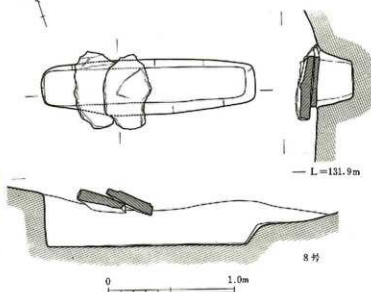


Fig. 25 7号土墳墓・8号土墳墓実測図

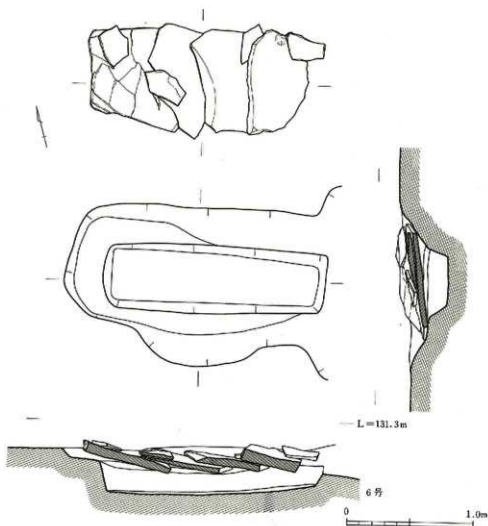
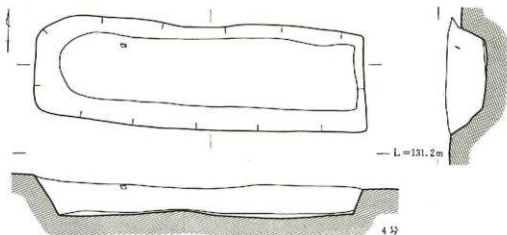


Fig. 24 6号土墳墓実測図

6号土墳墓 (石蓋)		墓壇 長辺	204cm
位 置	1 D区	短辺 (頭部巾)	73cm
規 模	棺 長辺	深さ	? cm
	短辺 (頭部巾)		38cm
	深さ		22cm
主軸方位 N-75°-W			
遺 物			
備 考 7号・8号とはば並んで、一群をなす。頭位を西側と考えれば、頭部から脚部へよろい重ねの石蓋をする。			



4号土墳墓 位置 1D区

主軸方位 N-90°-E

棺の規模 長辺 264cm
短辺(頭部巾) 50cm
深さ 20cm

遺物 土器片
備考 5号墓と約2m離れて並ぶ。

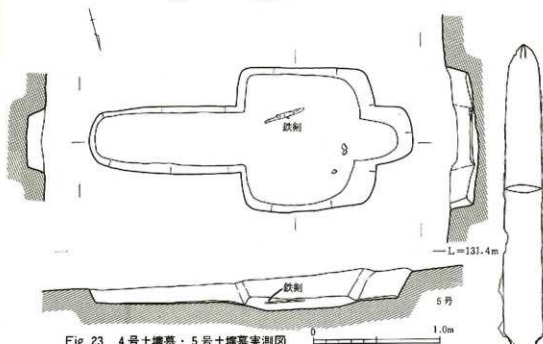


Fig. 23 4号土墳墓・5号土墳墓実測図

5号土墳墓

主軸方位 N-75°-W

位置 1D区

遺物 鉄剣1

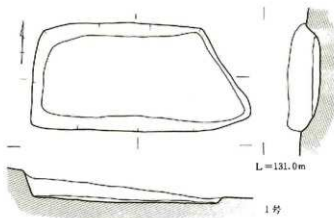
棺の規模 長辺 240cm

備考 鉄剣はほぼ床面で出土した。本例は、方形と隅丸長方形の土壇が切合ったものと考えられ、鉄剣は後者に属すと判断する。

短辺(頭部巾) 63cm

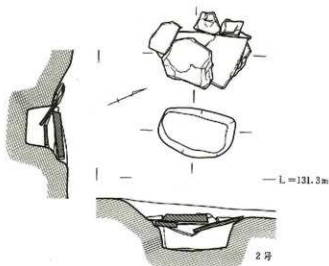
深さ 26cm





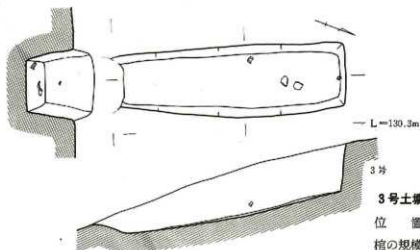
1号土墳墓

位置 1B区
 棺の規模 長辺 145cm
 短辺(頭部巾) 75cm
 深さ 15cm
 主軸方位 N-89°-E
 遺物
 備考



2号土墳墓(石蓋)

位置 1D区
 棺の規模 長辺 51cm
 短辺(頭部巾) 24cm
 深さ 23cm
 主軸方位 N-20°-E
 遺物 器種不明鉄器
 備考 1号方形墓の溝中に
 設けられている。



3号土墳墓

位置 1E区
 棺の規模 長辺 182cm
 短辺(頭部巾) 33cm
 深さ 39cm
 主軸方位 N-20°-W
 遺物 埋土に土器片
 備考 頭位は北か？

Fig. 22 1号土墳墓・2号土墳墓・3号土墳墓実測図

2 土 墳 墓

土墳墓とは、地面を掘り下げた素掘りの墓である。平面形や断面形は隅丸の長方形や、舟形を呈する。長い幅広の土墳を一段掘り、この中をさらに被葬者の身長等に合わせた規模の土墳をもう一段掘り下げてつくる場合がある。その場合、一段目の土墳を「墓墳」と呼び、死者を直接納める後者の土墳を「棺」と呼ぶことにする。本来は墓墳が設けられていたものでも、後世の削平等で、調査時には消失しているものも存在する。

土墳（墓）には、上面を石の蓋で覆っているものがある。調査時に、石蓋が検出されなくても、本来存在していた可能性もあり、そうした場合は、「失蓋土墳」と呼ぶ。勿論、もともと蓋の無いものもあり、これは「無蓋土墳墓」となる。

草場第二遺跡では、石蓋土墳墓の石材は、基本的には安山岩製の板石であり、これ以外の石材としては凝灰岩製の石材を用いた例が2例ある。後者の場合だけ特記する。

石蓋は石材の縁を順次重ね合わせたものと、縁を合わせただけのものがあり、前者を「よろい重ね」と表現する。石材は頭位と考えられる、小口幅の広い方から、足元とみなされる幅狭の小口方向に向って順次重ねるのを原則とする。石蓋の各石材や、蓋石と土墳上面の接触面には、白色の粘土で目張りや施した例も少なからず存在する。

土墳（棺）内には、床面や、側壁の下半等に赤色顔料が施されるものがある。蓋石の内面にも見られる。

墓墳内の埋土は黒褐色で、数例調査中に断面観察を試みたが、明瞭に上層の細分はできなかった。この埋土中や、石蓋のすき間等から、土器細片が出土する場合があり、可能な限り図示したが、土墳墓との関係や所属時期について、明確な判断を下せないものが多かった。

石蓋の上などにいわゆる「棺外副葬」された遺物や、棺内の副葬品を持つものもある。棺内は殆どすべての場合、流土（？）埋土等で埋まっており、床面近くまでは、作業員の移植スコップでの掘り下げを行なった。床面近くと判断した時点での埋土は、すべて水洗いを行なったところ、かなりの土墳から人骨片や歯、ガラス小玉等が検出された。

埋葬遺構における調査方法の再検討を痛感した次第である。

本遺跡においては、171基の土墳墓を検出した。後述するように、この171基すべてが、単独の土墳墓というわけではない。方形墓等の主体部と考えられるものも含んだ数字である。前述したようにこの百数十基の土墳は、調査区谷部に集中的に分布しており、あと方形墓東支群の範囲内に多く分布する。基本的には、大半の土墳墓の長軸は丘陵の等高線の流れにそってあり、残りがこれに直交する。各土墳墓は例外的な少数例を除けば切り合いを避けており、その位置関係は、①隣接し平行するもの、②一直線上に連なるもの、③近接しながらも各直交関係にあるものに大別できる。

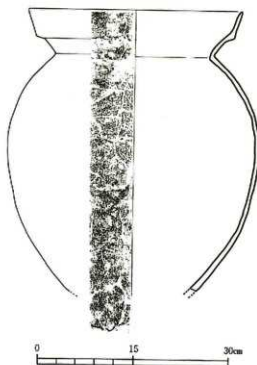


Fig. 21 201号壺棺実測図

201号壺棺		複合口縁壺。球状に近い胴部の外面は左下りの叩で、内面はへう削り。底部は欠損しているが丸底であろう。砂粒の少ない胎土で、色調は黄褐色。
器高	43.8cm以上	
口縁部外径	33.6cm	
底径	丸底？	

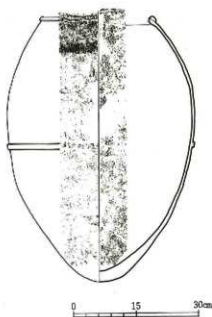


Fig. 20 180号壺棺・出土鉄剣実測図

180号壺棺

器高 63cm以上

口縁部外径 ?

底径 丸底

口縁部を欠くが、恐らく複合口縁になると思われる。胴部は卵形で丸底を呈す。頸部と胴部にベルト状の刻目突帯をめぐらす。内面は平滑ナデ、外面はハケメと平滑ナデ調整がみられる。内外面とも施朱。鉄剣は切先を下にして、壺棺に副葬されていた。現存長43cm。



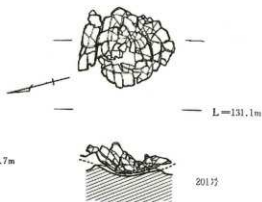
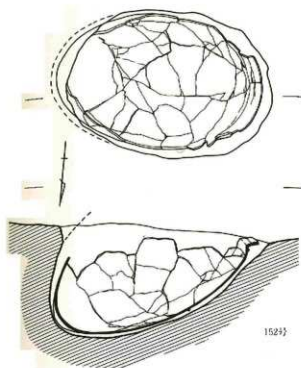


Fig. 19 152号甕棺実測図

152号甕棺

器高 119.2cm
口縁部外径 159.6cm
底径 8.0cm

截頭卵形の胴部とくの字状口縁部。頸部に尖り気味ながら断面台形状の刻目突帯、胴部に無刻目の三角突帯がめぐる。底部は小さな平底。内外面とも平滑ナデ仕上げしているが外面は一部ハケメが残存。



201号壺棺墓

位置 5 D区

主軸方位 $N-15^{\circ}-E$

傾斜角度 不明

備考 148号壺棺に隣接する。削平が甚しいが、水平に埋置していたらしい。

152号壺棺墓

位置 4 D区

主軸方位 $N-88^{\circ}-W$

傾斜角度 40°

備考 150号箱式石棺に切られている。一次墓壇は削平され、西方向に掘り込んだ二次墓壇に埋置。

180号壺棺墓

位置 6 E区

主軸方位 $N-90^{\circ}-W$

傾斜角度 47°

備考 9号方形墓の西側溝の上縁に掘り込まれた墓壇に上半部が削平された壺棺を埋置。鉄剣が副葬されていた。

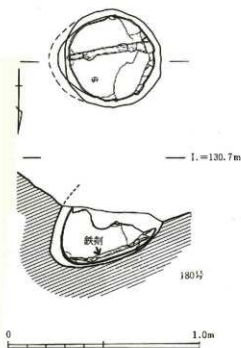


Fig. 18 152号壺棺墓・180号壺棺墓・201号壺棺墓実測図

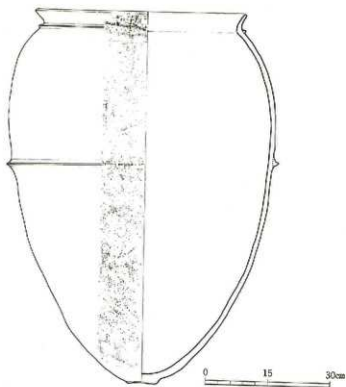


Fig. 17 154号甕棺実測図

154号甕棺

器高 90cm
口縁部外径 50.6cm
底径 7.0cm

細いくの字口縁で截頭卵形の胴部。底部は平底だが、小さく本来は丸底でこれに粘土を補充して形式的な底部をつくった感じである。突帯は断面三角形。内外面とも平滑な仕上げだが一部ハケメが残存。

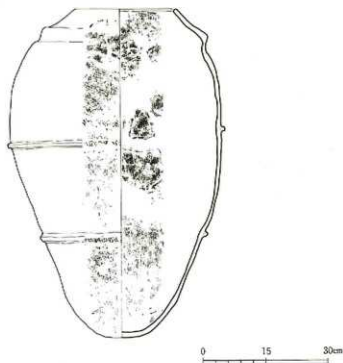


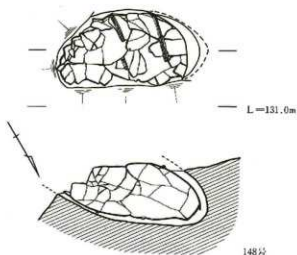
Fig. 16 148号壺棺実測図

148号壺棺

器高 76cm

口縁部外径 23cm

形の崩れた卵形胴部に、短い頸部と、内傾する長い口縁部からなる異形の土器棺である。胴部に断面コの字の刻目突帯をめぐらし、頸部と口縁部の接合部にも粗い刻目がある。外面は口縁部付近が平滑ナデ、それ以外は大きめの叩き目が斜めの方向に施される。内面はハケメ調整で、施朱。



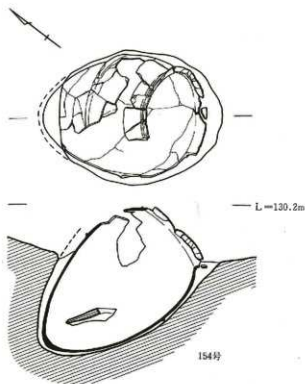
148号壺棺墓

位 置 5 D区

主軸方向 S-58°-E

傾斜角度 26°

備 考 147号土墳墓に切られて
いる。



154号甕棺墓

位 置 4 D区

主軸方向 S-38°-E

傾斜角度 40°

備 考 153号土墳墓の南西に隣
接する。石蓋の単棺と考
えられる。甕棺内には上
砂が詰っていたが、石蓋
の1部と考えられる板石
が底部付近で出土してお
り、内部が未だ空のとき
落下したものであろう。



Fig. 15 148号壺棺墓・154号甕棺墓実測図

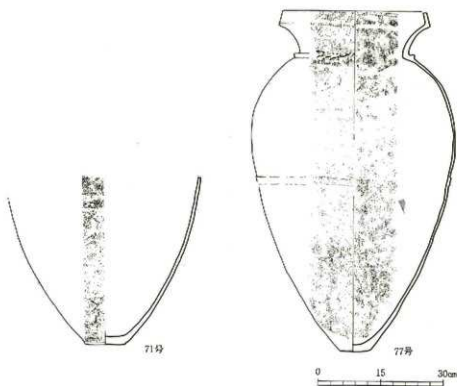


Fig. 14 71号甕棺・77号壺棺実測図

71号甕棺

器高

口縁部外径

底径 10cm

内外面平滑仕上げ。胴上半部を欠く。断面コ字形の突帯片が出土している。底部は平底。

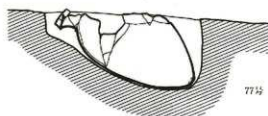
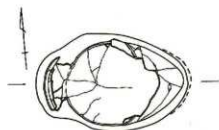
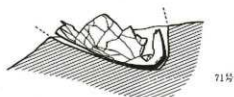
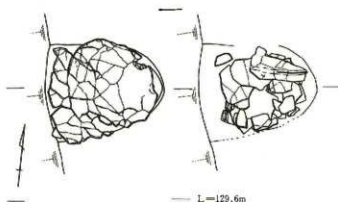
77号壺棺

器高 81.4cm

口縁部外径 34.6cm

底径 7cm

複合口縁壺形土器。頸部に粗い刻目の突帯。胴部の突帯は非常に扁平である。体部は肩部の振った截頭卵形。底部は凸レンズ状で不安定。外面は胴部突帯を含め、叩き目を施し、内面は平滑ナデ調整。



71号甕棺墓

位 置 4 E区

主軸方向 S-45°-W

傾斜角度 39°

備 考 69号、70号棺に近
接して出土。甕上
半部は削平。

77号壺棺墓

位 置 5 B区

主軸方向 N-85°-W

傾斜角度 36°

備 考 75号、78号土槨墓
の中間に位置する。
本来、失蓋の単棺
と考えられる。

Fig. 13 71号甕棺墓・77号壺棺墓実測図

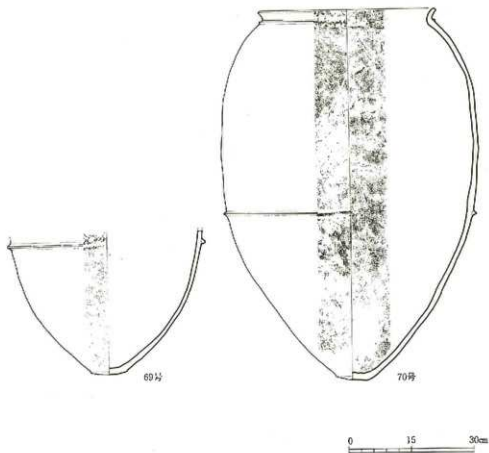


Fig. 12 69号甕棺・70号甕棺実測図

69号甕棺

上半部を欠くが、くの字状口縁、截頭卵形の器体、不安定なレンズ状底の小型棺である。断面コの字形の突帯と口縁部に刻目が施される。内外とも風化が甚だしいが、平滑に仕上げられているらしい。

70号甕棺

器高 88.4cm

口縁部外径 43cm

底径 7cm

短いくの字口縁、不安定な底部、断面三角形の突帯。茶褐色で胎土には砂粒を含出。内外面ハケメや平滑ナデ調整。

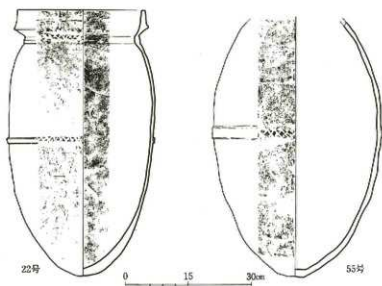


Fig. 10 22号壺棺・55号壺棺実測図

22号壺棺

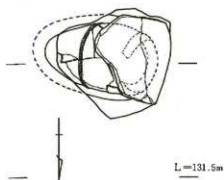
器高 63.2cm
口縁部外径 30.6cm
底部 丸底

直立する複合口縁、卵形の胴部、断面ベルト状突帯が特徴の壺形土器。突帯には×印形の刻目を施す。内面は細いハケ目調整、外面は口縁部を含めハケ目の後、平滑なナデ調整。茶褐色を呈し、焼成も良好。胴下半部外面に一部叩き目の痕跡あり。

55号壺棺

器高 60.5cm以上

口縁部を欠く。卵形の胴部中央に巾広く扁平な刻目ベルト状突帯を持つ。底部はわずかに上げ底気味の丸底。内外面は平滑に仕上げられている。



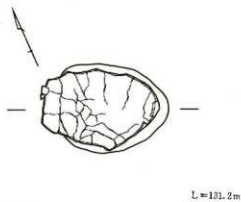
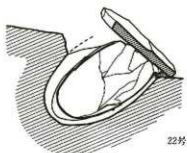
22号壺棺墓

位 置 3 C 区

主軸方位 $N-82^{\circ}-W$

傾斜角度 38°

備 考 21号、23号土壌墓の中間に位置する。単棺で安山岩板石の石蓋を用いている。



55号壺棺墓

位 置 2 E, 3 E 区

主軸方位 $N-65^{\circ}-W$

傾斜角度 不明

備 考 上半部は削平をうけている。丸底の甕形土器で、水平に近い傾斜で埋置されている。2号溝との切合関係は不明。

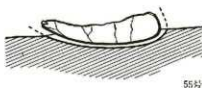


Fig. 9 22号壺棺墓・55号壺棺墓実測図

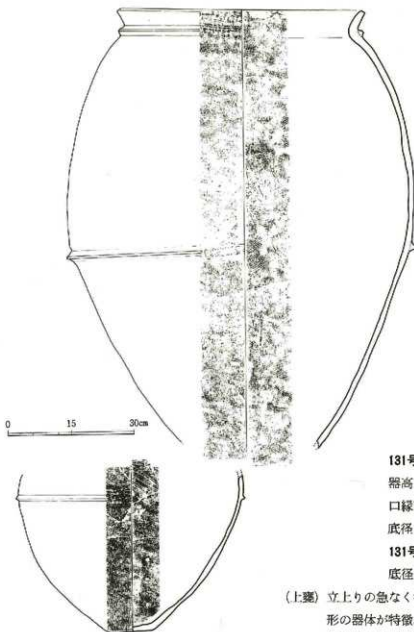


Fig. 8 131号甕棺実測図

131号甕棺（上甕）

器高 150cm以上

口縁部外径 59.4cm

底径 ? cm

131号甕棺墓（下甕）

底径 9.6cm

（上甕）立上りの急なく字口縁、截頭卵形の器体が特徴。断面台形状の突帯が頸部、胴部に巡る。内外ともハケ目調整。

（下甕）断面三角形突帯を胴部にめぐらし、内外ともハケ目調整。

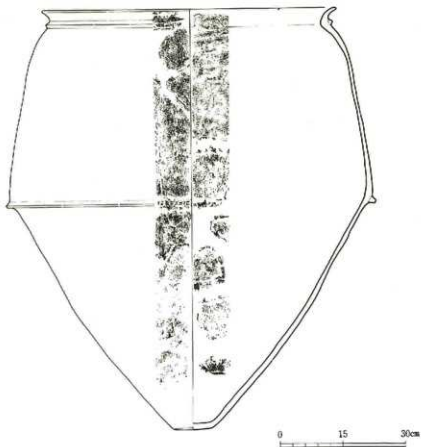
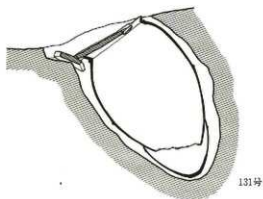
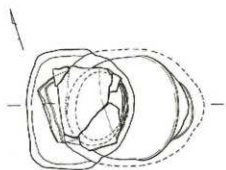
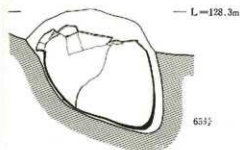
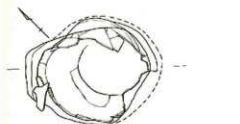


Fig. 7 65号甕棺実測図

65号甕棺

器高	100.4cm	胴上半分は口縁部に向けて
口縁部外径	6cm	内傾。口縁部は短く、外わ
底径	9.4cm	ん。尖端は細く尖り気味。
		頸部に断面三角形突帯、胴
		部には断面コ字状の刻目突
		帯をめぐらす。底部は不安
		定な皿状。内外面は粗いハ
		ケ目調整。焼成は良。胎土
		は茶褐色で砂粒を含む。



65号墓

位置 3 F 区

主軸方位 N-44° -W

傾斜角度 56°

備考 調査区南東の比較的急な斜面に位置する。64号箱式石棺墓、66号土坑墓と1群をなす。二次墳のみが残っている。単棺と考えられる。

131号墓

位置 4 D 区

主軸方向 N-73° -W

傾斜角度 54°

備考 90cm×90cmの隅丸方形を呈した一次墓壇の東壁を斜めに掘り下げた二次墓壇内に底部を打欠いた大甕を埋置していた。小型の甕で底部を覆う。
口縁部には一枚の安山岩板石が石蓋として用いられている。
遺物は未検出

Fig. 6 65号墓・131号墓実測図

1 甕棺墓・壺棺墓

甕棺墓および壺棺墓と称する墓は、素焼の土器を棺に用いて、死者を納めたまま地中に埋設するものである。本遺跡では埋葬用として特別に製作された大型成人用甕棺と、非成人用と考えられる壺棺の二種類が存在している。総数13基のうち、甕棺が7基、壺棺が6基である。すべて単棺で、二個体を合わせ口にした形式は見あたらない。131号甕棺では二個体の土器を用いていたが、大型甕の底部を、覆うようにもう一つの小型甕を用いており、所謂合わせ口の形式ではない。

甕、壺棺の配置をみてみる。先ず土墳墓群の北端に75号・78号土墳墓にはさまれた状態で77号壺棺墓が出土している。同様の状況で21号・23号両土墳墓の中間に22号壺棺墓が存在する。201号・148号両壺棺墓も、149号石棺墓や、147号土墳墓に関係したものと推測し得る位置にある。65号甕棺墓は、調査区南東のかなり傾斜のきつい斜面に営まれており、64号、66号両土墳墓と一群を成す。およそ10m離れた同じ南側斜面上に、69号・70号・71号の三基の甕棺が群として存在する。なかでも69号と70号甕棺は、より近接した位置関係にある。この一群よりもさらに10mほど北北西に、153号土墳墓と対をなすかのような状況で154号甕棺が検出されている。152号甕棺墓は、154号甕棺墓の北西約3mの場所にあり、明らかにその墓横は、150号箱式石棺墓に切られている。131号甕棺墓は、土墳墓群が集中する低い谷部が、東支群方形墓がある微高地状地へ漸移していくあたりに営まれており、これは5号方形墓の西側溝の下に位置する。130号土墳墓や、132号土墳墓と微妙に切り合いをさせており、何らかの関係があるものと思われる。以上の壺棺、甕棺墓は基本的に密集土墳墓群およびこれ以東の東支群地区に存在しているものであるが、例外的に西側支群の9号方形墓西側溝に、180号壺棺墓が一基確認されている。これは、発掘の所見では9号方形墓西側溝より、先行するものと判断されているが、方形墓との関連も否定し難い。ところで、草場第二遺跡における壺棺、甕棺の出土状況を検討すると、先ずそれらが大きく群集した、甕棺・壺棺墓群を形成していないことに気づく。土墳墓や、石棺等と小群を形成する傾向があり、しかも、出土例の中では時期的に遡ると考えられる大型成人甕棺墓の類でも、丘陵の最高所を占めておらず、土墳墓密集地区の谷部から東南側斜面上といった、立地上の「好地」とは考えられない地区に営まれているようである。壺棺で最新のものは、201号棺や、148号棺、22号棺、180号棺等のように完全丸底化した底部や、断面バルト状の刻目突帯等の特徴からみて、古墳時代初頭に比定されるものがあり、方形墓との関係を検討しなければならない。壺棺、甕棺はその大きさに合わせて掘られた墓横に、斜めに埋置されており、131号大型成人甕棺や、22号小児用壺棺例でみられるように、一枚の安山岩製板石を用いて、蓋をしている。

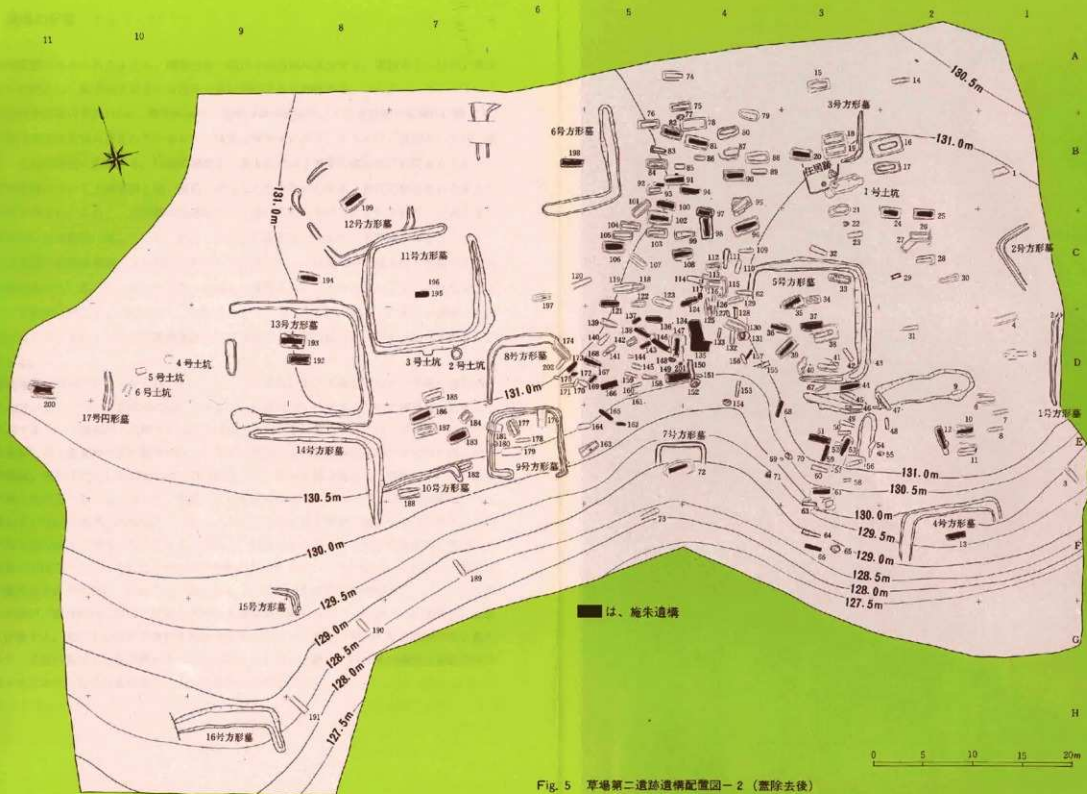
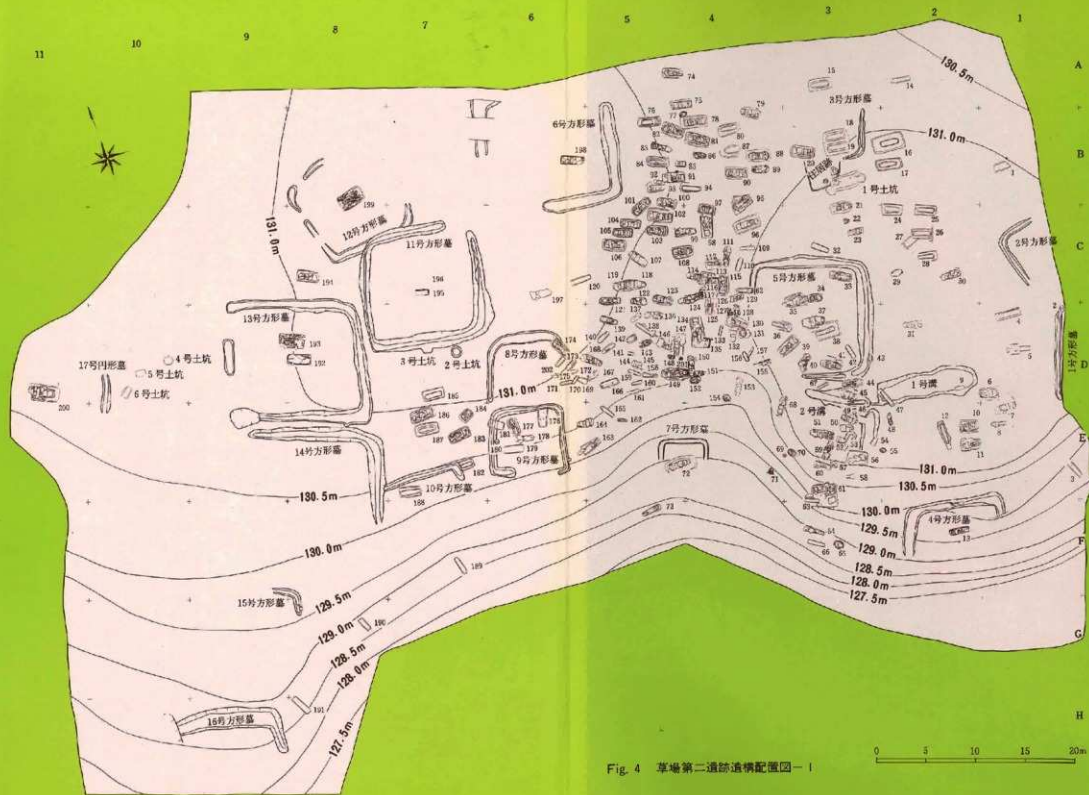


Fig. 5 草場第二遺跡遺構配置図-2 (雪除去後)



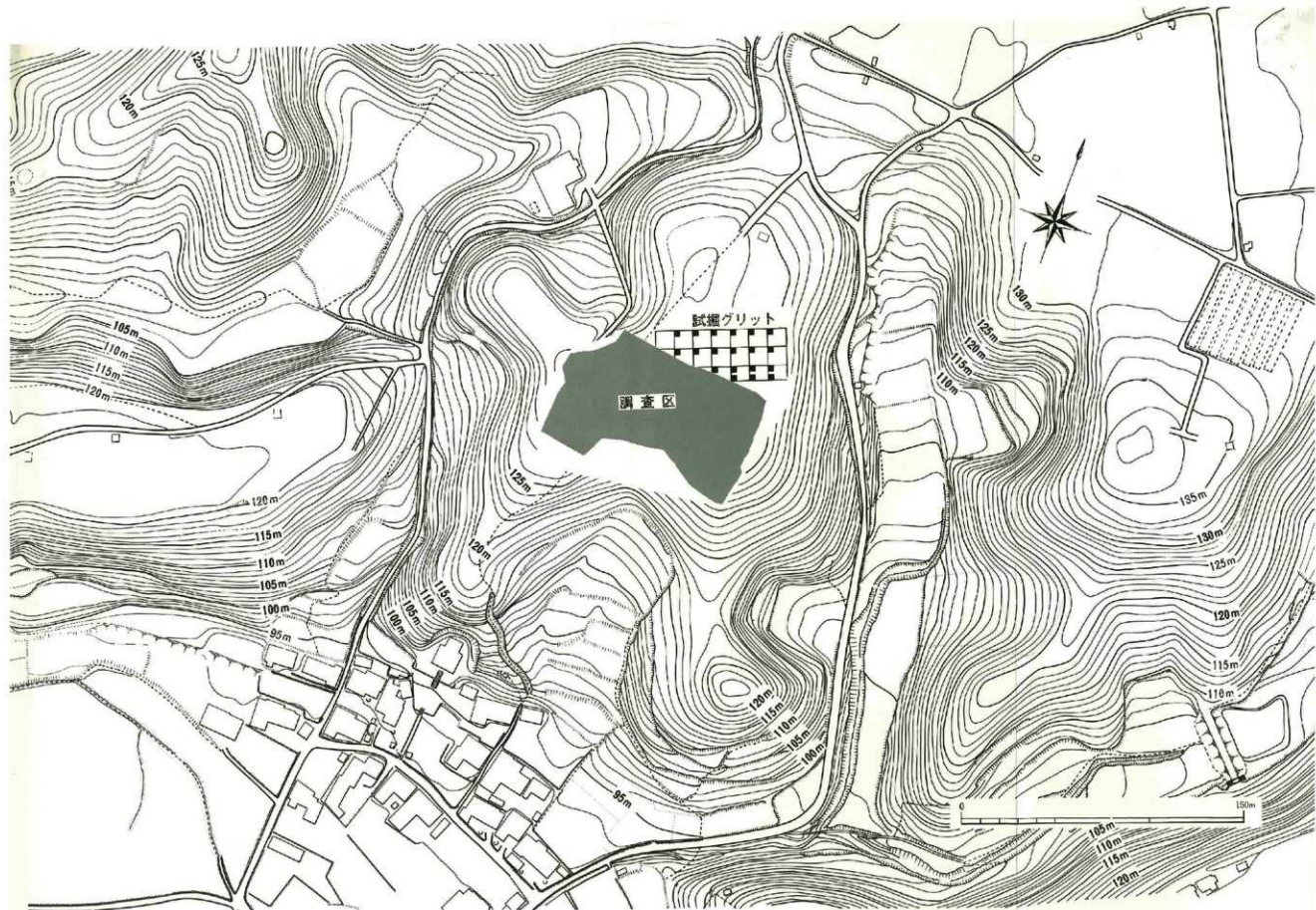


Fig. 3 草場第二遺跡地形図

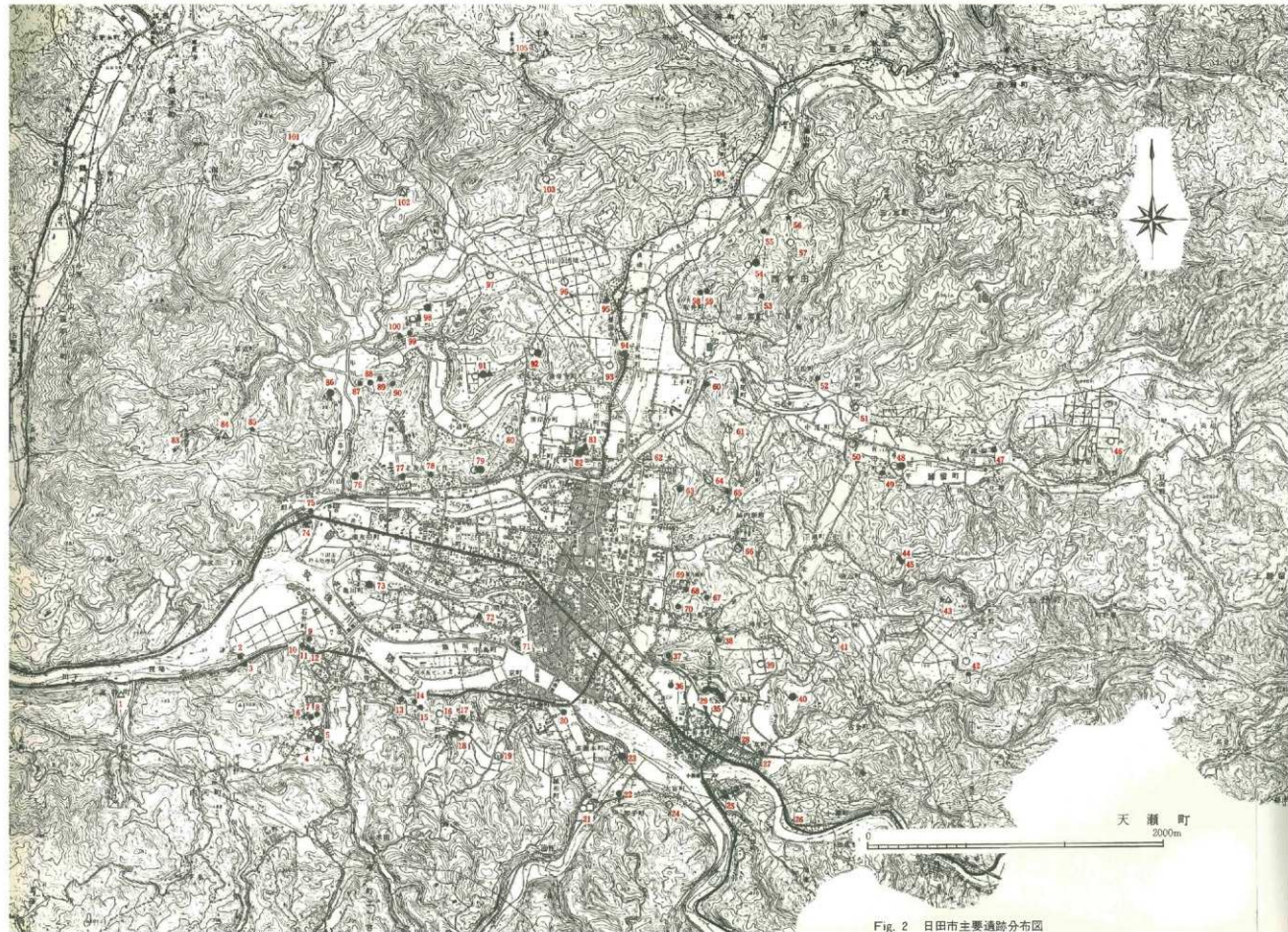


Fig. 2 日田市主要道路分布図

遺構の配置 (Fig. 4・5)

遺構配置図にみられるように、調査区を一辺10mの方格に区分する。東西を1～11列、南北をA～H列とし、各方格区は1-A区2-B区等のように呼称する。

調査対象区域は東西110m、南北80mで、面積はほぼ8,800m²となり丘陵の南側に位置する。方形墓は調査区全域に営まれているが、土墳墓は東半分にあり、とりわけ、東西3～5列、南北A～E列の範囲に密集する。13基の甕棺も、基本的には土墳墓の集中地区に営まれており、時期や性格について土墳墓群と強い関係があることをうかがわせる。箱式石棺はそれ自体として単独に営まれたものと、方形墓の主体部として設けられたものとに大別される。前者もまた土墳墓群の分布範囲に属している。前述したように調査区の西部や、南西部、および7～9-A区は後世の造園事業等による地山の削平が特に甚だしく、周溝等の遺構も殆ど削滅寸前の状態で検出されている。それ故、若干数は消滅した遺構もあったと考えられるが、土墳墓密集区のような状況は想定する必要は無い。試掘時の所見からみても、A列より北側では遺構は検出されておらず、まとまりのある墓地遺跡としては今回の調査区域内にはほぼすべておさまるものとする。

調査地区の微地形をもう少し詳しくみていくと、東西に伸びる調査区はその両端が微高地状を呈している。二つの微高状の部分にはさまれた位置は浅い谷状でここに土墳墓群が密集しているのである。土墳墓群の密集する浅い谷状部では方形墓は確認されておらず、今、便宜的ではあるがこの土墳墓群で方形墓を東西の二支群に大別する。調査地区西側、すなわち西支群の方形墓は、南側に突出した斜面上にも営まれている。各方形墓は接近して営まれているが基本的には、他の方形墓と切り合わず、整然とした配置を示す。方形墓の向きは、等高線の方に合致している。土墳墓は密集地区のものと、東西二支群の各方形墓に属するものの他に、南側のかなり急な斜面上に単体で存在するものがある。最後のものは、もともと方形墓等の墓域を持つ墳墓の主体部であったものなのか否か、判断のしようがない。小土坑としたものは、調査区の3箇所それぞれ離れて分布する。後述するようにその性格や所属時期は同一のものとは考えられない。奈良時代の竪穴住居跡と思われる遺構を一軒検出しているが、これは調査区北東隅に位置する。他にも同時期の遺物を数点表探しているが、遺構の検出状況や遺物の出土量からみて、多数の類似する住居跡があったとは考えられない。縄文、旧石器の遺物は遺跡全体で表探されており、特別な集中出土地点が存在するわけではなかった。

Ⅲ 遺跡の概要

遺跡は日田市清岸寺町大字亘理字本村の丘陵上に所在する。丘陵から南東を望めば、眼下に日田市街がひろがり、西方には、古墳時代前期の居館跡が発見された、小迫原台地が見下ろせる。標高120～130mの等高線に囲まれる丘陵頂部は比較的平坦で、その平面形はH字状となっている。横断道路本線はこの丘陵南半部をかすめながら南西から北東方向に伸びる。本地点はまた、丘陵南崖端を日田市街に南南に降りて行くインターチェンジ建設予定地でもある。

1983年度の試掘調査および84年、85年度の本調査の所見からみて、遺構は道路建設予定地内の（丘陵）南側に集中かつ限定されており、今回の調査によって墓地としての遺跡はほぼ完全に発掘したことになる。

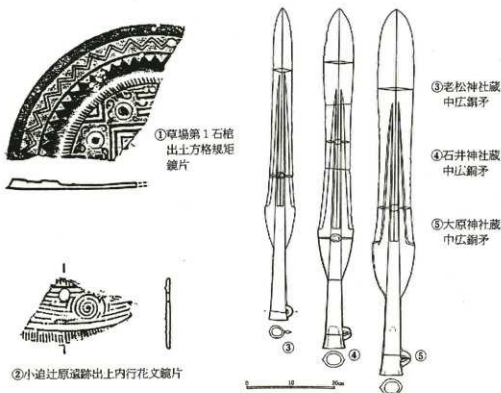
草場遺跡の主要な遺構は、弥生時代後期から古墳時代中葉にかけて営まれた各種の墓である。それは甕棺墓・壺棺墓13、土槨墓171、割竹形木棺墓1、箱式石棺墓7+ α 、小型竪穴式石室2、方形墓17+ α で、他に竪穴式住居跡、小土坑がある。表探遺物として旧石器時代に属する石器が数点確認されている。

本調査で特筆すべき点としては①後述するように弥生時代から古墳時代の中頃にかけて連続する埋葬墓地をほぼ完掘したこと。②方形墓等の主体部から多数の人骨が出土し、その埋葬順位や親族関係等についてのデータを得ることができたこと。③大分県において数少ない弥生時代的大型成人甕棺墓の調査例をつけ加えたこと等を挙げることができよう。

個別の遺構で言えば、線刻が施された標石を持つ石蓋土槨墓や、壺棺を打割って、その棺材を箱形に組合わせた土器棺等が注目される。遺物としては、県内最古式と考えられる（古式）須恵器をはじめ、銅釦、貝輪、小型仿製鏡等が出土しているが、概して優品を欠く。このこともまた、当地域における本遺跡の歴史的品格を物語る事実として重要な所見であろう。

なお、今回の報告書では遺構名称や遺構番号、遺構総数等においてこれまで刊行した概報の内容と異なる場合があるが、本報告書をもって正式なものとす。

部に持ち、蛇行剣を出上する。箱式石棺を主体部に持ち、日田盆地最古の円筒埴輪が表採された葉師堂山円墳は4世紀～5世紀前半代に比定される。同時期のものとして外に、粘土郭（割竹形木棺）から珠文鏡が出土した小迫円墳があり、主体部や規模、埴丘装飾等多様である。6世紀代の円墳としては大字日高にある法恩寺古墳群が著名である。7基からなる群集墳で、うち4号墳の場合単室の只字プランの横穴式石室が確認されている。内部からは須恵器、馬具（雲珠等）、変形5獣鏡などが出土している。6世紀前半代に比定されている。報恩寺3号墳は複室構造の横穴石室に赤色顔料を用いて円文、同心円文、騎馬人物、鳥などが描かれている。口田市内の装飾古墳としては外にも、ガランドヤ1号墳（複室プラン、同心円・船・馬・人物図等）同2号墳（単室？騎馬人物・同心円文・連続山形文等）穴観音古墳（複室、同心円・船・鳥・人物像等）が知られており、石室構造、装飾文様とも筑後地方の古墳文化と共通する要素が多い。



参考文献 小田富士雄「古代の日田－口田盆地の考古学－」（『九州文化史研究紀要』15集、1970）

賀川光夫『大分県の考古学』1971

日田市教育委員会編『法恩寺山古墳』1959

日田市教育委員会編『ガランドヤ古墳群』1986

番号	遺跡名	時代	備考	番号	遺跡名	時代	備考
1	川下遺跡	縄文時代	後期の土器出土	54	葛原遺跡	旧石器～古墳時代	S62年度市教委発掘調査
2	津江1号墳	古墳時代	横穴式石室露出	55	葛原古墳	古墳時代	円墳
3	津江2号墳	"	消滅	56	葛原遺跡	旧石器時代	敷布地
4	長者原遺跡	旧石器～古墳時代	横穴出土	57	"	弥生時代	"
5	"	"	S60.61年度市教委試掘調査	58	鎌ヶ池1号墳	古墳時代	円墳。直刀・土器出土
6	"	旧石器時代	敷布地	59	鎌ヶ池2号墳	"	円墳
7	穴蔵古墳	古墳時代	円墳。墓跡古墳	60	夕田横穴群	"	50基以上存在する
8	倉園古墳	"	消滅	61	佐寺原遺跡	弥生時代	龍右衛門
9	隠山古墳	"	跡式石棺	62	笠原山遺跡	奈良時代	古瓦出土
10	ガランドヤ2号墳	"	S59.60年度市教委発掘調査・総掘古墳	63	丸山古墳	古墳時代	円墳
11	ガランドヤ1号墳	"	"	64	玉陵原遺跡	弥生時代	敷布地
12	ガランドヤ3号墳	"	横穴式石室露出	65	水目横穴群	古墳時代	鏡・埴輪
13	護国寺1号墳	"	前方後円墳	66	城内遺跡	弥生時代	"
14	護国寺2号墳	"	円墳	67	丸尾神社古墳	古墳時代	円墳
15	護国寺3号墳	"	"	68	鹿野堂山古墳	"	円墳。円筒埴輪出土
16	上野原遺跡	弥生時代	横穴出土	69	大津原遺跡	奈良時代	古瓦出土
17	上野原古墳	古墳時代	消滅	70	丸尾古墳	古墳時代	円墳
18	上野原遺跡	弥生時代	"	71	日屋古墳	"	細頸式鉄器出土
19	降ヶ原遺跡	縄文～古墳時代	敷布地	72	日屋城跡	中世	"
20	能保古墳	古墳時代	S62年度市教委発掘調査・横穴式石室	73	徳瀬遺跡	弥生・古墳時代	S59年度市教委発掘調査
21	高瀬遺跡	弥生時代～中世	S63年度市教委試掘調査	74	星原横穴群	古墳時代	44基確認
22	池田原古墳	古墳時代	円墳。横穴式石室	75	星原丸古墳	"	S41年度市教委発掘調査
23	鉢岡遺跡	弥生～古墳時代	弥生・古墳時代	76	片山石棺	"	跡式石棺
24	大宮遺跡	弥生時代	横穴出土	77	北本田横穴群	"	S51年度市教委発掘調査
25	千人塚古墳	古墳時代	消滅	78	茨上横穴群	"	S54・S55年度市教委発掘調査
26	小ヶ瀬遺跡	縄文時代	"	79	坂上遺跡	弥生時代	S54・S55・60・61年度市教委調査
27	ダンワラ古墳	古墳時代	消滅(?)	80	"	"	"
28	黒寺(万巻)横穴群	"	鉄直刀等出土	81	永山城跡	江戸時代	"
29	法恩寺山1号墳	"	円墳。横穴式石室	82	月原横穴群	古墳時代	48基確認
30	法恩寺山2号墳	"	円墳	83	萩尾遺跡	旧石器時代	敷布地
31	法恩寺山3号墳	"	S32年度市教委発掘調査・円墳・総掘古墳	84	二半遺跡	旧石器・縄文時代	"
32	法恩寺山4号墳	"	円墳。横穴式石室	85	二半2遺跡	古墳時代	S60・61年度市教委調査
33	法恩寺山5号墳	"	円墳。横穴式石室	86	二半第1遺跡	旧石器・縄文	"
34	法恩寺山6号墳	"	円墳	87	小迫遺跡H区	古墳時代	S61・S62年度市教委調査 跡式石棺等
35	法恩寺山7号墳	"	"	88	小迫遺跡E・F区	"	"。円墳。横穴群
36	鬼塚	"(?)	古墳か(?)	89	小迫遺跡C区	"	"。横穴群
37	鳥羽塚古墳	"	円墳	90	小迫遺跡A区	"	"。横穴群等
38	北内古墳	"	円墳。横穴式石室	91	小迫上原遺跡	弥生・古墳時代	S61～63年度市教委調査 S62・63年度市教委調査
39	光宮原遺跡	弥生時代	横穴出土	92	草場第二遺跡	"	本報告
40	東寺原遺跡	古墳時代	敷布地	93	草場第一遺跡	弥生時代	方格埴輪・土器出土
41	下林遺跡	弥生時代	"	94	羽野横穴群	古墳時代	S59年度市教委発掘調査
42	小原遺跡	"	"	95	用松中村古墳	"	方墳(?)
43	松野原遺跡	旧石器・縄文時代	敷布地	96	用松原遺跡	弥生時代	敷布地
44	有田原第1号墳	古墳時代	円墳	97	山田原遺跡	"	"
45	有田原第2号墳	"	"	98	領目宮ノ原遺跡	弥生・古墳時代～中世	S39年度市教委調査 S62・63年度市教委発掘調査
46	須ノ原遺跡	弥生時代	敷布地	99	天満1号墳	古墳時代	前方後円墳。横穴式石室か? 石製土師器出土
47	城山古墳	古墳時代	前方後円墳。跡式石棺	100	天満2号墳	"	前方後円墳
48	平瀬遺跡	弥生時代～中世	S63年度市教委発掘調査	101	田代遺跡	旧石器時代	敷布地
49	平島古墳	古墳時代	円墳	102	遺跡名不詳	縄文時代	"
50	杜町遺跡	弥生時代	敷布地	103	"	弥生時代	"
51	小瀬原遺跡	"	"	104	上ノ原遺跡	"	"
52	野田古墳	古墳時代	円墳。消滅 跡式石棺出土	105	千倉遺跡	旧石器時代	敷布地
53	寺城古墳	"	円墳				

Ⅱ 位置と環境

草場遺跡は大分県日田市清岸寺町本村に所在する。本遺跡を擁す日田盆地は、大分県の北部に位置し、その西部は福岡県に接している。周囲は一尺八寸山や五条殿、岳城鬼等700～1,200 mの山岳に囲まれているが、盆地中心部は標高100 m台の台地群と、それ以下のとで構成されている。盆地中央部を貫流する三隈川や、これに流れ込む花月川、高瀬川、大肥川等の大小支流は、“水郷日田”と称されるほどの景観をかもし出している。

日田市は、昭和15年および昭和30年の町村合併で県内4番目の市として発足し、面積270.78 km²、人口6万3,968人を数える。明治元年～4年までは日出県、それ以降は大分県に編入され今日に至っている。

江戸時代には毛利高政の統治から幕府領へと引き継がれ、西国郡代として九州統治の中心となっていた。文祿2年の豊臣秀吉による豊後の没収まで、この地は大友氏によって統治されており、さらにそれ以前は大蔵（後、日田氏と称す）氏の領するところであった。古代においては、「旧事記」国造本紀比多国造の記さいがあり、日田郡の郡司としては、天平9年（737）の豊後国正税帳や、「豊後国風土記」等に散見される日下部氏一族が存在したものと考えられている。

古墳時代の日田盆地については、考古学的所見をもって推測するしかない。小田富士雄をはじめとし、真野和夫、後藤宗俊各氏による主要古墳群の分布状況と、「豊後国風土記」および「和名抄」による日田郡を構成する石井・刃連・亘理・在田・夜開の律令時代各郷との地名比定による研究が存在する。

それらのうち、石井郷、刃連郷、在田郷、亘郷については各説ともおおかたのところ一致している。夜開郷については、大肥川周辺の夜明町に比定する小田富士雄、渡辺澄夫案と、亘郷と有田郷のあいだの花月川周辺を想定する後藤宗俊案が存在する。いずれとも決しがたい。

これらの各郷域に対応するように盆地内の有力古墳が存在していると考えられている。前段階の弥生時代の遺跡は（A）盆地を取り巻く台地上に立地するもの（B）盆地内部を流れる河川が形成する自然堤防等の微高地上に立地するものと大別される。Aとしては吹上遺跡、小迫辻原遺跡、山田原遺跡、朝日宮ノ原遺跡等があり、Bとしては徳瀬遺跡を挙げる。A、Bとも弥生前期の後半から出現しており、弥生式土器、挟入片刃石斧、有柄式石剣、石盾丁、後漢時代の方格規矩鏡片、袋状貯蔵穴、大型成人用甕棺などが伴う。弥生式土器は筑後地方や豊前南部地域の影響を受けたもので、豊後東部の影響は殆ど認められない。北部九州を中心に分布し、遠賀川以东の豊前地方にはしられていない墓制である大型成人甕棺の存在からも、当地の弥生文化が筑後地方を介して北部九州弥生文化に連なることを傍証し得よう。古墳時代では、護国寺1号墳、天満1号墳、天満2号墳、城山古墳の4基の前方後円墳をはじめ多くの円墳が存在する。護国寺1号墳は丘陵尾根上に在り、全長30 mを測る。前方部が後円部より低く古式の様相を帯びている。5世紀代の円墳と考えられている姫塚古墳は小型の堅穴石室を主体

2 調査の組織

調査の組織は次のとおりである。

昭和58年度

調査主体 大分県教育委員会
調査指導員 賀川 光夫（別府大学文学部教授・大分県文化財保護審議会委員）
小田富士雄（北九州市立考古博物館館長・大分県文化財保護審議会委員）
調査員 大分県教育委員会
教育長 手嶋 誠一
文化課課長 秋吉 辰郎
文化財専門員 後藤 宗俊
主任 清水 宗昭
主事 芝 徹
嘱託 栗焼 憲児
補助員 小野 信彦

昭和60年度

調査主体 大分県教育委員会
調査指導員 賀川 光夫（別府大学文学部教授・大分県文化財保護審議会委員）
小田富士雄（北九州市立考古博物館館長・大分県文化財保護審議会委員）
森 貞次郎（九州産業大学教授）
西谷 正（九州大学助教授）
調査員 永井 昌文（九州大学医学部教授）
田中 良之（九州大学医学部解剖第二講座）
土肥 直美（ ）
大分県教育委員会
教育長 藤井 義美
文化課課長 高塩 至
文化財専門員兼埋蔵文化財係長
後藤 宗俊
主任 清水 宗昭
主任 高橋 徹
主事 西 哲弘
嘱託 桑原 幸則・永松みゆき

昭和59年度

調査主体 大分県教育委員会
調査指導員 賀川 光夫（別府大学教授・大分県文化財保護審議会委員）
小田富士雄（北九州市立考古博物館館長・大分県文化財保護審議会委員）
下條 信行（西南大学特認助教授）
大分県教育委員会
教育長 手嶋 誠一
文化課課長 高塩 至
文化財専門員兼埋蔵文化財係長 後藤 宗俊
主任 清水 宗昭
主任 芝 徹
主事 西 哲弘
嘱託 桑原 幸則
補助員 小野 信彦
岩沢 安見（別府大学）

年度は他にも併行してNo.3 調査地点（小迫原地区）、No.5、No.6（朝日第1、第2地区）No.7（二串地区）No.11地点（祝原地区）、日田条里跡の試掘を実施したため、草場遺跡の全面的な本調査が不可能であったからである。

1985年は、新たに他の試掘調査および小迫原遺跡の本調査を行ないながら、草場第二遺跡の調査を続行し、年度内においてこれを終了した。調査中、道路公団日田事務所の各位、日田市長、同教育長、議員諸氏、市内の小・中学校生他多数の市民が見学に訪れ、古代日田への関心と興味が広く深いものであることを知らされた。また故小林行雄博士をはじめ、森貞次郎、小田富士雄、下條信行、水野正好諸氏の来訪をうけ、有益な御助言、御教示を頂いた。ここに謝意を表す次第である。

1 調査期間

草場第二遺跡

1983年度	試掘調査
1984年度	本調査
1985年度	本調査



上・左 遺構検出作業
下・左 遺構検出時
上・右 試掘トレンチ掘下げ
下・右 遺構実測作業

I 調査に至る経過

九州横断自動車道は、長崎－佐賀－福岡－大分を結ぶ高速自動車道である。このうち、長崎県大村市から大分県日田市にかけての基本計画は1969年1月22日に決定され、1973年10月19日には佐賀県鳥栖市～大分県日田市中心について国の施行命令が出された。大分県教育委員会は、日本道路公団福岡建設局の委託を受け、1974年5月から建設予定路線内の分布調査を開始した。この結果十数ヶ所の遺跡および遺跡推定地を確認し、道路公団との協議を重ねた。この協議においては、周知の重要遺跡を路線から除外すべく、ルートの最後決定に配慮を求めた。1983年5月以降は、決定された路線区内の遺跡および遺跡推定地の試掘、または本調査を実施している。1983年度は、No.1～3、No.8、No.9、No.12～14の8地点を試掘調査し、そのうちNo.9地点二串西原遺跡を本調査した。今回報告分の草場第二遺跡もこの年度の試掘調査で見えられたものである。

草場第二遺跡は、試掘時点まで果樹園として利用されており、数年前の造園工事に際して石棺が検出されたと伝えられていた。1983年3月に調査第2地点と名づけ、この地区の試掘を実施すると、北東部において溝状の遺構が検出され、西部では上記の石棺を再発掘することができた。石棺からは当時の関係者によって再埋納された人骨と、棺外副葬された須恵器、土師器の一括品が出土した。翌、1984年は、台地南側の雑木林跡を対象に試掘溝を入れたところ、石棺、土壌墓、方形周溝墓等の遺構を多数検出したため、その一部につき本調査を開始した。当

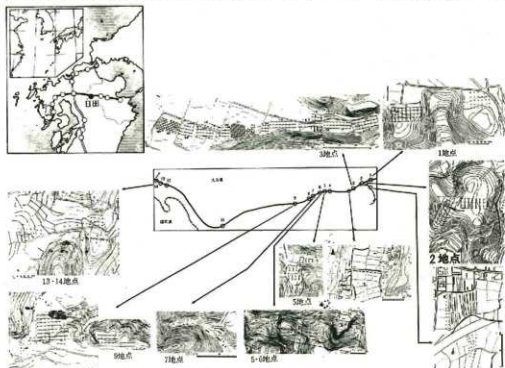


Fig. 1 調査位置図

PL. 132	199号石室出土鉄鍔、刀子
PL. 133	草場第二遺跡出土玉類 (1)
PL. 134	草場第二遺跡出土玉類 (2)
PL. 135	草場第二遺跡出土玉類 (3)
PL. 136	13号方形墓第1主体部 (192号) 出土玉類 (1)
PL. 137	13号方形墓第1主体部 (192号) 出土小玉 (2)
PL. 138	13号方形墓第1主体部 (192号) 出土櫛、同周溝出土銅劍
PL. 139	97号石棺墓出土貝釧
PL. 140	5号方形墓周溝出土土器
PL. 141	11号土壇墓出土土器
PL. 142	91号土壇墓出土土器
PL. 143	11号方形墓周溝出土土器
PL. 144	13号方形墓周溝出土土器 (1)
PL. 145	13号方形墓周溝出土土器 (2)
PL. 146	13号方形墓周溝出土土器 (3)
PL. 147	13号方形墓周溝出土土器 (4)
PL. 148	17号円形墓主体部の棺外副葬土器
PL. 149	草場第二遺跡表採石器 (1)
PL. 150	草場第二遺跡表採石器 (2)
PL. 151	草場第二遺跡150号石棺墓東側表採、ガラス小玉
PL. 152	草場第二遺跡表採土器
PL. 153	草場第二遺跡表採仿製鏡
PL. 154	5号方形墓第一主体部 (37号石棺) 出土人骨
PL. 155	5号方形墓第1主体部 (37号石棺) 出土1号人骨抜歯痕
PL. 156	51号石棺出土人骨
PL. 157	13号方形墓第1主体部 (192号) 出土3号人骨

表 目 次

表1	草場第二遺跡甕棺墓・土壇墓・石棺墓等一覧表	248
表2	草場第二遺跡出土玉類一覧表	257
表3	草場第二遺跡出土玉類計測表	258

- PL. 100 148号壺棺
- PL. 101 154号甕棺
- PL. 102 152号甕棺
- PL. 103 180号壺棺
- PL. 104 201号壺棺
- PL. 105 5号土墳墓出土鉄剣
- PL. 106 33号石棺墓出土鉄鏃
- PL. 107 33号石棺出土鉄鏃、鉈
- PL. 108 41、47、59、60号土墳墓出土鉄器
- PL. 109 51号石棺墓出土鉄鏃、鉄剣
- PL. 110 68号土墳墓出土刀子、72号土墳墓出土鉈
- PL. 111 94号土墳墓出土鉄鏃、99号土墳墓出土鉄剣、鉄鏃
- PL. 112 103号土墳墓出土鉄剣、111号土墳墓出土鉈
- PL. 113 121号土墳墓出土鉄斧、鉄鏃、鉈
- PL. 114 129号土墳墓、147号墳墓、150号石棺墓、139号土墳墓、145号土墳墓、
173号土墳墓出土鉄器
- PL. 115 180号壺棺墓出土鉄剣
- PL. 116 192号石棺 出土鉄鏃
- PL. 117 192号石棺 出土鉄鏃
- PL. 118 192号石棺 出土鉄鏃
- PL. 119 192号石棺 出土鉄鏃
- PL. 120 192号石棺 出土鉄鏃
- PL. 121 192号石棺 出土鉄鏃
- PL. 122 192号石棺 出土鉄鏃
- PL. 123 192号石棺 出土鉄鏃、刀子
- PL. 124 192号石棺 出土鹿角製刀子
- PL. 125 192号石棺 棺外出土鉄鏃
- PL. 126 192号石棺 出土鹿角製刀装具
- PL. 127 192号石棺 出土鉄剣、鉄刀
- PL. 128 193号石室出土鉄鏃(左)、197号土墳墓出土鉄剣
- PL. 129 197号土墳墓出土鉄鏃
- PL. 130 197号土墳墓出土鉄鏃
- PL. 131 197号土墳墓出土鉄鏃、刀子

PL. 67	4号方形墓主体部
PL. 68	5号方形墓とその周辺
PL. 69	5号方形墓全景、西側溝出土の土器
PL. 70	5号方形墓主体部
PL. 71	6号方形墓周溝および遺物出土状況
PL. 72	6号方形墓主体部
PL. 73	6号方形墓主体部出土人骨
PL. 74	8号、9号方形墓
PL. 75	8号方形墓、9号方形墓
PL. 76	11号方形墓
PL. 77	11号方形墓
PL. 78	11号方形墓主体部、12号方形墓
PL. 79	12号方形墓主体部
PL. 80	13号方形墓
PL. 81	13号方形墓の周溝出土遺物
PL. 82	13号方形墓東側溝出土の銅くしろ
PL. 83	13号方形墓主体部
PL. 84	13号方形墓第1主体部棺蓋
PL. 85	192号石棺内部
PL. 86	192号石棺開棺直後の人骨および遺物出土状況
PL. 87	192号石棺遺物出土状況
PL. 88	192号石棺遺物出土状況
PL. 89	192号石棺遺物出土状況
PL. 90	13号方形墓第2主体部
PL. 91	10号方形墓 14号方形墓
PL. 92	17号円形墓主体部
PL. 93	17号(円形)墓主体部
PL. 94	住居跡および1号土坑
PL. 95	65号甕棺
PL. 96	131号甕棺
PL. 97	22号・55号壺棺
PL. 98	70号甕棺
PL. 99	71号甕棺・77号壺棺

- PL. 34 111号土墳墓、112号土墳墓
- PL. 35 113号~116号土墳墓、125号・126号土墳墓
- PL. 36 118号・119号土墳墓
- PL. 37 115号土墳墓
- PL. 38 121号土墳墓
- PL. 39 122号土墳墓
- PL. 40 124号土墳墓
- PL. 41 125号・126号土墳墓、129号土墳墓
- PL. 42 134号土墳墓 (1)
- PL. 43 134号土墳墓 (2)
- PL. 44 137号土墳墓
- PL. 45 139号土墳墓
- PL. 46 145号、146号土墳墓
- PL. 47 147号土墳墓
- PL. 48 151号・153号土墳墓
- PL. 49 168号土墳墓
- PL. 50 174号・186号・189号土墳墓
- PL. 51 197号土墳墓 (1)
- PL. 52 197号土墳墓 (2)
- PL. 53 117号組合せ箱式土器棺
- PL. 54 12号粘土槨
- PL. 55 33号石棺墓
- PL. 56 51号石棺墓
- PL. 57 51号石棺墓出土人骨
- PL. 58 51号石棺墓遺物出土状況
- PL. 59 64号石棺墓
- PL. 60 97号石棺墓
- PL. 61 135号石棺墓
- PL. 62 149号石棺墓
- PL. 63 150号石棺墓
- PL. 64 155号石棺墓
- PL. 65 1号・2号方形墓
- PL. 66 4号方形墓溝出土石材、玉類

図 版 目 次

- PL. 1 草場第二遺跡全景
PL. 2 草場第二遺跡東側
PL. 3 131号甕棺墓 (1)
PL. 4 131号甕棺墓 (2)
PL. 5 22号壺棺墓、55号壺棺墓
PL. 6 69号、70号甕棺墓
PL. 7 71号甕棺墓 77号壺棺墓
PL. 8 148号壺棺墓
PL. 9 154号甕棺墓
PL. 10 152号甕棺墓
PL. 11 201号壺棺墓とその周辺の遺構
PL. 12 5号土墳墓
PL. 13 9号土墳墓
PL. 14 11号土墳墓
PL. 15 14号土墳墓 16号土墳墓 17号土墳墓
PL. 16 21号土墳墓
PL. 17 23号土墳墓、24号土墳墓
PL. 18 31号土墳墓、32号土墳墓
PL. 19 34号土墳墓
PL. 20 38号土墳墓
PL. 21 39号土墳墓、40号土墳墓
PL. 22 43号土墳墓
PL. 23 44号土墳墓、46号土墳墓
PL. 24 49号土墳墓、50号土墳墓
PL. 25 52号土墳墓、45号土墳墓
PL. 26 68号土墳墓
PL. 27 83号・84号土墳墓、88~90号土墳墓
PL. 28 94号土墳墓
PL. 29 95号土墳墓、96号土墳墓
PL. 30 97号石棺墓、98号土墳墓
PL. 31 104号~106号土墳墓
PL. 32 102号土墳墓、103号土墳墓
PL. 33 107号土墳墓、108号土墳墓、109号土墳墓

Fig. 199	14号方形墓实测图	228
Fig. 200	15号方形墓・16号方形墓实测图	229
Fig. 201	17号(円形)墓实测图	230
Fig. 202	200号石棺墓实测图	231
Fig. 203	人骨出土状況	232
Fig. 204	土器出土状況	233
Fig. 205	須恵器・土師器实测图	234
Fig. 206	1号溝实测图	236
Fig. 207	2号溝实测图	237
Fig. 208	住居跡实测图	238
Fig. 209	1号土坑实测图	239
Fig. 210	2号土坑・3号土坑・4号土坑实测图	240
Fig. 211	5号土坑・6号土坑实测图	241
Fig. 212	石器实测图(1)	243
Fig. 213	石器实测图(2)	244
Fig. 214	仿製鏡实测图	246
Fig. 215	須恵器实测图	246
Fig. 216	150号石棺墓東側出土玉实测图	247

Fig. 166	6号方形墓 主体部(198号石棺) 実測図	189
Fig. 167	6号方形墓主体部(198号石棺) 実測図	190
Fig. 168	198号石棺 人骨出土状況	192
Fig. 169	7号方形墓実測図	193
Fig. 170	8号方形墓実測図	194
Fig. 171	9号方形墓・10号方形墓実測図	196
Fig. 172	11号方形墓主体部(195号石棺) 実測図	197
Fig. 173	195号石棺実測図	198
Fig. 174	11号方形墓西溝 土器出土状況	199
Fig. 175	11号方形墓西溝出土土器実測図	200
Fig. 176	12号方形墓主体部(199号石室) 実測図	201
Fig. 177	12号方形墓主体部(199号石室) 実測図	202
Fig. 178	199号石室出土鉄器実測図	203
Fig. 179	13号方形墓主体部(192号石棺) 実測図	205
Fig. 180	192号石棺 実測図	206
Fig. 181	第1主体(192号石棺) 人骨・遺物の出土状況	207
Fig. 182	第1主体部(192号石棺) 棺内遺物出土状況(人骨をのぞく)	208
Fig. 183	第1主体部(192号石棺) 人骨出土状況	209
Fig. 184	第1主体部棺内出土鉄器実測図(1)	214
Fig. 185	第1主体部棺内出土鉄器実測図(2)	215
Fig. 186	第1主体部棺内出土鉄器実測図(3)	216
Fig. 187	第1主体部蓋石上出土鉄器実測図	216
Fig. 188	鹿角製刀装具実測図	217
Fig. 189	鉄剣実測図	217
Fig. 190	鉄刀実測図	217
Fig. 191	第1主体部棺内出土勾玉実測図	218
Fig. 192	第1主体部棺内出土管玉実測図	219
Fig. 193	第1主体部棺内出土玉実測図	220
Fig. 194	第1主体部棺内出土櫛実測図	221
Fig. 195	第2主体部(193号石室) 実測図	223
Fig. 196	13号方形墓溝出土土器実測図(1)	225
Fig. 197	13号方形墓溝出土土器実測図(2)	226
Fig. 198	銅釧実測図(上)及び出土状況図(上写真・下図)	227

Fig. 133	185号土墳墓実測図	147
Fig. 134	186号土墳墓実測図	148
Fig. 135	187号土墳墓実測図	149
Fig. 136	188号土墳墓実測図	150
Fig. 137	189号土墳墓実測図	151
Fig. 138	190号土墳墓実測図	152
Fig. 139	191号土墳墓実測図	153
Fig. 140	194号土墳墓実測図	154
Fig. 141	197号土墳墓実測図	155
Fig. 142	197号土墳墓出土鉄器実測図	156
Fig. 143	202号土墳墓実測図	157
Fig. 144	117号組合わせ箱式土器棺実測図	158
Fig. 145	土器実測図	159
Fig. 146	29号石棺墓実測図	160
Fig. 147	33号石棺墓実測図	161
Fig. 148	51号石棺墓実測図	162
Fig. 149	64号石棺墓実測図	165
Fig. 150	97号石棺墓実測図	166
Fig. 151	135号石棺墓実測図	167
Fig. 152	149号石棺墓実測図	168
Fig. 153	150号石棺墓実測図	170
Fig. 154	155号石棺墓実測図	171
Fig. 155	12号粘土槨実測図	172
Fig. 156	1号方形墓・2号方形墓実測図	173
Fig. 157	3号方形墓実測図	174
Fig. 158	4号方形墓・主体部(13号石棺)実測図	176
Fig. 159	4号方形墓周溝玉出土状況	177
Fig. 160	4号方形墓出土玉類実測図	178
Fig. 161	5号方形墓実測図	180
Fig. 162	5号方形墓第1主体部(37号石棺)実測図	182
Fig. 163	5号方形墓第1主体部(37号石棺)人骨出土状況	183
Fig. 164	37号石棺 人骨出土状況	184
Fig. 165	5号方形墓出土遺物実測図	187

Fig. 100	125号土墳墓・126号土墳墓実測図	114
Fig. 101	127号土墳墓・128号土墳墓実測図	115
Fig. 102	129号土墳墓実測図	116
Fig. 103	130号土墳墓実測図	117
Fig. 104	132号土墳墓・133号土墳墓実測図	118
Fig. 105	134号土墳墓実測図	119
Fig. 106	134号土墳墓標石線刻拓影	120
Fig. 107	136号土墳墓実測図	121
Fig. 108	137号土墳墓・138号土墳墓実測図	122
Fig. 109	139号土墳墓実測図	123
Fig. 110	140号土墳墓・141号土墳墓実測図	124
Fig. 111	142号土墳墓・143号土墳墓実測図	125
Fig. 112	144号土墳墓・145号土墳墓実測図	126
Fig. 113	146号土墳墓実測図	127
Fig. 114	147号土墳墓実測図	128
Fig. 115	151号土墳墓・153号土墳墓実測図	129
Fig. 116	156号土墳墓・157号土墳墓・158号土墳墓実測図	130
Fig. 117	159号土墳墓・160号土墳墓実測図	131
Fig. 118	161号土墳墓・162号土墳墓実測図	132
Fig. 119	163号土墳墓実測図	133
Fig. 120	164号土墳墓・165号土墳墓実測図	134
Fig. 121	166号土墳墓・167号土墳墓実測図	135
Fig. 122	168号土墳墓実測図	136
Fig. 123	169号土墳墓・170号土墳墓・171号土墳墓実測図	137
Fig. 124	172号土墳墓・173号土墳墓実測図	138
Fig. 125	174号土墳墓実測図	139
Fig. 126	175号土墳墓・176号土墳墓実測図	140
Fig. 127	177号土墳墓実測図	141
Fig. 128	178号土墳墓実測図	142
Fig. 129	179号土墳墓・181号土墳墓実測図	143
Fig. 130	182号土墳墓実測図	144
Fig. 131	183号土墳墓実測図	145
Fig. 132	184号土墳墓実測図	146

Fig. 67	84号土壤墓穴测图	79
Fig. 68	85号土壤墓 · 86号土壤墓穴测图	80
Fig. 69	87号土壤墓穴测图	81
Fig. 70	88号土壤墓穴测图	82
Fig. 71	89号土壤墓穴测图	83
Fig. 72	90号土壤墓穴测图	84
Fig. 73	91号土壤墓穴测图	85
Fig. 74	92号土壤墓 · 93号土壤墓穴测图	86
Fig. 75	94号土壤墓穴测图	87
Fig. 76	95号土壤墓穴测图	88
Fig. 77	96号土壤墓穴测图	89
Fig. 78	98号土壤墓穴测图	91
Fig. 79	99号土壤墓穴测图	92
Fig. 80	100号土壤墓穴测图	93
Fig. 81	101号土壤墓穴测图	94
Fig. 82	102号土壤墓穴测图	95
Fig. 83	103号土壤墓穴测图	96
Fig. 84	104号土壤墓穴测图	97
Fig. 85	105号土壤墓穴测图	98
Fig. 86	106号土壤墓穴测图	99
Fig. 87	107号土壤墓穴测图	100
Fig. 88	108号土壤墓穴测图	101
Fig. 89	109号土壤墓 · 110号土壤墓穴测图	102
Fig. 90	111号土壤墓 · 112号土壤墓穴测图	103
Fig. 91	113号土壤墓 · 116号土壤墓穴测图	104
Fig. 92	114号土壤墓穴测图	105
Fig. 93	115号土壤墓穴测图	107
Fig. 94	118号土壤墓 · 119号土壤墓穴测图	108
Fig. 95	120号土壤墓穴测图	109
Fig. 96	121号土壤墓穴测图	110
Fig. 97	122号土壤墓穴测图	111
Fig. 98	123号土壤墓穴测图	112
Fig. 99	124号土壤墓穴测图	113

Fig. 34	23号上墳墓・24号土墳墓実測図	46
Fig. 35	25号上墳墓実測図	47
Fig. 36	26号土墳墓・27号土墳墓実測図	48
Fig. 37	28号土墳墓・30号土墳墓実測図	49
Fig. 38	31号土墳墓・32号土墳墓実測図	50
Fig. 39	34号土墳墓実測図	51
Fig. 40	35号土墳墓実測図	52
Fig. 41	36号土墳墓・38号土墳墓実測図	53
Fig. 42	39号土墳墓実測図	54
Fig. 43	40号土墳墓実測図	55
Fig. 44	41号土墳墓実測図	56
Fig. 45	42号土墳墓・43号土墳墓実測図	57
Fig. 46	44号土墳墓実測図	58
Fig. 47	45号上墳墓・46号土墳墓実測図	59
Fig. 48	47号土墳墓・48号土墳墓実測図	60
Fig. 49	49号土墳墓実測図	61
Fig. 50	50号土墳墓・52号土墳墓実測図	62
Fig. 51	53号土墳墓・54号土墳墓実測図	63
Fig. 52	56号土墳墓実測図	64
Fig. 53	57号土墳墓・58号土墳墓実測図	65
Fig. 54	59号土墳墓・60号土墳墓実測図	66
Fig. 55	61号土墳墓実測図	67
Fig. 56	62号土墳墓・63号土墳墓実測図	68
Fig. 57	66号土墳墓・67号土墳墓実測図	69
Fig. 58	68号土墳墓実測図	70
Fig. 59	72号上墳墓実測図	71
Fig. 60	72号上墳墓人骨出土状況	72
Fig. 61	73号土墳墓・74号土墳墓実測図	73
Fig. 62	75号土墳墓・76号土墳墓実測図	74
Fig. 63	78号土墳墓実測図	75
Fig. 64	79号土墳墓・80号土墳墓実測図	76
Fig. 65	81号土墳墓実測図	77
Fig. 66	82号土墳墓・83号土墳墓実測図	78

插图目次

Fig. 1	調査位置図	1
Fig. 2	日田市主要遺跡分布図	5・6
Fig. 3	草場第二遺跡地形図	9・10
Fig. 4	遺構配置図-1	11・12
Fig. 5	遺構配置図-2	13・14
Fig. 6	65号甕棺墓・131号甕棺墓実測図	17
Fig. 7	65号甕棺実測図	18
Fig. 8	131号甕棺実測図	19
Fig. 9	22号壺棺墓・55号壺棺墓実測図	20
Fig. 10	22号壺棺・55号壺棺実測図	21
Fig. 11	69号甕棺墓・70号甕棺墓実測図	22
Fig. 12	69号甕棺・70号甕棺実測図	23
Fig. 13	71号甕棺墓・77号壺棺墓実測図	24
Fig. 14	71号甕棺・77号壺棺実測図	25
Fig. 15	148号壺棺墓・154号甕棺墓実測図	26
Fig. 16	148号壺棺実測図	27
Fig. 17	154号甕棺実測図	28
Fig. 18	152号甕棺墓・180号壺棺墓・201号壺棺墓実測図	29
Fig. 19	152号甕棺実測図	30
Fig. 20	180号壺棺・出土鉄剣実測図	31
Fig. 21	201号壺棺実測図	32
Fig. 22	1号土墳墓・2号土墳墓・3号土墳墓実測図	34
Fig. 23	4号土墳墓・5号土墳墓実測図	35
Fig. 24	6号土墳墓実測図	36
Fig. 25	7号土墳墓・8号土墳墓実測図	37
Fig. 26	9号土墳墓・10号土墳墓実測図	38
Fig. 27	11号土墳墓実測図	39
Fig. 28	14号土墳墓・15号土墳墓実測図	40
Fig. 29	16号土墳墓実測図	41
Fig. 30	17号土墳墓実測図	42
Fig. 31	18号土墳墓・19号土墳墓実測図	43
Fig. 32	20号土墳墓実測図	44
Fig. 33	21号土墳墓実測図	45

本文目次

I. 調査に至る経過	1
II. 調査の位置と環境	4
III. 遺跡の概要	8
1. 壺棺墓、壺棺墓	16
2. 土坑墓	33
3. 組合わせ箱式土器棺	158
4. 石棺墓	160
5. 粘土槨	172
6. 方形墓	173
7. 円形墓	230
8. 溝状遺構	235
9. その他の遺構	237
10. 表塚遺物	242
IV. まとめ	272
1. 草場第二遺跡出土赤色顔料について	272
2. 草場第二遺跡出土の人骨について	274
3. 考察	285

凡 例

- 本書ではⅢ・遺跡の概要（8頁～243頁）において、本発掘調査で確認しえた事実を報告している。総ての遺構の平面図、断面図を掲載している。
- 有蓋の遺構では、上段に検出された石蓋の平面実測図を、
中段には蓋石を除き完掘した土坑平面図を、
下段と左右いずれかには、蓋石を被せたままの断面図を配している。
- 遺構出土の遺物は同一頁に載せている。
- 遺構の床面等で見られる朱は細かい網目のスクリーントーンで示しているが、石棺や一部の遺構では、床面の副遺物等の表示との関係で、スクリーントーンを省いたものがある。その場合備考等の文章で明記している。
- 遺構にはそれぞれ簡単な説明を付している。位置はFig・4、5の遺構配置図における場所をしめす。主軸方位は甕棺の場合、口縁部の向きを示す。土坑墓等の場合、頭位を示すが、総てが確定したものではない。傾斜角度は甕棺の中心軸と水平軸との角度である。
- 土坑、墓坑、石棺等の長辺・短辺は崩落等の少ない内端の寸法を計測している。推定値の場合は括弧でかこむ。
土坑、墓坑、石棺等で短辺側を小口、長辺側を側壁と呼ぶ。
- 方形墓の場合、溝を持つものや、溝を持たないもの、削平等で溝を消失したもの、また墳丘を有していたものなどが考えられる。本書では発掘時において確認された墓域の最大値をもってその墳墓の規模とする。巡る溝を周溝と呼び、周溝で囲まれた範囲を（墳丘）基底部とする。方形墓の中心の埋葬施設を第一主体部とよぶ。

例 言

1. 本書は、九州横断自動車道建設に伴う事前調査のうち、昭和58年度から昭和60年度までに調査した日田市大字渡里草場第二遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、日本道路公団（九州建設局）の委託事業として大分県教育委員会が実施した。
3. 発掘調査にあたっては、日田市教育委員会、並びに地元の方々の御助力を得た。
4. 出土遺物及び関係資料は、大分県教育委員会文化課に保管している。
5. 本書の執筆には全般的には高橋があたり、人骨や朱の分析等については、田中良之、土肥直美、山田拓郎等が執筆した。

玉類の石材鑑定については理学博士野田雅之氏の教示を得た。

遺構の実測は調査員があたり、遺物の実測は調査員の他に小林昭彦、行時志郎、永松みゆき、吉田寛の協力を得た。整図等は、姫野和子、井口あけみ、小手川美佐子、西村しのぶ、今村信子があたった。

本書の編集は桑原幸則の協力を得て、主として高橋が行った。

序

大分県教育委員会は昭和58年度以来、日本道路公団から委託された九州横断自動車道に伴う埋蔵文化財調査を実施してまいりました。長崎市と大分市を結ぶ延長250kmの高速道路予定地には、数多くの埋蔵文化財が発見されており、県教育委員も計画段階から文化財保護法の主旨に則って公団との協議を重ねてきました。そのうえで最終的に決定された路線内を対象に、踏査による遺跡分布調査を行ない、結果を踏まえて試掘や、本格的調査を実施しています。本調査報告書はそうした調査の記録をまとめたものであります。草場第二遺跡における、弥生時代から古墳時代にかけての二百数十基にのぼる墳墓の調査は、県内では最大規模のものであり、その内容も興味深いものであります。本書が学術研究者のみならずひろく市民の皆様にご利用いただければ幸いです。最後になりましたが、調査開始時から御指導いただきました各指導委員の先生方をはじめ、調査に御協力いただきました関係者各位および地元の方々に対し、深い敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。

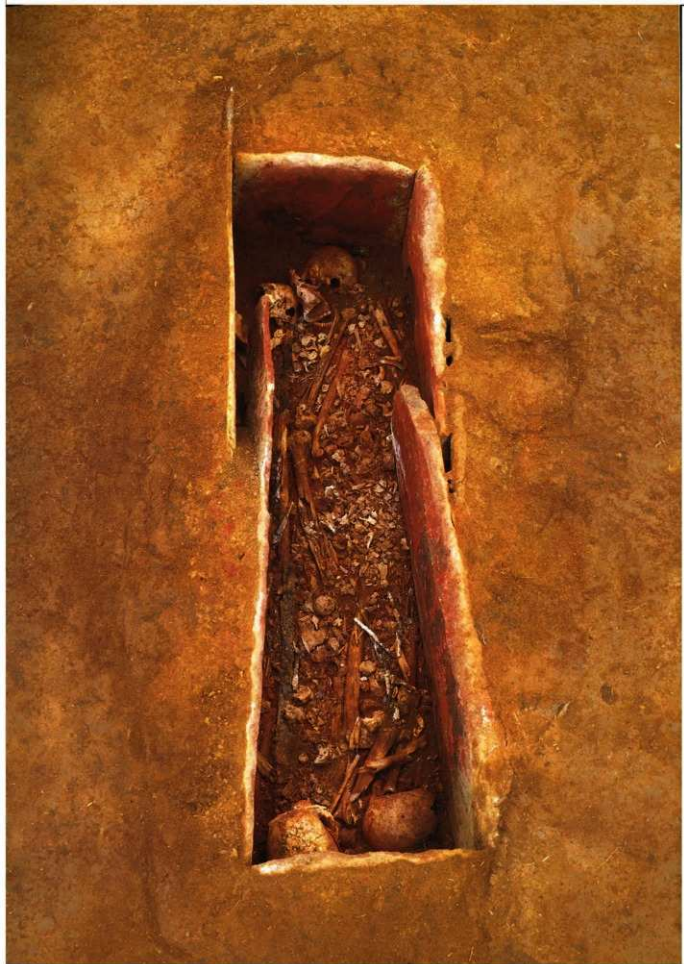
平成元年 3月31日

大分県教育委員会

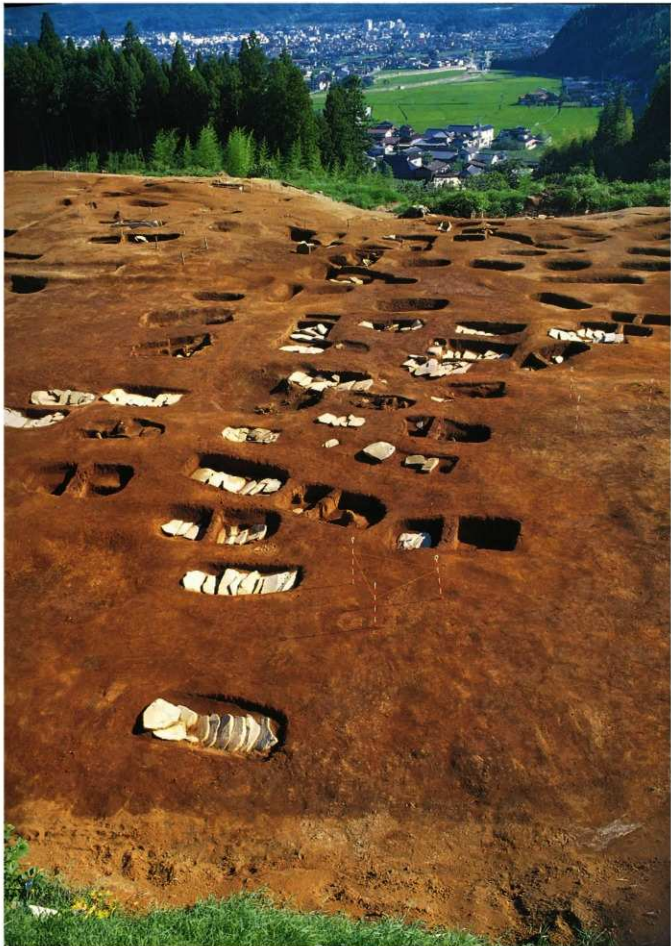
教育長 嶋 津 文 雄



13号方形墓第1主体部（192石棺）



遺跡から日田盆地を望む





九州横断自動車道関係
埋蔵文化財発掘調査報告書(1)

草場第二遺跡

1989

大分県教育委員会

九州横断自動車道関係
祖厓文化財発掘調査報告書(Ⅱ)

草場第二遺跡

1989

大分県教育委員会